

令和6年度

履修要覧

令和6年度入学生

SHITENNOJI UNIVERSITY

2024



四天王寺大学

教務課受付対応窓口について

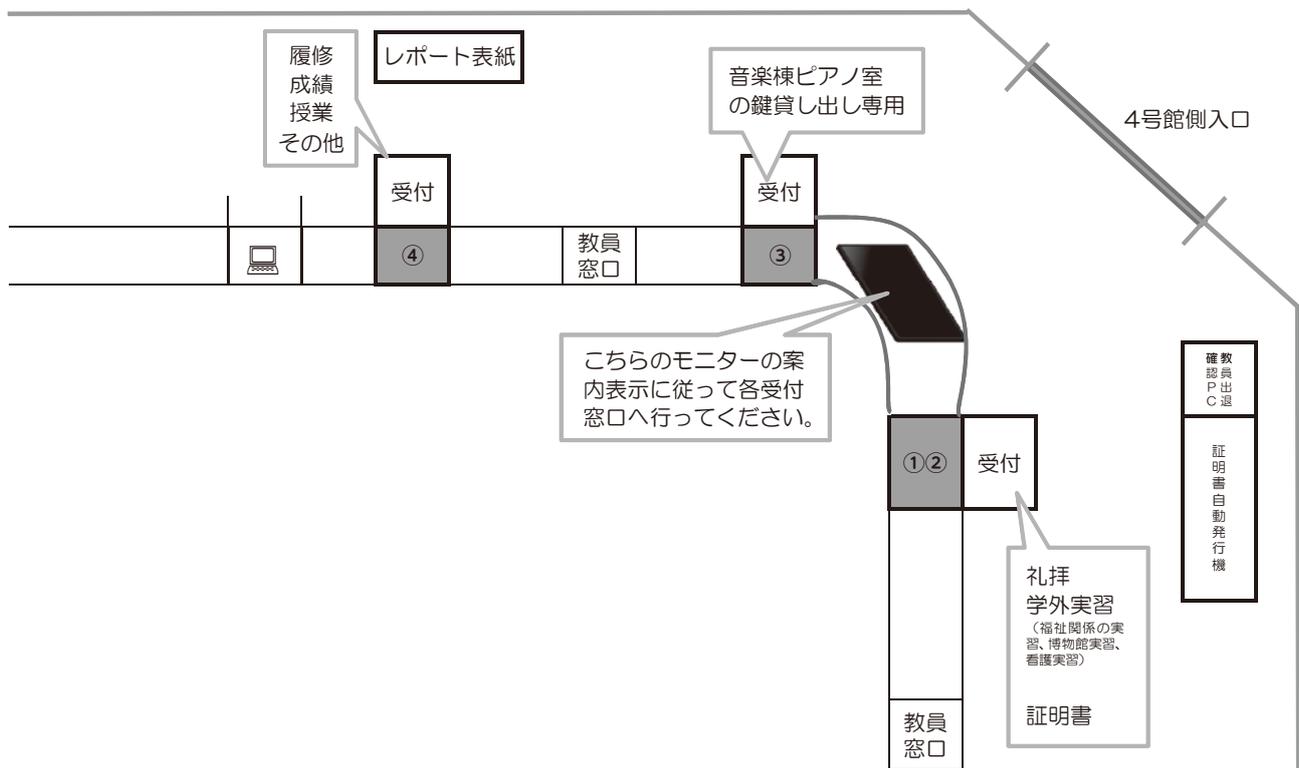
教務課窓口受付について

教務課受付時間：9：00～17：30
(月曜日～土曜日 祝日除く)

受付時間外の問い合わせには対応できません。
※11：35～12：25は当番者のみでの対応になります。

教務課へ用件がある場合は、教務課入口（4号館側）のモニターの案内表示に従い、担当受付窓口で問い合わせてください。受付窓口以外では対応できませんので、順番に並んでください。

※窓口の位置は変更することがありますので、モニターで必ず確認して下さい。



[教職教育推進センター]（4号館地下1階）

受付内容

- ① 学外実習（教育実習、介護等体験、臨床実習、保育実習等）
- ② 教員採用試験及び対策講座等に関する事。
- ③ 学校インターンシップ、学校ボランティア等に関する事。

よくある質問（文学部・社会学部・経営学部）

卒業や教員免許に必要な単位、科目がわからない場合は、履修要覧の以下のページで調べてください。
また、履修登録についてのQ & Aを時間割表に掲載していますので時間割作成時に活用してください。

卒業するには何単位必要？ P.36

→各学部・学科（専攻）を卒業するには何単位必要かが書いてあります。

他学部・他学科の科目を履修することができる？ P.39

→他学部・他学科の科目を履修する場合の条件や単位認定等について書いてあります。

卒業に必要な科目は？

→各学科で卒業に必要な科目が書いてあります。必修・選択必修・選択科目があります。

重要 !!

卒業には3つの科目群ごとに決められた単位数を修得する必要があります。

基礎教育科目→（全学生必修です）.....	P.64
共通教育科目→（学科（専攻）により必要単位が異なります）.....	P.71 ~
専門教育科目→	
日本学科.....	P.80 ~
国際コミュニケーション学科.....	P.88 ~
社会学科.....	P.97 ~
人間福祉学科.....	P.107 ~
経営学科 公共経営専攻.....	P.144 ~
経営学科 企業経営専攻.....	P.153 ~

取得可能な教員免許・資格は？ P.177

→文学部・社会学部・経営学部で取得可能な教員免許・資格一覧を確認してください。

教員免許・資格に必要な科目は？

→各教員免許・資格の種類により、必要な科目が書いてあります。履修登録前に必ず自分の希望する教員免許・資格に必要な科目を調べてください。

〈文学部・社会学部・経営学部〉

文学部・社会学部 全学科	教職に関する科目.....	P.172 ~
文学部・社会学部 全学科	学校図書館司書教諭に関する科目.....	P.174、249
日本学科	教員免許（国語）中・高.....	P.180 ~、186 ~
日本学科	教員免許（書道）高.....	P.180 ~、188 ~
国際コミュニケーション学科	教員免許（英語）中・高.....	P.180 ~、190 ~
社会学科	教員免許（社会）中.....	P.180 ~、192 ~
社会学科	教員免許（地歴）高.....	P.180 ~、194 ~
社会学科	教員免許（公民）高.....	P.180 ~、196 ~
人間福祉学科	教員免許（公民）高.....	P.180 ~、198 ~
人間福祉学科	教員免許（福祉）高.....	P.180 ~、200 ~
人間福祉学科	社会福祉士国家試験受験資格.....	P.242
人間福祉学科	精神保健福祉士国家試験受験資格.....	P.246
全学科	社会福祉主事任用資格.....	P.250
文学部 全学科	日本語教員養成プログラム.....	P.251
文学部・社会学部・経営学部 全学科	地域共創プログラム.....	P.262
日本学科・社会学科	博物館学芸員.....	P.253
文学部・社会学部 全学科	児童指導員任用資格.....	P.254
社会学科	社会調査士.....	P.255
社会学科	認定心理士.....	P.256
人間福祉学科	身体障害者福祉司任用資格.....	P.257
人間福祉学科	知的障害者福祉司任用資格.....	P.257
人間福祉学科	公認初級パラスポーツ指導員.....	P.258
人間福祉学科	児童福祉司任用資格.....	P.258

よくある質問 (看護学部)

卒業や教員免許に必要な単位、科目がわからない場合は、履修要覧の以下のページで調べてください。
また、履修登録についてのQ & Aを時間割表に掲載していますので時間割作成時に活用してください。

卒業するには何単位必要? P.36

→卒業するには何単位必要かが書いてあります。

他学部・他学科の科目を履修することができる? P.39

→他学部・他学科の科目を履修する場合の条件や単位認定等について書いてあります。

卒業に必要な科目は?

→各学科で卒業に必要な科目が書いてあります。必修・選択必修・選択科目があります。

重要!!

卒業には3つの科目群ごとに決められた単位数を修得する必要があります。

- 基礎教育科目→(全学生必修です) P.64
- 共通教育科目 P.71 ~
- 専門教育科目→看護学科 P.163 ~

取得可能な教員免許・資格は? P.177

→看護学部で取得可能な教員免許・資格一覧を確認してください。

教員免許・資格に必要な科目は?

→各教員免許・資格の種類により、必要な科目が書いてあります。履修登録前に必ず自分の希望する教員免許・資格に必要な科目を調べてください。

- 教職に関する科目 P.173
- 教員免許 養護 P.232 ~
- 看護師国家試験受験資格 P.259
- 保健師国家試験受験資格 P.260 ~
- 助産師国家試験受験資格 P.261 ~

令和6年度 大学・短大 学年暦 (令和6年4月～令和7年3月)

令和6年度 在学生 健康診断・オリエンテーション日程	
3月29日(金)	健康診断 (在学生：人文社会学部・ 経営学部) オリエンテーション (在学生)
3月30日(土)	健康診断 (在学生：教育学部・看護 学部・短期大学部) オリエンテーション (在学生)
夏 学 期	
4月1日(月)	入学式
4月2日(火)	オリエンテーション (新入生) 夏学期履修登録期間 (4/2～4/8)
4月3日(水)	オリエンテーション (新入生) 健康診断 (新入生・編入生)
4月4日(木)	オリエンテーション (新入生)
4月5日(金)	オリエンテーション (新入生)
4月6日(土)	夏学期開講 健康診断 (予備日)
4月13日(土)	終日休講・新入生授戒会
4月18日(木) } 4月21日(日)	} 夏学期履修訂正期間
4月29日(月)	
5月7日(火)	月曜日授業
6月19日(水)	金曜日授業
6月23日(日)	水無月祭
7月15日(月)	(祝日) 月曜日授業
7月24日(水)	夏学期終講
7月25日(木) } 8月1日(木)	} 定期試験期間 (予備日含む)
8月5日(月) } 8月8日(木)	
8月16日(金)	夏学期再試験申込み
8月22日(木) } 8月24日(土)	} 夏学期追・再試験
9月13日(金)	

冬 学 期	
令和6年	
9月13日(金)	冬学期入学式 (9月入学生)
9月17日(火) 9月18日(水)	} オリエンテーション
9月17日(火) } 9月23日(月)	
9月23日(月)	(祝日) 月曜日授業
10月3日(木) } 10月6日(日)	} 冬学期履修登録訂正期間 (10/3～10/6)
11月2日(土)	
11月3日(日) } 11月5日(火)	} 大学祭 (終日休講)
11月6日(水)	
11月8日(金)	月曜日授業
12月27日(金)	12月授業終了
令和7年	
1月4日(土) } 1月10日(金)	} 1月授業開始 (1/4) 卒業研究提出
1月16日(木)	
1月17日(金)	補講日
1月18日(土)	終日休講
1月20日(月)	冬学期終講
1月21日(火) } 1月28日(火)	} 定期試験期間 (予備日含む)
2月6日(木)	
2月13日(木) } 2月15日(土)	} 冬学期追・再試験
2月22日(土)	
3月13日(木)	学位授与式

* 学年暦は、「大学学則」第3章、「短期大学部学則」第3章の規定に基づくものである。

* 学年暦の変更は、その都度掲示などをする。

* 毎週土曜日および終日休講の日は、事前に連絡の上、補講を実施する場合がある。

行事等

学生は本学の行事等に参加しなければなりません。行事等に参加する時には、本学のスーツ着用基準に沿ったスーツを着用し学生証と念珠、『聖典聖歌集』を携行しなければなりません。

・基礎教育科目「和の精神」の授業規律について

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神」の授業の目的です。授業規律については履修要覧に記載しています。

○必ず参加しなければならない行事等

授戒会

入学時の学生全員に対して行う。四天王寺管長が戒師となって戒を授け、戒を受ける者は戒を受けてこれを守ることを誓う。それは善行の誓いであり、人としてよりよい生き方を求めようとする誓いである。

礼拝（本学大講堂にて実施）

礼拝とは、1年次生に対して、毎週木曜日2時限目に夏学期「和の精神Ⅰ」、冬学期「和の精神Ⅱ」の授業で行うものであり、「和の精神Ⅰ」では献灯に始まり、読経、止観（瞑想）、聞法（学習）、聖歌斉唱を行う。「和の精神Ⅱ」では止観に続いて写経を行い聞法に代える。

○自由参加の行事（四天王寺本坊で行われる行事）

釈尊降誕会	4月8日	お釈迦様のお生まれになった日に行われる法要（花まつり）
釈尊成道会	12月8日	お釈迦様が悟りを開かれ、仏陀になられた日に行われる法要
釈尊涅槃会	2月15日	お釈迦様が入滅された日に行われる法要
聖徳太子御聖忌	2月22日	聖徳太子の祥月命日に行われる法要（祥月：故人が亡くなってから何年目かにめぐって来た当月当日）
聖徳太子讃仰会	毎月22日	聖徳太子の月命日に行われる太子讃仰の法要

○自由参加の行事（四天王寺大学の学内で行われる行事）

聖徳太子讃仰座禅会 毎月1回 聖徳太子の月命日前後の木曜日に行う座禅会。

はじめに

この『履修要覧』には、四天王寺大学で学生生活を送る皆さんが、本学での学修を行うにあたって必要な知識と知っておかなければならない事柄や規則について、詳しい説明がなされていますので大いに活用してください。

一人ひとりの夢や希望が異なるように、皆さんの学修の目標や関心もそれぞれ異なっています。自分が設定した目標に向かってどのように授業を組み立てていくのか、この『履修要覧』を熟読し、その内容を十分に理解し、この1年間の学修計画をしっかりと立ててください。その積み重ねが、有意義な学生生活を送るために必要不可欠なことです。ここに記載されている事項についての疑問や不明な点があれば、必ず自分で直接教務課に来て確認するようにしてください。また、この『履修要覧』は、必要に応じてすぐに見ることができるよう、常に身近に置くようにするとよいでしょう。

皆さんの眼前に広がっている学問の大海原において、コンパス（羅針盤）の役割を果たすのが『履修要覧』です。この『履修要覧』を活用し、大いなる希望を胸に抱いて学問の航海に旅立ってください。

Bon voyage !

目次

よくある質問	1
学年暦	4
はじめに	7

教育理念 11

本学の教育方針	12
教員養成の目標及びめざす教員像	16

事務手続き 21

学籍番号と各学部・学科（専攻・コース）の略称	22
IBU.net	23
大学からの連絡と教務課への問い合わせ	24
教員との連絡方法	25
休講	26
補講	27
ピアノ室の利用	27
転学部・転学科・転コースについて	28

授業・履修 29

学位	30
単位のしくみ	31
セメスター制について	32
授業	32
シラバス（授業計画）	34
卒業に必要な単位	36
履修	38
履修単位上限	40
卒業研究	41
課題研究	43
単位認定	45

試験・成績 49

成績評価の方法	50
定期試験	50
追試験	52

再試験	54
成績と GPA	55

教育課程（授業科目一覧・単位数など） 59

授業科目編成表の見方	60
ナンバリングコードの表示と見方	61
履修系統図について	62
基礎教育科目（全学共通）	63
共通教育科目（全学共通）	65
キャリア教育について	66
「情報教育について」（全学共通）	67
専門教育科目について	76
教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」（文学部・社会学部・看護学部）	172
司書教諭の講習に関する科目	174
重ねて履修できない科目一覧表	175

各種免許・資格 177

諸規程 265

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程	266
四天王寺大学学位規程	279
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 GPA 制度に関する規程	280
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部留学に関する規程	281
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外語学研修に関する規程	283
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外実地研修に関する規程	284
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部国内インターンシップによる単位認定に関する規程	285
知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程	286
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程	288
四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部間での相互単位互換についての規程	290
四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成課程履修細則	291
四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成課程履修細則別表	292
社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則	293
社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則別表	294
精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則	295
精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則別表	296
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部他の大学・短期大学との単位互換に関する規程	297
四天王寺大学日本語教員養成プログラムに関する細則	298
四天王寺大学地域共創プログラムに関する細則	299

教育理念

- 本学の教育方針
- 教員養成の目標及びめざす教員像

本学の教育方針

● 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。
このような人間形成を目指す本学のディプロマ・ポリシーは次のとおりです。

自己分析・自己研鑽の力

- 自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。
- 自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。

豊かな人間性 ～慈愛の心・利他の精神～

- 多様な立場、考え方の存在を認める(受容する)ことができる。
- 他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。
- 他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。

社会(組織)で活躍できる力 ～専門性を基礎として～

- 社会(組織)の現状について認識できる。
- 社会(組織)の一員としての自己を理解できる。
- 社会(組織)に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。
- 組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

● 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーに掲げる「『和の精神』をもち、社会で活躍できる人間」の育成を目的として、学部共通に基礎教育科目、共通教育科目を、そして、各学部・学科において専門教育科目を体系的に編成します。

「基礎教育科目」は、大学での学修や現代社会で求められる総合的な知識・技能を修得する「共通教育科目」、そして各学部・学科・専攻における専門分野を修得する「専門教育科目」を学ぶ前提となる科目です。この「基礎教育科目」では、「和の精神」についての学びを深め、調和のある社会で活躍できる人格形成を行います。

そして、各授業の教育内容を講義、演習、実験・実習等の授業形態により効果的な教育方法を用いることで修得することを目指します。

1～4年次の担任教員と所定の時期に学修した成果を客観的に評価すると共に、学修者自身にとっても自覚できることをもとにして学修者自身の目標を明確にし、学びの意欲につなげます。

以上のことを具体的に以下に示します。

〈教育課程の編成、教育内容〉

【基礎教育科目】

「基礎教育科目」は4つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要性を学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

【共通教育科目】

「共通教育科目」は学問の対象や性格によって、「学びの基礎」「こころと思想」「社会と文化」「情報と自然科学」「健康と福祉」「言語」「キャリア教育」の7つの科目群に分類される。

「学びの基礎」は、本学の初年次教育である。大学での学びや生活に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのなめらかな導入を図る。さらに、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するための支援を行う。

「こころと思想」は建学の精神である聖徳太子の仏教精神をさらに深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

「社会と文化」は「こころと思想」の学びをもとに法や政治という社会システム等について学ぶことで社会の一員としての意識を高める。

「情報と自然科学」はICT活用能力を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

「健康と福祉」は心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

「言語」は「英語」を主にし、「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「ロシア語」「日本語」で構成され、それぞれ基礎から応用まで段階を踏まえてコミュニケーション技能を身につけ、高める。

「キャリア教育」は卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につける。

【専門教育科目】

「専門教育科目」は各学科・専攻・コースごとに、その専門性を高めるとともに社会人として必要となる資格や免許状の取得や知識・技能を身につけ、社会（組織）で活躍できる力の修得を目指します。

〈教育方法〉

- (1) これまでの高校までの教育の中で行われてきた「主体的・対話的で深い学び」をさらに深化させるために、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施する。単なる知識・技能の伝達に終わることなく、主体的に授業に参加し、自己内対話を深めるとともに、共に対話する中で学びの共有化と深化を目指していく。
- (2) 世界をオープンな場と考え、異文化であっても人間としての共通の原理・原則に従って思考し、行動できる能力をグローバル化に対応する能力と捉える。これにより、単なる語学の修得だけではなく、ICTの活用を含めたコミュニケーション能力と、思考のツールとしての活用能力を身につけていく。

〈学修成果の評価方法〉

教育評価にあたっては、学修内容の修得としての「学び」と『和の精神』をもち、社会で活躍できる人間への「育ち」という2つの観点から行う。何が身についたかを可視化できることを目指し、4年間の学びと育ちを自他ともに実感できることを目指す。

- (1) 最終的に試験やレポートによって直接評価するだけでなく、学びの途中の評価として、ルーブリックによるパフォーマンス評価や真正の評価等を実施する。
これは、教員と学生の双方がルーブリックの作成と評価を通じて、目標と評価の一体化を目指したものである。このような評価を取り入れることで学びと育ちの過程を学生自身が実感でき、主体性の育成にもつながることになる。
- (2) 学修ポートフォリオを用いて、個々の4年間の学修成果を蓄積して可視化し、それを担任教員・担当教員等とともに省察するポートフォリオ評価等を取り入れる。省察の過程を通して、自己研鑽の力を身につけながら、青年期の課題である『自分づくり』を行うことを目指す。
- (3) 入学時にPROGテストや英語の外部試験等を実施し、その後も実施することで大学4年間で継続的に学修の成果を可視化し、客観的な自己評価を行っていく。このことにより、自身が目指す目標を明確にし、意欲を高めることにつながる。

● 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針を踏まえ、求める能力やその評価方法を学力の3要素等と関連付けて明示し、多面的・総合的に評価します。具体的には、次のような人物を求めています。

- (1) 豊かな人間性(慈愛の心・利他の精神)を身につけ、本学で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つことができること
[求める要素: 関心・意欲・態度]
- (2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき基礎学力を有し、思考を深めて他者に表現できること
[求める要素: 知識・技能、思考力・判断力、表現力]
- (3) 多様な文化・価値観を理解し、自ら課題に対して仲間とともに積極的に取り組み、自己研鑽に努めることができること
[求める要素: 主体性・多様性・協働性]

● 教育研究上の目的

〈文学部〉

文学部は、建学の精神に基づき、人文学に対する知識や理解を深め、言語およびメディアによる確かな表現力・コミュニケーション力を身につけ、専門分野における課題を発見し、知見を応用して問題を解決する能力を培うことを目的とする。

【日本学科】

日本学科は、日本の言語・文化についての知識と教養、言語およびメディアによるコミュニケーション力を備え、主体的に課題を発見し解決する意欲を有し、多様な価値観に基づく調和的で豊かな人間性を育むことを目的とする。

【国際コミュニケーション学科】

国際コミュニケーション学科は、英語や英語圏の文化、中国語やアジア文化などを目的に応じて学び、言語およびメディアによって表現しながら、観光等の場面で異文化の人々と交流することで、実践的なコミュニケーション力や情報発信力、問題解決力を育むとともに、異文化を受容し他者を思いやる心を身につけることを目的とする。

〈社会学部〉

社会学部は、世界が複雑・不確実な形で変容する中、人間と社会、文化に関わる様々な分野の動向と課題を捉えうる専門知識と知見を身につけるとともに、その人間的基礎としての社会貢献への高い使命感と他者理解の精神の養成を目的とする。そのために常に社会的関心を持って新たな課題を発見し、問題解決の道筋を探究し多様な他者と協働する力を鍛える中で、生涯を通じて学ぶ態度の育成に留意することとする。

【社会学科】

社会学科は、社会や人間について、時間と空間、マクロとミクロの視点を組み合わせながら多面的かつ客観的に捉えつつ、人々や社会の将来のあり方を見据えながら、発生しうる様々な課題を発見し、その解決に取り組める人材の育成を目的とする。

【人間福祉学科】

人間福祉学科は、人を思いやる心を持ち、人とのつながりを大切にしながら、福祉専門職の価値や倫理及び社会福祉的な対象理解能力や問題解決能力、さらには社会福祉の相談援助の知識・技術を身につけた人材の育成を目的とする。

〈教育学部〉

教育学部教育学科は、建学の精神に基づき、乳幼児・児童・生徒の学びと育ちを支援するため、子どもをとりまく現代的課題に対して、多様な他者と協働し、幅広い視野と専門的知識・技能をもって取り組むことができる教員を養成するとともに、常に社会的関心を持って主体的に問題解決の道筋を探究し、生涯を通じて学び続ける態度を有する人材の養成を目的とする。

〈経営学部〉

経営学部経営学科は、企業や行政機関などの組織活動に必要な経営の専門知識と実践能力を身につけるとともに、高い使命感と倫理観を涵養し、広く社会に貢献できる人材の養成を目的とし、次の2専攻を設ける。公共経営専攻は、行政機関を中心に、公共サービスを担う多様な組織の経営活動に必要な専門知識と論理的思考能力を修得し、地域社会の要請に応え、主体的に課題発見・解決に取り組める人材の養成を目的とする。企業経営専攻は、多様な経営領域の専門知識を修得し、企業や地域社会と連携した実践的活動を通じて、グローバルからローカルまで幅広い舞台で新たな課題の発見・解決に貢献しうる人材の養成を目的とする。

〈看護学部〉

看護学部看護学科は、人間の生命と尊厳の尊重及び権利の擁護といった高い倫理観を基盤に、あらゆる健康レベルの個人、家族、集団、地域の顕在的、潜在的な健康課題を解決するために必要な人間力、専門的知識・技能・態度を修得し、自律的、創造的に看護を実践できる看護人材の育成を目的とする。また、これからの少子高齢社会の動向を見据え、地域におけるケアの重要性を認識して、人々が住み慣れた場所で安心して療養を継続でき、幸せに生きていくことができる社会の実現に貢献できる人材育成を目指す。

教員養成の目標及びめざす教員像

●教員養成に対する理念・目標等

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、設置以来社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この建学の精神に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

今後ますます求められる国際社会における基本的資質能力と国際感覚を養い、近年の急激に変化発展する社会に適応する知識と技術力を修得し、教員として直面する新たな事態に対処できる能力ある教員養成を目指す。

●めざす教師像

それぞれの免許状とも、まず本学の建学の精神である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る「基礎教育科目」の履修が必要となる。この履修により、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる人間性豊かな教師の育成を目指している。

第二に、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習」などの「共通教育科目」の履修により、教員として必要となる科学的な観察力と判断力、国際的な感覚を身につける。子どもや保護者から信頼され、教養豊かな教師の育成が目指される。

第三に、各免許状の取得に必要な「専門教育科目」において高度な学識と豊かな知識を養うことを目的とした多くの科目を配している。このうち、「教職に関する科目」では、免許状の種類により「教職論」「教育原論」「教育心理学」「教育制度論」で教育の原点を学び、教員の役割を理解する。加えて、「生徒指導論」などにより幼児・児童・生徒への心のケアや指導方法、「各教科教育法」により高い教材研究能力をそれぞれ身につけることを目指している。「教科に関する科目」では、専門的な知識や技能を身につけることを目指している。

〈教育学部教育学科〉

【小学校教諭一種免許状】

社会の急激な変化の中で、子どもを取り巻く多様な現代的課題に幅広い視野をもって対峙し、児童・生徒一人ひとりに適した学びと協働的な学びの在り方を考え、「いい先生」とは何かを追求し続けられる小学校教員の養成をめざしている。そのために、各セメスターにおいて地域社会や学校等での協働の力を高める科目を履修し、多様な子ども理解やケアの在り方を学び深めることを求める。そして、大学での学びと継続的な教育現場での経験を連動させながら、小学校教員としての豊かな人間性と深い専門性、省察と研鑽に支えられた実践力を身につける必要がある。また、学びの過程において、活動や実践を振り返り、社会や自らの課題に気づき、それらに向き合う姿勢も求められる。

【特別支援学校教諭一種免許状】

少子化により義務教育段階の児童生徒数が減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は増加を続け、特別支援学校在籍児童生徒数は直近10年で1.2倍に増えている。特別支援学校では、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、視覚障がい、聴覚障がい等の障がい者、複数の障がいを合わせ有する重複障がい者のほか、近年では自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症等を併存する軽度知的障がい者も増加し、在籍児童生徒の障がいの種類・程度は多様化している。他方、特別支援学校教諭免許状を保有する教員が不足している。本選修では、大学での学びと特別支援学校での学びを関連付けながら、各種障がいについての理解と共に、障がいのある子どもたちが抱える困難について理解し、一人ひとりのニーズに応える適切な支援と指導ができる教員の養成をめざす。

【幼稚園教諭一種免許状】

急速な少子化が進み、家庭・地域を取り巻く状況の変化が幼児の体験不足が一層懸念されている。また、幼稚園やこども園など多様な幼児施設への対応、気になる子どもや多文化の共生を視野に含め、幼児期の特性を踏まえた教育の充実、小学校以降の学びへの接続など、質の高い幼児教育を推進する力が求められる。

保育の本質である『遊びからの学び』『環境を通して行う教育』を実践する専門的知識を有し、豊かな人間性をもった幼稚園教員の育成をめざしている。

「幼児理解（教育相談を含む）」や「幼児教育課程総論」、健康、人間関係、環境、言葉、表現の各領域の「保育内容の理論と方法」等の科目の履修を通して、教育・保育現場で求められている様々なニーズに応えることができる高い専門性と実践力を身に付けることをめざしている。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）】

変化の激しいグローバル社会において、自ら問いをたてて探究し、学び続ける教員が求められる。小中連携の英語教育や中学校・高等学校における英語教育を担当するために、豊かな人間性と英語力、および授業実践力を備え、学校現場でリーダー的役割を果たせる教員の養成を目指している。そのため、「英語音声学」「英語学特論」や「中等英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」において、模擬授業等の演習方式で、英語の仕組みや英語教授法を学ぶ。そして、「ベーシックコミュニケーション」「アドバンスコミュニケーション」の履修により英語によるコミュニケーション能力やアカデミックライティングの力を高める。さらに「Cross-cultural Communication」「Academic Presentation」では、異文化間理解・多文化共生について議論し、協働的課題解決ができる英語教諭としての高い能力を身につける。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（数学）】

AI化やその他絶え間ない技術革新等により急速に変化する社会の中で、数学は現代社会を読み解くために不可欠な基盤となっている。教育においても、数学的に考え課題解決する力の育成、科学を記述する言語としての数学の理解がますます重要性を増している。このような中、小学校から大学初年級までの数学教育について一貫した視点を持ち、多様な子どもの違いを生かした数学的活動や授業を通して、算数・数学を学ぶ意義や有用性を子どもたちに広く深く実感させることができる教員の養成をめざしている。

「代数学」「幾何学」「解析学」「確率・統計学」などの科目により教科内容についての理解を深め、「中等数学科教育法」において教育方法の理論と実践を学ぶ。加えて、子どもの算数・数学概念の獲得のしかたを理解し、子どもの発想や疑問、想いも大切にできるようにするための「子どもの発達と算数・数学」、数学が実社会で果たす役割を理解し、課題解決する力を身につけるための「数学的リテラシー」などの科目により、数学教諭としての高い能力と実践力を身につけることをめざしている。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）】

社会情勢の変化に伴い学習方法の多様化や、児童生徒の個性化・多様化が進み、教育環境も大きく変化してきた。教育の様々な課題を主体的に捉え、対処するための科学的な知見を養うことが重要である。理科選修では、科学の幅広い知識を身につけ、学校現場や社会で活躍する使命感と下記のような実践的能力を備えた教員の養成をめざしている。そのためには、身の回りの自然の不思議さ・科学技術のすばらしさに触れ、科学の楽しさ・面白さを知り、児童生徒に「科学の大切さ」を伝えるための専門性を身につけることが必要である。

1. 小学校にて理科の専門性を発揮できる教員
2. 持続可能な開発目標（SDGs）の教育諸問題に対応できる学び続ける教員
3. 小学校をはじめとして、中学校・高等学校での探究的な学習を推進する教員

【養護教諭一種免許状】

養護教諭は、児童生徒の健康管理、健康相談、保健教育などの学校保健活動を行う専門家である。近年、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴い、児童生徒の健康問題が深刻かつ複雑化し、心身の成長・発達への課題も多岐にわたっている。また医療的ケアが必要な児童生徒数、発達障害・学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒数は増加しており、これらの児童が抱えている心身の問題や親子関係・友人関係等の解決にむけて、保健医療福祉の関係機関との連携・協働が求められている。教育学部教育学科では、児童生徒一人一人を見つめ、小さな変化を感じ取り SOS に気づける力、校内外をつなぐコーディネーターの役割を担える力、児童生徒の命と未来を護る力を有する養護教諭の養成を目指している。

〈文学部日本学科〉

【中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）】

「読む・書く・聞く・話す」という「国語」の4技能にわたる高いコミュニケーション能力を有し、自己と他者の間の相互理解を実現することができる教員、日本文化全般にわたる幅広い知識に基づき「国語」の教育を行うことができる教員の養成を目指している。

「日本語学」「日本語文法」「講読（日本語学）」などの科目により日本語学を学び、「日本文学論」「日本文学史」「古典Ⅰ（日本）」「古典Ⅱ（中国）」などの科目により日本文化全般にわたる文学的知識を学ぶこととなる。そして、「国語教材研究論」などの科目により教育技術・教材研究の能力を高めることとなる。

【高等学校教諭一種免許状（書道）】

高い実技能力と実技指導能力を持ち、書道史・書論・鑑賞法について総合的な知識を身につけた教員の養成を目指している。

「書道史」「書論・鑑賞」「日本文学論」「日本文学史」「古典Ⅰ（日本）」「古典Ⅱ（中国）」などの科目により日本文学・日本語学・日本史・日本文化についてバランスよく習得し、書写を含む「書道」の科目を重点的に学ぶことで実技力と実技指導能力を高めていくこととなる。

〈文学部国際コミュニケーション学科〉

【中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）】

高度な英語教育の専門的理論を学び、英語文化・語学の研究だけでなく、人間としての総合的な判断能力を培い、国際社会に役立つバランス能力を備えた教員の育成を目指している。

英語のコミュニケーション能力を高めるために、「ベーシックコミュニケーション」「Oral Communica-

tion]「アドバンスコミュニケーション」[Academic Communication]などの履修をすることになる。また、「英語学概説」「英語学」「英語音声学」「英文法」などの科目を通じて、英語学の知識を身につけ、「英語文学概説」「Reading (Literature)」などの科目を通じて、英語文学の知識を身につけることになる。加えて、「英語圏文化概説」「Reading (Culture)」などの科目を通じて、異文化についての理解も深めていくことを目指している。

〈社会学部社会学科〉

【中学校教諭一種免許状（社会）】

中学校社会科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することが求められる。日本と外国の地理や歴史、現代社会の様々な制度や仕組みについて理解する授業や、様々な社会的事象に関心を持ち、それらを多面的・多角的に考察する授業を設計し、実践できる教員の養成を目指している。

「日本史」「西洋史」「アジア史」「中国史」をバランスよく履修することで、日本と外国の歴史を関係づけて学ぶ。また、「人文地理学」「自然地理学」「地誌」の科目を履修することで、地理学について学ぶ。そして、「法学」「社会学理論」「経済学」「哲学概論」「ジェンダー論」「社会調査法」などの科目を履修することで、社会の中の幅広い対象について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「社会教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高めることを目指している。

【高等学校教諭一種免許状（地理歴史）】

高等学校地理歴史科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することが求められる。現代社会を取り巻く様々な問題に対して、地理的・歴史的な見方・考え方に基づいて多面的・多角的に考察する授業を設計し、実践できる教員の養成を目指している。

「日本史」「西洋史」「アジア史」「中国史」などの科目を履修することで、各国の成り立ちや過去の様々な状況における人々の多様な営みと思惟について学ぶ。また、「人文地理学」「自然地理学」「地誌」などの科目を履修することで、日本をはじめとする世界各地の人々の暮らしや自然環境について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「地理歴史教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高めることを目指している。

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

高等学校公民科では、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民、特に主権者としての資質・能力を育成することが求められる。現代社会を取り巻く様々な問題に対して、国際的な視野を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断し、より良い社会を構想する授業や、人間としてのあり方や生き方についての自覚を深める授業を設計し、実践できる教員の養成を目指している。

「法学」「社会学理論」「経済学」「社会心理学」「哲学概論」「ジェンダー論」「産業社会学」「家族社会学」などの科目を履修することで、幅広く現代社会について学ぶ。これらの科目で学んだことをベースにして、「公民教科教育法」などの科目により、教材研究の能力を高めることを目指している。

〈社会学部人間福祉学科〉

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

高齢化社会を迎え、福祉への関心やニーズが高まるなか、社会では知識や技術に加え、一人ひとりの気持ちに寄り添った対応ができる能力が求められる。このような能力を持ち、倫理、文化、政治、経済などの観点から思考できる教員の養成を目指している。

「法学」「政治学」「社会学と社会システム」「経済学入門」「心理学と心理的支援」などの様々な科目の履修により、多様な観点を身につけ、「地域福祉と包括的支援体制」、「社会保障」、「貧困に対する支援」などの関連科目により福祉に関する知識や技術を身につけることを目指す。そして「臨床心理学」「カウンセリング理論」などの科目の履修により心の面についても学ぶこととなる。

【高等学校教諭一種免許状（福祉）】

日本社会が福祉社会であるためには、社会福祉が国民のものでなければならない。そのためには、国民が社会福祉を理解し、日本全国に福祉風土を醸成する必要がある。そして、現在では福祉ニーズが拡大・多様化・高度化している。これらに対応できる総合的な社会福祉の実現に向けた幅広い知識、および主体的に考え、公正に判断でき、実践できる力を備えた指導力のある教員の養成を目指している。

「社会福祉の原理と政策」、「社会保障」などの科目により社会福祉学を、「高齢者福祉」、「児童・家庭福祉」、「障害者福祉」などの関連科目により高齢者・児童・障害者の福祉について学ぶこととなる。また、「ソーシャルワークの理論と方法」、「ソーシャルワーク演習」、「介護福祉」、「介護演習」、「ソーシャルワーク実習指導」などの科目の履修により、社会福祉の理論と実践力を講義、演習、実習を通して学び、身につけることを目指している。

〈看護学部看護学科〉

【養護教諭一種免許状】

養護教諭は、児童生徒の保健管理、健康相談、保健教育などの学校保健活動を行う専門家である。近年、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴い、児童生徒の健康問題が深刻かつ複雑化し、心身の成長・発達への課題も多岐にわたっている。また医療的ケアが必要な児童生徒数、発達障害・学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒数は増加しており、これらの児童が抱えている心身の問題や親子関係・友人関係等の解決にむけて、保健医療福祉の関係機関との連携・協働が求められている。看護学部看護学科では、看護師資格をもち、教育現場で活躍できる養護教諭の養成を目指している。

事務手続き

- 学籍番号と各学部・学科（専攻・コース）の略称
- IBU.net
— 学内 WEB システムについて
- 大学からの連絡と教務課への問い合わせ
- 教員との連絡方法
- 休講
- 補講
- ピアノ室の利用について
- 転学部・転学科・転コースについて

学籍番号と各学部・学科(専攻・コース)の略称

●学籍番号

新入生には、入学時に学籍番号が与えられます。学籍番号とは、学生証に印字されている7桁の番号です。通常、卒業するまで変更することはありません。

学内の事務処理は、全て学籍番号によって行われます。試験の答案用紙やレポート提出の際、その他さまざまな手続きにおいて必要となります。記入する際には正確に記入してください。

●学籍番号のしくみ

学籍番号例 2 58 5 001
 ① ② ③ ④

桁 (左から)	内 容	
① 1 桁目	学部	2- 文学部・社会学部 3- 教育学部 4- 経営学部 8- 看護学部
② 2 桁目～3 桁目	期生	
③ 4 桁目	学部・学科・専攻・コース	文学部 1- 日本文学科 3- 国際コミュニケーション学科 4- 社会学部 5- 人間福祉学科 社会学部 1- 教育学科 学校教育コース 4- 教育学科 幼児教育保育コース 教育学部 2- 経営学科 公共経営専攻 3- 経営学科 企業経営専攻 経営学部 1- 看護学科 看護学部
④ 5 桁目～7 桁目	個人番号	一般学生 001～ 再入学生 501～ 転入学生 601～ (他大学2年次修了後、間を空けずに転入) 転入学生 701～ (他大学卒業後、転入または他大学2年次以上在学後に退学、その後転入) 転科生 801～ 編入生 901～

●各学部・学科(専攻・コース)の略称

各学部・学科(専攻・コース)は、便宜上、略称で示されることがあります。各学部・学科(専攻・コース)の略称は下のとおりです。

学 部	学 科	専攻・コース	略 称
文学部	日本文学科		日本
	国際コミュニケーション学科		国コ
社会学部	社会学部		社会
	人間福祉学科		人福
教育学部	教育学科	学校教育コース	教学
		幼児教育保育コース	教幼
経営学部	経営学科	公共経営専攻	経公
		企業経営専攻	経企
看護学部	看護学科		看護

● IBU.net とは

IBU.net は、インターネットを通じて、履修登録を行ったり、自分の成績や授業の出欠席を確認したり、授業をはじめ大学のさまざまな情報が掲示される WEB システムです。また、授業課題の提示や提出もここで言う場合があります。毎日ログインし、最新の情報を確認してください。

【IBU.net の主な機能】

No.	機 能		説 明	問い合わせ先
①	My DATA	(個人時間割)	自分の時間割が閲覧できます。希望した科目が履修登録できているか確認してください。	教務課
		(個人成績)	入学してからの自分の成績が閲覧できます。	
②	学修支援	(シラバス照会)	開講科目のシラバス（授業計画や評価方法など）が検索・閲覧できます。	教務課
		(授業出欠状況)	履修科目の出欠状況を確認することができます。(科目により入力されていない場合もあります)	科目担当者 (教員)
③	履修登録		履修する科目の登録ができます。卒業年次生は教員免許等の免許・資格の登録も必要です。履修登録期間のみメニューが表示されます。	教務課
④	授業情報		当日と翌日の履修科目の情報が表示されます。休講の場合は、休講のマークが表示されます。	教務課
⑤	お知らせ情報一覧		大学の各部署や教員からのお知らせが掲示されます。	各部署・教員
⑥	休講・補講情報一覧		履修登録されている授業の、休講・補講情報です。	教務課
⑦	課題提出		授業で出される課題です。毎日確認してください。	科目担当者 (教員)
⑧	授業資料		毎回の授業で使用する資料です。	
⑨	Q & A		授業についての質問はここで行ってください。	

*①②③④⑦⑧⑨：IBU.net にログイン ⇒ 「授業支援メニュー」

(注) 提出した課題、教員からの授業資料や Q&A は、年度を越えると閲覧できなくなる為、必ず各自で保存してください。

●メール設定について

IBU.net に自分のメールアドレスを設定すると、大学からのお知らせや授業に関する情報（休講・教室変更など）や科目担当教員からのお知らせ等がそのメールアドレスに転送されます。※添付ファイルは IBU.net に直接ログインしないと開くことができません。

IBU.net での転送メールアドレス設定、その他 IBU.net のくわしい使い方については、IBU.net のマニュアルに掲載されている『情報環境利用の手引き』を参照してください。



メール設定に関する注意

- 1) IBU.net を通じて情報発信されるものの中には、データ（word 文書や excel ファイル・PDF ファイルなど）が添付されている場合があります。転送されてきたメールから添付されているデータは参照できませんので、必ずパソコンで IBU.net にログインして、確認してください。
- 2) IBU.net から転送されてきたメールに直接返信しても、差出人へメールは届きません。
- 3) 全ての情報が IBU.net を通じてメールされるわけではありません。必ずパソコンでログインした IBU.net 画面を確認してください。

※ IBU.net にログインする ID とパスワードは入学時に配布します。わからなくなったら高等教育推進センターに問い合わせてください。

●保護者の IBU.net 閲覧

保護者の方も IBU.net を通じて学生の時間割表と成績表を閲覧することができます。閲覧方法や ID とパスワードは保護者宛に入学時の 4 月に郵送しています。

大学からの連絡と教務課への問い合わせ

●大学からの連絡

大学からの連絡は、IBU.net を通じて行います。

例えば、教室変更、休講、授業に関する注意事項など、学生生活を送る上で、大切な情報ばかりです。大学へ登校する際には、必ず IBU.net を確認してください。

お知らせした情報は、皆さんが知っているものとして取り扱いますので、注意してください。

●教務課窓口での問い合わせ

授業の履修登録や時間割や教室の配当、成績の管理などを行っているのが教務課です。これらのこと分不清らないことがあれば、窓口で尋ねてください。

【窓口受付時間】：月曜日～土曜日（祝日除く） 9：00～17：30

11：35～12：25 は当番者のみでの対応になります。

※授業、履修、試験、レポート、成績に関することなどの電話での問い合わせには、間違いが生じやすく、個人が特定できないといった問題もありますので、一切応じません。

●教務課事務取扱内容

履修・授業・休講・補講
試験・レポート
単位・成績
学外実習（博物館学芸員・社会福祉士・精神保健福祉士・MSW インター
ンシップ・看護師・保健師・助産師）
和の精神・授戒会
免許・資格に関すること
各種証明書

※上記以外の教育実習・保育実習等の学外実習については、教職教育推進センター（4号館地下1階）に問い合わせてください。（看護学部の養護実習を含む）

●提出物等の期限について

各種手続き（履修登録、レポート提出、追・再試験、その他資格の取得など）の期限は必ず守ってください。定められた期間内に手続きを完了しない場合、単位の修得や資格取得ができなくなるばかりでなく、卒業できなくなる場合もあります。

教員との連絡方法

大学の教員と連絡をとりたい場合は、次のような方法があります。

●研究室を訪ねる

教員には専任教員と非常勤講師がいます。専任教員には研究室があり、授業時間以外は研究室に在室していることが多いので、直接研究室を訪ねてもよいでしょう。研究室の場所については、IBU.netに掲載されている「研究室一覧 / オフィスアワー（学内のみ利用可）」を確認してください。

非常勤講師には研究室はありません。担当の授業がない曜日には原則として本学に出講していません。授業のある曜日に講師室（4号館1階）を訪ねてください。

●オフィスアワーを利用する

専任教員は「オフィスアワー」を設定しています。オフィスアワーは学生の皆さんが専任教員に、学修や進路についての疑問や質問・学生生活についての相談等を個別に尋ねることができるように設けられた時間です。それぞれの教員のオフィスアワーについては、IBU.netに掲載されている「研究室一覧 / オフィスアワー（学内のみ利用可）」で確認してください。

非常勤講師については、オフィスアワーはとくに設けていませんので、質問等があれば授業終了後等に行ってください。

●メールを送る

教員を直接訪ねることができない場合は、メールを送ってみてもよいでしょう。専任教員・非常勤講師ともに四天王寺大学用のG-mailアドレスを持っています。G-mailアドレスは、IBU.netの「マニュアル」もしくは学内ホームページに掲載されている「教職員メールアドレス検索（学内のみ利用可）」で確認してください。またIBU.netの授業ページのQ&Aでも質問できます。ただし、メールを利用するかどうかは各教員によって異なり、返信がない可能性がありますので、極力直接教員を訪ねるようにしてください。

●授業のない期間に連絡をとりたい場合

授業のない期間（定期試験期間や、夏期・冬期休業期間など）には、教員が必ず学内にいるとは限りません。また、非常勤講師については、原則として大学には出講していません。したがって、教員への連絡・相談はできる限り授業期間内に行っておいてください。

休講

授業は、大学または担当教員のやむを得ない事情（学会出張、体調不良等）によって休講になることがあります。

休講はできる限り早く IBU.net で連絡しますが、やむを得ず、当日連絡することもありますので、注意してください。

休講の連絡がなく、授業開始後 30 分を過ぎても担当教員が来ない場合は、休講扱いとします。教務課に申し出て指示を受けてください。

●臨時休講

【1】臨時休講の条件

次のような状況が生じた場合は、臨時休講となります。（定期試験期間中も含む）

※(3)(4)(5)(6)については、状況を考慮の上、個別に指示する。

- (1) 大阪府のいずれかの市町村に特別警報（暴風・大雨・暴風雪・大雪）が発表された場合
- (2) 大阪府のいずれかの市町村に暴風警報が発表された場合
- (3) 近鉄南大阪線の「大阪阿部野橋」駅から「古市」駅の区間において不通となった場合（一部運休、延着を除く）
- (4) 大阪府下で次の電車のうち 3 社以上が同時に不通となった場合（一部運休、延着を除く）
（近鉄、JR 西日本、大阪市高速電気軌道（OSAKA METRO）御堂筋線および谷町線と四つ橋線、南海、阪急、京阪）
- (5) 大阪府のいずれかの市町村に大規模地震対策特別措置法に基づく警戒宣言が出された場合
- (6) 学長が学生の安全確保の必要があると判断した場合

※施設の安全確認など判断に時間を要することがあり、即時に連絡できない場合があります。

【2】臨時休講の条件(1)(2)(3)(4)(5)(6)の発生または解除の時間による授業実施の有無

※(3)(4)(5)(6)については、状況を考慮の上、個別に指示する。

- 午前 5 時 59 分までに臨時休講の条件が解除されたとき → 通常どおり授業実施
- 午前 6 時～午前 8 時 59 分の間に臨時休講の条件が発生している時 → 1・2 限休講
- 午前 9 時以降に臨時休講の条件が発生している時、または発生した時 → 発生した時点以降終日休講



注意

- 上記は、大学が臨時休講になる条件です。
授業がある場合の通学については、十分に注意し、各自で安全を確保してください。
- (1)(2)の場合については、IBU.net による臨時休講の連絡は行いません。
各自、上記の条件を確認して判断してください。
- 臨時休講の有無について、電話での問い合わせはご遠慮ください。
- 大阪府以外から通学する学生について
大学が臨時休講にならない状況において、在住地域に特別警報（暴風・大雨・暴風雪・大雪）、暴風警報が発表された場合、科目担当者が配慮することがあります。

* IBU.net のメール設定に自身のメールアドレスを登録しておくこと、休講情報を確認することができます。

補講

授業が休講となった場合、またはその他の理由により、平常の開講曜日時限以外で授業を行うことを補講といいます。

●授業期間中の補講

補講を行うことが決まり次第、授業内に教員から連絡又はIBU.netで連絡します。

●補講日に実施

年度・学期によって、補講日を設定している場合があります。補講日には平常授業を行わず、補講の連絡があった科目のみ補講が実施されます。補講日については学年暦で確認してください。

但し、補講日以外に実施される場合もあります。

ピアノ室の利用について

8号館音楽棟ピアノ練習室を利用する際は、教務課に届け出が必要です。音楽棟は、授業や個人練習、部活動の場として多くの人が利用しますので、学生の皆さんが気持ちよく練習できるように、利用方法を守ってください。

【1】利用方法



【2】利用時間

	時期	曜日	時間
①	授業期間中	月～金	9:00～18:30 (受付は17:30まで)
②		土	9:00～17:00 (受付は16:00まで)
③	授業期間外	月～金	9:00～17:30 (受付は16:00まで)
④		土	9:00～17:00 (受付は15:30まで)

- 1) 申し込みには、学生証が必要です。
- 2) 利用時間は1時間です。延長は教務課まで申し出てください。※状況によって延長不可能な場合もあります。
- 3) 授業期間外（夏季・冬季休業期間など）の利用時間は90分の利用が可能です。
- 4) 授業での使用が優先のため、個人練習での使用ができない場合があります。

【3】設備および注意事項について

- 1) 備品等に故障・紛失破損などがあれば、すぐに教務課に申し出てください。
- 2) 盗難防止のため、鍵をかけずに貴重品等の荷物を練習室に置いたままにしないでください。
- 3) 電子ピアノ室での練習は、使用許可証をピアノの上に置いてください。練習を終了したときは、ヘッドホンは電子ピアノの横に必ずかけてください。
- 4) ピアノ室での飲食は厳禁です。

転学部・転学科・転コースについて

在学中に他の学部・学科（専攻・コース）に変わることを転学部・転学科・転コースといいます。ただし、全ての学部・学科（専攻・コース）で募集が行われる訳ではありません。転学部・転学科・転コースには審査があり、合格すると翌年度4月から転学部・転学科・転コース先の学部・学科（専攻・コース）の3 Semesterまたは5 Semesterに所属することになります。出願には、修得単位数や学業成績などの条件があります。毎年7月頃、説明動画を配信しますので、希望する学生は視聴してください。また、質問等があれば、教務課で説明を行います。

出願手続きについては、12月頃に配布する「転学部転学科募集要項」で告知します。

【転学部転学科手続きの流れ】

- 1) 教務課で「転学部転学科募集要項」を受け取る。
- 2) ①「希望願い書」・②「希望理由書」を記入する。
- 3) 教務課設置の証明書自動発行機で、審査検定料10,000円を支払う。
また、教務課に①「希望願い書」・②「希望理由書」・③成績単位修得証明書（教務課窓口で申込）を提出する。
- 4) 選考を受ける。
- 5) 可否通知書を教務課より郵送。
- 6) 〈合格の場合〉
 - ① オリエンテーションは転学部転学科先の学部・学科・コースに参加する。
 - ② 学生支援センターにて、新しい学生証を受け取る。
 - ③ 教務課で履修相談をする。

*説明会や募集要項配布時期については、IBU.netでお知らせします。

授業・履修

学位

— 学位授与までの道のりについても説明しています。

単位のしくみ

— 単位の計算方法や単位と出席について説明しています。

セメスター制について

授業

— 授業期間・授業時間・学生アンケートについて説明しています。

シラバス（授業計画）

— シラバス（授業計画）について説明しています。

卒業に必要な単位

— 卒業に必要な単位数や条件を説明しています。

履修

— 授業科目の履修登録について説明しています。

履修単位上限

卒業研究

課題研究

単位認定

— 留学・取得した資格・他大学や短期大学などの授業科目が単位として認められる場合があります。

学位

●学位の授与

本学の卒業者には、「学士」の学位を授与します。学位に付記される専攻分野の名称は、以下のとおりです。

学 部	学位と専攻分野の名称
文学部	学士（文学）
社会学部	学士（社会学）
教育学部	学士（教育学）
経営学部	学士（経営学）
看護学部	学士（看護学）

●学位授与までの道のり

卒業し、学士の学位を授与されるには、下記の条件を満たしている必要があります。

- 4年間（8 セメスター）以上大学に在学していること
※休学した期間は在学期間に含まれません。
- 卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）を修得していること

8 セメスター以降の成績評価の結果、上記 2 つの条件を満たした学生は、学部教授会等の審議を経て卒業が決定します。

卒業が決定した学生は、郵送にて発表されます（卒業生発表）。

卒業する学生は、学位授与式へ出席し、学位記（卒業証書）を授与されます。

※卒業延期者には卒業延期通知を郵送します。

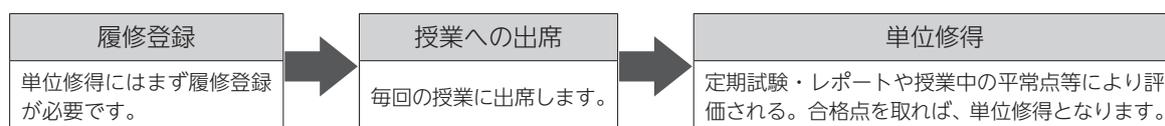
* 卒業生発表は冬学期は 3 月上旬、夏学期は 9 月上旬に郵送にて行います。IBU.net や電話等での確認はできません。

* 在学できるのは 8 年間（16 セメスター）までです。

単位のしくみ

●単位の計算方法

大学を卒業するためには、各学部・学科（専攻・コース）で定められた単位を修得しなければなりません。単位は、授業科目を履修・受講し、定期試験やレポート提出、授業中の評価にて合格点（60点以上）をとることによって修得できます。



【1】単位の計算基準

1 単位 = 45 時間の学修（授業時間外の学修を含む）

文部科学省令として定められている大学設置基準では、授業の方法や授業時間外に必要な学修（予習・復習・学外実習）の時間数などによって単位数が以下の様に定められています。

（授業の方法）

- 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

（単位）

- 授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位とし単位数を計算するものとする。
※医療関係職種養成所指定規則等においては、1 単位当たりの実験、実習及び実技の授業時間の下限は 30 時間と定められています。

●単位と出席

本学の「単位の修得及び試験に関する規程」では、「各科目について、その出席時数が当該科目の全授業数の 3 分の 2 に満たない者は、試験を受験しても単位は認定されない。」とされています。

授業の出席確認はカードリーダー等様々な方法で行われますが、自分の履修している科目については、自分でも記録をとるなどして、しっかり出席回数を把握しておくようにしてください。また、授業は毎回出席し、積極的に授業に参加するようにしてください。

なお、科目ごとの評価方法に関しては、シラバス（授業計画）で確認してください。

セメスター制について

●セメスター制

1年間で2つの学期に分け、講義を各学期ごとに完結させ、履修・試験・成績評価を行い、単位を授与する制度です。本学では夏学期・冬学期をそれぞれ1セメスターとして数えます。

セメスター制を活用することにより、半年単位での留学や学外活動への参加も可能です。また、病気などによる休学などもセメスター単位で認められます。

1年次		2年次	
夏学期	冬学期	夏学期	冬学期
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
3年次		4年次	
夏学期	冬学期	夏学期	冬学期
5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

*在学できるのは16セメスターまでです。(編入生・転入生は12セメスターまで)

授業

大学の授業は、高等学校までの授業とは大きく異なります。まず、大学では自分自身で「どの授業を受けるか」を選択し、履修登録を行います。同じ学科、同じ学年でも、選ぶ授業によって時間割は違ってきます。

●授業期間

大学では、4月1日から翌年3月31日までを1年間の授業期間としており、夏学期と冬学期に分かれています。1年の間には授業の無い期間がありますが、その期間に、「集中講義」や各種講座などが行われます。時間割をよく確認してください。

学期ごとの授業開始日・授業終了日や休業期間については、学年暦で確認してください。

●授業時間

大学の授業は1時限＝90分です。本学では1時限から5時限まであり、それぞれの開講時間は次のとおりです。

時 限	授業時間
1 時限	9 : 10 ~ 10 : 40
2 時限	10 : 55 ~ 12 : 25
(昼休み)	12 : 25 ~ 13 : 15
3 時限	13 : 15 ~ 14 : 45
4 時限	15 : 00 ~ 16 : 30
5 時限	16 : 40 ~ 18 : 10

●学生アンケート

学生の皆さんに「学生アンケートによる授業評価」を実施しています。これは、授業について学生の皆さんの要望や建設的な意見に耳を傾け、教員と学生が一体となって、より充実した授業を目指すために行われます。

●教室変更について

授業が行われる教室が変更となることがあります。教室変更が行われた場合は、以降の授業すべて変更になることがありますので、教室変更の通知をよく確認してください。

休講・補講・教室変更については、事前または当日に、IBU.netにてお知らせしますので、確認してから授業へ出席してください。掲示板でのお知らせはありませんので注意してください。

●授業を欠席する場合

大学での学修においては、すべての授業に出席しなければなりません。本学の規程で単位修得には原則として3分の2以上の出席を必要としています。

*公認欠席について

忌引、就職活動、クラブ公式試合、学外実習等で欠席する場合、科目担当者の判断により、公認欠席として教育的措置を受けられる場合があります。

公認欠席＝出席ではありません。公認欠席の取扱いについては科目担当者によって異なります。

●授業中に守るべきマナーについて

本学では、勉学に集中できる静穏な学修環境の整備を目的に、全学を挙げて規律ある学修環境づくりに取り組んでいます。下記の規律の主旨を理解し、各自が規律遵守を心がけてください。

受講心得

- 一、本学学生は、建学の精神、学園訓に則り、学びの主体として自ら学修の意義を見出し、真摯に学業に取り組むこと。
- 二、前条の精神に基づき、授業においては、授業の妨げになるような行為を慎むこと。
- 三、授業の妨げとなる行為があり、教員から注意を受けた場合は、自ら省みて速やかに行為を改めること。

シラバス（授業計画）

大学の授業科目には、それぞれシラバス（授業計画）がIBU.net上に公開されています。シラバスとは、その授業内容や進め方について、詳細に記したものです。履修登録を行う前に、必ず確認して下さい。とくに卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と当該授業科目の関連（卒業時点において学生が身に付けるべき能力）についての詳細は履修要覧を参照し、確認してください。シラバスには、授業の担当教員名などの他、次のような事項が記載されています。

- 1) 授業題目
- 2) 概要
- 3) 到達目標（この授業を受ける場合の目標）
- 4) 授業計画（毎回の授業をどのように進めていくのか）
- 5) 学外活動予定（日程、行先、内容等）
- 6) 目標達成のための授業方法・履修上の注意事項（課題へのフィードバック方法含む）
- 7) 授業時間外に必要な学習（予習・復習に必要な学習内容）
- 8) 授業形態（講義、演習、実習、発表、対話、討論）
- 9) 使用するテキスト（教科書）や、参考図書
- 10) 成績評価の方法（試験やレポート、小テストなど、どのような基準で評価が決まるのか）
- 11) 実習材料費等（実習材料費や材料費を徴収する費用について）
- 12) アクティブラーニングを行っているか、また、その詳細
- 13) ICTの活用状況
- 14) ルーブリックを採用しているか
- 15) 15回全て外国語のみで授業を行っているか（但し外国語教育を主たる目的とする科目は除く）
- 16) 実務経験のある教員による授業内容

■シラバスの見方

シラバスは、IBU.netの授業支援メニュー（PC）→学修支援→シラバス照会から確認することができます。検索画面で授業科目名や担当教員名を入力して検索できます。

■シラバスの使い方

シラバスを読むことによって、授業の詳細な内容を事前を知ることができます。「どの授業を履修するか」を決定する際に、シラバスでその授業の概要などをよく確認して、授業を選択する参考にしてください。また、事前の準備や、学習の進み具合の確認等適宜利用してください。

(例)

授業コード				
開講学期		授業区分		曜日・時限
科目名				単位数 2
教員				
授業題目				
概要	本科目は、わが国に生きる人間として必要な仏教的学識の基礎を修得し、仏教Ⅰ、仏教Ⅱの瞑想および写経の実践の意義を理解することによって、宗教的情操の体得を促すことを目的としている。特に、釈尊の説かれた十二縁起、四諦、八正道などの仏教思想の基本を把握することを通して現代社会を生きる人間人格のあり方を省察する。更に、和の精神を中心とした聖徳太子の仏教精神を学ぶことにより、本学の建学の精神に対するより深い確信をもつことを可能にする。			
到達目標	釈尊と聖徳太子の仏教精神を学ぶことにより、現代社会を正しく生きるための仏教的素養を身につけることができる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 仏教とは何か 2 釈尊の生涯について (1) [誕生から出家まで] 3 釈尊の生涯について (2) [苦行から入滅まで] 4 仏教の根本思想について (1) [無常・空・無我について] 5 仏教の根本思想について (2) [十二縁起について] 6 仏教の根本思想について (3) [四諦・八正道について] 7 大乗仏教の思想について 8 般若心経の思想について 9 聖徳太子の歴史的意義について (1) [対外的施策について] 10 聖徳太子の歴史的意義について (2) [国内体制の整備について] 11 聖徳太子の仏教精神について (1) [和の精神について] 12 聖徳太子の仏教精神について (2) [在家中心の精神について] 13 聖徳太子の仏教精神について (3) [社会奉仕の精神について] 14 現代社会と仏教について (1) [現代仏教の課題] 15 現代社会と仏教について (2) [仏教精神を活かして] 16 定期試験 			
学外教育活動予定 (日程、行先、内容等)				
目標達成のための授業方法・履修上の注意事項(課題へのフィードバック方法含む)	授業担当者の指示に従うこと。 授業中は私語をつつしみ、居眠り等をしないようにすること。 正当な理由がない遅刻や早退、途中退出などは行わないこと。			
授業時間外に必要な学習	授業に関する参考図書などを随時提示するので、それを一読するようにすること。			
授業形態	講義			
テキスト(授業において使用する書籍等)	『仏教聖典』(仏教伝道協会)。その他、適宜資料を配布する。			
参考文献(学修をさらに進めるために役立つ書籍等)	三枝充憲著『仏教入門』(岩波新書) 中村元著『釈尊の生涯』(平凡社)など			
成績評価の方法	定期試験 80%、平常点(各授業回の小レポートなど) 20%			
実習材料費等				
アクティブラーニングを行っている				
ペアワーク	グループワーク		プレゼンテーション	ディスカッション
ロールプレイ	ワークシート		双方向型学習 ICT等	発見学習
問題解決型学習	体験学習		調査学習	フィールドワーク
その他				
学生・教員ともICTを活用		教員のみICTを活用		学生のみICTを活用
PC	タブレット端末	電子黒板	クリッカー	スマートフォン
その他				
ルーブリックを採用している				
15回全て外国語のみで授業を行っている(外国語教育を主たる目的とする科目は除く)				
実務経験	職業等			
備考				

※卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連(卒業時点において学生が身につけるべき能力・ナンバリング)についての詳細は履修要覧を参照の上、確認してください。

卒業に必要な単位

●卒業するためには

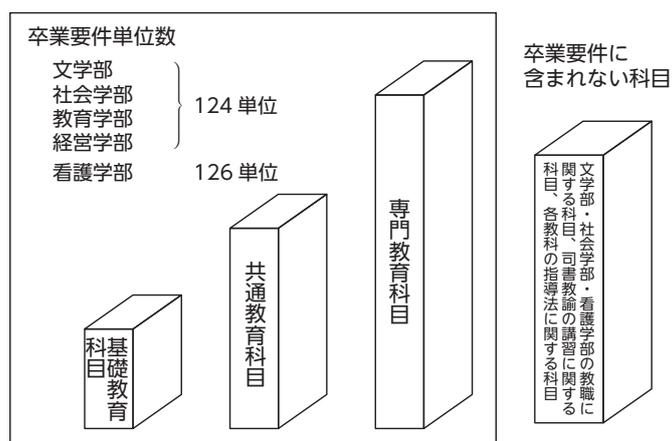
大学を卒業して学位を得るためには、本学に8セメスター、4年以上在学していることのほか、卒業するために必要と定められた単位を修得しなければなりません。これを「卒業要件単位数」といいます。

卒業要件単位数は、文学部・社会学部・教育学部・経営学部では合計で124単位、看護学部では合計126単位と定められています。

ただし、各学部・学科（専攻・コース）ごとのカリキュラムに設けられた科目は分類され、要件が定められています。科目の分類は、全学部共通で開講される科目群である「基礎教育科目」・「共通教育科目」と、学科（専攻・コース）ごとにそれぞれ開講される「専門教育科目」とに分けられます。

卒業要件単位数については、次のようなイメージで、それぞれ分類ごとの単位数を積み上げることで卒業を目指します。

※文学部・社会学部・看護学部の「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」及び「司書教諭の講習に関する科目」、「各教科の指導法に関する科目」は卒業要件に含まれないため、注意してください。



科目群	内 容
①「基礎教育科目」	本学の特色とする仏教を中心に据えた人格形成の科目群
②「共通教育科目」	社会人として必要な基礎能力や幅広い知識を身につける科目群
③「専門教育科目」	確かな専門的な知識・技能を習得する科目群

学科ごとの卒業要件単位数の詳細については、次ページ以降を参照してください。

*教育学部の「教職に関する科目」は、卒業要件に含まれます。

*「単位」について

単位とは、ある授業科目を修了（履修登録を行い、授業を受けて、テスト等を受験し合格）した証としてもらえるポイントのようなものです。

例えば、夏学期の月曜日・1限の「〇〇論」という授業を受けてテストに合格すれば2単位を修得できます。但し、1単位等の授業もあります。

●卒業に必要な単位数

卒業するためには、本学に8セメスター、4年以上在学し、卒業要件として定められた次の科目および単位数を修得しなければなりません。

(卒業要件)

文学部

学科・ 専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合 計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
日本	6	6	14	16	30	24	64	88	124
国こ			10	22	32	30	56	86	124

社会学部

学科・ 専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合 計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
社会	6	6	14	16	30	22	66	88	124
人福			14	16	30	16	72	88	124

教育学部

学科・ 専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合 計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
教学	6	6	12	8	20	42	56	98	124
教幼			12	8	20	54	44	98	124

経営学部

学科・ 専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合 計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
経公	6	6	14	18	32	16	70	86	124
経企			14	18	32	18	68	86	124

看護学部

学科・ 専攻名	基礎教育科目		共通教育科目			専門教育科目			合 計 (A)+(B)+(C)
	必修	小計(A)	必修	選択	小計(B)	必修	選択	小計(C)	
看護	6	6	8	10	18	102	0	102	126

(注意1) 教職に関する科目・司書教諭の講習に関する科目・各教科の指導法に関する科目の単位は、卒業に必要となる単位に算入されない(教育学部教育学科を除く)。

(注意2) 司書教諭の講習に関する科目の単位は、卒業に必要となる単位に算入されない(文学部・社会学部・教育学部)。

(注意3) 各自が所属する学部・学科・専攻以外で開講されている専門教育科目を履修した場合(=他学部・他学科履修)は、各自の専門教育科目の選択科目として単位に算入される。ただし、上限を30単位とする。

履修

●履修とは

履修とは、卒業、免許・資格の取得に必要な科目を自分で確認し、自分で科目を選択し、その科目の単位を修得することをいいます。どの科目を履修するかについては、卒業及び免許・資格取得までのプロセスを自分なりに考え、授業科目を体系づけて計画する必要があります。

●履修登録について（※担任教員の指導を必ず受けてください）

履修登録は、各学期の最初に「自分が履修する科目を登録する」手続きです。

I 履修登録に必要な書類受取り（オリエンテーション）

「履修要覧」「時間割表」「クラス分け表」等



II ガイダンス（学科別オリエンテーション）

- ・カリキュラム（授業の組み立てや履修の仕方等）の説明
- ・ガイダンスでわからないことがあれば個別に担任教員または教務課をたずねてください。



III 履修登録下書き用紙の記入

用紙はIBU.netからダウンロードします。
シラバスで内容を確認してから履修希望科目を下書き用紙に記入して下さい。
また上限単位の範囲内であるか、不足している科目がないかを再度確認します。



IV 履修登録期間

期間内にIBU.netにて登録を行ってください。



V 履修登録時の注意事項

- ・科目名、担当教員をよく確認して登録すること。
- ・履修登録期間内であれば、何度でも変更が可能。
- ・各種実習・卒業研究・集中講義は、画面下の枠から選択します。
- ・**自分で確認し最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を必ず受けてください。**
必要があれば履修科目を訂正してください。



VI 履修訂正期間

履修登録期間終了後に、やむを得ず時間割の訂正が必要になった学生のために履修訂正期間を設けます。
・**最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を受けてください。**

※履修登録に誤りがあった場合、その科目の単位修得はできません。
十分に確認のうえ、履修登録を行ってください。

履修希望科目の決定時の注意

- ・在学しているセメスターより上のセメスター配当科目は、履修できません。
- ・在学しているセメスター以下のセメスター配当科目は、履修できます。
- ・時間割変更がないか、IBU.net『お知らせ情報一覧』で確認してください。
- ・学科・クラス指定の授業があるので、確認してください。
- ・科目名の後にA、Bなどアルファベットが付いている科目はA⇒Bと履修する等、履修に条件がある科目に注意してください。
- ・同一科目を2度履修することはできません。
- ・既に修得した科目を再度履修することはできません。

授業の出席は、履修登録にかかわらず初回から必要です。

各科目の授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習（予習・復習等）、成績評価の方法など、IBU.net上の「シラバス照会」で必ず確認してください。

●履修計画の立て方

- 履修に必要な資料を受け取り、担任教員の履修指導を受けましょう。
オリエンテーションには必ず参加し、履修要覧・時間割表・クラス分け表・各学科独自の資料を受け取ってください。
- 履修個別相談会を活用しましょう。
各学期の開講時期に、特定日を設け「履修個別相談会」を開催しています。時間割の組み方など、わからないことがあれば、この期間を活用するとよいでしょう。

●履修登録期間（IBU.net から受け付けます）

学 期	期 間
夏学期	2024年 4月2日（火）～ 4月8日（月）
冬学期	2024年 9月7日（火）～ 9月23日（月）

※履修登録期間終了後にやむを得ず時間割の訂正が必要になった学生のために履修訂正期間を設けます。期間については学年暦で確認してください。

●自分が所属するクラスの確認

クラス分け表を見て自分が所属するクラスを確認しましょう。（クラス分け表は春のオリエンテーションにて配付しています。）

科目によってクラスをいくつかの種類で分けて開講しているので、正しいクラスで履修登録を行いましょう。

●科目の開講についての注意事項

- 科目は毎年変更されることがあります。自分の受講したい科目がその年度に開講されるとは限りません。また、配当セメスターについても変更されることがあります。
- 履修希望者が想定している人数より多くなった科目では、クラス指定学生の履修が優先されます。その他指定外の学生については、抽選等による履修人数制限を行う場合があります。
- 履修希望者数が10名以下で著しく少人数の科目は、閉講またはクラス合併等が行われる場合があります。

【注意】 履修登録に誤りがあった場合、その科目の単位修得はできません。十分に確認のうえ、登録を行ってください。

最終確定した時間割を印刷して、担任教員の履修指導を受けてください。

各科目の内容については、IBU.net 上の「シラバス照会」で必ず確認してください。

●大学の他学部・他学科・他専攻専門教育科目の履修の注意事項

他学部・他学科・他専攻で開講される専門教育科目を履修することができます。詳細は以下の通りです。

- 他学部・他学科・他専攻の学生が履修できる科目は、以下の①～④全ての条件を満たしたものとします。

またその場合でも、適正な人数を超えた場合などは、その学部・学科・専攻の学生の履修が優先されます。

- ① 同じ入学年度のカリキュラムである
- ② 他学部・他学科履修不可科目ではない
- ③ 配当セメスターが自分のセメスター以下である
- ④ 自分の学部・学科・専攻に同等科目がない

①～④は履修要覧で調べることができます。

2. 履修登録

シラバスを確認し、必ず授業担当の先生の許可を得たうえで、履修登録して下さい。

IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に「不可」の記載がなくても履修できない場合もありますので、ご注意ください。

3. 単位認定

単位を修得した場合、30 単位を上限に専門教育科目の選択科目として算入されます。

(注) 社会学部人間福祉学科*、教育学部、看護学部、短期大学の専門教育科目については他学部、他学科、他専攻の学生は履修できません。

※「地域共創プログラム」関連科目は、「地域共創プログラム」取得を目指す文学部・社会学部・経営学部の学生に限り、他学部・他学科履修を可とします。

履修単位上限

各学期で履修登録することのできる単位数の上限（履修単位上限）は 24 単位です。

【備考】

- 1) 次にあげる科目は、上表の履修単位上限を越えて履修できます。
 - ① 文学部・社会学部・看護学部の「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」 *各教科の指導法は「教職に関する科目」と同じく上限に含まない
 - ② 司書教諭の講習に関する科目
 - ③ 集中講義科目（日程が重複して開講される科目は、2 科目同時に履修できない）
 - ④ 卒業研究・課題研究
 - ⑤ 教育学部の教育実習・教育実習指導科目、保育実習・保育実習指導科目、「臨床看護学演習」、インターンシップ科目
 - ⑥ 社会学部人間福祉学科の「ソーシャルワーク実習指導 A」・「ソーシャルワーク実習指導 B」 「ソーシャルワーク実習指導 C」 「ソーシャルワーク実習 A」 「ソーシャルワーク実習 B」 「MSW インターンシップ」
- 2) 累積 GPA（※ P.55 参照）が 3.5 以上ある場合、次学期に履修登録単位数の上限を超えて 28 単位まで履修登録することができる。
- 3) 社会学部人間福祉学科および教育学部の学生のうち、教員免許状・国家試験受験資格の取得を希望する者は、『免許・資格科目履修申請願』を提出することにより、単位数の上限（24 単位）を超えて履修することができる。

- 4) 下記認定科目については、履修単位上限を越えて単位が認定されます。
- ① 「外国の高等教育機関における授業科目」の認定科目
 - ② 「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」の認定単位
 - ③ 「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した科目
 - ④ 「本学入学前の既修得単位」の認定科目
 - ⑤ 「他の大学または短期大学等の授業科目」の認定科目
 - ⑥ 「国内実地研修Ⅰ・Ⅱ」
 - ⑦ 留学・海外研修・海外実地研修に関する科目
- 5) 履修単位上限は編入・転入学生および転学部・転学科等の学生、9セメスター生以上には適用しません。
- 6) 複数学期にわたり開講する科目は学期数で割って換算します。

卒業研究

「卒業研究」は、各学科の「専門教育科目」の選択科目4単位として設置されています。3年次以降に各指導教員に従って、1つの研究テーマを追求し、そのために必要な調査・分析をし、完成までにさまざまな知識、経験、手法を身に付け、「卒業研究」としてまとめます。また、その中で論文構成・文章作成の能力も養います。自分の専門知識の拡大や自己啓発のために、できるだけ履修することを勧めます。

●提出までの日程

事項	期日	提出先
①「卒業研究作成計画書」の提出	7セメスター開始時まで ※日時は指導教員の指示に従う	指導教員
②「卒業研究」履修登録	8セメスター	IBU.netにて履修登録
③「卒業研究」提出	8セメスター	教務課

※諸手続および書類の提出については、期限を必ず守ってください。

9月卒業生は、提出までの日程を教務課で確認してください。

●「卒業研究」の履修

「卒業研究」を履修するための条件は次の通りです。

- 1) 7セメスターを終了して、「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の2単位を含み、卒業に必要となる修得単位数が合計90単位以上あること
- 2) 7セメスター開始時までにゼミの指導教員の指導に従って、「卒業研究作成計画書」を作成し、ゼミの指導教員の審査を受けた上で、卒業研究作成許可を得ておく
- 3) 8セメスターの履修登録時に「卒業研究」の履修登録を行う

● 「卒業研究」の書式

1) 論文形式の場合

原稿は和文または英文で、提出用紙はパソコンで作成することが望ましいですが A4 原稿用紙でも可能です。書式は次の通りで、共同研究の場合も一人当たりの分量は同じです。詳細は指導教員の指示に従ってください。

項目	パソコン使用の場合	手書きの場合
①「表紙」	規定の書式を IBU.net からダウンロードする ※制限枚数に含めない	左に同じ
②「目次」「参考文献」「添付資料」(巻末にまとめる) など	制限枚数に含めない	左に同じ
③「本文」(序論・本論・結論・注)	A4 判用紙を使用。 和文の場合は 12,000 字以上 (目安として、1 枚 40 字 × 30 行にして 10 枚以上とする)。 英文の場合は 5,000 語以上 (目安として、1 枚 75 ストローク × 30 行にして 15 枚以上とする)。	400 字詰め原稿用紙で 30 枚以上
④その他	感熱紙の使用は不可	黒ボールペンを使用

2) 論文形式以外の場合

指導教員の許可を得た上で、教務課へ申し出て下さい。事前に提出方法や形式などについて明記し、教務課に願い書を届け出る必要があります。

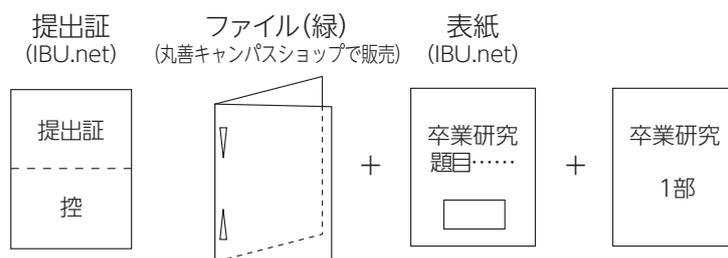
● 「卒業研究」の提出

「卒業研究」を提出する際は、次のことを守ってください。

- 1) 「卒業研究」は 1 部提出する。
- 2) ① 「表紙」は IBU.net からダウンロードする。
② 丸善キャンパスショップで指定ファイルを購入し、「表紙」「卒業研究」を指定ファイルに綴じる。
③ 「提出証」を IBU.net からダウンロードし、併せて提出する。
- 3) 定められた期間内に提出すること。提出期限に遅れた場合は、一切受け付けません。

【病気やその他やむを得ない事情により提出期限までに提出できない場合】

病気または不時の災害その他真にやむを得ない事由によって期日に提出できない者、もしくは、できなかった者は、その事由を証明する書類を添付した願い書を教務部長に提出し、受理されれば追試験に準じて卒業研究の受付を許可します。



課題研究 (看護学部 看護学科)

「課題研究」は、看護学科の「専門教育科目」の必修科目 2 単位として配置されています。4 年次以降に各指導教員に従って、1 つの研究テーマを追求し、完成までにさまざまな知識、経験、手法を身に付け、「課題研究」としてまとめます。また、その中で論文構成・文章作成の能力を養います。

●提出までの日程

事 項	期 日	提出先
① 「課題研究」履修登録	7・8 セメスター	※1 IBU.net にて履修登録
② 「課題研究」提出	8 セメスター ※2 詳細は別途知らせる	教務課

※1 履修登録は 7 セメスター・8 セメスターの 2 回行ってください。

※2 諸手続きおよび書類の提出については、期限を必ず守ってください。

●「課題研究」の履修

「課題研究」を履修するための条件は次の通りです。

- 1) 6 セメスターを終了して、「和の精神 I・II」の 2 単位、「看護研究法」の 2 単位および統合実習の実習参加要件 (p.167) を満たすこと
- 2) 7・8 セメスターの履修登録時に「課題研究」の履修登録を行うこと

●「課題研究」の書式

論文の形式

原稿は和文で作成する。書式は次の通りです。詳細は指導教員の指示に従ってください。

項 目	パソコン使用
① 「表紙」	規定の書式を IBU.net からダウンロードする ※制限枚数に含めない
② 「目次」	制限枚数に含めない
③ 「引用・参考文献」「添付資料」	制限枚数に含める
④ 「本文」(序論・本論・結論)	A4 版用紙を使用。 和文の場合は 12,000 字以上 (目安として 1 枚 40 字×30 行にして 10 枚程度とする)。

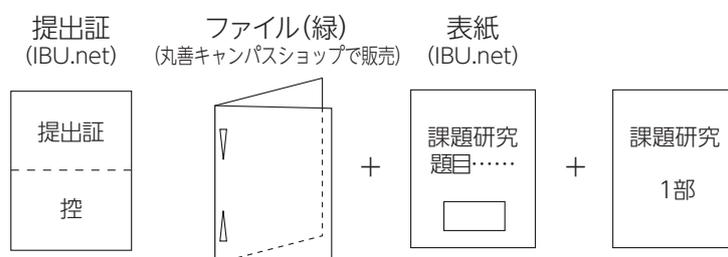
● 「課題研究」の提出

「課題研究」を提出する際は、次のことを守ってください。

- 1) 「課題研究」は1部提出する。
- 2) ① 「表紙」はIBU.netからダウンロードする。
② 丸善キャンパスショップで指定ファイルを購入し「表紙」「課題研究」を指定ファイルに綴じる。
③ 「提出証」をIBU.netからダウンロードし、併せて提出する。
- 3) 定められた期間内に提出すること。提出期限に遅れた場合は、一切受け付けません。

【病気やその他やむを得ない事情により提出期限までに提出できない場合】

病気または不時の災害その他真にやむを得ない事由によって期日に提出できない者、もしくは、できなかった者は、その事由を証明する書類を添付した願い書を教務部長に提出し、受理されれば追試験に準じて課題研究の受付を許可します。



単位認定

●単位認定の上限

本学学則により、外国の高等教育機関、あるいは日本国内の他の大学や短期大学などでの学修により本学での単位を認定する場合の単位認定の上限は次の通りです。すべてを合わせて60単位を上限としています。

認定区分		上 限	上限(合計)
①留学	外国の高等教育機関における授業科目	60 単位	合わせて最大 60 単位まで
②知識・技能研究		4 単位	
③大学コンソーシアム大阪		60 単位	
④本学入学前の既修得単位		60 単位	
⑤他の大学または短期大学等の授業科目		60 単位	

1. 編入・転入時に認定された単位は除く
2. 単位認定を受ける際は、各項目の注意事項をよく読み、必要な手続きを行うこと
3. 単位認定された科目区分は成績表で再確認すること

●留学による単位認定

本学の認める外国の高等教育機関に留学し、そこで単位を認定された場合、本学では審査のうえ本学の履修単位として認めることができます。ただし留学先の認定単位がそのまま認められる訳ではありません。また認められる単位の上限は60単位です（学則第21・41・42条参照）。

項 目	内 容
①認定される単位の上限	60 単位
②認定区分	個別認定
③認定される科目群	自分の所属学部・学科・専攻に関する内容の留学は、その「専門教育科目」として認定される。

不明な点は、グローバル教育センターにお問い合わせください。

● 「知識・技能研究」の単位認定（資格・検定の単位認定）

指定された資格・検定について、本学で定められた基準以上の成績を修めた場合に、単位を認定します。単位取得を希望する学生は各学期の定められた期間に、教務課にて申請手続きを行ってください。詳細については、IBU.net でお知らせします。

1) 単位認定できる資格等

「知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程」第2条の表を参照してください。

2) 認定科目

「共通教育科目」の「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」（認定の上限は4単位まで）

3) 申請時期：（夏学期）5月上旬頃から1週間程度（冬学期）9月中旬頃から1週間程度

4) 申請窓口：教務課

5) 規程第4条3項にある様に「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受ける種目が「知識・技能研究Ⅰ」で認定されたものと同種目あるいは同一語学である場合、その等級は「知識・技能研究Ⅰ」で認定された等級よりも上級でなければなりません。

（例）実用英語技能検定2級で「知識・技能研究Ⅰ」を申請し、TOEIC®を「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受けようとする場合、TOEIC® L & Rは650点以上でなければならない。他にも、同一資格（情報関連や簿記等）にも制限があり認められないこともありますので、教務課窓口で確認してください。

「知識・技能研究」同等科目一覧表

種 目	等 級		
	知識・技能研究Ⅰ	知識・技能研究Ⅱ (Ⅰ)	知識・技能研究Ⅱ
実用英語技能検定	2級	準1級	1級
TOEFL® (iBT)	52点以上	70点以上	100点以上
TOEIC® L & R	500点以上	650点以上	880点以上
日商簿記検定	3級	2級	1級
簿記能力検定（全経）	3級	2級	1級

● 「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した場合

大学コンソーシアム大阪単位互換とは、他大学の講義を履修することができ、さらに履修した科目が在籍大学の単位として認定されるという制度です。大学コンソーシアム大阪会員の大学が単位互換包括協定を結んで、多彩な科目の提携を行っています。

【注意事項】

「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した場合に認められる単位は履修上限に含まれません。

受講手続きについて

履修登録とは別の手続きが必要です。詳細は IBU.net で 3 月中旬頃にお知らせしています。

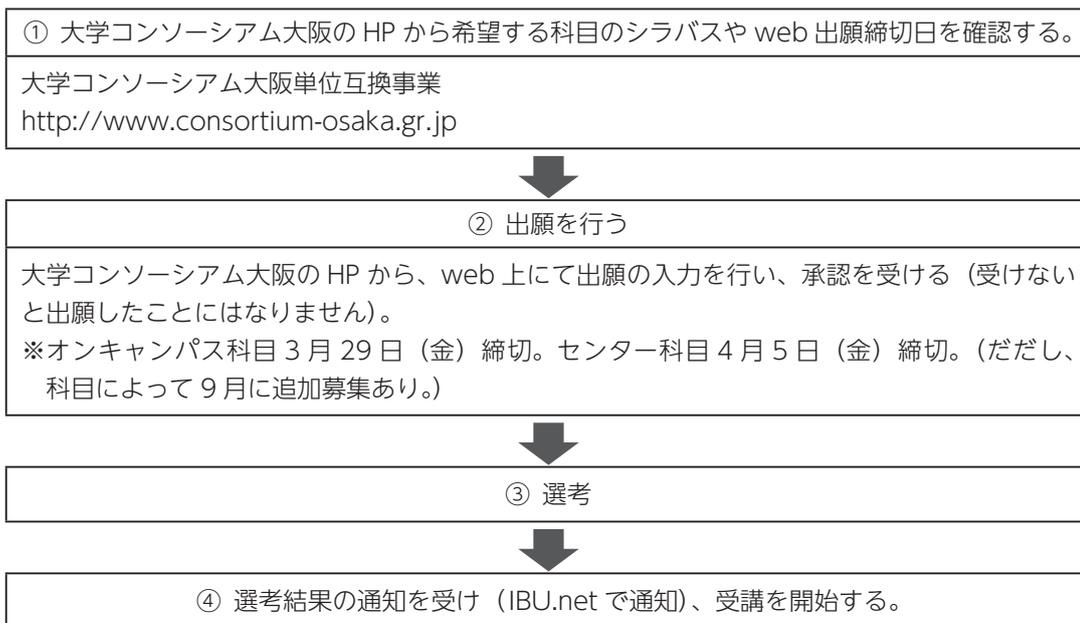
1) 単位取得できる科目

大学コンソーシアム大阪加盟大学の主催するオンキャンパス科目やコンソーシアムの主催するセンター科目

2) 認定科目

共通教育科目の選択科目として認定されます。

3) 受講手続きについて



※履修が認められた後の履修放棄は他の希望者や科目提供大学に多大な迷惑がかかります。必ず最後まで学修を継続してください。

●本学入学前の既修得単位の認定

本学に入学する以前に、他の大学（専門職大学含む）あるいは短期大学などにおいて、授業科目を修得した場合もこれらを本学における授業科目の履修とみなし 60 単位まで認定する場合があります。なお、単位認定の申請は入学時の指定された期間のみとなります。

詳細については教務課まで問い合わせてください。

●他の大学または短期大学等の授業科目の単位認定

他の大学（専門職大学含む）または短期大学および高等専門学校専攻科、高等学校の専攻科または専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上であることおよびその他の文部科学大臣の定める基準を満たすこと）において学生が行った学修や、その他の文部科学大臣が別に定める学修については、これを本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより 60 単位まで認定する場合があります。

試験・成績

成績評価の方法

定期試験

— 期間・時間割発表方法・定期試験時間等について

追試験

— 定期試験をやむを得ない理由で受験ができなかった場合について

再試験

— 7セメスター以上で不合格になった科目の再試験について

成績と GPA

— 発表方法・評価方法・GPA について

成績評価の方法

成績評価は、科目や担当者により評価方法、評価基準が異なります。

評価方法・評価基準については、シラバスを確認してください。

試験等成績評価の方法には次の種類があります。

種類	内容
①授業中試験・レポート	平常の授業時間内で行う小テストやレポート課題のことです。(下記参照)
②定期試験	夏学期・冬学期の各学期末の定期試験期間中に実施する試験です。(p.50 参照)
③追試験	病気等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合に、所定の手続きをした上で受験することができる試験です。(p.52 参照)
④再試験	7セメスター以上(4年次生以上)で、定期試験や定期試験に代わるレポート課題で不合格となった場合は、再試験申込日に申し込むことで再試験を受験することができます。(p.54 参照)

●授業中の試験・レポート

授業中に実施する小テストの実施要領や、レポート課題については、各科目の担当教員が指示します。

定期試験を行わず小テストやレポート課題の結果のみで成績評価を行う科目もあります。小テストやレポート課題は授業の一部とみなし、追試験の対象になりません。

また、小テストやレポート課題でも学生証の提示が必要となることがありますので、学生証は常に携帯しておいてください。

定期試験

定期試験は年に2回、以下の期間に実施します。

学期	日程
夏学期	2024年7月25日(木)～2024年8月1日(木)
冬学期	2025年1月21日(火)～2025年1月28日(火)

各定期試験期間中には、予備日を設けています。予備日とは、気象警報発令等で試験が実施できない場合の振替日です。万一の場合に備えて、必ずスケジュールをあけておいてください。

定期試験期間中の詳細は、別途 IBU.net 等で通知します。

●時間割発表

定期試験を実施する授業科目および時間割は、試験開始日の2週間前にIBU.netで掲示します。

IBU.netの「試験時間割」機能では、自分が履修登録している科目の試験および試験実施教室が表示されます。通常の授業で使用している教室と試験時の教室が変更になっている場合もありますので、試験日まで必ず確認しておきましょう。

試験に関わる重要なお知らせがある場合は、IBU.netを利用してお知らせします。定期的を確認するようにしてください。

●定期試験時間

定期試験の時間帯は、次の通りです。通常の授業時間と開始時間は同じです。

時限	定期試験時間
1時限	9:10～10:10
2時限	10:55～11:55
(昼休み)	11:55～13:15
3時限	13:15～14:15
4時限	15:00～16:00
5時限	16:40～17:40

●受験にあたっての注意点



受験心得

- 1 試験場では、すべて監督者の指示に従うこと。
- 2 試験は指定された座席で受けること。
- 3 学生証を携帯していない場合は、試験を受けることができない。
- 4 学生証は机上の指定された場所に提示すること。
- 5 机上には筆記用具（筆箱不可）、学生証、持ち込み許可の指定された物以外は置かないこと。許可された物以外の持ち物は足元に置くこと。
- 6 スマートフォン・携帯電話などの通信可能な機器については、その電源を切り、かばんの中へ片付けること。時計としては使用できない。かばんの中へ片付けずに、身につけていた場合は不正行為となる。
- 7 試験場内の自分の座席および机上やその内側等に、試験範囲あるいは試験内容に関する事項を転写しないこと。
- 8 試験開始後は試験場内の座席および机上やその内側等に、故意にその試験に際して認められた物品以外の物を放置しないこと。
- 9 試験開始後の私語はしてはならない。
- 10 試験場内での物品の貸し借りは行わないこと。
- 11 試験場内ですでに記入がなされた答案・その他を故意に見たり、また、自身あるいは他人の記入がなされた答案・その他を故意に第三者に提示しないこと。
- 12 試験開始後20分を経過した後に、試験場に入室することはできない。
- 13 試験開始後30分を経過した後は、監督者の指示により試験場より退室することを認める。
- 14 答案用紙は白紙であっても、学籍番号・氏名など必要事項を記入の上、これを提出しなければならない。

以上

●不正行為

試験期間内の試験において不正行為（試験時間中の私語、机上への転写等）が発覚した場合は、その不正行為が発覚した当該科目の成績を零点とします。また、不正行為を二度行ったものは、当該学期の成績すべてを零点とします。（単位の修得及び試験に関する規程 第24条）

ここでいう不正行為とは、原則として前掲の「受験心得」の注意事項を守らなかった場合をいいますが、その授業科目担当者あるいは試験監督者が、これに準ずる行為であると判断した場合も、上記の処分を受けることがあります。

●仮学生証の発行

学生証を忘れた場合は、学生支援センターで、仮学生証の発行を受けてください。

仮学生証の発行は、学年歴に記載の

- ・ 夏学期定期試験、夏学期追試験、夏学期再試験
- ・ 冬学期定期試験、冬学期追試験、冬学期再試験

のそれぞれの試験期間中に一度しかできません（発行日のみ有効）。

学生証を紛失した場合は、教務課の証明書自動発行機で手続きを行ない、学生支援センターにて速やかに再発行の申込みを行ってください。（手数料：3,000円）

追試験

定期試験をやむを得ない事由により受験することが出来なかった場合は、その授業科目の試験当日を含み7日以内に追試験申込書を教務課に提出し、これが受理されれば追試験を受けることができます。追試験申込書を提出する時には、試験が受けられない事由を証明する書類を添えなければなりません。

●追試験手続きの手順

- 1) 追試験申込書の提出（定期試験が受けられなかった理由を客観的に証明できる書類を添付）。
- 2) 追試験受験が認められたか確認する（追試験申込書提出の3日後以降にIBU.net等で通知）。
- 3) 指定された日時にIBU.netで発表される追試験時間割またはレポート課題を確認する。
- 4) 追試験を受ける。または定められた期日までにレポート課題を提出する。

【注意事項】

- ・ 追試験申込書の受理の確認は電話では行いません。必ず教務課窓口で行ってください。
- ・ 提出した書類に不備がある場合、追試験申込書は受理されません。
- ・ 提出した証明書などに改ざんや不正があった場合は厳正に処分します。

* 追試験を筆記試験で実施する場合は、p.54 の再試験の期間中に実施します。

●追試験の対象となる事項

理 由	必要な証明書など
本人の病気・怪我	試験日を含む医師の診断書（領収書での受付は不可）
公共交通機関の遅延 (自宅からの通学経路に限る)	20 分以上の遅延証明書
忌引（3 親等以内の親族）	死亡を証明する文書・会葬御礼・葬儀証明書
就職試験	キャリアセンター又は教職教育推進センター発行の公認欠席届
公式試合・発表会等	学生支援センター発行の公認欠席届
裁判員制度	裁判員に選ばれたことが分かる書類
災害	被災証明書または罹災証明書
その他教務部長が認めるもの	個別に指示する

※公認欠席届の発行方法は、該当部署で確認してください。

●追試験の対象とならない事項（質問の多い事項を抜粋）

授業時間内に行われる小テストやレポート提出（真にやむを得ない事由を除く）
交通事故（怪我による通院を除く）、交通渋滞
出席回数や平常点の不足等により、合格の見込みがない科目（受理後の取消も有）
医師の診断書がない病気・怪我（領収書のみは不可）
公認欠席にならない法事など
選考を伴わない就職活動
ボランティア活動、インターンシップ

再試験

7 セメスター以上（4 年次生以上）または看護学部の学生で、当該学期に履修登録し、不合格となった科目については、再試験申込日に申し込むことで再試験を受験することができます。

再試験を受けることができる科目数は 1 学期につき 3 科目までです（看護学部の学生は除く）。

授業科目担当者によっては再試験を行わない場合や、出席日数によって再試験の受験が許可されない場合があります。

再試験の実施日に受験できなかった場合の追試験は行いません。

再試験は年に 2 回、以下の期間に実施します。

学期	日 程
夏学期	2024年 8 月22日（木）～ 2024年 8 月24日（土）
冬学期	2025年 2 月13日（木）～ 2025年 2 月15日（土）

※再試験は、再試験の申請をした学生のみ対象です。対象者がいない場合、再試験は行いません。

● 1 ～ 6 セメスターにおける看護学部の再試験科目について

看護学部専門教育科目の講義科目、演習科目全てが対象です。

● 再試験手続きの手順

- 1) 再試験申込日に教務課にて申し込みを行う。
 - 手続きに必要なもの：①学生証
②受験手数料：1 科目につき 1,000 円
- 2) 指定された日時に IBU.net で発表される再試験時間割またはレポート課題を確認する。
- 3) 再試験を受験する。または定められた期日までに、レポート課題を提出する。

● 再試験の成績評価

再試験による科目の成績評価は、上限が 60 点となります。

成績と GPA

●成績発表

各学期の定期試験後の成績は、夏学期（8月初旬～）、冬学期（2月初旬～）に IBU.net の「成績照会」機能で発表します。発表日時の詳細は、事前に連絡します。必ず各自で確認をして、次セメスター以降の学修計画の見直しを行ってください。

なお、保護者の方も IBU.net の保護者向けページで成績の確認が可能です。

●成績評価

成績の評価は「秀」「優」「良」「可」「不合格」「認」で表します。「不合格」以外が「合格」となります。「認」は単位は付与されますが、成績や GP は付与されません。

単位修得	評価	得点	GP	備考
できる	秀	90 - 100	4	目標を十分に達成しきわめて優秀な成果をおさめている。
	優	80 - 89	3	目標を十分に達成している。
	良	70 - 79	2	目標を達成している。
	可	60 - 69	1	目標を最低限度達成している。
できない	不合格	0 - 59	0	目標を達成していないので再履修が必要である。
	評価不可能		0	
できる	認		対象外	教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものと認定します。

表中の GP については、次の「GPA」の項目で説明します。

不合格科目については、IBU.net の「成績照会」画面には表示されますが、成績証明書には記載されません。

●GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

GPA は、学生個人の成績を客観的・総合的に評価するための指標です。各授業科目の 5 段階評価に対して、4～0 のグレード・ポイント（GP）を付与して算出する 1 単位あたりの平均値をいいます。GPA を利用することで、学修の質を評価することができます。

GPA は次のように算出されます。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期の履修登録総単位数}}$$

$$\text{年度 GPA} = \frac{(\text{当該年度の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該年度の履修登録総単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{(\text{在学全期間の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{在学全期間の履修登録総単位数}}$$

IBU.net の成績照会欄に各種 GPA を記載しています。

● GPA の活用

- 1) 4 学期連続して学期 GPA が 1.00 未満であった学生（授業配慮学生等は除く）に対し、学修・学生生活に対する助言指導を行い、その後の学業続行の可能性が全くないと判断した場合は退学勧告を行います。
 - 2) 累積 GPA が 3.5 以上ある場合、次学期は所定の履修単位上限を越えて履修登録することができます。単位数については別途定める。
 - 3) 学生の履修指導の際、GPA を参考にすることがあります。その他、履修条件、転学部・転学科・転コースの受験資格、留学や奨学金などの選考基準として GPA の数値が条件となる場合があります。
- * 所定の履修単位上限を越えて履修登録 ⇒ p.40 の【備考】2) 参照。

● GP の算出対象

- 1) 過去に不合格となり、再履修をして合格となった場合でも、過去の不合格履歴が GPA の算出対象となります。
- 2) 卒業に必要な単位に含まれない、文学部・社会学部・看護学部の「教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目等）」・「司書教諭の講習に関する科目」「各教科の指導法に関する科目」についても GPA の算出対象となります。
- 3) 追試験・再試験が発生した科目はその評価を GP に換算します。
- 4) 「認定」の科目は単位は付与されますが、成績や GP は付与されず、算出対象になりません。
- 5) 不合格科目の GP を 0 とし、GPA 算出の対象とします。

● 成績照会について

以下の条件に当てはまる科目については、発表された成績について、定められた期間中に「成績照会申請書」を教務課に提出することで、担当教員へ成績の確認を申し出ることができます（本人の申し出に限る）。申請期間等は事前に掲示しますので、定められた期間以外は受け付けません。

【申請条件】

- 1) 該当科目の履修登録がされていること。
- 2) 授業に 3 分の 2 以上出席していること。
- 3) 指定されたレポート等の課題を必ず提出していること。

* 手続きの詳細は必ず IBU.net で確認してください。



必ず本人が申請しなければなりません。

成績照会の申請は、成績について誤りがないかどうかを確認するための、とても重要な手続きですので、申請には必ず本人が直接教務課窓口へ申し出ることが必要です。

IBU.net での成績表示

この表示は見本のため、履修年度は実際の流れと異なります。

表示パターンを変更することで、学期ごとにまとまった表示で成績の確認を行うことも可能です。

表示パターン ● 通常 ○ 年度学期別

評価欄	
秀	…… 90点～100点
優	…… 80点～89点
良	…… 70点～79点
可	…… 60点～69点
不可	…… 0点～59点 (素点欄が空欄も不合格)
*	…… 現在履修中
認	…… 単位を認定された科目

科目名	単位	評価	素点	年度	学期	教員氏名
《基礎教育科目》						
和の精神 I	1	秀	100	2022	夏学期	
和の精神 II	1	秀	100	2022	冬学期	
仏教概説		不可	50	2022	冬学期	
現代社会と人権		不可		2022	夏学期	
《共通教育科目》						
大学基礎演習 I	2	優	80	2022	夏学期	
大学基礎演習 II	2	優	80	2022	冬学期	
日本国憲法		不可	20	2022	冬学期	
情報処理演習 I	2	可	65	2022	夏学期	
《専門教育科目》						
日本学表現演習 I	2	秀	90	2022	夏学期	
日本学表現演習 II	2	優	85	2022	冬学期	
古典 I (日本)	2	良	70	2022	夏学期	
古典 II (中国)		不可	10	2022	冬学期	
《その他》						
《教職に関する科目》						
教職論	2	優	80	2022	冬学期	
教育原論	2	優	80	2022	夏学期	
教育心理学	2	可	60	2022	冬学期	
特別支援教育		不可	0	2022	夏学期	

(注) 評価欄に*が出力された科目は現在履修中です。

GPA
 通算 GPA 1.82
 年度 GPA

2023
1.82

年度学期 GPA

23 夏学期	23 冬学期
2.18	1.45

単位修得状況

科目分類	基礎	共通	専門	その他	合計						
			学科	他学科	教職	自由					
修得済単位	2	6	8	8	0	6	6	0	16		
合計単位	2	6	8	8	0	6	6	0	16		

GPA
 GPAの詳細はp. 55を参照のこと。

修得単位数欄
 修得した単位の区分とその合計を示す。
 単位数が、卒業に必要な最低修得単位数を満たしていても、必修科目・選択必修科目を修得していなければ、卒業要件を満たしているとはいえない。

教職単位、自由単位
 卒業に必要な最低修得単位数には含まれない。

修得単位数合計の目安

学科・専攻によって一概には言えませんが、下表の単位数を目安にしてください。但し、単位数が多くても、その中に修得すべき科目（必修科目、選択必修科目）が含まれていないと卒業要件を満たすことにはなりません。

夏学期 (前期)			冬学期 (後期)		
学 年	目安となる修得単位		学 年	目安となる修得単位	
	文学・社会・教育・経営	看護		文学・社会・教育・経営	看護
1 年次 (1 セメスター)	15 単位以上	16 単位以上	1 年次 (2 セメスター)	31 単位以上	32 単位以上
2 年次 (3 セメスター)	46 単位以上	48 単位以上	2 年次 (4 セメスター)	62 単位以上	63 単位以上
3 年次 (5 セメスター)	77 単位以上	79 単位以上	3 年次 (6 セメスター)	93 単位以上	95 単位以上
4 年次 (7 セメスター以上)	108 単位以上	111 単位以上			

教育課程

(授業科目一覧・
単位数など)

授業科目編成表の見方	60
ナンバリングコードの表示と見方	61
履修系統図について	62
基礎教育科目（全学共通）	63
共通教育科目（全学共通）	65
「キャリア教育」について	66
専門教育科目について	76
文学部	76
日本学科	78
国際コミュニケーション学科	86
社会学部	94
社会学科	95
人間福祉学科	104
教育学部	114
教育学科学校教育コース	117
教育学科幼児教育保育コース	130
経営学部	140
経営学科公共経営専攻	141
経営学科企業経営専攻	150
看護学部 看護学科	160
教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」） （文学部・社会学部・看護学部）	172
司書教諭の講習に関する科目	174
重ねて履修できない科目一覧表	175

教育課程 (授業科目一覧・単位数など)

●授業科目編成表の見方

種別	授業概要コード	科目名	C 単位数		D 配当 セメスター	E 開講 学期	F 他学部・ 他学科履修	G 身につけるべき能力			H ナンバリング コード	I 備考
			必修	選択				①	②	③		
学科基幹科目	K2010	英語圏文化概説		2	1～2	S/W		◎		○		
	K2015	世界体験入門		2	1～2	S		◎		○		
	K2035	Extensive Reading II		2	3～4	W		◎	○			

A……授業概要コード IBU.net の授業コードに対応。

B……科目名 A、Bなどのアルファベットが付いている科目はグレード制を設けている。Aからアルファベット順に履修を進めなければならない。I、IIなどの数字が付いている科目は、途中の数字からの履修も可能。ただし備考欄や授業概要でIから順に履修を進めるよう記載があれば、それに従って履修すること。太字科目は題目科目として設定。

C……単位数 **必修**：卒業するためには必ず修得しなければならない科目。

□□でくくられている場合、右に記された単位のそれぞれの科目から選択して、左に記された単位数を必ず修得しなければならない。

選択：卒業するためには選択して所定の単位数を修得しなければならない科目。

D……配当セメスター 原則として履修すべきセメスター

配当セメスターで履修することが望ましいが、配当セメスターより上のセメスターに在学していれば履修は可能。

E……開講学期 S：夏学期開講

W：冬学期開講

S/W：夏学期と冬学期に同一内容で開講する。いずれか一方の学期のみ履修可。

S・W：夏学期と冬学期に連続して開講する。

F……他学部・他学科履修

各自が所属する学部・学科・専攻以外で開講されている専門教育科目の履修を各自が所属する専門教育科目として履修できるが、この欄に不可と表記されている科目については履修できない。ただし、IBU.net上で履修登録できる状態にある、あるいは不可と表記されていない科目でも、人数制限等の理由で履修できない場合もあるので、必ず事前に担当教員に確認すること。

※社会学部人間福祉学科、教育学部、看護学部、短期大学部の専門教育科目は履修できない。

G……身につけるべき能力

卒業認定・学位授与の方針に基づき、卒業時点において学生が身につけるべき能力と各科目との対応を表している。

H……ナンバリングコード

ナンバリングとは、区分や水準等をもとに授業科目に番号を付けることで、カリキュラム全体の中での各授業科目の学修の段階や順序を表すものです。履修登録や学修の上での参考にしてください。

I……備考欄 履修可能な学科を指定している場合がある。履修登録時に注意すること。

●ナンバリングコードの表示と見方

10桁のアルファベット・数字で表します。

H J DA 1 001 a 0
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

①第1区分コード……基礎教育科目・共通教育科目・専門教育科目・教職に関する科目、学校図書館司書教諭の講習に関する科目・留学生対象科目・帰国学生対象科目で区分

②第2区分コード……学科で区分

③第3区分コード……専攻・コース・分野・領域で区分

※①第1区分～③第3区分についての詳細は、以下の「区分コード表」を確認してください。

④水準コード……1：初級レベル [入門・導入的な内容の科目]

2：中級レベル [発展的・応用的な内容の科目]

3：上級レベル [総合的かつ高度な内容の科目]

⑤科目コード……原則、学則に規定された科目の順序

⑥授業での使用言語……a：日本語 b：英語 c：日本語および英語 d：その他

⑦科目区分コード……0：専門

1：基礎および共通教育

2：教職に関する科目・司書教諭の講習に関する科目・リメディアル科目

区分コード表

①第1区分コード		②第2区分コード		③第3区分コード		
学部等	コード	学科	コード	専攻・コース・分野・領域	コード	
基礎教育科目 Basic education subjects	B	全学科 All departments	A	全学科	AA	
共通教育科目 Common education subjects	C	全学科 All departments	A	共通教育科目 学びの基礎	BA	
				共通教育科目 ことごと思想	BB	
				共通教育科目 社会と文化	BC	
				共通教育科目 情報と自然科学	BD	
				共通教育科目 健康と福祉	BE	
				共通教育科目 言語	BF	
				共通教育科目 キャリア教育	BG	
				共通教育科目 知識・技能	BH	
				共通教育科目 学外研修	BI	
				[看護学部]		
				教養教育科目 生命と環境	CA	
				教養教育科目 ことごと思想	CB	
				教養教育科目 社会と文化	CC	
				教養教育科目 健康と福祉	CD	
語学・情報科学科目 情報科学	CE					
語学・情報科学科目 グローバルコミュニケーション	CF					
文学部 Faculty of Literature	L	日本文学 Department of Japanese Studies	J	学部共通科目	DA	
				学科基幹科目	DB	
				日本語・日本文学コース	DC	
				国語教育・日本語教育コース	DD	
				伝統文化・観光コース	DE	
		現代文化(和食)コース		DF		
		国際コミュニケーション学科 Department of International Communication		I	学部共通科目	EA
					学科基幹科目	EB
					外国語・英語教育コース	EC
					国際文化コース	ED
ホスピタリティコース	EE					

①第1区分コード		②第2区分コード		③第3区分コード	
学部等	コード	学科	コード	専攻・コース・分野・領域	コード
社会学部 Faculty of Sociology	S	社会学科 Department of Sociology	S	学科共通領域	FA
				人間・社会コース	FB
				地域・メディアコース	FC
				心理コース	FD
				歴史コース	FE
		学部共通	FF		
		人間福祉学科 Department of Human Welfare	H	社会福祉領域	GA
				医療福祉領域	GB
				心理・健康福祉領域	GC
				福祉マネジメント領域	GD
学部共通	GE				
教育学部 Faculty of Education	E	教育学科 Department of Education	E	学校教育コース コース共通 教職一般領域	HA
				学校教育コース コース共通 初等教育領域	HB
				学校教育コース コース共通 コース共通領域	HC
				学校教育コース 教育・子ども理解領域	HD
				学校教育コース 特別支援教育領域	HE
				学校教育コース 幼児教育領域	HF
				学校教育コース 英語教育領域	HG
				学校教育コース 数学教育領域	HH
				学校教育コース 理科教育領域	HI
				学校教育コース 保健教育領域	HJ
				幼児教育保育コース コース共通 教職一般領域	IA
				幼児教育保育コース コース共通 初等教育領域	IB
				幼児教育保育コース コース共通 コース共通領域	IC
				幼児教育保育コース 幼児教育保育領域	ID
経営学部 Faculty of Business Administration	B	経営学科 Department of Business Administration	B	公共経営専攻 学科共通科目	JA
				公共経営専攻 公共経営専攻	JB
				企業経営専攻 学科共通科目	KA
				企業経営専攻 企業経営専攻	KB
看護学部 Faculty of Nursing	N	看護学科 Department of Nursing	N	健康科学科目 身体のしくみと働き	NA
				健康科学科目 疾病からの回復過程	NB
				健康科学科目 健康と生活	NC
				健康科学科目 社会保障と健康政策	ND
				看護科学科目 看護の基盤	NE
				看護科学科目 療養生活支援看護	NF
				看護科学科目 女性の健康と成育支援看護	NG
				看護科学科目 コミュニティにおける継続的な看護	NH
				看護科学科目 健康の増進と疾病予防の看護	NI
				看護科学科目 看護の探求と統合	NJ
				看護科学科目 保健師コース	NK
				看護科学科目 助産師コース	NL
				看護科学科目 看護教諭コース	NM
				教職に関する科目 Subjects related to teaching profession	文学部および社会学部
看護学部			TTTTN		
司書教諭の講習に関する科目 Subjects related to librarian teachers				LLLL	
留学生対象科目				ZZZZ	

●履修系統図について

履修系統図とは、ディプロマ・ポリシーで示されている「卒業時点において学生が身につけるべき能力」を修得するために科目がどのように配置されているのか、つまり、各科目の関連性やつながりを体系的に明示したものです。

●基礎教育科目（全学共通）について

〈基礎教育科目の概要〉

「基礎教育科目」は4つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要性を学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

●基礎教育科目（全学共通）

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。

卒業時点において学生が身につけるべき能力（ディプロマ・ポリシー）

- ① 自己分析・自己研鑽の力
 - 自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。
 - 自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。
- ② 豊かな人間性～慈愛の心・利他の精神～
 - 多様な立場、考え方の存在を認める（受容する）ことができる。
 - 他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。
 - 他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。
- ③ 社会（組織）で活躍できる力～専門性を基礎として～
 - 社会（組織）の現状について認識できる。
 - 社会（組織）の一員としての自己を理解できる。
 - 社会（組織）に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。
 - 組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

「基礎教育科目」は4つの科目から構成されている。

そのうち、「和の精神Ⅰ」では瞑想、「和の精神Ⅱ」では写経と瞑想といった実践を行い、それを通して仏教に関する知識と考え方を学び、思慮のある安定した人格の形成を図る。

「仏教概説」では「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の意義をより深く理解し、仏教に関する基礎的な知識を学び、仏教的な情操の体得を図る。

「現代社会と人権」では、人間存在のかけがえのなさを知り、現代社会における多様な人々との共生の重要性を学ぶ。

本科目群の学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。

●基礎教育科目編成表

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
基礎教育科目	J0010	和の精神Ⅰ	1		1~2	S	○	◎		BAAA1001a1	(献灯・聖歌指導) 奥・原(祐)
	J0020	和の精神Ⅱ	1		1~2	W	○	◎		BAAA1002a1	
	J0030	仏教概説	2		1~2	S/W	○	◎		BAAA2003a1	
	J0040	現代社会と人権	2		1~2	S/W	○	◎		BAAA1004a1	
卒業に必要な最低修得単位数			6		合計 6 単位						

〈基礎教育科目「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業規律について（節録）〉

礼儀を正して静穏な環境で自らを省み、自他を尊重し、思慮深い安定した人格を養うことが「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の授業の目的です。主旨を自覚し、下記の規律を遵守してください。

- 単位の認定は、全授業回数のうち3分の2以上の出席を必要条件とする。写経（和の精神Ⅱ）の場合、全ページ自筆による書写記入済みの写経用紙の提出も必要条件とする。なお、以下の2・3・4の項目に違反する場合は出席を認めない。
- 出席時の服装は、以下のスーツ着用基準に定められた服装を端正に着用する。
 - ◆スーツ着用基準
 - 〈スーツ、ジャケットとパンツまたはスカート〉
黒色、濃紺、チャコールグレーのいずれか一色の組み合わせで、無地のもの
 - 〈カッターシャツ、ブラウス〉
無地またはストライプ
 - 〈ネクタイ（スーツの場合のみ）〉
無地またはストライプ
 - 〈靴〉
黒色または茶色で革製の短靴（スニーカー不可）または、フォーマルパンプス
 - ※カッターシャツやブラウスについて、ビジネスシーンでは白色の無地が一般的である。
- 入室時には『聖典聖歌集』を所持していることを示し、授業中は常に携帯する。
- 授業は午前10時55分開始である。開始前には入室し着座しておく。
 - ・公共交通機関（自宅からの通学経路に限る）の遅延による遅刻は、公共交通機関の延着証明の提示により、やむを得ない遅刻と判断される場合にのみ入室を認める。
- 授業中は姿勢を正し、静寂を守り、実践に集中する。
- 授業中の私語・通信機器等の使用は禁止する。
 - ・注意されたら、すぐに改める。
 - ・再三の注意にかかわらず改めない者については、授業妨害と見なし、改善が認められない場合は、欠席扱いとし、保護者にも教務部より状況を伝える。
- 授業中の中座は原則として禁止する。
 - ・やむを得ずトイレ等を利用する者は、学生証を階段前の教員に提出する。
- 心身の疾患など、やむを得ない中座の理由がある者は、事前に診断書などの証明書をもって学生支援センターに授業配慮申請を行うか、教務部教務課（礼拝担当）に申し出る。座席変更などの配慮を行う。

9. 私語・通信機器等の使用・中座等について、改善の意思がない場合は、「授業妨害」「建学の精神に反する行為」と見なし、その学期の「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の単位を不認定とする。

●共通教育科目（全学共通）

〈共通教育科目の概要〉

「共通教育科目」は学問の対象や性格によって、「学びの基礎」「生命と環境」「こころと思想」「社会と文化」「情報と自然科学」「情報科学」「健康と福祉」「言語」「グローバルコミュニケーション」「キャリア教育」の科目群に分類される。

「学びの基礎」は、本学の初年次教育である。大学での学びや生活に必要なスキルを育成するとともに、専門的な学びへのなめらかな導入を図る。さらに、入学から卒業までを見通したキャリアデザインを構想するための支援を行う。

「こころと思想」は建学の精神である聖徳太子の仏教精神をさらに深めるとともに、心の問題や思想について学び、自らの生き方を振り返る一助とする。

「社会と文化」は「こころと思想」の学びをもとに法や政治という社会システム等について学ぶことで社会の一員としての意識を高める。

「情報と自然科学」「生命と環境」はそれぞれ ICT 活用能力を高めるとともに、自然科学の観点から生命や社会について考える素地を養成する。

「健康と福祉」は心身の健康に対する意識を高めるとともに利他の精神に基づく福祉の考えを学ぶ。

「言語」「グローバルコミュニケーション」は「英語」を主にし、「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「ロシア語」「日本手話」で構成され、それぞれ基礎から応用まで段階を踏まえてコミュニケーション技能を身につけ、高める。

「キャリア教育」は卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につける。

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成

本学は、大学生生活全体を通して、「和の精神」を持ち、実社会で活躍できる人間形成を図ります。

卒業時点において学生が身につけるべき能力（ディプロマ・ポリシー）

- ① 自己分析・自己研鑽の力
 - 自らの理念や行動を相対化し、省察することができる。
 - 自己を高めるために生涯にわたり、学び続けることができる。
- ② 豊かな人間性～慈愛の心・利他の精神～
 - 多様な立場、考え方の存在を認める（受容する）ことができる。
 - 他者に対して思いやりを持ち、寛容な態度で接することができる。
 - 他者の喜びや躓きを自己のものとして共感することができる。
- ③ 社会（組織）で活躍できる力～専門性を基礎として～
 - 社会（組織）の現状について認識できる。
 - 社会（組織）の一員としての自己を理解できる。

- 社会（組織）に貢献する強い意欲を持ち、行動することができる。
- 組織の新たな課題解決や改革に仲間とともに取り組み、実現することができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

(文学部・社会学部・教育学部・経営学部)

科目群	内容
① 学びの基礎	大学での学修や生活に必要な知識・技能などを学ぶ科目群
② 心と思想	宗教・哲学・心理学など、人間の心と思想について学ぶ科目群
③ 社会と文化	政治学・経済学・歴史・文化など、人間の社会や文化について学ぶ科目群
④ 情報と自然科学	コンピューターや生命科学など、自然科学全般について学ぶ科目群
⑤ 健康と福祉	スポーツや福祉など、人体とそこから発するさまざまな問題について学ぶ科目群
⑥ 言語※	英語及び第二外国語を学ぶ科目群
⑦ キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学卒業後の進路に備えた実践的な科目群 ・ 地域活性化概論や地域連携インターンシップなど、地元地域について多角的な視点から学ぶ科目群

※「言語」について

「英語Ⅰ～Ⅳ」及び「上級英語Ⅰ・Ⅱ」については、TOEIC Bridge L&R IPテストによる習熟度別クラス編成としています。

(看護学部)

科目群	内容
① 生命と環境	生命科学など自然科学全般について学ぶ科目群
② 心と思想	宗教・哲学・心理学など、人間の心と思想について学ぶ科目群
③ 社会と文化	政治学・経済学・歴史・文化など、人間の社会や文化について学ぶ科目群
④ 健康と福祉	スポーツや福祉など、人体とそこから発するさまざまな問題について学ぶ科目群
⑤ 情報科学	データ処理や統計学などコンピューターを利用した情報処理について学ぶ科目群
⑥ グローバルコミュニケーション	英語及び第二外国語を学ぶ科目群

「キャリア教育」について (文学部・社会学部・教育学部・経営学部)

1年次から3年次に掛けてキャリア形成や産業・経済に関する知識を養うことを目的とした授業です。特に、1年次配当科目「キャリアデザインⅠ」ならびに3年次配当科目「キャリアゼミ実践演習」は、就職意識の向上や社会人になることへの前向きな気持ちの醸成を目的に必修科目としています（教育学部は選択科目）。

その他の科目についても、全学生に学んでもらいたいという思いから時間割上も履修しやすいように配置し、履修を勧めています。

科目	配当セメスター	分類
キャリアデザインⅠ	1～2セメスター	必修科目※1
キャリアデザインⅡ	1～2セメスター	選択科目（履修推奨）
キャリアマネジメントⅠ（専門教育科目）	3～4セメスター	選択科目（履修推奨）
キャリアマネジメントⅡ（専門教育科目）	3～4セメスター	選択科目（履修推奨）
キャリアゼミ実践演習（専門教育科目）	5～6セメスター	必修科目※1
キャリアゼミ（専門教育科目）	5～6セメスター	選択科目（履修推奨）

※1 「キャリアデザインⅠ」・「キャリアゼミ実践演習」については、教育学部は「選択科目」
以上の科目は学科・専攻によるクラス指定に従って履修すること

科目	配当セメスター	分類
産業・企業研究	3～4セメスター	
地域活性化概論	1～2セメスター	
地域活性化演習Ⅰ（キャリア・プロジェクト研究）	3～4セメスター	
地域活性化演習Ⅱ（キャリア・プロジェクト研究）	3～4セメスター	
地域歴史文化演習（キャリア・プロジェクト研究）	3～4セメスター	
地域活性化演習Ⅲ（キャリア・プロジェクト研究）	5～6セメスター	

その他、キャリアセンター、地域連携推進センターが主催する各種講座やセミナーもあります。これらは正規授業の「キャリア教育」等科目と組み合わせるとより効果的です。各学部・学科・専攻のオリエンテーションやゼミ、各部署からの案内に注意を向けて、自分の将来に有効な計画を立ててください。

キャリア教育関連科目

卒業後の社会生活を視野に入れて、キャリア意識や社会人に必要な幅広い知識・技能を段階的に身につけます。

	1 年次	2 年次	3 年次	
キ ャ リ ア 教 育	キャリアデザインⅠ (必修) キャリアデザインⅡ (履修推奨) 学生生活を充実させたい、社会人になる準備をしたい等、さまざまなことに挑戦するために「コミュニケーション力」「チームワーク」などの人間力・自立心を養います。	キャリアマネジメントⅠ (履修推奨) キャリアマネジメントⅡ (履修推奨) 自分を知ること、社会を知ること、それらから、卒業後の働くイメージを明確にして、具体的な将来計画を立て、行動へとつなげます。	キャリアゼミ実践演習 (必修) キャリアゼミ (履修推奨) 就職活動に必要な知っておくべき内容をすべて網羅しています。就職活動を想定した実践的なグループワークや模擬面接も実施します。	社 会 が 求 め る 人 物 へ
	地域活性化概論 近隣地域の諸問題について学ぶ地域連携活動の基礎を学びます。	地域活性化演習Ⅱ 地域活性化活動を通じて、情報発信力・ICTスキルの養成と、社会人基礎力の向上や課題解決型能力を育成します。	地域活性化演習Ⅲ 地域の取組みについての映像制作を通じて、プロモーションの企画・立案する能力を育成します。	
	地域活性化演習Ⅰ 地域活性化の広報活動を通じて、効果的な広報活動を学び、情報発信力・ICTスキルを養成します。	地域歴史文化演習 地域活性化活動の参加を通じて、社会人基礎力の向上、問題発見力・解決力を育成します。	産業・企業研究 企業人になるための予備的知識の習得をはじめ、社会人としての資質・基礎能力の確保を目指します。	

「情報教育」について (全学部共通)

現代の情報社会を生き抜くための力を養うことを目的とした授業です。

1. IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル)

1 年次配当科目「情報処理演習Ⅰ」および「情報処理演習Ⅱ」を『IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル)』と位置付けています。これらの科目では、本学が重要視している ICT やデータサイエンスを学ぶための基礎力とともに、多くの業種で必須となるツールを適切に活用する能力を身に付けます。この 2 科目は選択必修科目であり、どちらか一方の単位を修得することが卒業要件になりますが、両方を履修することを強く勧めています。

共通教育科目	配当semester	分類
情報処理演習Ⅰ	1～2 semester (S/W)	選択必修科目
情報処理演習Ⅱ	2 semester (W)	選択必修科目

※「情報処理演習Ⅰ」については、学科・専攻によるクラス指定に従って履修してください（再履修者は除く）。

●「プログラム修了者に修了認定証を授与」

本プログラムのリテラシーレベルを構成する「情報処理演習Ⅰ（2単位）」「情報処理演習Ⅱ（2単位）」の合計4単位を修得すると本プログラムを修了することができます。修了した学生には修了認定証としてデジタル証明書（※オープンバッジ）を授与します。

可視化された学修歴を示すことにより、就職活動や進学に役立ててください。

※オープンバッジについて

国際標準化団体 1EdTech Consortium Inc が認定した、デジタルで学修成績や資格を証明する国際標準規格です。ブロックチェーン技術を取り入れており、実質的に偽造・改ざんが不可能になっています。

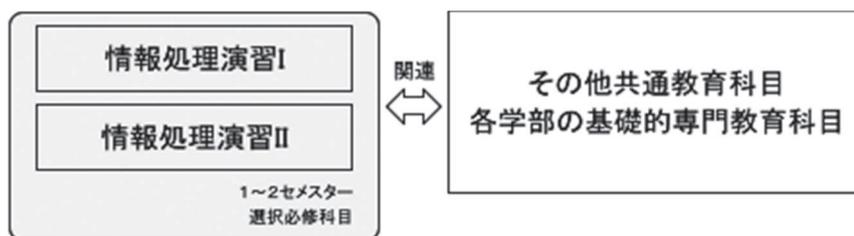
2. IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）

2年次配当科目等の「データ収集分析」「プログラミング」「情報システム」およびその他（AI 関連科目を予定）を『IBU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）』と位置付けています。

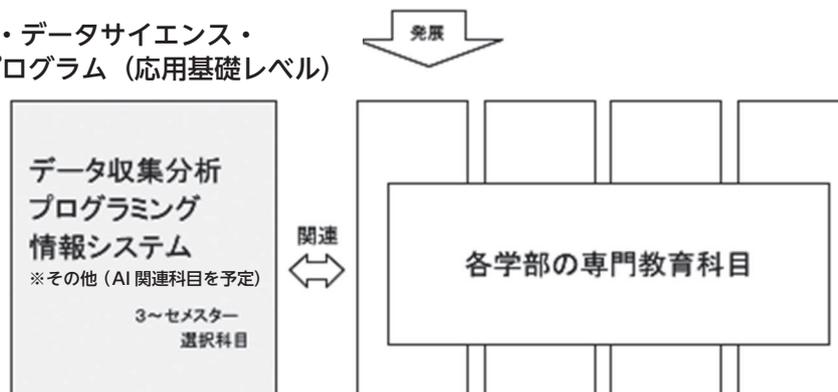
これらの科目では、リテラシーレベル（初級レベル）で修得した知識・技術等をさらに発展させ、自らの専門分野においても数理・データサイエンス・AI を活用して、課題を解決できるようになるための実践的な応用基礎力を身に付けることを目的としています。

共通教育科目	配当semester	分類
データ収集分析	3 semester (S)	選択科目
プログラミング	3 semester (S)	選択科目（看護学部を除く）
情報システム	4 semester (W)	選択科目
※その他（AI 関連科目を予定）		

1. IBU 数理・データサイエンス・
AI 教育プログラム（リテラシーレベル）



2. IBU 数理・データサイエンス・
AI 教育プログラム（応用基礎レベル）



3. 数理・データサイエンス・AI 関連の受験推奨検定試験について

下記検定試験は、「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金」の対象になりますので、在学中に合格した場合は奨励金が支給されます。

進路・就職等を意識した検定試験合格に意欲的に取り組み、継続して学修するための奨励金制度です。ぜひチャレンジしてください。

なお、奨励金の詳細については履修要覧に「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程」が掲載されています。

- データサイエンティスト検定 リテラシーレベル
- 統計検定 データサイエンス 基礎
- 統計検定 データサイエンス 発展
- 統計検定 データサイエンス エキスパート
- 統計検定 2級
- 統計検定 3級

※本教育プログラム（リテラシーレベル、応用基礎レベル）及び検定試験についてご質問等があれば、高等教育推進センター（事務局棟 1 階）へお問い合わせください。

「国語系科目・数理系科目」について（文学部・社会学部・教育学部・経営学部）

1年次～2年次にかけて、国語系科目では基礎的な文章作成力および文章表現力を育成し、数理系科目では社会人に求められる基礎的な数理的・論理的思考力の向上をめざします。

文章を書くことや読むことに自信のない方、中学・高校の数学とは違う学び方で数理的・論理的思考力を身に付けたい方は、ぜひ受講してください。

科目名	配当セメスター	内 容
基礎文書作成	1～2 セメスター (S/W)	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な文章作成の基礎力を身に付ける。講義・演習を主体とした授業で、実践的な課題を課し一人ひとりに対して添削を行う。
文章表現基礎	3～4 セメスター (W)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークによるポスター発表と討論会の実施などを通して、日本語能力「読む」「聞く」「話す」「書く」を総合的に向上することをめざす。
数学演習Ⅰ	1～2 セメスター (S)	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術の中にある数学的内容の理解を通して、社会人に求められる数理的・論理的思考力の向上をめざす。
数学演習Ⅱ	3～4 セメスター (W)	<ul style="list-style-type: none"> 「Ⅰ」と同様に、社会人に求められる数理的・論理的思考力の向上をめざす。数的処理は数学アプリ等を使うので、計算に苦手意識を持っている人も容易に学べる。
キャリアアップ数学	3～4 セメスター (S/W)	<ul style="list-style-type: none"> 企業人、公務員として活躍するためには、数学的・論理的思考力が求められる。数学に苦手意識を持つ人にも身近な事例を用いて基礎から振り返り、公式に頼らず、筋道立てて考える力を育成する。

●共通教育科目編成表（文学部・社会学部・教育学部・経営学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
学びの基礎	J0100	大学基礎演習Ⅰ	2		1~2	S	○	◎		CABA1001a1	
	J0105	大学基礎演習Ⅱ	2		1~2	W	○	◎		CABA2002a1	
	J0110	基礎文書作成		2	1~2	S/W	◎			CABA1003a1	
	J0115	小論文作成法		2	1~2	W	◎			CABA1004a1 ZZZZ1004a1	留学生用
	J0120	日本のビジネスマナーと文書		2	1~2	W	◎			CABA1005a1 ZZZZ1005a1	留学生用
	J0125	日中翻訳の理論と実践		2	1~2	W	◎			CABA1006a1 ZZZZ1006a1	留学生用
		共通教育特殊講義(注1)		2							
こころと思想	J0185	仏教実践演習		2	3~4		○	◎		CABB2007a1	
	J0190	聖徳太子概説		2	3~4		○	◎		CABB2008a1	
	J0195	心理学Ⅰ		2	1~2	S	◎			CABB1009a1	社会・人福 履修不可
	J0200	心理学Ⅱ		2	1~2	W	◎			CABB2010a1	
	J0205	哲学入門		2	1~2	S/W	◎			CABB1011a1	社会学科履修不可
	J0210	現代思想入門		2	1~2	R6年度 開講せず	◎			CABB1012a1	
	J0215	構造主義入門		2	3~4		◎			CABB1013a1	
J0220	現代社会と仏教		2	3~4		◎			CABC1014a1		
社会と文化	J0225	日本国憲法		②	1~2	S/W	◎			CABC1015a1	教免必修
	J0230	法学入門		2	1~2	S/W	◎			CABC1016a1	社会学科と人間福祉学科[公 民]免許希望者は履修不可
	J0235	政治学		②	1~2	W	◎			CABC1017a1	
		仏教芸術入門		2	3~4		◎			CABC2018a1	
		現代日本の文化と社会		2	1~2	R6年度 開講せず	◎			CABC1019a1	
	J0250	情報処理演習Ⅰ	2	②	1~2	S/W	◎			CABD1020a1	教免・保育士は いずれか 1科目必修
J0255	情報処理演習Ⅱ	②		1~2	W	◎			CABD2021a1		
情報と自然科学	J0260	プログラミング		2	3~4		◎			CABD2022a1	
	J0265	情報システム		2	3~4		◎			CABD2023a1	
	J0270	データ収集分析		2	3~4		◎			CABD2024a1	
	J0275	生命の科学		2	1~2	S/W	◎			CABD1025a1	
	J0280	環境の科学		2	1~2	S	◎			CABD1026a1	
	J0285	先端技術		2	1~2	S	◎			CABD1027a1	集中講義
	J0290	スポーツⅠ		①	1~2	S	◎			CABE1028a1	ⅠとⅡは教免必修 Ⅰは保育士必修
J0295	スポーツⅡ		①	1~2	W	◎			CABE2029a1		
健康と福祉	J0300	体育講義		2	1~2	W	◎			CABE1030a1	保育士必修 教幼以外履修不可
	J0305	社会福祉概論		2	1~2	S/W	◎	○		CABE1031a1	
	J0310	社会福祉行政		2	1~2	S/W	◎	○		CABE1032a1	
	J0315	児童福祉論		2	3~4		◎	○		CABE1033a1	人福・教幼履修不可
	J0320	老人福祉論		2	1~2	S/W	◎	○		CABE1034a1	
	J0325	障害者福祉		2	1~2	W	◎	○		CABE1035a1	人福履修不可

●共通教育科目編成表（文学部・社会学部・教育学部・経営学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
健康と福祉	J0330	レクリエーション論		2	1~2	S	◎	○		CABE1036a1	人福以外履修不可
	J0335	手話コミュニケーション		2	1~2	S/W	◎	○		CABE1037a1	
言語	J0340	英語 I	① (注2)		1~2	S	○			CABF1038a1	教免・保育士必修(国際コミュニケーション学科は除く)
	J0345	英語 II	① (注2)		1~2	W	○			CABF1039a1	
	J0350	英語 III	2 (注2)	1	3~4		○			CABF2040a1	
	J0355	英語 IV		1	3~4		○			CABF2041a1	
	J0360	上級英語 I		1	3~4		○			CABF2042a1	
	J0365	上級英語 II		1	3~4		○			CABF2043a1	
	J0370	ドイツ語 I	2 (注3)	1	1~2	S	○			CABF1044a1	人福以外履修不可
	J0375	ドイツ語 II		1	1~2	W	○			CABF1045a1	
	J0380	フランス語 I		1	1~2	S	○			CABF1046a1	
	J0385	フランス語 II		1	1~2	W	○			CABF1047a1	
	J0390	中国語 I		1	1~2	S	○			CABF1048a1	
	J0395	中国語 II		1	1~2	W	○			CABF1049a1	
	J0400	日本手話 I	2 (注3)	1	1~2	S	○			CABF1050a1	
	J0405	日本手話 II		1	1~2	W	○			CABF1051a1	
	J0410	日本語 I		1	1~2	S	○			CABF1052b1	
	J0415	日本語 II		1	1~2	W	○			CABF1053b1	
	J0420	ドイツ語 III		1	3~4		○			CABF2054a1	
	J0425	ドイツ語 IV		1	3~4		○			CABF2055a1	
	J0430	フランス語 III	1	3~4		○			CABF2056a1	人福以外履修不可	
	J0435	フランス語 IV	1	3~4		○			CABF2057a1		
	J0440	中国語 III	1	3~4		○			CABF2058a1		
	J0445	中国語 IV	1	3~4		○			CABF2059a1		
	J0450	コリア語 I	1	3~4		○			CABF1060a1		
	J0455	コリア語 II	1	3~4		○			CABF1061a1		
	J0460	日本手話 III	1 (注4)	3~4		○			CABF2062a1	人福以外履修不可	
	J0465	日本手話 IV	1 (注4)	3~4		○			CABF2063a1		
J0470	日本語 III	1 (注4)	3~4		○			CABF2064b1			
J0475	日本語 IV	1 (注4)	3~4		○			CABF2065b1			
キャリア教育	J0480	キャリアデザイン I	2 (注5)		1~2	S	◎			CABG1066a1	
	J0485	キャリアデザイン II	2		1~2	W	◎			CABG2067a1	
	J0490	数学演習 I	2		1~2	S	◎			CABG1068a1	
	J0495	数学演習 II	2		1~2	W	◎			CABG1069a1	
	J0500	キャリアアップ数学	2		3~4		◎			CABG2070a1	

●共通教育科目編成表（文学部・社会学部・教育学部・経営学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
キャリア教育	J0505	文章表現基礎		2	3~4		◎			CABG1071a1	
		キャリア・プロジェクト研究(注1)		2							
	J0565	地域活性化概論		2	1~2	S	◎	○		CABG1072a1	
知識・技能		知識・技能研究 I		2						CABH1073a1	
		知識・技能研究 II		2						CABH1074a1	
共通教育科目 学外研修		国内実地研修 I		1 (注6)	1~2	S/W				CABI1075a1	
		国内実地研修 II		1 (注6)	1~2	S/W				CABI1076a1	
	J064B	海外実地研修		2 (注7)	1~2	S/W				CABI1077a1	
	J0661	海外語学研修 I		2 (注8)	1~2	S/W				CABI1078a1	
	J0662	海外語学研修 II		2 (注8)	1~2	S/W				CABI1079a1	
	J0663	海外語学研修 III		2 (注8)	1~2	S/W				CABI2080a1	
	J0664	海外語学研修 IV		2 (注8)	1~2	S/W				CABI2081a1	
		中国語学研修 I		2 (注8)	1~2	S/W				CABI1082a1	
		中国語学研修 II		2 (注8)	1~2	S/W				CABI1083a1	
		中国語学研修 III		2 (注8)	1~2	S/W				CABI2084a1	
		中国語学研修 IV		2 (注8)	1~2	S/W				CABI2085a1	
	卒業に必要な最低修得単位数										
文学部日文学科			14	16					合計 30 単位		
文学部国際コミュニケーション学科			10	22					合計 32 単位		
社会学部社会学科、人間福祉学科			14	16					合計 30 単位		
教育学部教育学科			12	8					合計 20 単位		
経営学部経営学科			14	18					合計 32 単位		

- (注1) 各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ2単位付与する。
(注2) 文学部国際コミュニケーション学科は英語を除く。英語Ⅲ・Ⅳ、又は上級英語Ⅰ・Ⅱの組合せで選択し、2単位修得。
(注3) 同一言語を選択し2単位修得。ただし、日本語を母語としない者は日本語Ⅰ・Ⅱを履修できる。
また、日本語Ⅰ・Ⅱは人間福祉学科のみ履修できる。
(注4) 日本語を母語としない者は日本語Ⅲ・Ⅳを履修できる。また、日本語Ⅲ・Ⅳは人間福祉学科のみ履修できる。
(注5) 教育学部教育学科はキャリアデザインⅠを選択科目とする。
(注6) 国内実地研修の単位については、別に定める規定に基づき運用する。
(注7) 海外実地研修の単位については、別に定める規定に基づき運用する。
(注8) 海外語学研修の単位については、別に定める規定に基づき運用する。

※上級英語Ⅰ・Ⅱは累積 GPA が 2.0 以上でないと履修できない。

●共通教育科目編成表（看護学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
生命と環境	J7550	生命の科学		2	1~2	S/W	◎			CACA1001a1	教免必修
	J7555	環境の科学		2	1~2	S	◎			CACA1002a1	
	J7560	生物学	2		1~2	S	◎			CACA1003a1	
		科学技術と社会		2	1~2	R6年度 開講せず	◎			CACA1004a1	
こころと思想	J7570	仏教実践演習		2	3~4		○◎			CACB2005a1	
	J7575	聖徳太子概説		2	3~4		○◎			CACB2006a1	
	J7580	心理学Ⅰ		2	1~2	S	◎			CACB1007a1	
	J7585	心理学Ⅱ		2	1~2	W	◎			CACB2008a1	
	J7590	哲学入門		2	1~2	S	◎			CACB1009a1	
	J7595	現代思想入門		2	1~2	R6年度 開講せず	◎			CACB1010a1	
	J7600	構造主義入門		2	3~4		◎			CACB1011a1	
社会と文化	J7605	現代社会と仏教		2	3~4		◎			CACC1012a1	
	J7610	日本国憲法		② ※1	1~2	S	◎			CACC1013a1	
	J7615	法学入門		2	1~2	W	◎			CACC1014a1	
	J7620	政治学		2	1~2	W	◎			CACC1015a1	
	J7625	文化人類学		2	3~4		◎			CACC1016a1	
	J7630	ジェンダーの社会学		2	1~2	S	◎			CACC1017a1	
		仏教芸術入門		2	3~4		◎			CACC2018a1	
		現代日本の文化と社会		2	1~2	R6年度 開講せず	◎			CACC1019a1	
	J7645	地域活性化概論		2	3~4		◎○			CACC1020a1	
	健康と福祉	J7650	スポーツⅠ		① ※1	1~2	S	◎			CACD1021a1
J7655		スポーツⅡ		① ※1	1~2	W	◎			CACD2022a1	
		体育講義		2	1~2	R6年度 開講せず	◎			CACD1023a1	
J7665		社会福祉概論		2	1~2	S	◎○			CACD1024a1	
J7670		社会福祉行政		2	3~4		◎○			CACD1025a1	
J7675		児童福祉論		2	1~2	W	◎○			CACD1026a1	
J7680		老人福祉論		2	3~4		◎○			CACD1027a1	
J7685		障害者福祉		2	3~4		◎○			CACD1028a1	
J7690		レクリエーション論		2	3~4		◎○			CACD1029a1	
語学・情報科学		J7695	情報処理演習Ⅰ		② ※2	1~2	S	◎			CACE1030a1
	J7700	情報処理演習Ⅱ		② ※2	1~2	W	◎			CACE2031a1	
	J7705	情報システム		2	3~4		◎			CACE2032a1	
	J7710	データ収集分析		2	3~4		◎			CACE2033a1	
	J7715	情報社会の法と倫理(リテラシー含む)		2	3~4		◎	○		CACE1034a1	
	J7720	統計学	2		3~4		◎	○		CACE1035a1	
	J7725	先端技術		2	1~2	S	◎			CACE1036a1	

教免必修

教免必修

教免はいずれか1科目必修

集中講義

●共通教育科目編成表（看護学部）

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 Semester	開講 学期	身につけるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
語学・情報科学科目 グローバルコミュニケーション	J7730	上級英語 I	①		1~2	S	○			CACF2037a1	教免必修
	J7735	上級英語 II	①		1~2	W	○			CACF2038a1	
	J7740	上級英語 III (医療英語)	1		3~4		◎		○	CACF2039a1	
	J7745	上級英語 IV (英語論文読解)	1		3~4		◎		○	CACF2040a1	
	J7750	ドイツ語 I		1	1~2	S	○			CACF1041a1	
	J7755	ドイツ語 II		1	1~2	W	○			CACF1042a1	
	J7760	フランス語 I		1	1~2	S	○			CACF1043a1	
	J7765	フランス語 II		1	1~2	W	○			CACF1044a1	
	J7770	中国語 I		1	1~2	S	○			CACF1045a1	
	J7775	中国語 II		1	1~2	W	○			CACF1046a1	
	J7780	コリア語 I		1	1~2	S	○			CACF1047a1	
	J7785	コリア語 II		1	1~2	W	○			CACF1048a1	
卒業に必要な最低修得単位数											
看護学部看護学科			8	10	合計 18 単位						

1. 教養教育科目（必修科目 2 単位、選択科目 6 単位）
語学・情報科学科目（必修科目 6 単位、選択科目 4 単位）
2. 養護教諭一種免許状取得には、（※ 1）の単位を修得と、（※ 2）のいずれかを修得すること。

●「専門教育科目」について

「専門教育科目」は、各学部・学科・専攻の教育目的に即した高度な内容をもつ専門的な科目等によって体系的に構成され、卒業に必要な最低修得単位数が決められています（単位数は学部・学科・専攻によって異なる）。学部・学科・専攻において中心となる科目は、必修、あるいは選択必修としています。学部・学科・専攻によって異なりますが、基本的に1年次から4年次までの各セメスターにおいて、必修科目として「基礎演習」、「演習」などが配当されており、2年間もしくは3年間におよぶ演習を通して、担当教員がじっくり専門領域についての学修を指導する体制をとっています。

なお、必修科目および選択必修科目は、修得できなかった場合には、卒業が延期となる可能性があります。必ず配当されたセメスターで修得するよう、特に注意してください。

学部・学科・専攻によっては、ある科目を履修する際の条件（これを「履修要件」といいます）として、特定の科目を修得していなくてはならない場合があります。また、学外実習に参加する場合に履修要件として、いくつかの科目を履修しておかなくてはならない場合もあります。これらの専門教育科目を履修する上での規則については、各学部・学科・専攻等によって違いがありますので、「授業科目の編成および単位数」をよく読んでおいてください。

●文学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

文学部では、卒業時点で以下の3点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士（文学）」の学位を授与する。

① 知識・技能

言語・文化などの諸事象について、幅広い知識とともに、専門的な知識・技能を学んで理解を深め、それを応用することができる。

② 思考力・判断力・表現力等

客観的に思考し判断する能力を身に付け、言語および多様なメディアを用いて、自らの思考や見解を表現し、他者とコミュニケーションを図ることができる。

③ 主体性、多様性、協働性

社会や文化の様々な事象に関心を持ち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、社会貢献に向けて改善・解決を図ることができる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

文学部の教育課程は、文学部のディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能、態度等の資質・能力を身に付けた人材を育成するため、大学が定めるカリキュラム・ポリシーに基づき、「基礎教育科目」「共通教育科目」および学部にも所属する2学科の専門教育科目によってカリキュラムを編成する。

【教育課程の編成、教育内容】

建学の精神や大学教育に必要な基礎知識を学ぶ科目を「基礎教育科目」に設置し、現代社会で生きるのに必要な知識・技能や幅広い教養を学ぶ科目を「共通教育科目」に設置する。

また各学科の専門教育科目において、進路について考える科目を「学部共通科目」（文学部・社会学部共通）に、主体性と協働する能力を修得する科目を「学科共通科目」（日本学科・国際コミュニケーション学科共通）にする。

学科において知識を学び資質を高める科目のうち、基礎や中核となるものを「学科基幹科目」に、発展的かつ専門的なものを「学科専門」に設置する。そして、専門分野の知見を総合し、課題発見・解決を図る総合的な科目として3・4年次にゼミナールの科目を設置する。

【教育方法】

- 1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICTの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ルーブリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

文学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

- 1) 人文科学の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。 [求める要素：知識・技能]
- 2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できること。
[求める要素：思考力・判断力、表現力等]
- 3) 言語・文化に対する様々な事柄に関心をもち、課題を発見し解決する意欲を有すること。
[求める要素：関心・意欲・態度]
- 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、他者と協働できること。
[求める要素：主体性・多様性・協働性]

●日本学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

日本学科では、卒業時点で以下の3点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士（文学）」の学位を授与する。

① 知識・技能

日本について、日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化（和食）という多彩な角度から知識・技能を修得し、応用できる。

② 思考力・判断力・表現力等

確かな思考力と判断力を養い、言語的表現力および多様なメディアによる視覚的表現を身に付け、それを用いて他者とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。

③ 主体性、多様性、協働性

日本の言語や文化について関心を持ち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、地域に根差した社会貢献に向けて、他者と協働して改善・解決を図ることができる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

日本学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した力を修得するために、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

- 1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「基礎教育科目」・「共通教育科目」を設置する。
- 2) 日本語・日本文学、国語教育・日本語教育、伝統文化・観光、現代文化（和食）の各領域についての専門的な知識・技能を修得するために、学びの根幹となる講義および演習・実習科目を「学科基幹科目」に設置し、多岐にわたってより専門化した講義および演習科目を「学科専門」に設置する。
- 3) 言語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断しそれを表現する能力を養うための科目を「学科専門」に設置する。
- 4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、社会体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、各領域について課題発見・検討・改善に関する講義や実践的な演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

【教育方法】

- 1) 専門的な知識・技能を修得する授業では、プレゼンテーション、グループ活動などのアクティブ・ラーニングを多く取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 言語的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために、読む・聞く・書くという実践的学びを行うとともに、視覚的表現によるコミュニケーション能力を身に付けるために動画編集などの演習を行います。
- 3) 体験型活動を多く取り入れ、他者と協働し主体的に課題解決に取り組む経験を積む機会を十分に設けます。

【学修成果の評価方法】

- 1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。

- 2) 学生自らの評価として、ルーブリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。
- 3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

日本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 日本の言語・文化についての専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。
[求める要素：知識・技能]
- 2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できること。
[求める要素：思考力・判断力・表現力等]
- 3) 日本の言語・文化に対する様々な事柄に関心をもち、課題を発見し解決する意欲を有すること。
[求める要素：関心・意欲・態度]
- 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、他者と協働できること。
[求める要素：主体性・多様性・協働性]

〈履修のありかた〉

1年次には、国語・日本語の運用能力を高めるべく「日本学表現演習Ⅰ・Ⅱ」をはじめ、日本語学や日本文学、日本の歴史および日本文化などの日本学科で学ぶ領域の基礎を学習する。この基礎的な学習を通じて、それぞれの希望や適性も鑑み、専門として学ぶ領域を決定する。教員を志望する場合は、1年次から計画的に教職課程を履修する必要がある。また、集中講義「パフォーマンス実践演習」を履修することで、他者との関わり方を学んでもらいたい。

2年次には、「日本学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の履修を通じて大学生としての学習のありかたを学ぶと同時に、各分野の基礎的授業や「講読」の授業を選択履修し、専門領域で学ぶ内容を具体的に理解することで、各自の専門とする領域を決定する。また、集中講義「日本学インターンシップ演習」を履修することで、学科の学びを社会で活用することを考えてもらいたい。

3年次以降は、ゼミでの学習を中心に、幅広く「特殊講義」なども履修することで、それぞれの学生が自分の専門とする領域および「日本」に関する知識を拡げ深めつつ、「卒業研究」を行う。

〈学習の成果と卒業後の進路〉

このように、日本学科では、「日本」と「国語」のプロフェッショナル養成を目的とした学習を行うことで、日本文化に関する広範な知識に裏打ちされた高度な国語・日本語の運用能力を獲得できる。こうして修得した日本文化理解力と高度な「国語力」により、卒業後は、中学校・高等学校の国語・書道教員、日本語を母国語としない人たちに日本語を教える日本語教師をはじめ、公務員、マスコミ・出版関係、観光・旅行業界など「日本」に関わるさまざまな場面で活躍が可能となる。高度な日本語の運用能力と優れたコミュニケーション力はどのような職種でも必要とされる能力であり、このような能力を修得することにより、卒業後は、幅広い分野での活躍が可能となる。

なお、卒業時に「博物館学芸員」の資格取得を希望する場合は、1年次より必要とされる科目を計画的に履修すること。

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③			
学部共通科目	K1010	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4				○	◎	LJDA2001a0		
	K1015	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4				○	◎	LJDA2002a0		
	K1020	キャリアゼミ		2	5～6				○	◎	LJDA3003a0		
	K1025	キャリアゼミ実践演習		2	5～6				○	◎	LJDA3004a0		
学科共通科目	K1030	日本語教育学概論Ⅰ		2	1～2	S	文学部以外 は不可	◎	○		LJDB1005a0		
	K1035	日本語教育学概論Ⅱ		2	1～2	W	文学部以外 は不可	◎	○		LJDB1006a0		
	K1040	日本語教育実習指導及び実習A		2	7～8		文学部以外 は不可	○	◎		LJDB3007a0		
	K1045	日本語教育実習指導及び実習B		2	7～8		文学部以外 は不可	○	◎		LJDB3008a0		
	K1050	地域における多文化共生Ⅰ		2	5～6		文学部以外 は不可	○	◎		LJDB3009a0		
	K1055	地域における多文化共生Ⅱ		2	5～6		文学部以外 は不可	○	◎		LJDB3010a0		
	K1060	旅行産業基礎		2	1～2	W		◎	○		LJDB1011a0		
	K1065	国内旅行実務Ⅰ		2	3～4			◎	○		LJDB2012a0		
	K1070	国内旅行実務Ⅱ		2	3～4			◎	○		LJDB2013a0		
	K1075	地域・文化発信演習		2	3～4		文学部以外 は不可	○	◎		LJDB2014a0		
	K1080	地域観光演習Ⅰ		2	5～6			○	◎		LJDB3015a0		
	K1085	地域観光演習Ⅱ		2	5～6			○	◎		LJDB3016a0		
	K1090	グローバルスタディーズⅠ		4	1～2	S/W		○	◎		LJDB1017a0		
	K1095	グローバルスタディーズⅡ		4	1～2	S/W		○	◎		LJDB2018b0		
	専門教育科目	K1210	日本学表現演習Ⅰ		2	1～2	S	不可	○	◎		LJDC1019a0	
		K1215	日本学表現演習Ⅱ		2	1～2	W	不可	○	◎		LJDC1020a0	
K1220		日本学基礎演習Ⅰ		2	3～4		不可	○	◎		LJDC2021a0		
K1225		日本学基礎演習Ⅱ		2	3～4		不可	○	◎		LJDC2022a0		
K1230		日本文化論Ⅰ	2	2	1～2	S	文学部以外 は不可	◎	○		LJDC1023a0	*留学生は履修可	
K1235		日本文化論Ⅱ		2	1～2	W	不可	◎	○		LJDC1024a0 ZZZZ1024a0		
K1240		講読Ⅰ(日本語学)	4	②	3～4		文学部以外 は不可	◎	○		LJDC2025a0		
K1245		講読Ⅱ(近現代文学)		②	3～4		不可	◎	○		LJDC2026a0		
K1250		講読Ⅲ(古典文学)		②	3～4		不可	◎	○		LJDC2027a0		
K1255		講読Ⅳ(日本文化)		2	3～4			◎	○		LJDC2028a0		
K1260		講読Ⅴ(メディア文化)		2	3～4			◎	○		LJDC2029a0		
K1265		講読Ⅵ(現代文化)		2	3～4			◎	○		LJDC2030a0		
K1270		講読Ⅶ(和食文化)		2	3～4			◎	○		LJDC2031a0		
K1275		講読Ⅷ(文学と文化)		2	3～4			◎	○		LJDC2032a0		
K1280		パフォーマンス実践演習		2	1～2	S	不可	◎	○		LJDC1033a0		集中講義
K1285		日本学インターンシップ演習		2	3～4		不可	○	◎		LJDC2034a0		
K1290	視覚メディア演習Ⅰ	2		3～4		不可	◎	○		LJDC2035a0			
K1295	視覚メディア演習Ⅱ		2	3～4		不可	◎	○		LJDC2036a0			
K1300	視覚メディア演習Ⅲ		2	5～6		不可	◎	○		LJDC3037a0			

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③			
専門教育科目 学科基幹科目	K1305	視覚メディア演習Ⅳ		2	5～6		不可		◎	○	LJDC3038a0		
	K1310	専門演習Ⅰ	2		5～6		不可		○	◎	LJDC3039a0		
	K1315	専門演習Ⅱ	2		5～6		不可		○	◎	LJDC3040a0		
	K1320	専門演習Ⅲ	2		7～8		不可		○	◎	LJDC3041a0		
	K1325	専門演習Ⅳ	2		7～8		不可		○	◎	LJDC3042a0		
		日本文学特殊講義(注1)		2					◎	○		LJDC3043a0	
	K1400	卒業研究		4	7～8		不可		○	◎		LJDC3044a0	
専門教育科目 日本語・日本文学コース	K1410	日本語学Ⅰ		②	1～2	S	文学部以外は不可	◎	○		LJDD1045a0		
	K1415	日本語学Ⅱ		②	1～2	W	文学部以外は不可	◎	○		LJDD1046a0		
	K1420	日本語史		②	3～4			◎	○		LJDD2047a0		
	K1425	日本語文法Ⅰ(現代)		②	3～4		文学部以外は不可	◎	○		LJDD2048a0		
	K1430	日本語文法Ⅱ(古典)		②	3～4		不可	◎	○		LJDD2049a0		
	K1435	日本文学論Ⅰ(近現代)		②	3～4		不可	◎	○		LJDD2050a0		
	K1440	日本文学論Ⅱ(古典)		②	3～4		不可	◎	○		LJDD2051a0		
	K1445	日本文学史Ⅰ(近現代)		②	1～2	S	不可	◎	○		LJDD1052a0		
	K1450	日本文学史Ⅱ(古典)		②	1～2	W	不可	◎	○		LJDD1053a0		
	K1455	古典Ⅰ(日本)		②	1～2	S	不可	◎	○		LJDD1054a0		
	K1460	古典Ⅱ(中国)		②	1～2	W	不可	◎	○		LJDD1055a0		
	K1465	現代日本文学研究		2	5～6			◎	○		LJDD3056a0		
	K1470	創作論		2	7～8			○	◎		LJDD3057a0		
	K1475	漢文学		②	3～4			◎	○		LJDD2058a0		
	K1480	書道A		②	1～2	S	不可	◎	○		LJDD1059a0		
	K1485	書道B		②	1～2	W	不可	◎	○		LJDD1060a0		
	K1490	書道C		②	3～4		不可	◎	○		LJDD2061a0		
	K1495	書道D		②	3～4		不可	◎	○		LJDD2062a0		
	K1500	書道史Ⅰ		②	5～6			◎	○		LJDD3063a0		
	K1505	書道史Ⅱ		②	5～6			◎	○		LJDD3064a0		
K1510	書論・鑑賞Ⅰ		②	5～6			○	◎		LJDD3065a0			
K1515	書論・鑑賞Ⅱ		②	5～6			○	◎		LJDD3066a0			
専門教育科目 国語教育・日本語教育コース	K1520	国語教育論A		2	1～2	W	不可		○	◎	LJDE2067a0		
	K1525	国語教育論B		2	3～4		不可		○	◎	LJDE2068a0		
	K1530	国語教育研究		2	5～6		不可		◎	○	LJDE3069a0		
	K1535	国語教材研究論Ⅰ(近現代)		②	5～6		不可	○	◎		LJDE3070a0		
	K1540	国語教材研究論Ⅱ(古典)		②	5～6		不可	○	◎		LJDE3071a0		
	K1545	国語教材研究論Ⅲ(漢文)		②	5～6		不可	○	◎		LJDE3072a0		
	K1550	板書法		2	5～6		不可	○	◎		LJDE3073a0		
	K1555	国語教育実践		2	5～6		不可		○	◎	LJDE3074a0		

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③		
国語教育・ 日本語教育 コース	K1560	日本語教育論Ⅰ		2	3~4		文学部以外 は不可	◎	○		LJDE2075a0	
	K1565	日本語教育論Ⅱ		2	3~4		文学部以外 は不可	◎	○		LJDE2076a0	
	K1570	言語学概論		2	3~4		文学部以外 は不可	◎	○		LJDE2077a0	
	K1575	日本語教授法Ⅰ		2	5~6		文学部以外 は不可		○	◎	LJDE3078a0	
	K1580	日本語教授法Ⅱ		2	5~6		文学部以外 は不可		○	◎	LJDE3079a0	
伝統文化・ 観光コース 専門教育科目	K1585	日本文化史Ⅰ		②	3~4			◎		○	LJDF2080a0	
	K1590	日本文化史Ⅱ		②	3~4			◎		○	LJDF2081a0	
	K1595	仏教と日本文化		2	3~4			◎		○	LJDF2082a0	
	K1600	地域文化		2	5~6			○		◎	LJDF3083a0	
	K1605	日本の民俗		2	5~6			◎		○	LJDF3084a0	
	K1610	観光学概論		2	1~2	S		◎		○	LJDF1085a0	
	K1615	観光社会学		2	3~4			◎		○	LJDF2086a0	
	K1620	観光データ分析		2	3~4			○	◎		LJDF2087a0	
	K1625	日本の世界遺産		2	5~6			◎		○	LJDF3088a0	
	K1630	アジア文化概説		2	3~4			◎	○		LJDF1089a0	(*1)
	K1635	異文化理解		2	5~6		文学部以外 は不可	◎	○		LJDF3090a0	
	K1640	日中交流史		2	3~4			◎	○		LJDF2091a0	(*1)
	K1645	日中比較文化論		2	5~8			◎	○		LJDF3092a0	(*1)
	K1650	生涯学習概論		2	1~2	W	不可	◎	○		LJDF1093a0	
	K1655	博物館概論		2	1~2	S	不可	◎		○	LJDF1094a0	
	K1660	博物館展示論		2	3~4		不可	◎		○	LJDF2095a0	
	K1665	博物館資料論		2	3~4		不可	◎		○	LJDF2096a0	
	K1670	博物館教育論		2	3~4		不可	◎		○	LJDF2097a0	集中講義
	K1675	博物館経営論		2	5~6		不可	◎	○		LJDF3098a0	
	K1680	博物館資料保存論		2	5~6		不可	◎	○		LJDF3099a0	
	K1685	博物館情報・メディア論		2	5~6		不可	◎	○		LJDF3100a0	
	K1690	博物館実習A		1	5~6		不可		○	◎	LJDF3101a0	
	K1695	博物館実習B		1	7~8		不可		○	◎	LJDF3102a0	集中講義
K1700	博物館実習C		1	7~8		不可		○	◎	LJDF3103a0		
K1705	考古学		2	5~6			◎	○		LJDF3104a0		
現代文化 (和食) コース	K1710	サブカルチャー論		2	3~4			◎	○		LJDG2105a0	
	K1715	現代アート論		2	3~4			◎	○		LJDG2106a0	
	K1720	日本のアニメーション		2	5~6			◎	○		LJDG3107a0	
	K1725	視覚文化論		2	5~6			◎	○		LJDG3108a0	
	K1730	聴覚文化論		2	5~6			◎	○		LJDG3109a0	
	K1735	食文化の基礎		2	1~2	W		◎	○		LJDG1110a0	
	K1740	郷土と食		2	3~4			◎	○		LJDG2112a0	

●日本学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③		
現代文化 (和食) コース 専門教育科目	K1745	郷土と食の実践		2	3~4		不可		○	◎	LJDG2113a0	
	K1750	郷土と食発信演習		2	5~6		不可		○	◎	LJDG3114a0	
	K1755	現代食文化論		2	5~6			◎	○		LJDG3115a0	
	K1760	情報文化論(メディアリテラシーを含む)		2	1~2	W		◎	○		LJDG1116a0	
	K1765	現代メディア論		2	3~4			◎	○		LJDG2117a0	
卒業に必要な最低修得単位数			24	64								

(注1) 授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ2単位付与する。

(*1) 当該科目は、中国へ留学し所定の科目を終了すると、本学の単位として評価の対象となる科目です。留学前に既に単位修得している科目は、留学後に重複して評価できません。

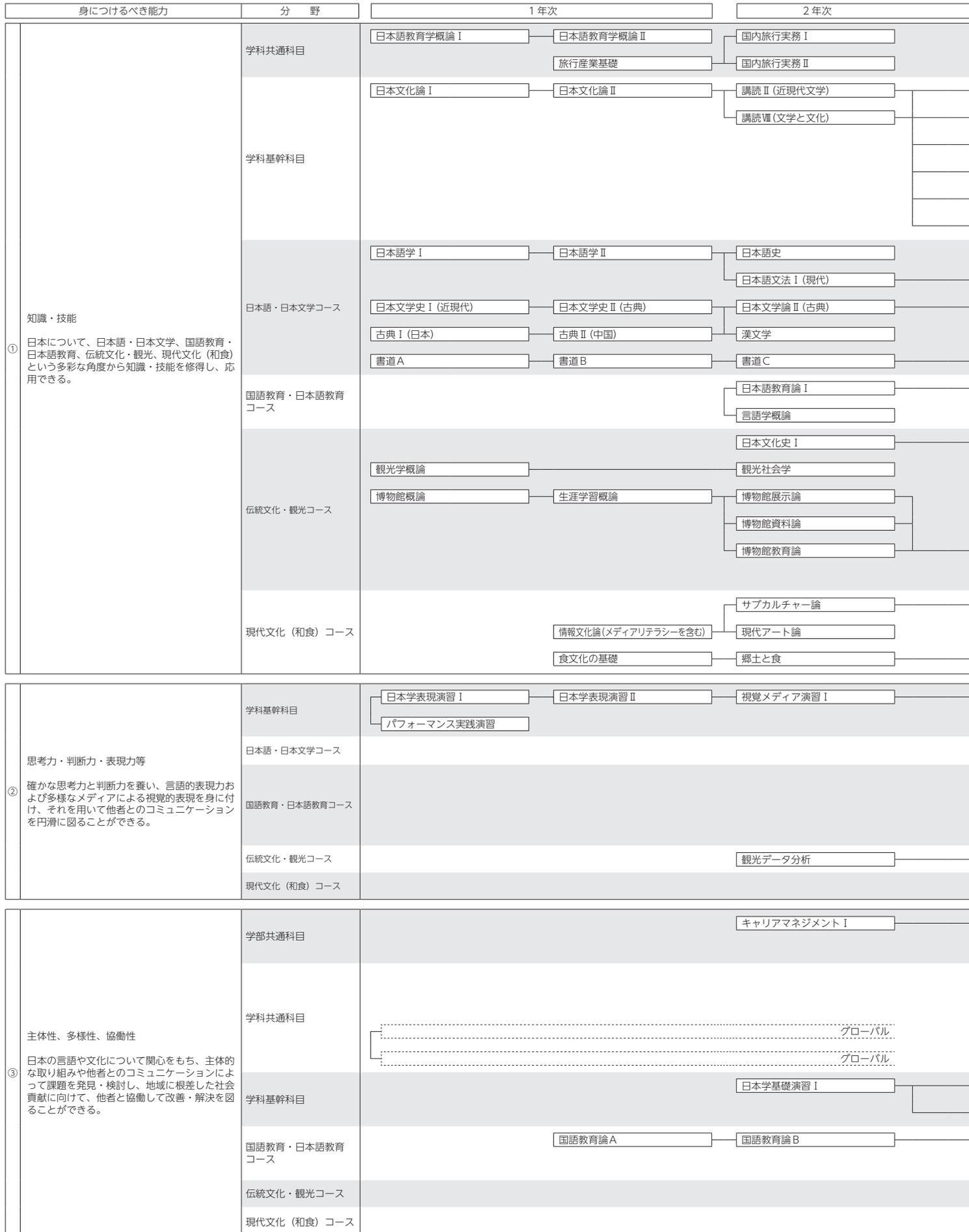
今後、中国への留学を考えている学生は、履修前に担当教員に必ず相談をしてください。

※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。

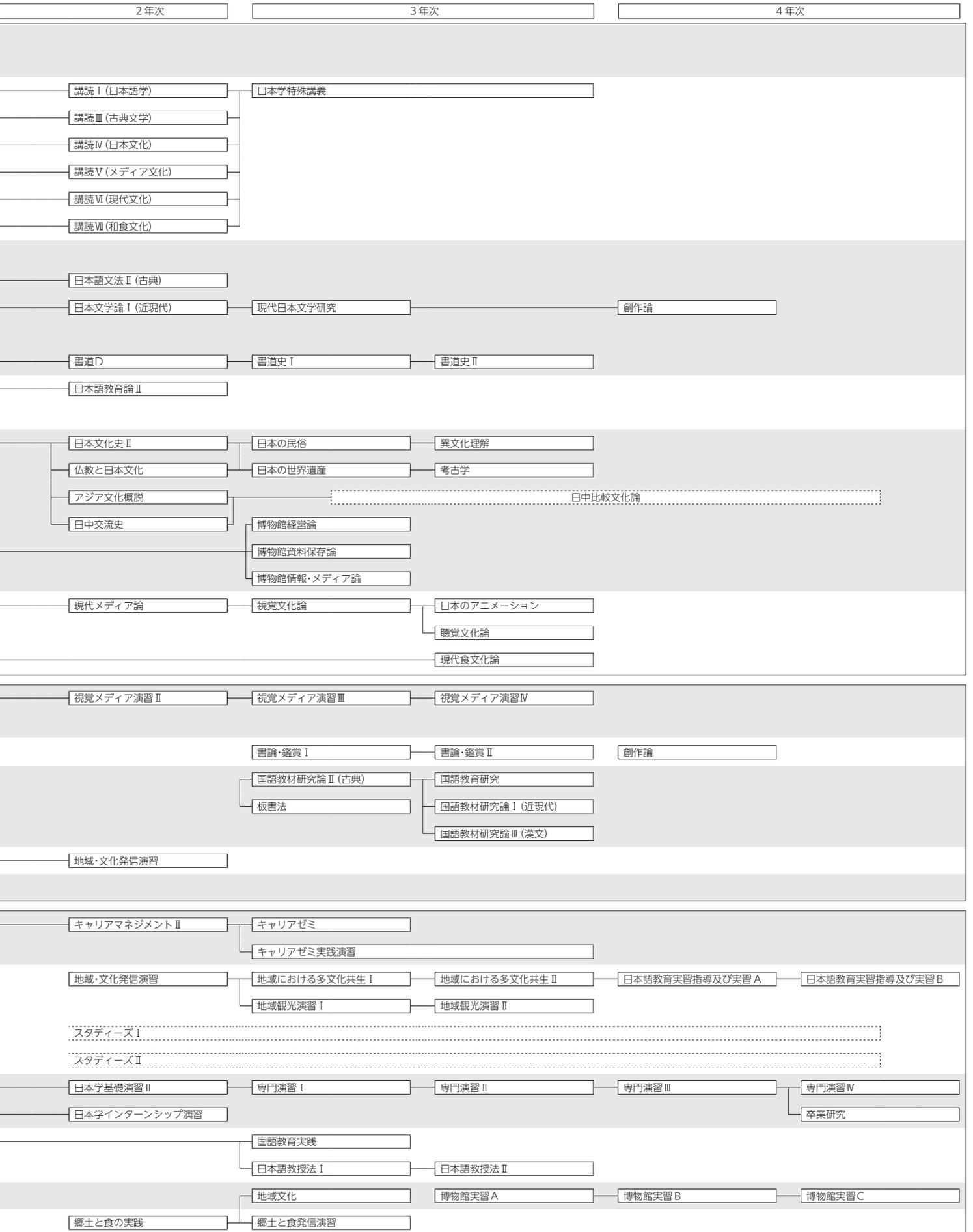
IBU.net上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に「不可」がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

文学部 日本学科 履修系統図



教育課程（授業科目一覧・単位数など） 日本学科

※カリキュラムポリシー（CP）はP78・79を参照してください。



●国際コミュニケーション学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

国際コミュニケーション学科では、卒業時点で以下の3点の資質・能力を身に付けたと認められる学生に対して「学士（文学）」の学位を授与する。

① 知識・技能

英語圏、および、アジアの言語・歴史・文化について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識・技能を修得し、応用できる。

② 思考力・判断力・表現力等

客観的に思考し判断する能力を身に付け、外国語および多様なメディアを用いて、自らの思考や見解を表現し、グローバル化した社会において、異なる文化背景をもつ他者とコミュニケーションを図ることができる。

③ 主体性、多様性、協働性

グローバル社会や、多様な文化における様々な事象に関心をもち、主体的な取り組みや他者とのコミュニケーションによって課題を発見・検討し、社会貢献に向けて他者と協働して改善・解決を図ることができる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーとして示した能力を修得するために、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「学科基幹科目」、「学科専門」によってカリキュラムを編成している。

- 1) 建学の精神・大学教育に必要な基礎知識、現代社会を生きるのに必要な幅広い知識を修得するために、「基礎教育科目」・「共通教育科目」を設置する。
- 2) グローバルな視野に基づいた幅広い知識・技能を修得するために、英語圏・アジア圏等の文化、ホスピタリティに関する基本的な知識を修得する科目を「学科基幹科目」に設置する。また、外国語・英語教育、国際文化、ホスピタリティに関する専門的な知識・技能を修得する科目を「学科専門」に設置する。
- 3) 外国語およびデジタルメディアによる表現力の基礎を修得するための科目を「学科基幹科目」に設置する。さらに、客観的に思考・判断し、自らの思考や見解を表現する能力を修得するための科目を「学科専門」に設置する。
- 4) 進路について考える科目を「学部共通科目」に設置する。また、「学科共通科目」において主体性と協働する力を修得する科目を2学科で設置する。加えて、海外体験に関する科目を「学科基幹科目」に設置し、観光実践、インターンシップ等で課題の発見・改善を図る演習・実習科目を「学科専門」に設置する。さらに総括的なゼミナールの科目を設置する。

【教育方法】

- 1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 日本語や英語、中国語を通して多様な情報メディアを効果的に用いた豊かなコミュニケーション能力を活用することにより、実践的・創造的な学修を促します。
- 3) 地域社会・海外などでの体験型活動に取り組むことにより、他者と協働し主体的に課題を解決する能力を高めます。

【学修成果の評価方法】

- 1) 各科目の教育内容や形態に応じて、学期中の小テスト・小レポート・提出物、中間試験、学期末の定期試験・レポートなどで評価する。
- 2) 学生自らの評価として、ルーブリックやコメントシートを用いた自己評価・相互評価を行わせ、その評価が適切であるかについて確認した上で、評価の材料とする。
- 3) 教育課程における学修がどの程度の成果を修めたかについては、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

国際コミュニケーション学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 英語を通して国際文化についての専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。
[求める要素：知識・技能]
- 2) ものごとを正確に捉え、論理的に考えることができ、さらに他者に明快に説明できる。
[求める要素：思考力・判断力・表現力等]
- 3) 言語・文化に対する様々な事柄に関心をもち、海外体験や国際交流活動を通して課題を発見し解決する意欲を有すること。
[求める要素：関心・意欲・態度]
- 4) 主体的に行動でき、異なる価値観を理解し、相手の立場や価値観を慮った思いやりの心であるホスピタリティ精神を持ちながら他者と協働できること。
[求める要素：主体性・多様性・協働性]

●国際コミュニケーション学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

コース：A…共通、B…外国語・英語教育、C…国際文化、D…ホスピタリティ

種別	授業概要 コード	コース	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
				必修	選択				①	②	③			
学部共通科目	K1010	A	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4				○	◎	LIEA1001a0		
	K1015	A	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4				○	◎	LIEA2002a0		
	K1020	A	キャリアゼミ		2	5～6				○	◎	LIEA1003a0		
	K1025	A	キャリアゼミ実践演習		2	5～6				○	◎	LIEA2004a0		
学科共通科目	K1030	A	日本語教育学概論Ⅰ		2	1～2	S	文学部以外 は不可	◎	○		LIEB1005a0		
	K1035	A	日本語教育学概論Ⅱ		2	1～2	W	文学部以外 は不可	◎	○		LIEB1006a0		
	K1040	A	日本語教育実習指導及び実習A		2	7～8		文学部以外 は不可		○	◎	LIEB3007a0		
	K1045	A	日本語教育実習指導及び実習B		2	7～8		文学部以外 は不可		○	◎	LIEB3008a0		
	K1050	A	地域における多文化共生Ⅰ		2	5～6		文学部以外 は不可		○	◎	LIEB3009a0		
	K1055	A	地域における多文化共生Ⅱ		2	5～6		文学部以外 は不可		○	◎	LIEB3010a0		
	K1060	A	旅行産業基礎		2	1～2	W		◎		○	LIEB1011a0		
	K1065	A	国内旅行実務Ⅰ		2	3～4			◎		○	LIEB2012a0		
	K1070	A	国内旅行実務Ⅱ		2	3～4			◎		○	LIEB2013a0		
	K1075	A	地域・文化発信演習		2	3～4		文学部以外 は不可		○	◎	LIEB2014a0		
	K1080	A	地域観光演習Ⅰ		2	5～6				○	◎	LIEB3015a0		
	K1085	A	地域観光演習Ⅱ		2	5～6				○	◎	LIEB3016a0		
	K1090	A	グローバルスタディーズⅠ		4	1～2	S/W			○	◎	LIEB1017a0		
	K1095	A	グローバルスタディーズⅡ		4	1～2	S/W			○	◎	LIEB2018b0		
	専門教育科目	K2010	A	英語圏文化概説	②		1～2	S/W		◎		○	LIEC1019a0	
		K2015	A	世界体験入門		2	1～2	S		◎		○	LIEC1020a0	
K2020		A	英文法Ⅰ	②		1～2	S		◎	○		LIEC1021a0		
K2025		A	英文法Ⅱ	②		1～2	W		◎	○		LIEC1022a0		
K2030		A	Extensive ReadingⅠ		2	3～4			◎	○		LIEC2023c0		
K2035		A	Extensive ReadingⅡ		2	3～4			◎	○		LIEC2024c0		
K2040		A	ベーシックコミュニケーションⅠ	②		1～2	S		○	◎		LIEC1025b0		
K2045		A	ベーシックコミュニケーションⅡ		②	1～2	S		○	◎		LIEC1026b0		
K2050		A	ベーシックコミュニケーションⅢ	②		1～2	W		○	◎		LIEC1027b0		
K2055		A	ベーシックコミュニケーションⅣ		②	1～2	W		○	◎		LIEC1028b0		
K2060		A	Oral CommunicationⅠ		2	3～4				○	◎	LIEC2029b0		
K2065		A	Oral CommunicationⅡ		2	3～4				○	◎	LIEC2030b0		
K2070		A	国際キャリアインターンシップⅠ		2	3～4		文学部以外 は不可		○	◎	LIEC1031a0		
K2075		A	国際キャリアインターンシップⅡ		2	3～4		文学部以外 は不可		○	◎	LIEC2032a0		
K2080		B	英語指導技術演習		2	3～4				○	◎	LIEC2033c0		
K2085		B	英語指導技術実践演習		2	5～6				○	◎	LIEC3034c0		
K2090	A	ビジュアルメディア演習Ⅰ		2	3～4				○	◎	LIEC1035a0			
K2095	A	ビジュアルメディア演習Ⅱ		2	3～4				○	◎	LIEC2036a0			
K2100	A	ビジュアルメディア演習Ⅲ		2	5～6				○	◎	LIEC3037a0			

●国際コミュニケーション学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

コース：A…共通、B…外国語・英語教育、C…国際文化、D…ホスピタリティ

種別	授業概要 コード	コース	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
				必修	選択				①	②	③			
学科基幹科目	K2105	A	ビジュアルメディア演習Ⅳ		2	5～6			○	◎		LIEC3038a0	集中講義 (*1) (*1) (*1)	
	K2110	A	海外体験実践演習		2	1～2	S			○	◎	LIEC1039c0		
	K2115	A	Intercultural Studies : Discussion		4	1～8	S/W	文学部以外 は不可		○	◎	LIEC2040a0		
	K2120	A	国際交流実践		4	1～8	S/W	文学部以外 は不可		○	◎	LIEC1041a0		
	K2125	A	海外事前指導		2	1～8	S/W	文学部以外 は不可		○	◎	LIEC1042a0		
	K2130	A	専門演習Ⅰ		2	5～6		不可		○	◎	LIEC1043a0		
	K2135	A	専門演習Ⅱ		2	5～6		不可		○	◎	LIEC2044a0		
	K2140	A	専門演習Ⅲ		2	7～8		不可		○	◎	LIEC3045a0		
	K2145	A	専門演習Ⅳ		2	7～8		不可		○	◎	LIEC3046a0		
		A	国際コミュニケーション特殊講義(注1)		2	5～6				◎	○			LIEC3047a0
専門教育科目	K2160	A	卒業研究		4	7～8		不可		○	◎	LIEC3048a0		
	K2165	B	キャリア英語Ⅰ		2	3～4			◎	○		LIED2049a0		
	K2170	B	キャリア英語Ⅱ		2	3～4			◎	○		LIED2050a0		
	K2175	B	アドバンストコミュニケーションⅠ	◎		5～6			○	◎		LIED3051c0		
	K2180	B	アドバンストコミュニケーションⅡ	◎		5～6			○	◎		LIED3052c0		
	K2185	B	Academic CommunicationⅠ		2	5～6			◎	○		LIED3053c0		
	K2190	B	Academic CommunicationⅡ		2	7～8			◎	○		LIED3054c0		
	K2195	B	Academic CommunicationⅢ		2	7～8			◎	○		LIED3055c0		
	K2200	B	基礎中国語Ⅰ		2	1～2	S		○	◎		LIED1056d0		
	K2205	B	基礎中国語Ⅱ		2	1～2	W		○	◎		LIED1057d0		
	K2210	B	発展中国語Ⅰ		2	3～4			○	◎		LIED2058d0		
	K2215	B	発展中国語Ⅱ		2	3～4			○	◎		LIED2059d0		
	K2220	B	実践中国語Ⅰ		2	5～6			○	◎		LIED3060d0		
	K2225	B	実践中国語Ⅱ		2	5～6			○	◎		LIED3061d0		
	K2230	B	現代中国事情		2	1～2	W		◎		○	LIED1062a0		
	K2235	B	英語文学概説	◎		3～4			◎	○		LIED1063a0		
	K2240	B	英語音声学	◎		1～2	W		◎	○		LIED1064a0		
	K2245	B	英語学概説	◎		3～4			◎	○		LIED1065a0		
	K2250	B	英語学	◎		3～4			◎	○		LIED2066a0		
	K2255	B	メディア英語実践演習		2	3～4			○	◎		LIED2067a0		
	K2260	B	英語教育論		2	3～4			◎	○		LIED1068a0		
	K2265	B	Reading (Culture)	◎		3～4			◎	○		LIED2069a0		
	K2270	B	Reading (Literature)	◎		3～4			◎	○		LIED2070a0		
	K2275	B	Reading (Language)	◎		5～6			◎	○		LIED2071a0		
	国際文化コース	K2280	C	国際理解教育		2	5～6			◎		○	LIIE1072a0	
		K2285	C	国際コミュニケーション論		2	3～4			◎		○	LIIE2073a0	
K2290		C	異文化理解		2	1～2	W		◎		○	LIIE1074a0		

●国際コミュニケーション学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

コース：A…共通、B…外国語・英語教育、C…国際文化、D…ホスピタリティ

種別	授業概要 コード	コース	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
				必修	選択				①	②	③			
国際文化 コース	K2295	C	英米文化論		2	3～4			◎		○	LIEE2075a0		
	K2300	C	異文化共生論		2	3～4			◎		○	LIEE2076a0		
	K2305	C	アジア比較文化論		2	5～6			◎		○	LIEE2077a0		
	K2310	C	英語文学講読		2	5～6			◎	○		LIEE3078a0		
	K2315	C	英国史		②	5～6			◎	○		LIEE1079a0		
	K2320	C	米国史		②	5～6			◎	○		LIEE1080a0		
	K1640	C	日中交流史		2	3～4			◎	○		LIEE1081a0	(*1)	
	K1645	C	日中比較文化論		2	5～8			◎		○	LIEE3082a0	(*1)	
	K1630	C	アジア文化概説	2		3～4			◎		○	LIEE1083a0	(*1)	
	ホスピタリティ コース	K2325	D	ホスピタリティ英語 I		2	3～4			○	◎		LIEF2084a0	
		K2330	D	ホスピタリティ英語 II		2	3～4			○	◎		LIEF2085a0	
		K2335	D	国際コミュニケーション基礎演習 I	2		3～4				○	◎	LIEF2086b0	
		K2340	D	国際コミュニケーション基礎演習 II	2		3～4				○	◎	LIEF2087b0	
		K2345	D	ホスピタリティ産業論		2	5～6			◎	○		LIEF3088a0	
		K2350	D	ホスピタリティマインド論		2	3～4			◎		○	LIEF2089a0	
		K2355	D	ホスピタリティ概論	2		1～2	W		◎	○		LIEF1090a0	
		K2360	D	世界遺産と観光		2	1～2	W		◎	○		LIEF1091a0	
		K2365	D	観光メディア		2	3～4			○	◎		LIEF2092a0	
		K2370	D	地域と国際観光		2	3～4			◎	○		LIEF2093a0	
K2375	D	ホスピタリティツーリズム論		2	3～4			◎	○		LIEF2094a0			
K2380	D	ホスピタリティマーケティング論		2	5～6			◎	○		LIEF3095a0			
K2385	D	観光英語		2	5～6				◎	○	LIEF3096a0			
K2390	D	観光英語実践演習(実地演習)		2	5～6				○	◎	LIEF3097c0			
卒業に必要な最低修得単位数				30	56									

(注1) 各授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ2単位付与する。

(*1) 当該科目は、中国へ留学し所定の科目を終了すると、本学の単位として評価の対象となる科目です。留学前に既に単位修得している科目は、留学後に重複して評価できません。

今後、中国への留学を考えている学生は、履修前に担当教員に必ず相談をしてください。

※ TOEIC L&R IP テストによるクラス編成について

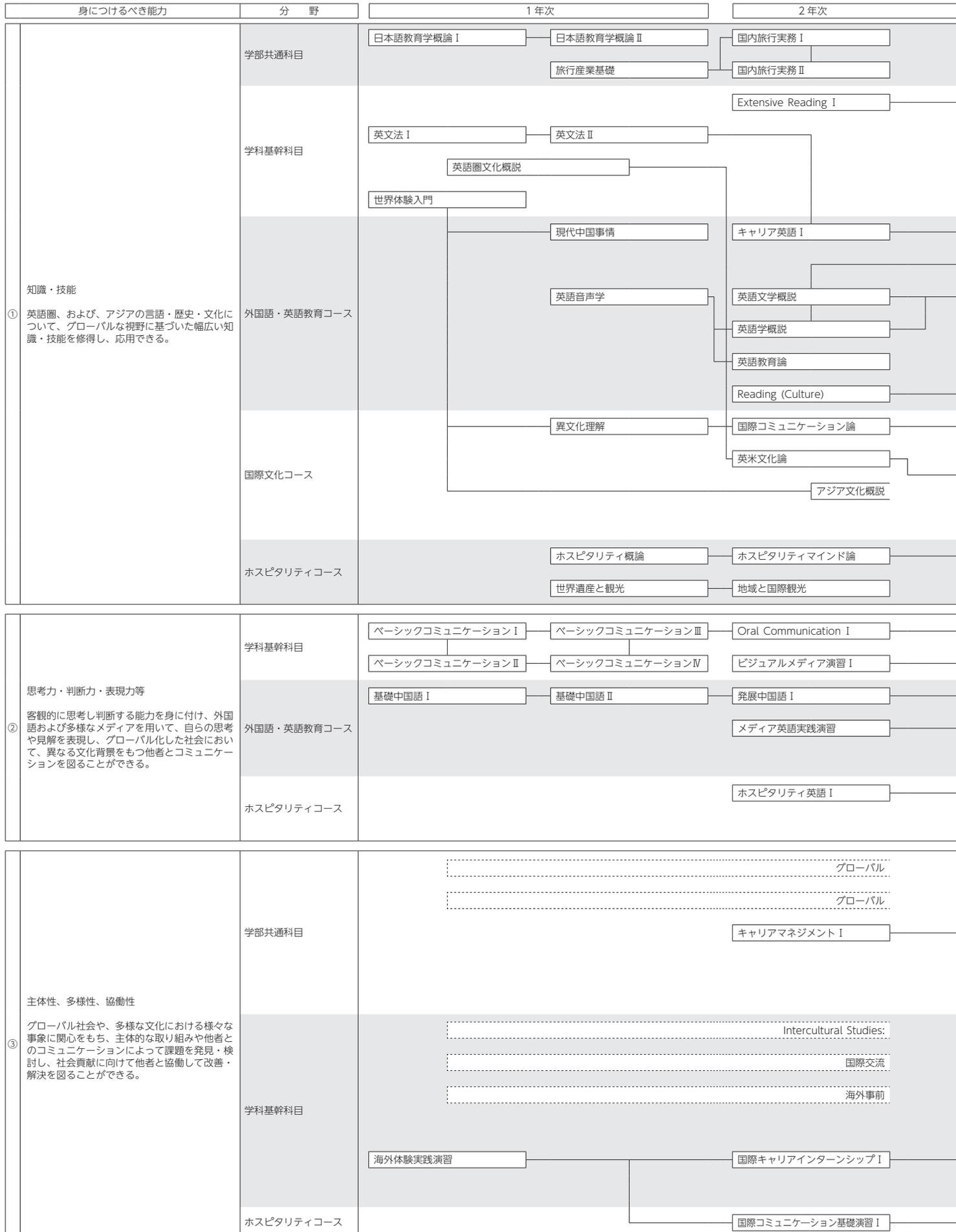
「英文法 I・II」「Extensive Reading I・II」「ベーシックコミュニケーション I～IV」については、TOEIC L&R IP テストによる習熟度別クラス編成としています。

※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。

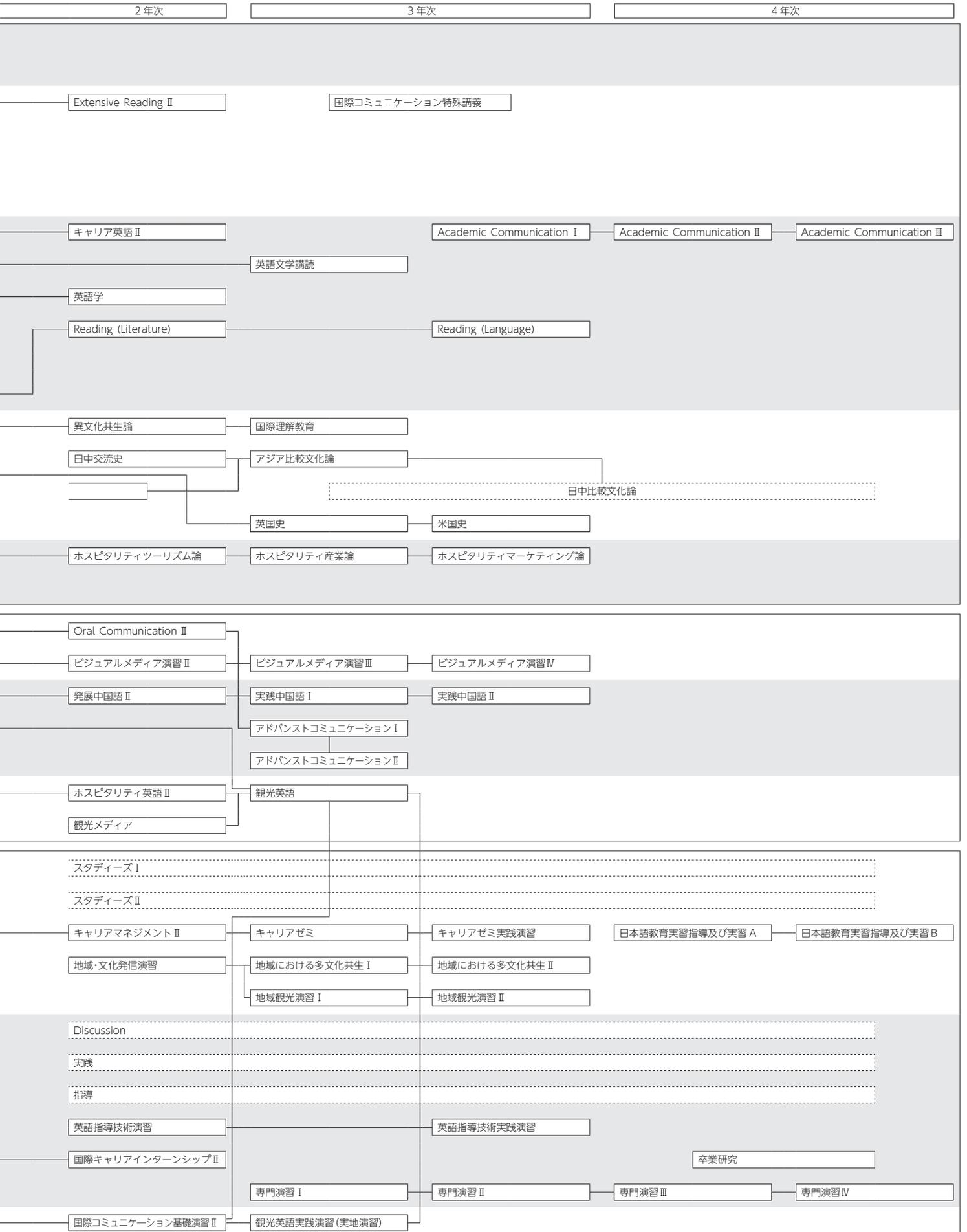
IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

文学部 国際コミュニケーション学科 履修系統図



教育課程（授業科目一覧・単位数など） 国際コミュニケーション学科

※カリキュラムポリシー（CP）はP86・87を参照してください。



●社会学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

社会学部は、社会科学の諸領域の専門知識・技能等を修得するとともに、自他の相互理解による調和・協調の精神を基盤とし、グローバル化する社会において主体的に行動し、他者との協働により社会的課題に取り組むことができる人材の育成を目的としています。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- ① 人間・社会・文化に対する専門的な知識・技能
社会科学が対象とする人間・社会・文化の諸事象について、幅広い関心を持ち、専門的な知識・技術を身に付け、自ら思考し判断することができる。
- ② 異なる価値をもつ他者を受容して調和を図れる豊かな人間性
コミュニケーションを通じて、自己を他者に伝えるとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解して様々な価値観を受け入れ、他者との調和を図ることができる。
- ③ 社会（組織）に活かせる課題解決能力
社会（組織）の様々な課題について、自らの主体的な取り組みや他者との協働によって解決し、自己の能力を社会に活かすことができる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

社会学部では、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)として示した能力を修得するために、学部共通科目、各学科の学科共通領域、学科専門コース・領域によってカリキュラムを編成しています。

【教育課程の編成、教育内容】

- 1) 学部共通科目 社会や様々な業界・職種に対する理解を段階的に深め、社会での活躍につながるよう、1年次の共通教育科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を受けて、2年次・3年次に各学科の特性に見合った内容でキャリア科目を設けています。
- 2) 学科共通領域 各学科の学修の基礎や中核となる科目を配置しています。1・2年次には基礎的な知識・技能やコミュニケーション能力を身につけるための少人数による主体的・実践的な科目を設置し、また3・4年次にはより専門的な知識・技能を深め主体的に思考し課題を解決する能力を養う演習科目を設けています。
- 3) 学科専門コース・領域 学生の興味関心や卒業後の進路に応じた能力・資質を形成するため、効果的かつ自由度の高い幅広い学びができるように、各学科の特色ある専門的な科目を体系的に編成した専門コース・領域を設けています。

【教育方法】

- 1) 専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図ります。
- 2) 他者と協働して社会や世界で活躍するための基盤として、言語の運用能力の深化による自他の相互理解のほか、ICTの活用をも含めたコミュニケーション能力を高めることを目指します。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 講義や演習などの科目については、教育内容や形態に応じて、定期試験、中間試験などの小テスト、課題レポート、コメントシート、学生による自己評価・相互評価、ルーブリックによるパフォーマンス評価など、多面的に適切な方法を用いて評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

社会学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受ける条件として、以下のような資質・能力をもつ人物を受け入れることを方針とし、試験や審査を行います。

- 1) 社会科学の諸領域の専門知識・技能等を学ぶのに必要な基礎学力を有すること。
〔求める要素：知識・技能〕
- 2) 人間・社会（世界）・文化に対する様々な事柄に関心をもち、専門的な知識・技能を身につけ、課題を発見し解決する意欲を有すること。〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力〕
- 3) 他者や社会との関係において、自ら主体的に思考し実践するとともに、異なる価値をもつ他者や異文化を理解し、他者と協働してものごとに取り組む姿勢をもつこと。〔求める要素：主体性、多様性、協働性〕

●社会学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

社会学科は、個人から社会全体にいたる複雑な諸相に対して、客観的かつ多角的にものごとをとらえ、さまざまな課題の発見と理解、そして解決にむけて横断的に思考することができる、また、多様な人びとが活躍する社会の実現に向け、さまざまな価値観を認め、他者と協働することができる人材の育成を目的とします。その学びは、一人ひとりがより充実した人生を実現していくうえで重要なものです。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

- ① 関心・意欲・態度
ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。
- ② 知識・技能
人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。
- ③ 思考力・判断力、表現力
自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらにICTを活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。
- ④ 主体性・多様性・協働性
多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

社会学科は、現代社会で活躍しうる能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の4コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、4年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践します。

- 1) 演習：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決する力を養います。1年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次からの「演

習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。

- 2) 人間・社会コース：社会学的なものの見方や考え方、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。1年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 3) 地域・メディアコース：ローカルからグローバル、メディアを媒介したものまで、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。1年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 4) 心理コース：人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 5) 歴史コース：歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

【教育方法】

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

- 1) 講義形式：ICTや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。
- 2) (フィールドワークを含む) 実習形式：自らの興味関心に即して課題を設定し、ICTを活用しながら調査・分析する技能を身につける。
- 3) 演習形式：主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。
- 2) 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。

〈入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)〉

社会学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関するさまざまなテーマについて深い興味関心があること
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 2) あたり前のものの見方を疑い、さまざまな角度からものごとをとらえようとする事
〔求める要素：思考力・判断力、表現力〕
- 3) 社会学科の学びに必要な読解力や論理的思考力、表現力を有すること
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕
- 4) 個人や社会に関するさまざまな課題に対して、他者と協働しながら積極的に取り組んでいく意欲があること
〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身につけるべき能力				ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③	④			
学 科 共 通 領 域	K3010	基礎演習 I	2		3~4		不可	○	○	○	◎	SSFA2001a0		
	K3015	基礎演習 II	2		3~4		不可	○	○	○	◎	SSFA2002a0		
	K3020	演習 I	2		5~6		不可	○	○	◎	◎	SSFA3003a0		
	K3025	演習 II	2		5~6		不可	○	○	◎	◎	SSFA3004a0		
	K3030	演習 III	2		7~8		不可	○	○	◎	◎	SSFA3005a0		
	K3035	演習 IV	2		7~8		不可	○	○	◎	◎	SSFA3006a0		
	K3040	卒業研究		4	7~8		不可	○	○	◎	◎	SSFA3007a0		
	K3045	社会学概論	②		1~2	S	不可	◎	○			SSFA1008a0		
	K3050	社会学理論 I		②	1~2	W		◎	○			SSFA2009a0		
	K3055	社会学理論 II		②	5~6			○	◎	○		SSFA3010a0		
	K3060	実験・調査データ処理		2	1~2	R6年度 開講せず			◎	○		SSFA1011a0		
	K3065	社会調査法		②	1~2	S	不可	○	◎			SSFA1012a0		
	K3070	標本調査法		2	3~4		不可		◎	○		SSFA2013a0		
	K3075	質的調査法		2	5~6		不可		◎	○	○	SSFA3014a0		
	K3080	資料・データ分析		2	3~4				◎	○		SSFA2015a0		
	K3085	基礎統計学		2	3~4				◎	○		SSFA2016a0		
	K3090	社会統計学		2	5~6					◎	○	SSFA3017a0		
	K3095	社会調査実習A		1	5~6				○	○	◎	○	SSFA3018a0	
	K3100	社会調査実習B		1	5~6				○	○	◎	○	SSFA3019a0	
	K3105	フィールドワーク入門		2	1~2	W			◎	○			SSFA1020a0	
	K3110	フィールドワーク演習		2	3~4				○	◎	◎	○	SSFA2021a0	
	K3115	社会科教育研究 I		2	3~4				○	◎		○	SSFA2022a0	
	K3120	社会科教育研究 II		2	3~4				○	◎		○	SSFA2023a0	
	K3125	情報処理実践演習 I		2	1~2	R6年度 開講せず				○	○		SSFA1024a0	
	K3130	情報処理実践演習 II		2	3~4					○	○		SSFA2025a0	
	K3135	インターンシップ実践		2	3~4				○			◎	SSFA3026a0	
	K3140	英語で話す日本の社会と文化		2	5~6				○	○		○	SSFA3027b0	
			特殊講義(注1)		2									
	人 間 ・ 社 会 コ ー ス	K3145	社会病理学	②		1~2	W	不可	◎	○			SSFB1028a0	
		K3160	犯罪社会学		2	3~4			○	◎			SSFB2029a0	
		K3165	刑事司法の社会学		2	5~6			○	◎			SSFB3030a0	
		K3170	家族社会学	②		3~4			◎	○			SSFB1031a0	
		K3175	家族関係論		2	3~4			◎	○			SSFB2032a0	
K3180		ジェンダー論	②		5~6			◎	○			SSFB3033a0		
K3185		産業社会学	②		3~4			◎	○	○		SSFB1034a0		
K3190		社会政策論		2	5~6			○	◎	○		SSFB2035a0		

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身につけるべき能力				ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③	④			
人間・社会 コース	K3195	社会階層論		2	5～6			○	◎	○		SSFB2036a0		
	K3200	現代社会論		②	3～4			◎	○			SSFB2037a0		
	K3205	社会意識論		②	3～4			○	◎			SSFB2038a0		
	K3210	宗教社会学		2	5～6			○	◎			SSFB2039a0		
	K3215	教育社会学		2	5～6			○	◎		○	SSFB2040a0		
	K3220	法学(国際法を含む)		②	1～2	S/W		◎	○			SSFB1041a0		
	K3225	経済学		②	1～2	S/W		◎	○			SSFB1042a0		
	K3230	ビジネス情報論Ⅰ		2	5～6			◎	○	○		SSFB3043a0		
	K3235	ビジネス情報論Ⅱ		2	5～6			◎	○	○		SSFB3044a0		
	K3240	マーケティング論		2	5～6			○	◎			SSFB2045a0		
	K3245	哲学概論		②	1～2	S		◎	○			SSFB1046a0		
	K3250	宗教学		②	3～4			◎	○			SSFB1047a0		
	K3255	近代思想史		2	5～6			◎	○			SSFB2048a0		
専門教育科目	K3260	文化研究概論	2		1～2	S/W	不可	◎	○			SSFC1049a0		
	K3265	マス・メディア論		②	1～2	W		◎	○			SSFC1050a0		
	K3270	ジャーナリズム論		2	3～4			◎	○			SSFC2051a0		
	K3275	エンターテインメント論		2	3～4			◎	○	○		SSFC2052a0		
	K3280	ポピュラー音楽論		2	3～4			◎	○	○		SSFC2053a0		
	K3285	ポピュラーカルチャー論		2	5～6			○	◎	○		SSFC3054a0		
	K3290	メディア文化論		2	5～6			○	◎	○		SSFC3055a0		
	K3295	コンテンツ産業論		2	5～6			○	◎	○		SSFC2056a0		
	K3300	広報・広告論		2	5～6			◎	○			SSFC2057a0		
	地域・メディア コース	K3305	都市社会学		2	3～4			◎	○			SSFC1058a0	
		K3310	地域社会学		2	5～6			○	◎	○		SSFC3059a0	
		K3315	地域開発論		2	3～4			◎	○	○		SSFC2060a0	
		K3320	まちづくり論		2	3～4			◎	○	○		SSFC2061a0	
		K3325	環境社会学		2	3～4			○	◎	○		SSFC2062a0	
		K3330	環境問題論		2	3～4			◎	○	○		SSFC2063a0	
		K3335	医療社会学		2	5～6			○	◎		○	SSFC2064a0	
		K3340	スポーツ社会学		2	5～6			○	◎			SSFC2065a0	
K3345		異文化コミュニケーション論		2	3～4			○	◎	○		SSFC1066a0		
K3350		文化人類学		2	3～4			○	◎	○		SSFC2067a0		
K3355	国際問題論		2	1～2	S		◎	○			SSFC1068a0			
K3360	国際社会学		②	5～6			○	◎			SSFC2069a0			
K3365	国際政治論		②	5～6			○	◎			SSFC2070a0			
K3370	国際経済論		②	3～4			◎	○	○		SSFC2071a0			

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身につけるべき能力				ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③	④		
地域 メディア コース	K3375	国際ビジネス論		2	5～6			○	◎			SSFC3072a0	} (*1)
	K1645	日中比較文化論		2	7～8			○	◎			SSFC3073a0	
	K1630	アジア文化概説		2	1～2	W		◎	○			SSFC1074a0	
心理 コース	K3380	入門心理学	②		1～2	S	不可	◎	○			SSFD1075a0	
	K3385	心理学概論		2	1～2	W	不可	◎	○			SSFD1076a0	
	K3390	心理学実験法		2	1～2	W	不可		◎			SSFD1077a0	
	K3395	心理測定法概論		2	3～4		不可		◎			SSFD1078a0	
	K3400	心理学基礎実験Ⅰ		2	3～4		不可		○	◎	○	SSFD2079a0	
	K3405	心理学基礎実験Ⅱ		2	3～4		不可		○	◎	○	SSFD2080a0	
	K3410	認知心理学		2	3～4			○	◎			SSFD2081a0	
	K3415	発達心理学		2	3～4			○	◎			SSFD2082a0	
	K3420	学習心理学		2	5～6			○	◎			SSFD2083a0	
	K3425	人格心理学		2	3～4			○	◎			SSFD2084a0	
	K3430	幼児児童心理学		2	5～6			○	◎			SSFD2085a0	
	K3435	臨床心理学	②		3～4			○	◎			SSFD2086a0	
	K3440	カウンセリング理論		2	3～4		不可	○	◎			SSFD2087a0	
	K3445	カウンセリング方法論		2	5～6		不可	○	◎		○	SSFD3088a0	
	K3450	心理検査法演習		2	5～6		不可		◎	○		SSFD3089a0	
	K3455	職場メンタルヘルス		2	5～6			○	◎		○	SSFD3090a0	
	K3460	社会心理学	②		3～4			○	◎			SSFD2091a0	
	K3465	産業組織心理学		2	5～6			○	◎			SSFD3092a0	
	K3470	コミュニティ心理学	②		5～6			○	◎		○	SSFD3093a0	
	K3475	対人関係の心理学		2	5～6			○	◎			SSFD2094a0	
K3480	犯罪心理学		2	3～4			◎	○			SSFD2095a0		
K3485	犯罪捜査の心理学		2	5～6		不可	○	◎		○	SSFD3096a0		
歴史 コース	K3490	入門歴史学	②		1～2	S/W	不可	◎	○			SSFE1097a0	
	K3495	日本史概説Ⅰ		②	1～2	W		◎	○			SSFE1098a0	
	K3500	日本史概説Ⅱ		②	1～2	W		◎	○			SSFE1099a0	
	K3505	日本史研究Ⅰ		②	3～4			○	◎			SSFE2100a0	
	K3510	日本史研究Ⅱ		②	3～4			○	◎			SSFE2101a0	
	K3515	日本思想史		②	1～2	W		◎	○			SSFE1102a0	
	K3520	西洋史		②	3～4			◎	○			SSFE2103a0	
	K3525	中国史		②	3～4			◎	○			SSFE2104a0	
	K3530	アジア史		②	3～4			◎	○			SSFE2105a0	
	K3535	歴史学特論(日本史)		②	5～6			○	◎			SSFE3106a0	
K3540	歴史学特論(外国史)		②	5～6			○	◎			SSFE3107a0		

●社会学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 Semester	開講 学期	他学部・ 他学科履修	身につけるべき能力				ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③	④		
歴史 コース 専門教育科目	K3545	史料講読		②	5～6				◎	○	○	SSFE3108a0	(*1) 集中講義
	K3550	人文地理学		②	5～6			◎	○			SSFE2109a0	
	K3555	自然地理学		②	5～6			◎	○			SSFE2110a0	
	K3560	地理学特論		②	5～6			○	◎			SSFE2111a0	
	K3565	地誌		②	5～6			○	◎			SSFE2112a0	
	K1640	日中交流史		2	3～4			○	◎			SSFE2113a0	
	K3570	地域史研究		②	5～6			○	◎			SSFE2114a0	
	K1655	生涯学習概論		2	1～2	W	不可	◎	○		○	SSFE1115a0	
	K1650	博物館概論		2	1～2	S	不可	◎	○		○	SSFE1116a0	
	K1665	博物館展示論		2	3～4		不可	○	◎			SSFE2117a0	
	K1660	博物館資料論		2	3～4		不可	○	◎		○	SSFE2118a0	
	K1670	博物館教育論		2	3～4		不可	○	◎			SSFE2119a0	
	K1675	博物館経営論		2	5～6		不可	○	◎			SSFE3120a0	
	K1680	博物館資料保存論		2	5～6		不可	○	◎		○	SSFE3121a0	
	K1685	博物館情報・メディア論		2	5～6		不可	○	◎			SSFE3122a0	
	K1690	博物館実習A		1	5～6		不可	○	○	◎	◎	SSFE2123a0	
	K1695	博物館実習B		1	7～8		不可	○	○	◎	◎	SSFE3124a0	
	K1700	博物館実習C		1	7～8		不可	○	○	◎	◎	SSFE3125a0	
学部共通	K1010	キャリアマネジメントⅠ		2	3～4						◎	SSFF1126a0	
	K1015	キャリアマネジメントⅡ		2	3～4						◎	SSFF1127a0	
	K1020	キャリアゼミ		2	5～6						◎	SSFF2128a0	
	K1025	キャリアゼミ実践演習		2	5～6						◎	SSFF3129a0	
卒業に必要な最低修得単位数			22	66									

(注1) 授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ2単位付与する。

(*1) 当該科目は、中国へ留学し所定の科目を終了すると、本学の単位として評価の対象となる科目です。留学前に既に単位修得している科目は、留学後に重複して評価できません。

今後、中国への留学を考えている学生は、履修前に担当教員に必ず相談をしてください。

※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。

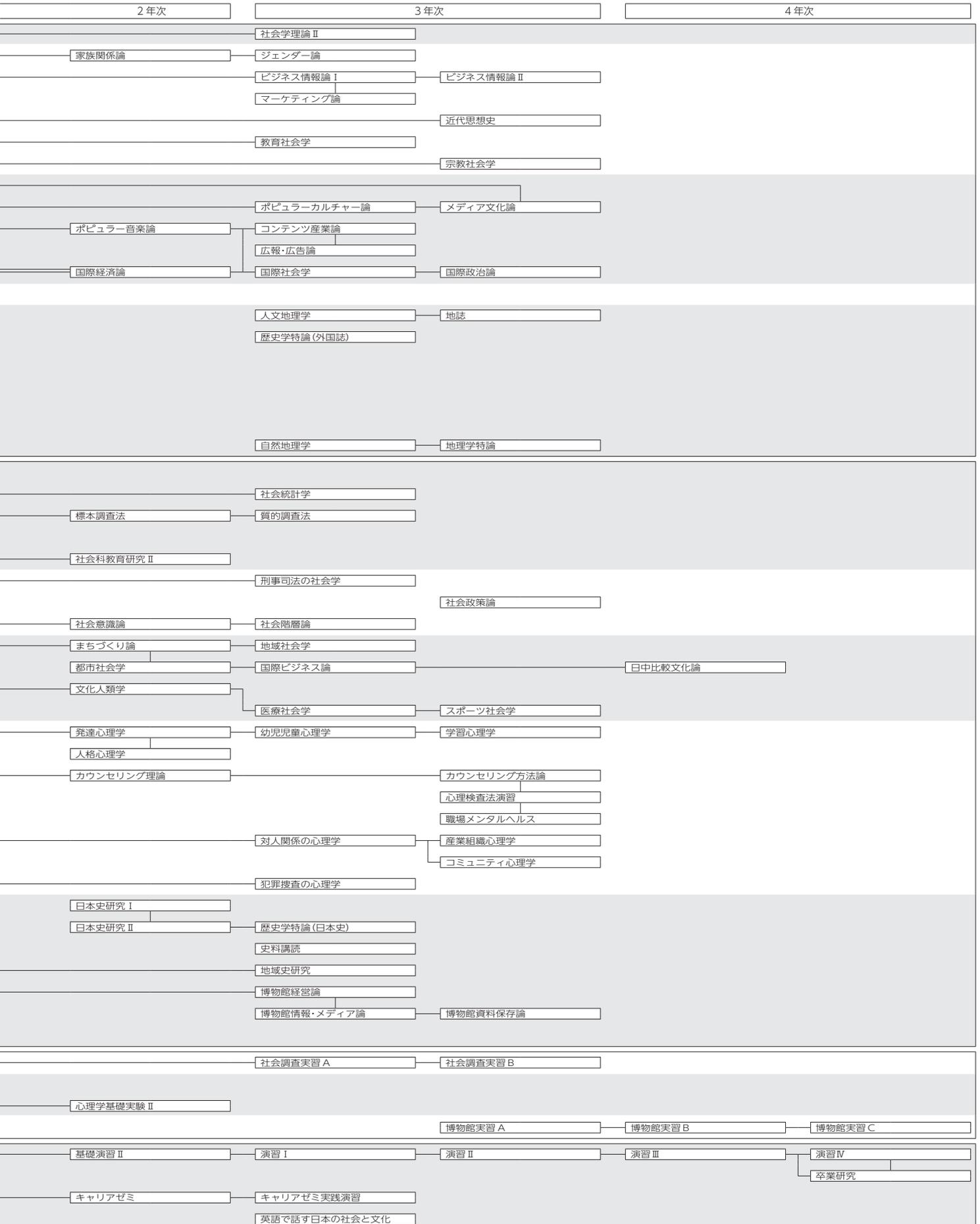
IBU.net上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

社会学部 社会学科 履修系統図

身につけるべき能力	分野	1年次	2年次	
① 関心・意欲・態度 ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。	学科共通	社会学概論	社会学理論 I	
	人間・社会	法学(国際法を含む)	経済学	家族社会学 産業社会学
		哲学概論		宗教学
	地域・メディア	マス・メディア論	文化研究概論 アジア文化概説	ジャーナリズム論 エンターテインメント論 環境社会学
	心理	入門心理学	心理学概論	
歴史	入門歴史学	日本史概説 I 日本史概説 II 日本思想史	西洋史 中国史 アジア史 日中交流史	
② 知識・技能 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。	学科共通	社会調査法	実験・調査データ処理 資料・データ分析 基礎統計学	
	人間・社会		情報処理実践演習 I	情報処理実践演習 II 社会科教育研究 I
			社会病理学	犯罪社会学
	地域・メディア			現代社会論 地域開発論 異文化コミュニケーション論
	心理			認知心理学 臨床心理学 社会心理学 犯罪心理学
歴史	博物館概論	生涯学習概論	博物館教育論 博物館展示論 博物館資料論	
③ 思考力・判断力・表現力 自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらに ICT を活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。	学科共通		フィールドワーク入門	
	心理		フィールドワーク演習	
	歴史	心理学実験法	心理測定法概論 心理学基礎実験 I	
④ 主体性・多様性・協働性 多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。	学部・学科共通	大学基礎演習 I	大学基礎演習 II	
			基礎演習 I	
		キャリアマネジメント I	キャリアマネジメント II インターンシップ実践	

教育課程(授業科目一覧・単位数など) 社会学科

※カリキュラムポリシー（CP）はP95・96を参照してください。



●人間福祉学科

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

人間福祉学科は、人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察することによって、現実的な目標に取り組み、共生社会のコミュニティづくりのために、地域住民等と連携しながら、地域の潜在化したニーズを発見し、分野横断的な支援体制の構築をめざす人物を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の5点とします。

- ① コミュニケーション能力
他者の話を傾聴し説明もわかりやすく、状況に合わせた非言語的表現力も適切で、円滑なコミュニケーションをとることができる。
- ② 問題解決能力
社会福祉に関する問題を発見、情報を収集・分析し明確化した上で言語化できる。問題の重要性や緊急性から優先順位を考え、解決に向けて行動できる。
- ③ 社会福祉に関する専門技術・知識の修得
支援の対象者等の背景、属性、価値観の多様性を理解し、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって、社会に貢献できる。
- ④ エコロジカル思考
人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、必要な課題を見出し、課題克服のために主体的に取り組むことができる。
- ⑤ イノベーション力
社会福祉専門職としての明確なビジョンを持ち、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察し、現実的な目標を設定できる。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。

1) 1年次

自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視聴覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。社会福祉学をさまざまな視点から学修するために、「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。

2) 2年次

社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導A・B」「ソーシャルワーク実習A」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク

業務の実際について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を体得します。

3) 3年次

「ソーシャルワーク実習B」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を含め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。

4) 4年次

「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。

【教育方法】

- 1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- 2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
- 3) 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
- 4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
- 5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を図る。
- 6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
- 3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
- 4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。
- 5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
- 6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
- 7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Bまで縦断的な評価を行う。
- 8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、コンピテンシーの評価を行う。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

人間福祉学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 他人の話に耳を傾けることができること。 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 2) 少子高齢化など社会的問題に関心を持っていること。 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 3) 相談援助の知識や技術を高めようとする目標を持っていること。 [求める要素：知識・技能、思考力]
- 4) 違う価値観の人と協働して、物事に取り組むことができること。
[求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力]
- 5) ボランティアなどの活動に関わり実践から学ぼうとする意欲があること。
[求める要素：主体性・多様性・協働性]

●人間福祉学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		社会 福祉士	精神 保健 福祉士	社会 福祉 主事	配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力					ナンバリング コード	備考
			必修	選択						①	②	③	④	⑤		
社会福祉領域 専門教育科目	K4010	社会福祉の原理と政策Ⅰ		②	○	●		1～2	S			◎			SHGA1001a0	人間福祉学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
	K4015	社会福祉の原理と政策Ⅱ		2	○	●		1～2	W			◎			SHGA1002a0	
	K4020	社会保障Ⅰ		②	○	●		5～6			○	◎			SHGA3003a0	
	K4025	社会保障Ⅱ		②	○	●		5～6			○	◎			SHGA3004a0	
	K4030	貧困に対する支援		②	○			3～4				◎			SHGA3005a0	
	K4035	保健医療と福祉		2	○			3～4				◎			SHGA3006a0	
	K4040	権利擁護を支える法制度		②	○	●		5～6				◎			SHGA3007a0	
	K4045	刑事司法と福祉		②	○	●		5～6				◎			SHGA3008a0	
	K4050	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		②	○	●		3～4				○	◎		SHGA3009a0	
	K4055	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		②	○	●		3～4			◎	○			SHGA3010a0	
	K4060	福祉サービスの組織と経営		2	○			5～6				◎			SHGA3011a0	
	K4065	医学概論		2	○	●		1～2	W			◎			SHGA1012a0	
	K4070	心理学と心理的支援		②	○	●		1～2	S			◎	○		SHGA1013a0	
	K4075	社会学と社会システム		②	○	●		1～2	W		◎			○	SHGA1014a0	
	K4080	社会福祉調査の基礎		②	○	●		5～6				◎			SHGA3015a0	
	K4085	高齢者福祉		②	○		△	3～4				◎			SHGA2016a0	
	K4090	児童・家庭福祉		②	○		△	3～4				◎			SHGA2017a0	
	K4095	障害者福祉		②	○	●	△	3～4				◎			SHGA2018a0	
	K4100	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		2	○	●	△	1～2	S			◎	○		SHGA1019a0	
	K4105	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		②	○	●	△	1～2	W			◎	○		SHGA1020a0	
	K4110	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		②	○	●		3～4				◎	○		SHGA2021a0	
	K4115	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		②	○	●		3～4				◎	○		SHGA2022a0	
	K4120	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		②	○			5～6				◎	○		SHGA3023a0	
	K4125	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		②	○			5～6				◎	○		SHGA3024a0	
	K4130	ソーシャルワーク演習Ⅰ(注2)		②	○	●		1～2	W	◎		○			SHGA1025a0	
	K4135	ソーシャルワーク演習Ⅱ(注2)		②	○	●		3～4			◎	○			SHGA2026a0	
	K4140	ソーシャルワーク演習Ⅲ(注2)		2	○	●		3～4				◎	○		SHGA2027a0	
	K4145	ソーシャルワーク演習Ⅳ(注2)		2	○	●		5～6					◎	○	SHGA3028a0	
	K4150	ソーシャルワーク演習Ⅴ(注2)		2	○	●		5～6					◎		SHGA3029a0	
	K4155	ソーシャルワーク実習指導A(注2)		②	○			3～4		◎		○			SHGA2030a0	
	K4160	ソーシャルワーク実習指導B(注2)		②	○			3～4		○		◎			SHGA2031a0	
	K4165	ソーシャルワーク実習指導C(注2)		2	○			5～6			○	◎			SHGA3032a0	
K4170	ソーシャルワーク実習A(注2)		2	○			3～4				○	◎		SHGA3033a0		
K4175	ソーシャルワーク実習B(注2)		4	○			5～6				○	◎	○	SHGA3034a0		
K4180	介護福祉		②				3～4			○		◎		SHGA2035a0		
K4185	介護演習		②				3～4			○		◎		SHGA3036a0		

●人間福祉学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		社会 福祉士	精神 保健 福祉士	社会 福祉 主事	配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力					ナンバリング コード	備考	
			必修	選択						①	②	③	④	⑤			
社会福祉領域	K4190	就労支援		2				5~6				◎			SHGA3037a0	人間福祉学科の専門 教育科目は他学部・他 学科の学生が履修す ることはできない。 * 1	
	K4195	加齢・障害の研究		②				5~6				○			SHGA1038a0		
	K4200	人体・生活の研究		②				5~6				○			SHGA1039a0		
	K4205	高齢者支援と福祉		②				3~4				◎			SHGA3040a0		
	K4210	障害者支援と福祉		②				3~4				◎			SHGA3041a0		
	K4215	児童・家庭支援と福祉		②				3~4				◎			SHGA3042a0		
	K4220	福祉法学		②				1~2	R6年度 開講せず			◎			SHGA1043a0		
	K4225	社会福祉法制論		2				5~6				◎			SHGA3044a0		
	K4230	社会と人間		②				1~2	R6年度 開講せず			○			SHGA1045a0		
	K4235	家族社会学		②				1~2	S			○			SHGA1046a0		
	K4240	地域社会学		②				3~4				○			SHGA2047a0		
	K4245	人間福祉演習Ⅰ		2				5~6				○		◎	SHGA3048a0		
	K4250	人間福祉演習Ⅱ		2				5~6				○		◎	SHGA3049a0		
	K4255	人間福祉演習Ⅲ		2				7~8				○		◎	SHGA3050a0		
	K4260	人間福祉演習Ⅳ		2				7~8				○		◎	SHGA3051a0		
	K4265	卒業研究		4				7~8				○		◎	SHGA3052a0		
		人間福祉特殊講義(注1)		2									◎				
	専門教育科目	K4270	精神医学と精神医療Ⅰ		2		●		5~6				◎				SHGB3053a0
		K4275	精神医学と精神医療Ⅱ		2		●		5~6				◎				SHGB3054a0
		K4280	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ		2		●		3~4				○	◎			SHGB2055a0
K4285		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ		2		●		3~4				○	◎		SHGB2056a0		
K4290		精神保健福祉の原理Ⅰ		2		●		3~4				◎	○		SHGB2057a0		
K4295		精神保健福祉の原理Ⅱ		2		●		3~4				◎	○		SHGB1058a0		
K4300		精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2		●		5~6				◎	○		SHGB3059a0		
K4305		精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2		●		5~6				◎	○		SHGB3060a0		
K4310		精神障害リハビリテーション論		2		●		5~6				◎	○		SHGB3061a0		
K4315		精神保健福祉制度論		2		●		5~6				◎	○		SHGB3062a0		
K4320		精神保健福祉援助演習Ⅰ(注3)		2		●		5~6				○	◎		SHGB2063a0		
K4325		精神保健福祉援助演習Ⅱ(注3)		2		●		7~8				○	◎		SHGB3064a0		
K4330		精神保健福祉援助演習Ⅲ(注3)		2		●		7~8						◎	SHGB3065a0		
K4335		精神保健福祉援助実習指導A(注3)		2		●		5~6				○	◎		SHGB1066a0		
K4340		精神保健福祉援助実習指導B(注3)		2		●		7~8				○	○	◎	SHGB2067a0		
K4345		精神保健福祉援助実習指導C(注3)		2		●		7~8				○		◎	SHGB3068a0		
K4350		精神保健福祉援助実習(注3)		3		●		7~8				○	◎		SHGB3069a0		
K4355		医療福祉論		2				3~4				◎			SHGB3070a0		
K4360		ターミナルケア論		②				5~6				◎			SHGB3071a0		

●人間福祉学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		社会 福祉士	精神 保健 福祉士	社会 福祉 士事	配当 セメスター	開講 学期	身につけるべき能力					ナンバリング コード	備考
			必修	選択						①	②	③	④	⑤		
医療福祉領域	K4365	「いのち」の権利論(生命倫理と遺伝)		②				5~6				◎			SHGB3072a0	*1
	K4370	MSWインターンシップ		1				7~8			○	◎			SHGB3073a0	
心理・健康福祉領域	K4375	臨床心理学		②				1~2	W			◎	○		SHGC1074a0	人間福祉学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
	K4380	福祉心理学		②				3~4				◎	○		SHGC2075a0	
	K4385	健康心理学		2				3~4				◎	○		SHGC2076a0	
	K4390	カウンセリング理論		②				3~4				◎			SHGC2077a0	
	K4395	カウンセリング方法論		②				5~6				◎			SHGC3078a0	
	K4400	障害者スポーツ研究		2				1~2	W			◎			SHGC1079a0	
	K4405	スポーツマネジメント		2				3~4				○			SHGC2080a0	
	K4410	レクリエーション活動援助論Ⅰ		2				3~4				◎			SHGC1081a0	
	K4415	レクリエーション活動援助論Ⅱ		2				3~4				◎			SHGC2082a0	
	K4420	リハビリテーション論		2				5~6				○			SHGC2083a0	
福祉マネジメント領域	K4425	ボランティア論		2				1~2	R6年度 開講せず			◎			SHGD1084a0	*1
	K4430	福祉住環境論		2				3~4				◎			SHGD2085a0	
	K4435	経済学入門		②				3~4				○			SHGD1086a0	
	K4440	国際経済学		②				5~6				○			SHGD1087a0	
学部共通	K1010	キャリアマネジメントⅠ		2				3~4		○					SHGE1088a0	
	K1015	キャリアマネジメントⅡ		2				3~4		○					SHGE2089a0	
	K1020	キャリアゼミ		2				5~6		○					SHGE3090a0	
	K1025	キャリアゼミ実践演習		2				5~6		○					SHGE3091a0	
卒業に必要な最低修得単位数			16	72												

(注1) 授業科目に関連した内容の科目を題目科目として設置し、それぞれ2単位付与する。

(注2) ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ(演習)は150時間(各30時間)、ソーシャルワーク実習A(実習)は60時間、ソーシャルワーク実習B(実習)は180時間、ソーシャルワーク実習指導A～C(実習)は90時間(各30時間)とする。

(注3) 精神保健福祉援助演習Ⅰ～Ⅲ(演習)は90時間(各30時間、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ(演習)の履修済み前提とする)、精神保健福祉援助実習(実習)は150時間(ソーシャルワーク実習の履修済み前提とする)、精神保健福祉援助実習指導A～C(実習)は90時間(各30時間)とする。

*1 「地域共創プログラム」関連科目のため、「地域共創プログラム」取得を目指す文学部・社会学部・経営学部の学生に限り、他学部・他学科履修を可とする。

※履修する際の注意点 次ページ参照。

履修する際の注意点

- 1 専門教育科目表の○の記号は社会福祉士国家試験受験資格、●の記号は精神保健福祉士国家試験受験資格および△の記号は社会福祉主事任用資格取得に必要な科目を示している。なお、社会福祉士国家試験受験資格指定科目については、p.242の「社会福祉士国家試験受験資格」、精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目については、p.246の「精神保健福祉士国家試験受験資格」を参照のこと。

○、●等：社会福祉士国家試験受験資格および精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

△：社会福祉主事任用資格取得指定科目

- 2 社会福祉士国家試験受験資格指定科目ではないが、社会福祉施設長、生活指導員等に共通する専門知識として社会福祉施設の経営管理・運営・業務等の内容の学習が必要とされているので、福祉マネジメント領域も履修しておくことが望ましい。
- 3 社会福祉士国家試験受験資格指定科目の履修条件

授 業 科 目	履修条件 (左の授業科目を履修するには、下記の科目の単位を修得していることが必要)
ソーシャルワーク演習Ⅱ	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 「医学概論」「大学基礎演習Ⅱ」
ソーシャルワーク演習Ⅲ	「ソーシャルワーク演習Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導A」
ソーシャルワーク演習Ⅳ	「ソーシャルワーク演習Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導B」 「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「介護福祉」「高齢者福祉」 「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」 「貧困に対する支援」「ソーシャルワーク実習A」
ソーシャルワーク実習指導A	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 「医学概論」「大学基礎演習Ⅱ」
ソーシャルワーク実習指導B ソーシャルワーク実習A	「ソーシャルワーク実習指導A」
ソーシャルワーク実習指導C ソーシャルワーク実習B	「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク実習A」 「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」 「介護福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」 「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」「貧困に対する支援」

- 4 精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目の履修条件

授 業 科 目	履修条件 (左の授業科目を履修するには、下記の科目の単位を修得していることが必要)
精神保健福祉の原理Ⅰ	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」
精神保健福祉の原理Ⅱ	「精神保健福祉の原理Ⅰ」
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」
精神保健福祉援助実習指導A	「精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学と精神医療Ⅰ」 「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ」 「精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」
精神保健福祉援助実習指導B 精神保健福祉援助実習	「ソーシャルワーク実習B」、「精神保健福祉援助実習指導A」 「精神医学と精神医療Ⅱ」、「精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」
精神保健福祉援助実習指導C	「精神保健福祉援助実習指導B」
精神保健福祉援助演習Ⅱ	「精神保健福祉援助実習指導A」
精神保健福祉援助演習Ⅲ	「精神保健福祉援助演習Ⅰ」、「精神保健福祉援助実習指導B」

5 MSW インターンシップ（7セメ〜）履修要件（目安）

MSW（医療ソーシャルワーカー）として医療機関に就職を目指す場合、医療機関側はMSWを医療関係の専門職と扱うため、社会福祉士有資格を必須要件としている。つまり、大学卒業年度に社会福祉士国家試験に合格することが要件となる。

また、医療機関への就職と連動する科目であるため、MSW インターンシップを受け入れる医療機関の意向に沿う学生の履修を優先する。

以下は、履修のための例年の目安である。

- ① MSW インターンシップの受け入れ先である、医療機関の要望に沿う学生であること。
- ② 卒業年度に社会福祉士国家試験の合格が見込まれる者。
- ③ 社会福祉士国家試験受験資格指定科目である「保健医療と福祉」「ソーシャルワーク実習指導 ABC」「ソーシャルワーク実習 A・B」の評価が良好な者。
- ④ 原則として、6セメ終了時にすべての「社会福祉士国家試験受験資格指定科目」の単位取得済みである者。

※③④については、編入生は除く。

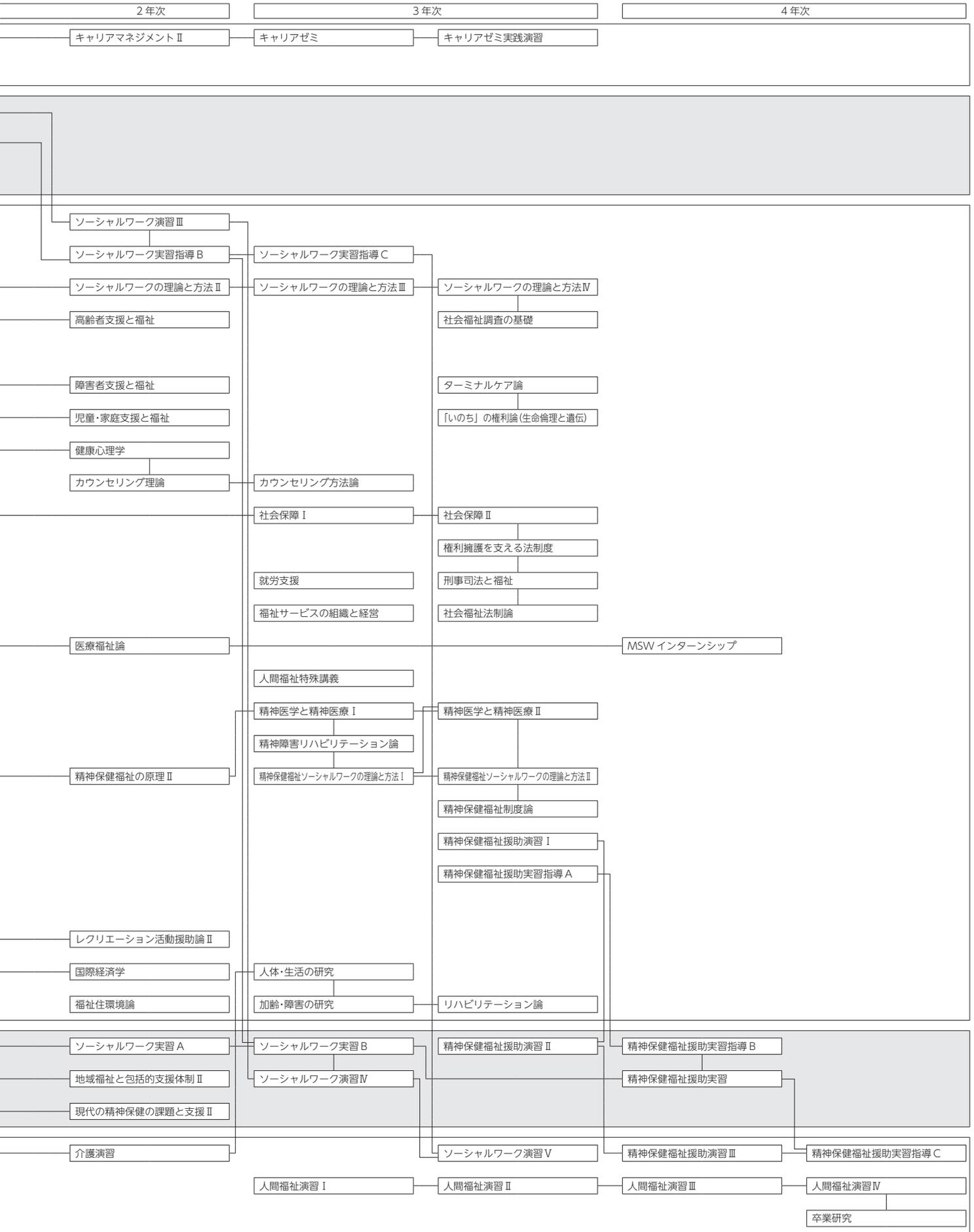
※②③④については学業全体の成績や意欲も確認し、面接を行う場合がある。

【選抜試験等】

「精神保健福祉援助実習指導 A・B・C」、「精神保健福祉援助実習」、「精神保健福祉援助演習 I・II」の最大定員は20名。これらの科目の履修にあたっては、上記の履修条件の他、4セメスターもしくは5セメスター時に実施する選抜試験への合格が必要となる。選抜試験は希望者に対して面接を実施し、学業全体の成績、意欲、指定科目の履修状況等を参考に判定する。

なお、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のためには、社会福祉士国家試験受験資格のための指定科目修得が必要となる。

※カリキュラムポリシー（CP）はP104・105を参照してください。



●教育学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学部は、社会の急激な変化の中で、子どもを取り巻く多様な現代的課題に、幅広い視野で俯瞰的に捉え、子ども一人一人に適した学びと協働的な学びの在り方を追究します。

未来を拓く子どもたちのために、教育者、保育者としての専門的知識・技能の修得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの成長と発達を促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、地域社会や学校・保育施設等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる教育者・保育者の養成を目的とします。

教育者、保育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までには学生が身につけるべき資質・能力は、次の3点です。

1) 多様な子どもを取り巻く現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および教育者、保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々のニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

2) 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的知識・技能と実践力を追究する力

学校・保育施設等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICTや教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。

3) 変化する社会、学校・保育施設等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。

以上、教育者、保育者として未来を担う子どもの成長と発達を支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働の力」を発揮する教育者、保育者の養成に取り組みます。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

教育学部は「学校教育コース」と「幼児教育保育コース」の2コースを設定し、ディプロマ・ポリシーに基づく教育者・保育者としての専門的知識・技能および実践力、指導力を備えた人材を育成するため、次のような科目領域により教育内容を編成します。

学校教育コースの教育課程は、『教職一般領域』『初等教育領域』『コース共通領域』『選修領域』『教育・子ども理解領域』の5領域で実施します。

『選修領域』は、[小学校選修][英語選修][数学選修][理科選修][保健教育選修][特別支援教育選修]の6選修で構成し、各学校種の教員免許状取得に必要な科目を配置しています。また、『教育・子ども理解領域』では、児童・生徒の多様性を理解し、成長と自己実現を支援し、ケアしていくための教育理論を修得します。

幼児教育保育コースの教育課程は、『教職一般領域』『コース共通領域』『幼児教育保育領域』『初等教育領域』の4領域で編成します。幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、小学校教諭一種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための科目を配置

します。

さらに、教育・保育現場での実践的な学びを推進する「インターンシップ」等の科目を設定し、大学で学修する教育理論との往還により、教育者、保育者としての資質・能力を養成するカリキュラムを編成します。

- 1) 『教職一般領域』では、教育者・保育者に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」等の科目を配置します。
- 2) 『コース共通領域』では、教育・保育現場と大学の学びとを往還させ、豊かな人間性と確かな実践力・指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ・Ⅱ」「教育・ファシリテーション演習」などの科目を配置します。

1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（共通教育科目）では、大学の教育課程についての理解を深め、円滑に学修を進めていくためのアカデミックスキルを中心に学びます。続いて、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、専門的な学修に要するスキルや教職のキャリア形成に向けての指導を行います。大学基礎演習・教育基礎演習、どちらもクラス担任制で実施します。3年次の「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」では、同じゼミ担当教員が2年間継続して「卒業研究」などの指導を行います。

- 3) 幼児教育保育コースの『幼児教育保育領域』では、幼稚園教諭および保育士の養成に必要な「領域に関する専門的事項」や「保育内容の指導法」などを配置します。また『初等教育領域』では、小学校教諭の養成に必要な「教科内容論」や「教科教育法」などを配置します。
- 4) 学校教育コースでは、1年次夏学期にて「学校教育入門」を配置します。学校教育とは何か、教員をめざす気持ちを高め、4年間の学修についての理解と未来の教師像を明確にして、教職のキャリア形成を図ります。『選修』決定後の2年次からは、系統性を重視したカリキュラム編成により、専門的な理論と実践を学び、総合的な知識・技能を育成します。

4-1. [小学校選修] では、小学校の教員養成に必要な教科教育に関する教育理論や実践論である「教科内容論」「初等教科教育法」などを配置します。また、幼稚園教諭一種免許状も小学校教諭一種免許状と併せて取得することも可能です。

4-2. [英語選修][数学選修][理科選修] では、中学校・高等学校の教員養成に必要な科目として、修得する各教科に応じた「専門必修科目」「専門選択科目」「教科教育法」などを配置します。

4-3. [保健教育選修] では、子どもの多様な健康課題について考え、健全な成長発達を支援するため、「学校保健」「解剖生理学」「学校看護学」など、養護教諭をめざす上で必要な専門的科目を配置します。

4-4. [特別支援教育選修] では、特別支援教諭をめざす上で必要な「特別支援教育概論」「知的障害教育論」などの専門的科目を配置します。また、特別支援学校教諭一種免許状の取得には、小学校教諭一種免許状の取得が必要です。

4-5. 『教育・子ども理解領域』では、子どもを取り巻く環境の変化に対応し、子どもの理解を深め、教育を考える科目として、「子ども理解と人権」「インクルーシブ教育の理論と方法」「ICTと教育データの活用論」「プログラミング教育」などの科目を配置します。

学生は、カリキュラムを系統的に学び、学修すると共に、自らの学修内容を俯瞰することで、総合的な実践力・指導力を身につけ、未来の教師像に向かって自己実現を果たします。

【教育方法】

- 1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追究に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、協働での学習活動や双方向的な授業を展開します。

- 2) これまでの授業実践に ICT を効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組みます。例えば、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を図り、実践力の育成に向けた模擬授業・模擬保育（動画撮影も実施）を行うなど、ICT の利点を生かした学習の推進に努めます。また、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室などを積極的に利用し、より効果的な授業を実践します。
- 3) 最新の教育・保育現場等の情報を把握し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、および保育所等での教育者・保育者の役割等についての理解を図るため、3年次の「教育実習」に加え、1年次に現場を知る「ハローナーサリー」「ハロースクール」、2年次に現場で学ぶ「インターンシップⅠ・Ⅱ」、3年次に「インターンシップⅢ（選択）」を実施し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、および保育所等での教育活動に積極的に参加し、実践的な学びを推進します。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価の観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・教育実習（幼・小・中・高・特別支援）・養護実習・保育実習・介護等体験などの課外活動を通して、教育者、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、教職履修カルテ等）および上記 2）～ 4）等をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図る形成的アセスメントを推進します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 教育・保育に対する強い情熱をもって専門的に学びながら、子どもの多様なニーズへの共感的理解とともに、一人一人に応じた支援やケアを重視して教育・保育に取り組む熱意溢れる人
[求める要素：関心・意欲・態度]
- 2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの発達を総合的に見通して取り組むことができるように、広い視野から現代の教育課題を捉え、教育・保育活動にいかしていこうと努める人
[求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力]
- 3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人
[求める要素：主体性・多様性・協働性]

●教育学科 学校教育コース

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学科学校教育コースは、社会の急激な変化の中で、子どもを取り巻く多様な現代的課題に幅広い視野で俯瞰的に捉え、子ども一人一人に適した学びと協働的な学びの在り方を追究します。

未来を拓く子どもたちのために、教育者としての専門的知識・技能の修得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの成長と発達を促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、地域社会や学校等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的とします。

教育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までには学生が身につけるべき資質・能力は、以下の3点です。

① 多様な子どもを取り巻く現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および教育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々のニーズに共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

② 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的知識や技能と実践力を追究する力

教育の場において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICTや教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。

③ 変化する社会、学校等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。

以上、教育者として未来を担う子どもの成長と発達を支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働の力」を発揮する教育者の養成に取り組みます。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

【教育課程の編成】

教員は子どもの将来を担う重要な存在であることを学生が自覚し、卒業後、教育現場において、教科指導、生徒指導等の職務を担うことができる教員として必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって「学び続ける教員」になることを重要課題として教育課程を編成します。

教育学科学校教育コースでは、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

小学校の教員養成では、小学校教諭として必要な基礎的・専門的知識や技能の修得により、小学校教諭一種免許状を取得します。また、より深く、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、幼稚園、中学校・高等学校（英語・数学・理科）、養護教諭、特別支援学校のいずれかの教員免許状取得により、専門的知識や技能を基に、校種間で生じる問題への対応や中高の学習を見通した専門的な学習指導など、現場の多様な課題に対応できる専門性の高い小学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

中学校・高等学校の教員養成では、「英語」「数学」「理科」の中学校・高等学校教諭一種免許状を取得します。また、生徒の成長過程や生徒を取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、隣接学校種として小

学校教員免許状の取得により、現場にて幅広い課題に対応できる中学校教員・高等学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

特別支援学校の教員養成では、小学校教諭一種免許状の取得と合わせて、特別支援学校教員としての専門的知識や技能を学び、特別支援学校教諭一種免許状を取得します。様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒の学習課題についての理解を深め、現場の課題に対応できる特別支援学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

養護教諭の教員養成では、養護教諭としての専門的知識や技能の修得により、健全な成長・発達を支援する養護教諭一種免許状を取得します。さらに小学校教諭一種免許状を取得し、様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒についての理解を深め、子どものいのちと未来を護る養護教諭の育成を目標にカリキュラムを編成します。

【教育内容】

教育学科学校教育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく教員としての専門的知識および実践力、指導力を備えた人材を育成するため、次の5領域『教職一般領域』『初等教育領域』『コース共通領域』『選修領域』『教育・子ども理解領域』として教育内容を構成します。

〈全校種の教員免許状取得において必要な基礎科目〉

- 1) 教員としてのキャリア形成を行う科目として「学校教育入門」を配置します。教員をめざす学修の全体像を把握し、身につけたい専門性と未来の教師像を明確にします。
- 2) 『教職一般領域』では、教育学の基礎理論や実践論等を学び、教職の意義や教員の役割などを理解する「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」等の科目を配置します。

〈自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目〉

- 3) 『コース共通領域』では、教育現場と大学での学びとの往還により、豊かな人間性と確かな実践力・指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ・Ⅱ」などの科目を配置します。また、担任制で実施する1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（共通教育科目）、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」にてアカデミックスキルの基礎力を培い、3年次の「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」にて、同じゼミ担当教員が2年間継続して「卒業研究」などの指導を行います。

〈専門教育に関する科目〉

〔小学校選修〕〔英語選修〕〔数学選修〕〔理科選修〕〔保健教育選修〕〔特別支援教育選修〕の6選修について、教員免許状の取得に関わる学問領域の専門的知識や技能を習得します。

- 4) 〔小学校選修〕では、小学校課程の教科教育に関する基礎理論や方法論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教科教育法」などの科目を配置します。また、幼稚園教諭一種免許状取得に必要な科目や専門性を高める科目の履修も可能です。
- 5) 〔英語選修〕〔数学選修〕〔理科選修〕では、中学・高等学校の教員養成に必要な科目として、修得する各教科に応じた「専門必修科目」、「専門選択科目」「教科教育法」などを配置します。
- 6) 〔保健教育選修〕では、子どもの多様な健康課題について考え、健全な成長発達を支援するため、「学校保健」「解剖生理学」「学校看護学」など、養護教諭をめざす上で必要な専門的科目を配置します。
- 7) 〔特別支援教育選修〕では、特別支援教諭をめざす上で必要な「特別支援教育概論」「知的障害教育論」などの専門的科目を配置します。また、特別支援学校教諭一種免許状の取得には、小学校教諭一種免許状の取得が必要です。

〈変化する社会の中で生じる多様な教育課題に対峙するための関連科目〉

- 8) 『教育・子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等における現代的教育課題や多様な子どものニーズを理解し、成長と自己実現を支援するための子ども理解を深める科目として、「子ど

も理解と人権」「インクルーシブ教育の理論と方法」「ICTと教育データの活用論」「プログラミング教育」などの科目を配置します。

【教育方法】

- 1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追究に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、協働での学習活動や双方向的な授業を展開します。
- 2) 公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前とっていたことは“なぜ”そうになっているのか、“なぜ”それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掘り取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチして考えを深めます。
- 3) 情報化の進展に対応するため、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を促進し、実践力の育成に向けた模擬授業の反復練習に取り入れるなど、学習方法の改善に努めます。
- 4) 学校での実践的な学びを推進するため、1年次に「ハロースクール」、2年次に「インターンシップⅠ・Ⅱ」を経験した後、3年次の「教育実習」「養護実習」「インターンシップⅢ（選択）」に参加します。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での教育活動に積極的にに関わり、学びを深めます。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価の観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・教育実習（小・中・高・特別支援）・養護実習・介護等体験などの課外活動を通して、教育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、教職履修カルテ等）および上記2）～4）等をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図る形成的アセスメントを推進します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学科学校教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 教育に対する強い情熱を持って専門的に学びながら、子どもの多様なニーズへの共感的理解をもとに、一人一人に応じた支援やケアを重視して教育に取り組む熱意溢れる人〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの発達を総合的に見通して取り組むことが出来るように、広い視野から現代の教育課題を捉え、教育活動にいかしていこうと努める人〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
- 3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

●教育学科 学校教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
教職一般領域	K5010	教育原論	②		1～2	S/W	○	◎		EEHA1501a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
	K5015	特別支援教育	②		1～2	S	◎	○		EEHA1502a0	
	K5020	教職論	②		1～2	W	◎	○		EEHA1503a0	
	K5025	教育心理学	②		1～2	S/W	◎	○		EEHA1504a0	
	K5030	教育制度論	②		5～6		◎	○		EEHA1505a0	
	K5035	教育課程総論(小・中・高・養)		②	5～6		◎	○		EEHA1506a0	
	K5040	道徳教育の理論と方法(小・中・養)		②	3～4		◎	○		EEHA1507a0	
	K5045	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)		②	5～6		◎	○		EEHA1508a0	
	K5050	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養)	②		3～4		◎	○		EEHA1509a0	
	K5055	生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)		②	3～4		◎	○		EEHA1510a0	
	K5060	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	②		3～4		◎	○		EEHA1511a0	
	K5065	教育実習指導		①	5～6		◎	○		EEHA2512a0	
	K5070	教育実習		④	5～6			◎	○	EEHA3513a0	
	K5075	教職実践演習(教諭)		②	7～8		○	○	◎	EEHA3514a0	
初等教育領域	K5080	教科内容論(国語)	②		1～2	S	◎			EEHB1515a0	
	K5085	教科内容論(社会)	②		1～2	W	◎			EEHB1516a0	
	K5090	教科内容論(算数)	②		1～2	S	◎			EEHB1517a0	
	K5095	教科内容論(理科)	②		1～2	W	◎			EEHB1518a0	
	K5100	教科内容論(生活)		②	3～4		◎			EEHB1519a0	
	K5105	教科内容論(音楽)		②	3～4		◎			EEHB1520a0	
	K5110	教科内容論(図画工作)		②	3～4		◎			EEHB1521a0	
	K5115	教科内容論(家庭)		②	5～6		◎			EEHB1522a0	
	K5120	教科内容論(体育)		②	3～4		◎			EEHB1523a0	
	K5125	教科内容論(英語)	②		1～2	W	◎			EEHB1524c0	
	K5130	初等国語科教育法		①	1～2	W	◎	○		EEHB2525a0	
	K5135	初等社会科教育法		①	3～4		◎	○		EEHB2526a0	
	K5140	初等算数科教育法		①	1～2	W	◎	○		EEHB2527a0	
	K5145	初等理科教育法		①	3～4		◎	○		EEHB2528a0	
	K5150	初等生活科教育法		①	5～6		◎	○		EEHB2529a0	
	K5155	初等音楽科教育法		①	3～4		◎	○		EEHB2530a0	
	K5160	初等図画工作科教育法		①	5～6		◎	○		EEHB2531a0	
	K5165	初等家庭科教育法		①	5～6		◎	○		EEHB2532a0	
	K5170	初等体育科教育法		①	3～4		◎	○		EEHB2533a0	
	K5175	初等英語科教育法		①	3～4		◎	○		EEHB2534c0	
コース共通	K5180	教育基礎演習 I	2		3～4		○	◎		EEHC1535a0	
	K5185	教育基礎演習 II	2		3～4		○	◎		EEHC1536a0	

●教育学科 学校教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択			①	②	③			
コース共通	K5190	教育専門演習Ⅰ	2		5～6		◎		○	EEHC2537a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。 集中講義	
	K5195	教育専門演習Ⅱ	2		5～6		◎		○	EEHC2538a0		
	K5200	教育専門研究Ⅰ	2		7～8		◎		○	EEHC3539a0		
	K5205	教育専門研究Ⅱ	2		7～8		◎		○	EEHC3540a0		
	K5210	教育・ファシリテーション演習	1	1	1～2	W	○	◎		EEHC2541a0		
	K5215	プログラミング教育Ⅰ	2		3～4		○		◎	EEHC1542a0		
	K5220	インターンシップⅠ	2		3～4		○	◎		EEHC2543a0		
	K5225	インターンシップⅡ	1		3～4		○	◎		EEHC2544a0		
	K5230	インターンシップⅢ	1		5～6		○	○	◎	EEHC3545a0		
	K5235	卒業研究	4		7～8		◎			EEHC3546a0		
	K5240	教職研究Ⅰ	1		5～6		◎			EEHC1547a0		
	K5245	教職研究Ⅱ	1		7～8		◎			EEHC1548a0		
	K5250	教職演習Ⅰ	1		5～6		◎			EEHC1549a0		
	K5255	教職演習Ⅱ	1		5～6		◎			EEHC1550a0		
	K5260	音楽表現	1		3～4		◎			EEHC1551a0		
	K5265	運動基礎	1		1～2	W	◎			EEHC1552a0		
専門教育科目	学校教育コース	教育・子ども理解領域	K5270	学校教育入門	2		1～2	S	○	○	◎	EEHD1553a0
			K5275	学級経営の理論と方法	2		5～6		○	◎	○	EEHD2554a0
			K5280	子ども理解と人権	2		5～6		◎	○		EEHD2555a0
			K5285	インクルーシブ教育の理論と方法	2		5～6		◎	○	○	EEHD2556a0
			K5290	ICTと教育データの活用論	2		5～6			◎	○	EEHD2557a0
			K5295	プログラミング教育Ⅱ	2		5～6			◎	○	EEHD2558a0
			K5300	現代の教育課題探究	2		7～8		◎	○	○	EEHD3559a0
			K5305	子どもと家族・社会	2		7～8		◎		○	EEHD3560a0
			K5310	子ども支援事業研究	2		5～6		◎		○	EEHD2561a0
			K5315	初等教科教育演習Ⅰ	2		3～4		○	◎		EEHD2562a0
			K5320	初等教科教育演習Ⅱ	2		7～8		○	◎		EEHD3563a0
			K5325	特別支援教育概論	②		3～4		◎	○		EEHE1564a0
			K5330	知的障害者の心理・生理・病理	②		3～4		◎			EEHE2565a0
			K5335	肢体不自由者の心理・生理・病理	②		3～4		◎			EEHE2566a0
特別支援教育領域	K5340	病弱者の心理・生理・病理	②		3～4		◎			EEHE2567a0	集中講義	
	K5345	知的障害教育論	②		3～4		◎	○	○	EEHE2568a0		
	K5350	肢体不自由教育論	②		5～6		◎	○	○	EEHE2569a0	集中講義	
	K5355	病弱教育論	②		5～6		◎	○	○	EEHE2570a0		
	K5360	障害者指導法	②		5～6		◎	○		EEHE2571a0		
	K5365	障害者教育探究	②		7～8			○	◎	EEHE3572a0		

●教育学科 学校教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択			①	②	③			
特別 支援 教育 領域	K5370	視覚障害教育総論		②	5～6		◎	○	○	EEHE2573a0		
	K5375	聴覚障害教育総論		②	5～6		◎	○	○	EEHE2574a0		
	K5380	重複・発達障害教育総論		②	5～6		◎	○	○	EEHE2575a0		
	K5385	教育実習指導(特支)		①	5～6		○	◎		EEHE2576a0		
	K5390	教育実習(特支)		②	5～6			○	◎	EEHE3577a0		
	K5395	発達障害の理解と指導		2	1～2	W	◎	○		EEHE1578a0		
	K5400	発達障害と教育方法		2	3～4		○	◎		EEHE2579a0		
	K5405	障害特性と自立活動		2	5～6		◎		○	EEHE2580a0		
	K5410	インクルーシブ教育の探究		2	7～8				◎	EEHE3581a0		
幼児 教育 領域	K5415	幼児教育課程総論		②	3～4		◎	○	○	EEHF2582a0		
	K5420	保育方法論		②	5～6		○	◎	○	EEHF3583a0		
	K5425	幼児理解(教育相談を含む)		②	3～4		◎	○		EEHF2584a0		
	K5430	幼児と健康		②	3～4		◎	○		EEHF2585a0		
	K5435	幼児と人間関係		②	3～4		◎	○		EEHF2586a0		
	K5440	幼児と環境		②	1～2	W	◎	○		EEHF1587a0		
	K5445	幼児と言葉		②	3～4		◎	○		EEHF2588a0		
	K5450	幼児と表現Ⅰ		②	3～4		◎	○		EEHF2589a0		
	K5455	幼児と表現Ⅱ		②	5～6		◎	○		EEHF3590a0		
	K5460	保育内容の理論と方法(健康)		②	3～4		○	◎		EEHF2591a0		
	K5465	保育内容の理論と方法(人間関係)		②	5～6		○	◎		EEHF3592a0		
	K5470	保育内容の理論と方法(環境)		②	3～4		○	◎		EEHF2593a0		
	K5475	保育内容の理論と方法(言葉)		②	5～6		○	◎		EEHF3594a0		
	K5480	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)		②	5～6		○	◎		EEHF3595a0		
	K5485	保育内容の理論と方法(表現活動・造形)		②	5～6		○	◎		EEHF3596a0		
	K5490	保育内容総論		②	1～2	W	○	◎	○	EEHF1597a0		
	K5495	世界の幼児教育探究		2	1～2	S	○		◎	EEHF1598a0		
	英語 教育 領域	K5500	英語学概説		②	3～4			○	◎	EEHG1599c0	
		K5505	英語音声学		②	1～2	S		○	◎	EEHG1600c0	
		K5510	英文法Ⅰ		②	5～6			○	◎	EEHG1601c0	
K5515		英文法Ⅱ		②	5～6			○	◎	EEHG1602c0		
K5520		第二言語習得論		②	7～8		○		◎	EEHG3603c0		
K5525		英語学特論Ⅰ(認知言語学)		②	3～4		○		◎	EEHG3604c0		
K5530		英語学特論Ⅱ(英語教授法)		②	3～4		○		◎	EEHG3605c0		
K5535		英語文学概説		②	5～6		◎	○		EEHG2606c0		
K5540		英語文学Ⅰ(英文学)		②	5～6		◎	○		EEHG2607c0		
K5545		英語文学Ⅱ(米文学)		②	7～8		◎	○		EEHG2608c0		

●教育学科 学校教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択			①	②	③			
学校教育コース 専門教育科目	英語教育領域	K5550	ベーシックコミュニケーションⅠ		②	1~2	W	◎	○		EEHG1609b0	
		K5555	ベーシックコミュニケーションⅡ		②	1~2	W	◎	○		EEHG1610b0	
		K5560	ベーシックコミュニケーションⅢ		②	3~4		◎	○		EEHG2611b0	
		K5565	ベーシックコミュニケーションⅣ		②	3~4		◎	○		EEHG2612b0	
		K5570	アドバンストコミュニケーションⅠ		②	5~6		◎	○		EEHG3613b0	
		K5575	アドバンストコミュニケーションⅡ		②	5~6		◎	○		EEHG3614b0	
		K5580	英語圏文化概説		②	5~6		◎		○	EEHG1615c0	
		K5585	世界英語の文化圏Ⅰ		②	5~6		◎		○	EEHG2616c0	
		K5590	世界英語の文化圏Ⅱ		②	7~8		◎		○	EEHG2617c0	
		K5595	中等英語科教育法Ⅰ		②	3~4		○	◎	○	EEHG1618c0	
		K5600	中等英語科教育法Ⅱ		②	3~4		○	◎	○	EEHG2619c0	
		K5605	中等英語科教育法Ⅲ		②	5~6		○	◎		EEHG2620c0	
		K5610	中等英語科教育法Ⅳ		②	5~6		○	◎		EEHG3621c0	
		K5615	教育実習指導(英語)		①	5~6		◎	○		EEHG3622a0	
		K5620	教育実習Ⅰ(英語)		④	5~6		◎	○		EEHG3623a0	
		K5625	教育実習Ⅱ(英語)		②	5~6		◎	○		EEHG3624a0	
	数学教育領域	K5630	児童英語教育実践研究		2	5~6		○	◎		EEHG3625c0	
		K5635	グローバル教育実践演習		2	3~4			○	◎	EEHG3626c0	
		K5640	Cross-cultural Communication		2	7~8			◎	○	EEHG3627b0	
		K5645	Academic Presentation		2	7~8			◎	○	EEHG3628b0	
		K5650	線形代数学		②	1~2	S	◎			EEHH1629a0	
		K5655	代数学Ⅰ		②	3~4		◎			EEHH1630a0	
		K5660	代数学Ⅱ		②	5~6		◎			EEHH2631a0	
		K5665	幾何学Ⅰ		②	3~4		◎			EEHH1632a0	
		K5670	幾何学Ⅱ		②	5~6		◎			EEHH2633a0	
		K5675	位相数学		②	7~8		◎			EEHH3634a0	
		K5680	解析学Ⅰ		②	3~4		◎			EEHH1635a0	
		K5685	解析学Ⅱ		②	5~6		◎			EEHH2636a0	
		K5690	微分積分学		②	1~2	W	◎			EEHH1637a0	
		K5695	確率・統計学Ⅰ		②	3~4		◎			EEHH1638a0	
		K5700	確率・統計学Ⅱ		②	5~6		◎			EEHH2639a0	
		K5705	コンピュータ概論		②	3~4		◎			EEHH1640a0	
K5710	コンピュータ演習		②	7~8		◎			EEHH3641a0			
K5715	数学的リテラシー		②	1~2	W	◎			EEHH1642a0			
K5720	数学史と現代数学		②	5~6		○		◎	EEHH1643a0			
K5725	子どもの発達と算数・数学		②	3~4		○		◎	EEHH2644a0			

●教育学科 学校教育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
学校教育コース 専門教育科目	数学教育領域	K5730 中等数学科教育法Ⅰ		②	3~4		○	◎		EEHH1645a0	
		K5735 中等数学科教育法Ⅱ		②	3~4		○	◎		EEHH2646a0	
		K5740 中等数学科教育法Ⅲ		②	5~6		○	◎		EEHH2647a0	
		K5745 中等数学科教育法Ⅳ		②	5~6		○	◎		EEHH3648a0	
		K5750 教育実習指導(数学)		①	5~6			◎		EEHH2649a0	
		K5755 教育実習Ⅰ(数学)		④	5~6			○	◎	EEHH3650a0	
		K5760 教育実習Ⅱ(数学)		②	5~6			○	◎	EEHH3651a0	
		K5765 自然や社会に潜む数学		2	7~8			○	◎	EEHH2652a0	
		K5770 中等教育数学演習		2	7~8			○	◎	EEHH2653a0	
		K5775 数学特論		2	7~8			○	◎	EEHH3654a0	
	理科教育領域	K5780 物理学Ⅰ		②	1~2	W	○	◎		EEHH1655a0	
		K5785 物理学Ⅱ		②	5~6		○	◎		EEHH2656a0	
		K5790 物理学実験		①	3~4		○	○	◎	EEHH1657a0	
		K5795 化学Ⅰ		②	1~2	W	○	◎		EEHH1658a0	
		K5800 化学Ⅱ		②	5~6		○	◎		EEHH2659a0	
		K5805 化学実験		①	3~4		○	○	◎	EEHH1660a0	
		K5810 生物学Ⅰ		②	3~4		○	◎		EEHH1661a0	
		K5815 生物学Ⅱ		②	5~6		○	◎		EEHH2662a0	
		K5820 生物学実験		①	3~4		○	○	◎	EEHH1663a0	
		K5825 地学Ⅰ		②	3~4		○	◎		EEHH1664a0	
		K5830 地学Ⅱ		②	5~6		○	◎		EEHH2665a0	
		K5835 地学実験		①	3~4		○	○	◎	EEHH1666a0	
		K5840 中等理科教育法Ⅰ		②	3~4		○	◎		EEHH1667a0	
		K5845 中等理科教育法Ⅱ		②	3~4		○	◎		EEHH1668a0	
		K5850 中等理科教育法Ⅲ		②	5~6		○	◎		EEHH2669a0	
		K5855 中等理科教育法Ⅳ		②	5~6		○	◎		EEHH3670a0	
		K5860 科学的探究の方法		②	1~2	S	◎		○	EEHH1671a0	
		K5865 生命と地球の科学		②	5~6		◎		○	EEHH2672a0	
		K5870 地域と生活の科学		②	5~6		◎		○	EEHH2673a0	
		K5875 理科クロスカリキュラム研究		②	5~6		◎		○	EEHH3674a0	
	K5880 理科教材開発の理論と実践(物理・化学)		②	7~8		○	○	◎	EEHH2675a0		
	K5885 理科教材開発の理論と実践(生物・地学)		②	7~8		○	○	◎	EEHH2676a0		
	K5890 教育実習指導(理科)		①	5~6			◎		EEHH3677a0		
K5895 教育実習Ⅰ(理科)		④	5~6			○	◎	EEHH3678a0			
K5900 教育実習Ⅱ(理科)		②	5~6			○	◎	EEHH3679a0			

●教育学科 学校教育コース 専門教育科目編成表

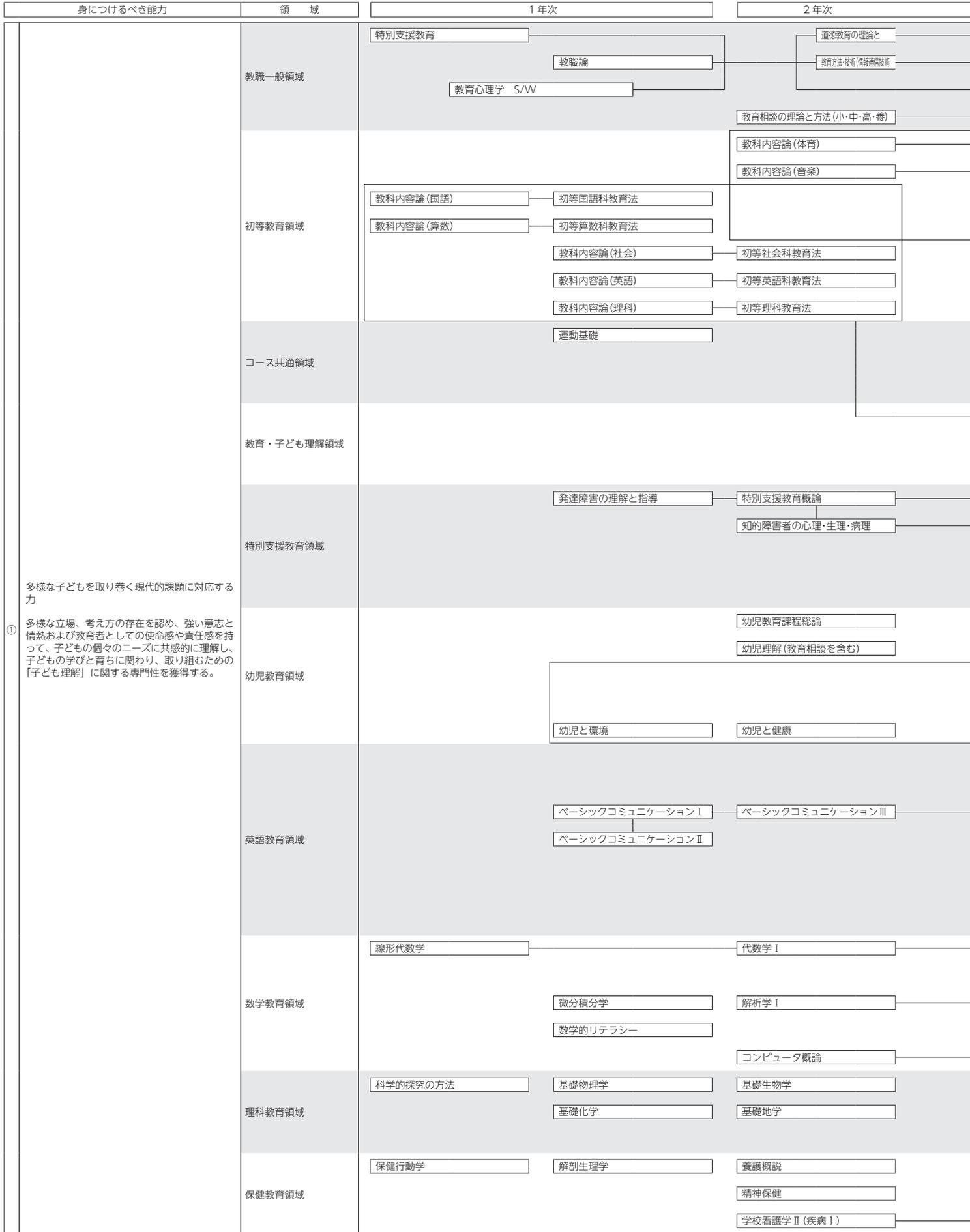
単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択			①	②	③			
学校教育コース 専門教育科目	理科教育領域	K5905	自然科学史		2	7~8		◎			EEHJ3680a0	集中講義
		K5910	基礎物理学		2	1~2	W	◎			EEHJ1681a0	
		K5915	基礎化学		2	1~2	W	◎			EEHJ1682a0	
		K5920	基礎生物学		2	3~4		◎			EEHJ1683a0	
		K5925	基礎地学		2	3~4		◎			EEHJ1684a0	
	保健教育領域	K5930	衛生学		②	3~4			◎		EEHJ2685a0	
		K5935	公衆衛生学(予防医学を含む)		②	5~6			◎		EEHJ3686a0	
		K5940	学校保健		②	1~2	W	○	◎	○	EEHJ1687a0	
		K5945	養護概説		②	3~4		◎	○	○	EEHJ1688a0	
		K5950	健康相談		②	3~4		○	○	◎	EEHJ2689a0	
		K5955	栄養学(食品学を含む)		②	5~6		◎			EEHJ2690a0	
		K5960	解剖生理学		②	1~2	W	◎			EEHJ1691a0	
		K5965	微生物学		②	5~6		◎			EEHJ3692a0	
		K5970	薬理概論		②	5~6		◎			EEHJ3693a0	
		K5975	精神保健		②	3~4		◎		○	EEHJ2694a0	
		K5980	学校看護学Ⅰ(基礎)		②	3~4		○	◎		EEHJ1695a0	
		K5985	学校看護学Ⅱ(疾病Ⅰ)		②	3~4		◎	○		EEHJ1696a0	
		K5990	学校看護学Ⅲ(疾病Ⅱ)		②	3~4		◎	○		EEHJ2697a0	
		K5995	学校看護学Ⅳ(応用)		②	5~6		○	◎		EEHJ2698a0	
		K6000	臨床看護学演習		②	5~6				◎	EEHJ3699a0	
		K6005	学校救急処置		②	3~4		◎		○	EEHJ2700a0	
		K6010	生徒指導論(養)		②	5~6		◎	○	○	EEHJ2701a0	
	K6015	養護実習指導		①	5~6		○		◎	EEHJ3702a0		
	K6020	養護実習		④	5~6		○		◎	EEHJ3703a0		
	K6025	教職実践演習(養護教諭)		②	7~8		○		◎	EEHJ3704a0		
	K6030	保健行動学		2	1~2	S	◎			EEHJ1705a0		
	K6035	養護教諭特別演習		2	5~6		◎			EEHJ3706a0		
卒業に必要な最低修得単位数				42	56							

- 履修上、学校教育コース、幼児教育保育コースの2つのコースを設ける。
- 必修はコース共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。
選択はコース共通、所属コースから合計単位数を修得のこと。

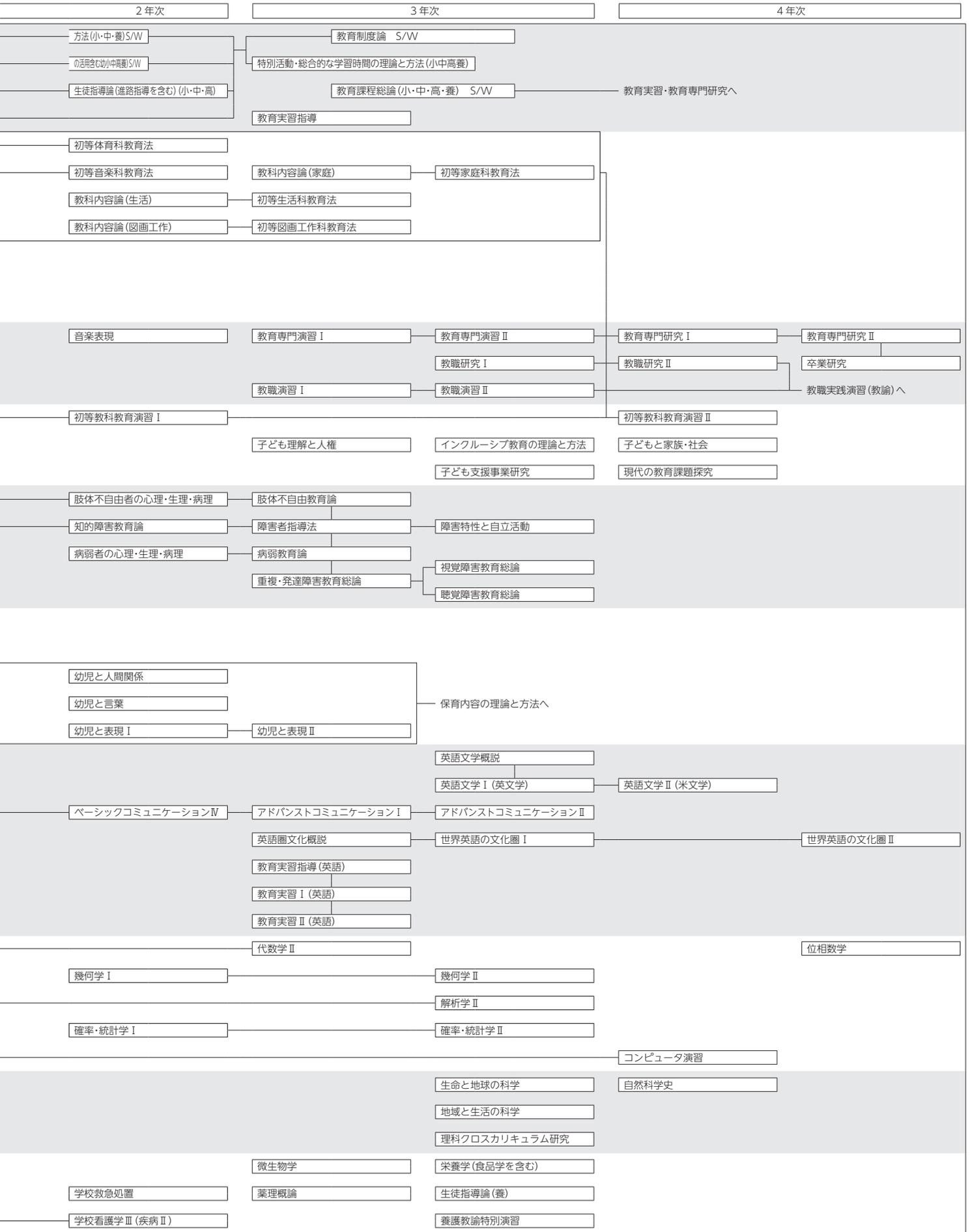
教育学部 教育学科 学校教育コース 履修系統図



教育課程(授業科目一覧・単位数など)

教育学科 学校教育コース

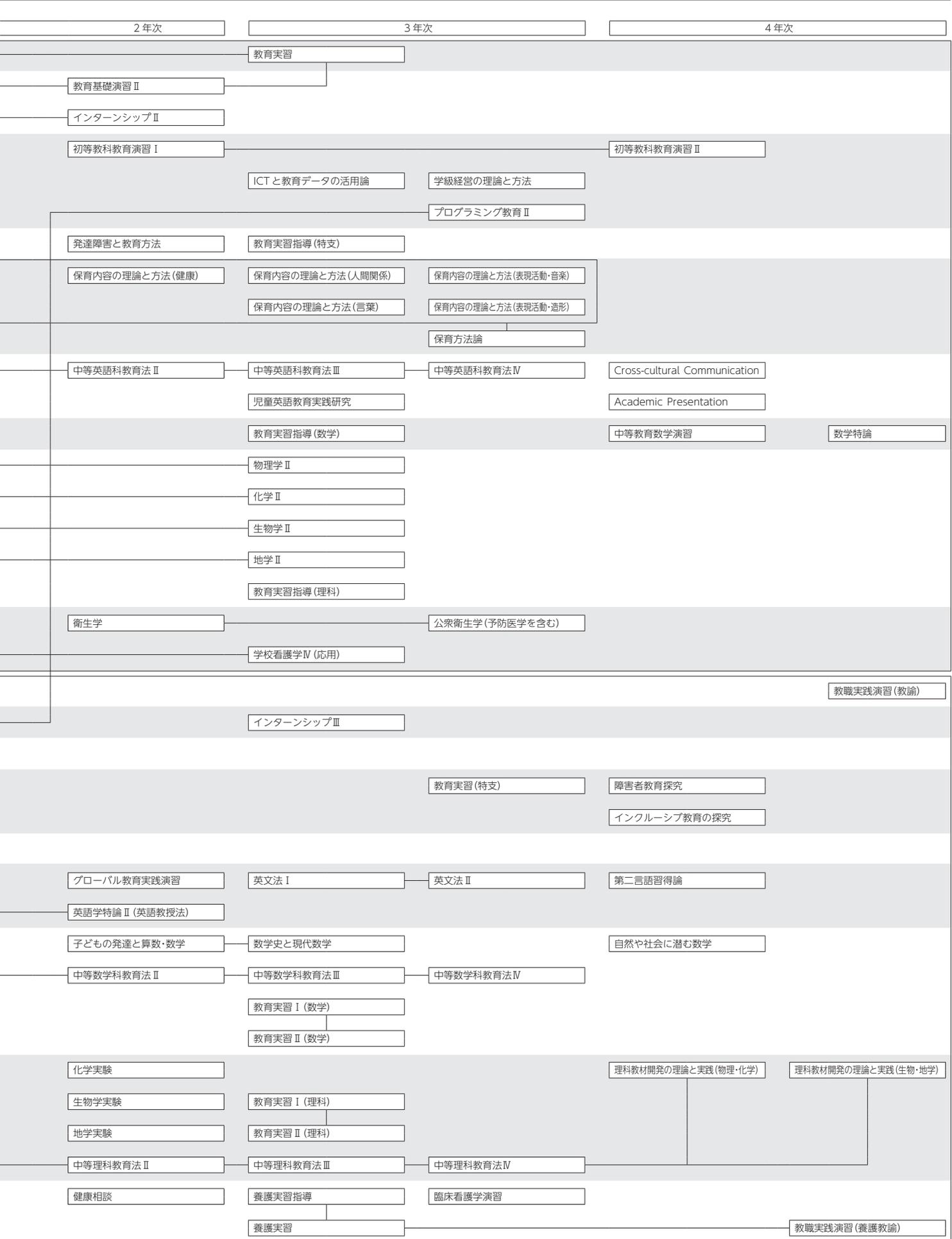
※カリキュラムポリシー（CP）はP117・118を参照してください。



教育学部 教育学科 学校教育コース 履修系統図

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次
② 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的な知識や技能と実践力を追求する力 教育の場において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICTや教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。	教職一般領域	教育原論 S/W	
	コース共通領域		教育基礎演習 I インターンシップ I
	教育・子ども理解領域	教育・ファシリテーション演習	
	特別支援教育領域		
	幼児教育領域	保育内容総論	保育内容の理論と方法(環境)
	英語教育領域		中等英語科教育法 I
	数学教育領域		
	理科教育領域	物理学 I	
		化学 I	
	保健教育領域		生物学 I 地学 I
学校保健		学校看護学 I (基礎)	
③ 変化する社会、学校等で活躍するための包括的な協働の力 急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。	教職一般領域		
	コース共通領域		プログラミング教育 I
	教育・子ども理解領域	学校教育入門	
	特別支援教育領域		
	幼児教育領域	世界の幼児教育探究	
	英語教育領域	英語音声学	英語学概説 英語学特論 I (認知言語学)
	数学教育領域		中等数学科教育法 I
	理科教育領域		物理学実験
			中等理科教育法 I
保健教育領域			

※カリキュラムポリシー（CP）はP117・118を参照してください。



●教育学科 幼児教育保育コース

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

教育学科幼児教育保育コースは、社会の急激な変化の中で、子どもをとりまく多様な現代的課題に、幅広い視野で俯瞰的に捉え、幼児教育の基本である環境を通して行う教育と幼児一人一人に適した学びを追究します。

未来を拓く子どもたちのために、保育者としての専門的知識・技能の習得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの学びと育ちを促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、社会や学校・保育施設等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる幼稚園・保育所・認定こども園の保育者養成を目的とします。

保育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までには学生が身につけるべき資質・能力は、以下の3点です。

① 多様な子どもをとりまく現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々の内面的なニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

② 幼児期の特性を踏まえ、一人一人のよりよい学びと協同的な学びを実現する専門的知識と実践力を追求する力

多様な社会、施設・学校等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応えるために、直接的体験を重視し、ICTの効果的な活用も取り入れながら実践的指導力の獲得をめざして協働で取り組み、粘り強い省察・研鑽の力を獲得する。

③ 変化する社会、保育施設等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を身につける。

以上、保育者として、未来を担う子どもの学びと育ちを支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働」の力を発揮する保育者養成に取り組めます。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

【教育課程の編成】

保育者は子どもの将来を担う重要な存在であり、卒業後、保育・教育現場において、幼児の教育・保育の指導を行う職務を担うことができる保育者として必要な資質・能力を身に付け、「学び続ける保育者」になることを重要課題として教育課程を編成します。

教育学科幼児教育保育コースでは、幼稚園・保育所・認定こども園等の各施設の保育者養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

幼稚園教諭一種免許状・保育士資格・小学校教諭一種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成することを目標に編成をします。

【教育内容】

教育学科幼児教育保育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく保育者としての専門的知識および実践力、指導力を備え、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育

課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通した総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身に付けるための科目を配置します。

- 1) 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原理」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。
- 2) 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。
- 3) 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「保育内容の理論と方法（人間関係）」「保育内容の理論と方法（環境）」「保育内容の理論と方法（言葉）」「保育内容の理論と方法（表現）」「子どもと遊び」「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。
- 4) 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などの科目を配置します。
- 5) 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道徳教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

【教育方法】

- 1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。
- 2) 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。
- 3) 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「や」「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。
- 4) 幼稚園・保育所等施設での実践的な学びを推進するため、2年次・3年次の教育保育実習に加え、1年次に「ハローナーサリー」（保育所・認定こども園での体験）、2年次にインターンシップ（幼稚園等でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で「模擬授業」などを実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加し、実践的な学びを推進します。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・保育・教育実習（保育所・認定こども園・施設・幼稚園）などの課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図ります。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

教育学科幼児教育保育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「めざす保育者像とは」、と問い続けていく人。また、子どもを一人の人間として尊重し、一人一人の子どもの「心もち」に寄り添い、発達課題に応じた支援やケアを考えようと努める人。
[求める要素：関心・意欲・態度]
- 2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの育ちや子どもが育つ家庭環境や地域社会の状況を考え、広い視野から現代の教育・保育課題を捉え、教育保育活動に活かしてしていこうと努める人
[求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力]
- 3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人
[求める要素：主体性・多様性・協働性]

●教育学科 幼児教育保育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		保育士	配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③		
教職 一般領域	K5010	教育原論	②		○	1~2	W	○	◎		EEIA1501a0	教育学部の専門教育科目は他学部・他学科の学生が履修することはできない。
	K5015	特別支援教育	②			1~2	S	◎	○		EEIA1502a0	
	K5020	教職論	②			1~2	W	◎	○		EEIA1503a0	
	K5025	教育心理学	②			1~2	W	◎	○		EEIA1504a0	
	K5030	教育制度論	②			5~6		◎	○		EEIA1505a0	
	K5035	教育課程総論(小・中・高・養)		②		5~6		◎	○		EEIA1506a0	
	K5040	道德教育の理論と方法(小・中・高)		②		7~8		◎	○		EEIA1507a0	
	K5045	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)		②		7~8		◎	○		EEIA1508a0	
	K5050	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小中高養)	②			5~6		◎	○		EEIA1509a0	
	K5055	生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)		②		7~8		◎	○		EEIA1510a0	
	K5060	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	②			5~6		◎	○		EEIA1511a0	
	K5065	教育実習指導		①		5~6		◎	○		EEIA2512a0	
	K5070	教育実習		④		5~6			◎	○	EEIA3513a0	
	K5075	教職実践演習(教諭)		②		7~8		○	○	◎	EEIA3514a0	
コース共通	K5080	教科内容論(国語)	②			3~4		◎			EEIB1515a0	初等教育領域
	K5085	教科内容論(社会)	②			3~4		◎			EEIB1516a0	
	K5090	教科内容論(算数)	②			3~4		◎			EEIB1517a0	
	K5095	教科内容論(理科)	②			3~4		◎			EEIB1518a0	
	K5100	教科内容論(生活)		②		1~2	W	◎			EEIB1519a0	
	K5105	教科内容論(音楽)		②		1~2	W	◎			EEIB1520a0	
	K5110	教科内容論(図画工作)		②		3~4		◎			EEIB1521a0	
	K5115	教科内容論(家庭)		②		5~6		◎			EEIB1522a0	
	K5120	教科内容論(体育)		②		3~4		◎			EEIB1523a0	
	K5125	教科内容論(英語)	②			5~6		◎			EEIB1524c0	
	K5130	初等国語科教育法		①		3~4		◎	○		EEIB2525a0	
	K5135	初等社会科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2526a0	
	K5140	初等算数科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2527a0	
	K5145	初等理科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2528a0	
	K5150	初等生活科教育法		①		3~4		◎	○		EEIB2529a0	
	K5155	初等音楽科教育法		①		3~4		◎	○		EEIB2530a0	
	K5160	初等図画工作科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2531a0	
K5165	初等家庭科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2532a0		
K5170	初等体育科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2533a0		
K5175	初等英語科教育法		①		5~6		◎	○		EEIB2534c0		

●教育学科 幼児教育保育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		保育士 選抜	配当 セメスター	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③			
コース共通 領域	K5180	教育基礎演習Ⅰ	2			3~4		○	◎		EEIC1535a0	集中講義	
	K5185	教育基礎演習Ⅱ	2			3~4		○	◎		EEIC1536a0		
	K5190	教育専門演習Ⅰ	2			5~6		◎		○	EEIC2537a0		
	K5195	教育専門演習Ⅱ	2			5~6		◎		○	EEIC2538a0		
	K5200	教育専門研究Ⅰ	2			7~8		◎		○	EEIC3539a0		
	K5205	教育専門研究Ⅱ	2			7~8		◎		○	EEIC3540a0		
	K5210	教育・ファシリテーション演習		1		1~2	W	○	◎				EEIC2541a0
	K5215	プログラミング教育Ⅰ		2		3~4		○		◎			EEIC1542a0
	K5220	インターンシップⅠ		2		3~4		○	◎				EEIC2543a0
	K5225	インターンシップⅡ		1		3~4		○	◎				EEIC2544a0
	K5230	インターンシップⅢ		1		5~6		○	○	◎			EEIC3545a0
	K5235	卒業研究		4		7~8		◎					EEIC3546a0
	K5240	教職研究Ⅰ		1		5~6		◎					EEIC1547a0
	K5245	教職研究Ⅱ		1		7~8		◎					EEIC1548a0
	K5250	教職演習Ⅰ		1		5~6		◎					EEIC1549a0
	K5255	教職演習Ⅱ		1		5~6		◎					EEIC1550a0
	K5260	音楽表現		1		3~4		◎					EEIC1551a0
	K5265	運動基礎		1		1~2	W	◎					EEIC1552a0
	専門教育科目 幼児教育保育コース 領域	K6100	幼児教育課程総論		②	○	3~4		◎	○			EEID1553a0
		K6105	保育方法論		②	△	5~6		◎		○		EEID2554a0
		K6110	幼児理解(教育相談を含む)		②	○	3~4		◎				EEID1555a0
		K6115	幼児と健康		②		1~2	W	◎		○		EEID1556a0
		K6120	幼児と人間関係		②		3~4		◎		○		EEID1557a0
		K6125	幼児と環境		②		1~2	S	◎		○		EEID1558a0
		K6130	幼児と言葉		②		1~2	W	◎		○		EEID1559a0
		K6135	幼児と表現Ⅰ		②		3~4		◎		○		EEID1560a0
K6140		幼児と表現Ⅱ		②		3~4		◎		○	EEID1561a0		
K6145		保育内容の理論と方法(健康)	②		○	3~4		◎		○	EEID2562a0		
K6150		保育内容の理論と方法(人間関係)	②		○	3~4		◎		○	EEID2563a0		
K6155		保育内容の理論と方法(環境)	②		○	1~2	W	◎		○	EEID2564a0		
K6160		保育内容の理論と方法(言葉)	②		○	3~4		◎		○	EEID2565a0		
K6165		保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)	②		○	5~6		◎		○	EEID2566a0		
K6170		保育内容の理論と方法(表現活動・造形)	②		○	5~6		◎		○	EEID2567a0		
K6175		保育内容総論	②		○	1~2	S	◎			EEID1568a0		

●教育学科 幼児教育保育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種 別	授業概要 コード	科 目 名	単位数		保 育 士	配 当 セ メ ス タ ー	開 講 学 期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備 考	
			必 修	選 択				①	②	③			
専 門 教 育 科 目 幼 児 教 育 保 育 領 域 幼 児 教 育 保 育 コ ー ス	K6180	保育原理		2	○	1～2	S	◎	○		EEID1569a0		
	K6185	子ども家庭福祉		2	○	1～2	S	◎	○		EEID1570a0		
	K6190	社会福祉		2	○	3～4		◎			EEID1571a0		
	K6195	子ども家庭支援論		2	○	5～6		◎			EEID2572a0		
	K6200	社会的養護 I		2	○	1～2	W	◎			EEID1573a0		
	K6205	保育者論		2		○	1～2	W	○	◎		EEID1574a0	
	K6210	保育の心理学		2	○	3～4		◎			EEID1575a0		
	K6215	子ども家庭支援の心理学		2	○	3～4		◎			EEID2576a0		
	K6220	子どもの保健		2	○	1～2	W	◎			EEID1577a0		
	K6225	子どもの食と栄養		2	○	5～6		◎			EEID1578a0		
	K6230	子どもと遊び		2	○	1～2	S	◎	○		EEID1579a0		
	K6235	音楽実践演習(器楽)		1	○	3～4		◎		○	EEID2580a0		
	K6240	小児体育		1	○	5～6		◎		○	EEID2581a0		
	K6245	子どもと造形表現		1	○	3～4		◎		○	EEID1582a0		
	K6250	乳児保育 I		2	○	3～4		◎			EEID1583a0		
	K6255	乳児保育 II		1	○	3～4		◎		○	EEID2584a0		
	K6260	子どもの健康と安全		1	○	3～4		◎		○	EEID2585a0		
	K6265	障害児保育		2	○	3～4		◎		○	EEID2586a0		
	K6270	社会的養護 II		1	○	3～4		◎		○	EEID2587a0		
	K6275	子育て支援		1	○	5～6		◎		○	EEID2588a0		
	K6280	保育実践演習		2	○	7～8		○	○	◎	EEID3589a0		
	K6285	子ども学概論		2	○	1～2	W	◎	○		EEID1590a0		
	K6290	幼保小中接続研究		2	△	3～4		◎			EEID2591a0		
	K6295	多様な子ども理解入門		2	△	1～2	S	○	◎		EEID1592a0		
	K6300	フィールドワーク演習(子育て支援)		1	△	7～8			○	◎	EEID3593a0		
	K6305	フィールドワーク演習(子ども支援)		1	△	7～8			○	◎	EEID3594a0		
	K6310	音楽への扉		2		△	1～2	S	◎		EEID1595a0		
	K6315	音楽実践演習(声楽)		1	△	1～2	W	◎		○	EEID1596a0		
	K6320	音楽実践演習(弾き歌い)		1	△	3～4		◎		○	EEID2597a0		
	K6325	保育インターンシップ		2	△	3～4		○	◎		EEID2598a0		
	K6330	保育実習指導 I (保育所)		1	○	3～4		◎	○		EEID1599a0		
	K6335	保育実習指導 I (施設)		1	○	5～6		◎	○		EEID1600a0		
K6340	保育実習 I (保育所)		2	○	3～4		◎	○		EEID2601a0			
K6345	保育実習 I (施設)		2	○	5～6		◎	○		EEID2602a0			

●教育学科 幼児教育保育コース 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.177～で調べて履修すること。

(注) コース共通科目については、p.114 教育学部の「卒業時点において学生が身に付けるべき能力」を参照すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		保育士 Semester	開講 学期	身に付けるべき能力			ナンバリング コード	備考
			必修	選択			①	②	③		
専門教育科目 幼児教育保育コース 幼児教育保育領域	K6350	保育実習指導Ⅱ(保育所)		1	㊦	5～6	○	○	◎	EEID2603a0	
	K6355	保育実習指導Ⅲ(施設)		1	㊧	5～6	○	○	◎	EEID2604a0	
	K6360	保育実習Ⅱ(保育所)		2	㊦	5～6	○	○	◎	EEID3605a0	
	K6365	保育実習Ⅲ(施設)		2	㊧	5～6	○	○	◎	EEID3606a0	
卒業に必要な最低修得単位数			54	44							

- 履修上、学校教育コース、幼児教育保育コースの2つのコースを設ける。
- 必修はコース共通、所属コースから表の通り合計単位数を修得のこと。
選択はコース共通、所属コースから合計単位数を修得のこと。

履修する際の注意点

※ 保育士資格 (p.238～参照)

○：必修

△：選択必修

㊦～㊧：㊦「保育実習指導Ⅱ(保育所)」、㊧「保育実習Ⅱ(保育所)」または㊧「保育実習指導Ⅲ(施設)」、「保育実習Ⅲ(施設)」3単位は必ず修得すること。

共通教育科目「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」のいずれかと「英語Ⅰ・Ⅱ」、「スポーツⅠ」、「体育講義」は必修

※ 保育士養成課程科目の履修要件

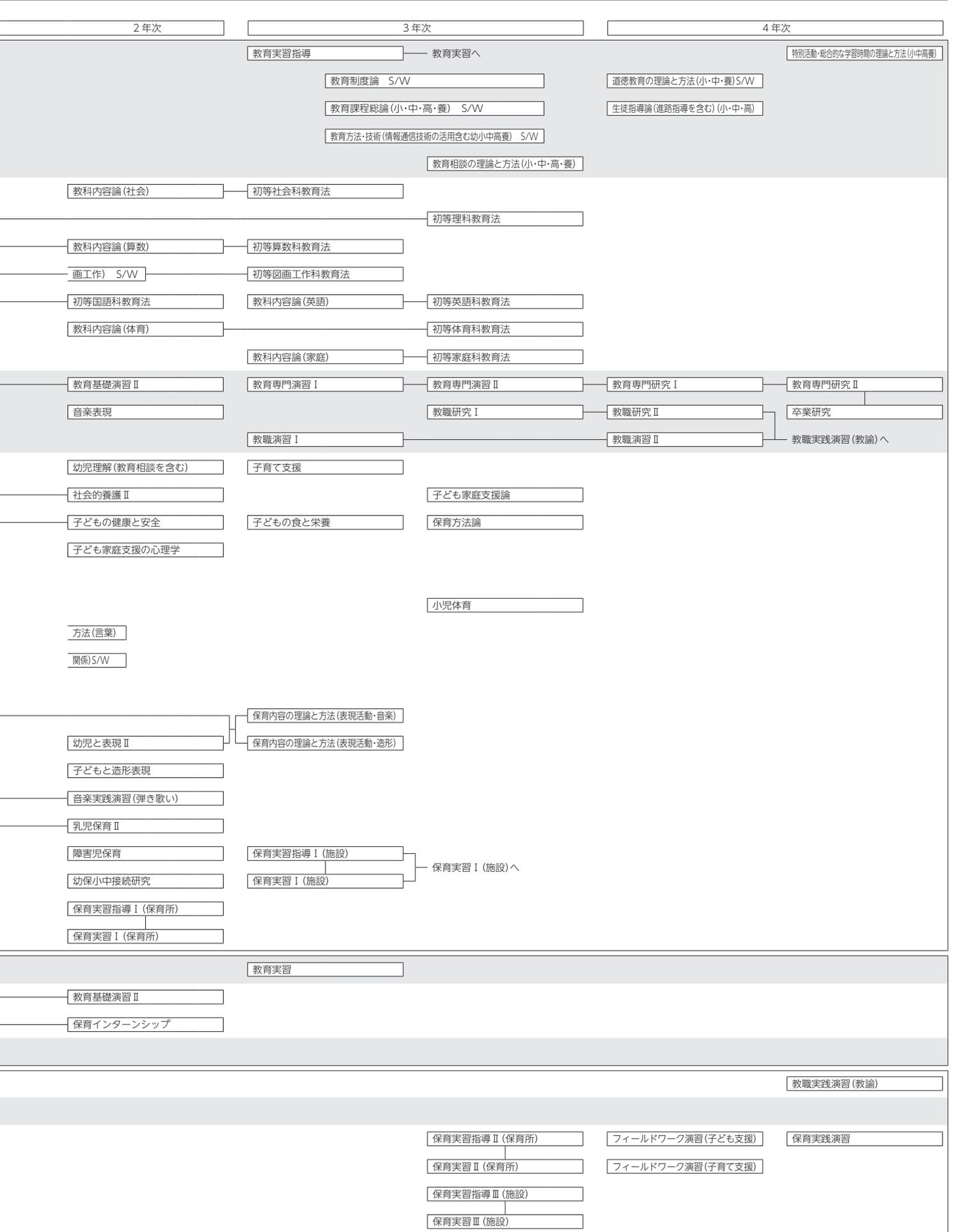
授業科目	履修要件
「保育実習Ⅰ(保育所) および 「保育実習指導Ⅰ(保育所)」	在学3 Semester終了時に、次の要件を満たしていること。 <ul style="list-style-type: none"> 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」および「和の精神Ⅱ」の2単位を含んで55単位以上であること。 専門教育科目「教育原論」、「保育原理」、「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「保育者論」、「保育内容総論」、「乳児保育Ⅰ」、「子どもの保健」のうち7科目14単位以上、および「音楽への扉」を修得していること。
「保育実習Ⅰ(施設) および 「保育実習指導Ⅰ(施設)」	履修する前 Semesterまでに、次の要件を満たしていること。 <ul style="list-style-type: none"> 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」および「和の精神Ⅱ」の2科目2単位を含んで55単位以上であること。 専門教育科目「保育原理」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」の3科目6単位を修得していること。
「保育実習Ⅱ(保育所) または 「保育実習Ⅲ(施設)」	<ul style="list-style-type: none"> 在学5 Semester終了時に、卒業に必要な修得単位数が、専門教育科目「音楽実践演習(声楽)」「音楽実践演習(弾き歌い)」を含んで85単位以上であること。 在学5 Semester終了時に「保育実習Ⅰ(保育所)」および「保育実習Ⅰ(施設)」を終えていること。

教育学部 教育学科 幼児教育保育コース 履修系統図

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次
<p>① 多様な子どもをとりまく現代的課題に対応する力</p> <p>多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々の内面的ニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。</p>	教職一般領域	特別支援教育 S/W 教育心理学 S/W 教職論 S/W	
	初等教育領域		教科内容論(生活) — 初等生活科教育法 教科内容論(理科) — 教科内容論(音楽) — 初等音楽科教育法 教科内容論(図) — 教科内容論(国語) —
	コース共通領域	運動基礎	教育基礎演習 I
	幼児教育保育領域	保育原理 — 子ども学概論 — 保育の心理学 社会的養護 I — 子ども家庭福祉 — 子どもの保健 幼児と環境 — 保育内容の理論と方法(環境) 幼児と健康 — 保育内容の理論と方法(健康) 保育内容総論 — 幼児と言葉 — 保育内容の理論と 子どもと遊び — 保育内容の理論と方法(人間関係) 幼児と人間関係 幼児と表現 I	幼児教育課程総論 音楽への扉 — 音楽実践演習(声楽) — 音楽実践演習(器楽) 乳児保育 I 社会福祉
<p>② 幼児期の特性を踏まえ、一人一人のよりよい学びと協同的な学びを実現する専門的な知識と実践力を追求する力</p> <p>多様な社会、施設・学校等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応えるために、直接的体験を重視し、ICTの効果的な活用も取り入れながら実践的指導力の獲得をめざして協働で取り組み、粘り強い省察・研鑽の力を獲得する。</p>	教職一般領域	教育原論 S/W	
コース共通領域		教育・ファシリテーション演習	教育基礎演習 I インターンシップ I
幼児教育保育領域	多様な子ども理解入門	保育者論	
<p>③ 変化する社会、保育施設等で活躍するための包括的な協働の力</p> <p>急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を身につける。</p>	教職一般領域		
コース共通領域			プログラミング教育 I
幼児教育保育領域			

教育課程(授業科目一覧・単位数など) 教育学科 幼児教育保育コース

※カリキュラムポリシー（CP）はP130・131を参照してください。



教育課程（授業科目一覧・単位数など）
教育学科 幼児教育保育コース

●経営学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

経営学部では、幅広い教養と多様な経営領域の専門知識を系統的に修得し、将来、企業や行政機関などにおいて活躍し、あるいは起業や事業承継を通じて広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている能力・資質は、以下の5点を目標としています。

- ① 幅広い教養と多様な経営領域に関する知識
企業や各種団体、国・地方公共団体などの組織において活躍する、また自ら起業家として事業を創出、継承するために備えるべき幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。
- ② 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力
より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得する中で、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、組織や地域などの課題に取り組み、解決する能力を備えている。
- ③ 情報を判断し分析・活用する力
情報通信技術（ICT）を効果的に活用し、経営・経済・行政に関する情報やデータ等を適切に収集・分析・整理するとともに、その結果を的確に表現・伝達・管理保存し、課題解決に活用する能力を備えている。
- ④ 協働のためのコミュニケーション能力
多様な立場・考え方を認めたくえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。
- ⑤ 社会人としての自己研鑽力
社会人として高い倫理観を有し、物事に興味を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに係る知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

経営学部における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学を中核とし、法学から情報・キャリアまでの幅広い領域の専門教育科目について、目標に応じて基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように、学年の進行に合わせて系統的に配置します。

主要科目区分として、経営学の基本的な知識を体系的にまとめた経営共通コア科目、両専攻の主たる専門教育科目である公共経営コア科目、企業経営コア科目、特定の専門領域の学修を深めるビジネス情報、地域創生、会計・ファイナンス、ホスピタリティの4つの領域の科目、さらに将来のキャリア形成のためのキャリアサポート科目を設けています。1年次には経営共通コア科目を中心に経営学の基本的な知識を固め、2年次以降は各専攻のコア科目を中心に据えて、4つの専門領域から興味のある科目を自由に選択して学ぶことにより、専門性を高めることができるように編成しています。また、キャリアサポート科目では、職業適性や将来設計について考え、社会・職業への円滑な移行を促し、キャリア目標を達成するために必要な科目を学年に応じて系統的に配置します。

【教育方法】

- 1) 開講科目全般については、従来の講義形式に加え、ICTを効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性があり、かつ、学内外との連携を推進した授業を実施します。

- 2) ビジネス情報、地域創生、会計・ファイナンス、ホスピタリティの4領域を設け、学生が興味のある領域を柔軟に選択し、幅広い教養から専門性の高い知識までを系統的に学べる科目を配置します。
- 3) 学生の将来の進路を見据えた特徴ある科目を専攻ごとに基本から実践まで設けます。公共経営専攻では、公務員として必要な知識を習得する演習科目である「行政職特別演習」や「公共政策特別演習」等を設け、企業経営専攻では将来のキャリアを見据えた演習科目として「キャリア演習Ⅲ・Ⅳ」「インターンシップ」を配置し、適性の向上を図ります。
- 4) 公的資格（簿記、FP、宅建士、販売士、PC検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）を、無理なく段階的に取得するための支援授業を連続して配置します。
- 5) 体験型、地域連携型科目を数多く設け、またゼミナールや授業外プロジェクトを通じて積極的かつ継続的なアクティブ・ラーニングを効果的に行うことによって、学生自らが課題を発見し、能動的に情報収集・調査・分析・発表・議論・研究できる学習環境を整えます。

【学修成果の評価方法】

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

経営学部では、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎知識・学力・技能を有していること。 [求める要素：知識・技能]
- 2) 経済・経営や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、将来、専門知識や経験を活かして、企業人や公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする高い就業意欲や使命感があること。 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。 [求める要素：主体性・多様性・協働性]
- 4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。 [求める要素：思考力・判断力・表現力]

●経営学部経営学科公共経営専攻

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

経営学科公共経営専攻は、学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を系統的に修得し、将来、公務員として国や地方公共団体等の各種機関で活躍して社会公共の利益に資する人材、または公益団体および企業でリーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている資質・能力は、以下の5点を目標としています。

- ① 公務員としての幅広い教養と多様な経営領域の知識
公務員として、または民間企業や各種団体等で活躍するため、幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。
- ② 専門的知識・技能の修得と課題解決力
より専門性の高い経営および法学領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思

考にもとづき、行政や地域コミュニティ、NPO等の抱える課題を発見し、解決する能力を備えている。

③ 公務員としての情報を判断し、分析・活用する力

情報通信技術（ICT）を効果的に活用するスキルと、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。

④ 協働のためのコミュニケーション能力

多様な立場・考え方を認めたとうえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働が円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。

⑤ 公務員としての自己研鑽力

行政の担い手として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

経営学科公共経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学・法学の各領域の専門科目について基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように学年進行に合わせて配置し、公務員として活躍するために必要な専門科目を将来の進路に合わせて系統的に選択できるよう編成します。

1) 経営学・法学の基本的知識を修得します。

経営領域の基本的な知識を網羅的にまとめた経営共通コア科目として「経営学基礎Ⅰ」「商業簿記Ⅰ」「マーケティング」「憲法Ⅰ」「民法Ⅰ」「経済学概論」などを、1年次に設けています。

2) 公務員として活躍するために必要な専門的知識を修得します。

「行政法」「行政職特別演習」「公共政策特別演習」などをはじめとする、公務員試験で求められる知識を含め、公務員として働くうえで修得しておくべき専門領域を公共経営コア科目として設けています。公務員試験に合格できる知識とともに、実際に公務員として働く際に応用すべき知識の基礎を培います。

3) 地域を支える行政や企業等の多様な団体に対する理解を深めます。

行政と連携・協働して地域を支えている企業などの実態理解を促進するために、地域創生領域の科目として「地域活性化概論」「地域活性化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などを配置しています。アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、地域の活性化や発展に向けて課題を発見し、解決できる論理的思考力と主体的な行動力を養います。

4) ICTを効果的に活用してデータを読み解き、活用する力を養います。

ICTリテラシーおよびICTスキルを身につける「情報リテラシー」「プログラミング」、データを用いて課題を解決する知識を身に付ける「AIデータサイエンス概論」「マーケティングリサーチ」などをビジネス情報領域の科目として設けています。

5) 公務員としての資質を向上させます。

経営共通コア科目の「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に加え、「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」「公務員基礎演習」「公共経営論」などのキャリアサポート科目の履修によって、公務員に求められる倫理観、使命感を育み、資質の向上を支援します。「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は、3、4年次の必修科目として、4年間の学びを深化させるとともに、希望者は「卒業研究」論文に取り組みます。

【教育方法】

- 1) 公共経営に関する科目全般については、学生が自ら設定した目標達成のために、従来の講義に加え、学生がICTを効果的に活用し、能動的に調査・分析のうえ、一定の結論を導き出し、発表や議論をするなど、積極的にアクティブ・ラーニングを実施します。
- 2) 公務員に必要な知識の修得については、双方向形式の講義を通じて体系的な学びを促進することに加え、公務員試験に対応するために幅広い教養を養うとともに、実践的かつ具体的な指導を行うことによって即戦力となれる資質を養成します。
- 3) 専門教育科目や専門演習などにおいて、学問的および実務的な観点からも公務員の職務について探究し、行政サービス、福祉政策はじめ、社会問題の解決を視野に入れた企画・提案に取り組む機会を設け、学生主導型の積極的な学びにより、公務員が備えるべき高度な人権意識をもって職務が遂行できる力を養います。
- 4) 公務員として備えるべき倫理的価値観の向上を図るとともに、地域連携型科目を通して地域を支える行政等に対する理解を深め、学外活動においても積極的に地域社会に関わり、市民に貢献する経験を通じて、より実践的に地域社会で広く活躍できる人材を養成します。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 各科目において習熟度を測るために学期末試験に加え、中間試験や小テストを行うとともに、科目の特色に応じて、レポート等の課題を与え、受講姿勢も含めて総合的に評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。
- 3) 公務員試験に直結する科目については、セメスターごとに全国的評価を行っている外部機関による模擬試験を実施することにより、目標とするキャリアの獲得に向けて学修の進捗度を評価する機会を設けます。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

経営学科公共経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎学知識・学力・技能を有していること。 [求める要素：知識・技能]
- 2) 経済・経営や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、将来、専門知識や経験を活かして、公務員としてさまざまな分野で活躍し、社会に奉仕しようとする高い就業意欲や使命感があること。 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的に、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。 [求める要素：主体性・多様性・協働性]
- 4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。 [求める要素：思考力・判断力・表現力]

●経営学科 公共経営専攻 専門教育科目編成表

種別	授業概要 科目コード	科目名	単位数		配当 セメスター	学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力					ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③	④	⑤		
ビジネス情報	K7195	マーケティングリサーチ		2	1~2	W		○	◎				BBJA2a538	
	K7200	マーケティングマネジメント論		2	3~4			○	◎				BBJA2a539	
	K7205	マーチャンダイジング		2	3~4			○	◎				BBJA2a540	
	K7210	ライセンスセミナーPC文書		2	1~2	W	不可			◎		○	BBJA2a541	
	K7215	ライセンスセミナーPCデータ		2	3~4		不可			◎		○	BBJA2a542	
	K7220	ライセンスセミナーITパスポート		2	5~6		不可			◎		○	BBJA2a543	
学科共通科目 地域創生	K7225	地域活性化演習Ⅰ		2	3~4			○	◎		○		BBJA1a544	
	K7230	地域活性化演習Ⅱ		2	3~4			○	◎		○		BBJA1a545	
	K7235	地域活性化演習Ⅲ		2	3~4			○	◎		○		BBJA2a546	
	K7240	実学マネジメント論Ⅰ		2	3~4			◎		○		○	BBJA2a547	
	K7245	実学マネジメント論Ⅱ		2	5~6			◎		○		○	BBJA2a548	
	K7250	中小企業経営論		2	5~6			◎	○			○	BBJA3a549	
	K7255	アントレプレナー論		2	1~2	S		◎	○			○	BBJA1a550	
	K7260	ビジネスモデル研究		2	1~2	W		◎	○			○	BBJA1a551	
	K7265	起業研究		2	3~4			○	◎			○	BBJA2a552	
	K7270	起業実践		2	5~6			○	◎			○	BBJA3a553	
	K7275	商品論		2	5~6			○	◎				BBJA3a554	
	K7280	国際ビジネス論		2	5~6			○	◎				BBJA3a555	
	K7285	国際貿易論		2	5~6			○	◎				BBJA3a556	
	K7290	旅行ビジネス論		2	5~6			○	◎				BBJA2a557	
	K7295	観光ビジネス論		2	5~6			○	◎				BBJA2a558	
	K7300	SDGs 概論		2	3~4			○	◎			○	BBJA1a559	
	K7305	NPO運営法		2	5~6			○	◎				BBJA2a560	
	K7310	不動産学研究(民法Ⅰ)		2	3~4		不可	○	◎				BBJA2a561	
	K7315	不動産学研究(民法Ⅱ)		2	3~4		不可	○	◎				BBJA2a562	
	K7320	不動産学研究(宅建業法)		2	3~4		不可	○	◎				BBJA2a563	
K7325	不動産学研究(法令)		2	3~4		不可	○	◎				BBJA2a564		
K7330	不動産学研究(特講)		2	3~4		不可	○	◎				BBJA3a565	集中講義	
公共経営専攻科目	K7410	憲法Ⅱ(統治機構)		2	1~2	W		◎	○			○	BBJB2a566	
	K7415	民法Ⅱ(物権)		2	1~2	W		◎	○				BBJB2a567	
	K7420	民法Ⅲ(債権総論・不法行為法等)		2	3~4			◎	○				BBJB2a568	
	K7425	民法Ⅳ(契約法)		2	3~4			◎	○				BBJB2a569	
	K7430	民法Ⅴ(家族法)		2	5~6			◎	○				BBJB2a570	
	K7435	行政法		2	3~4				◎			○	BBJB2a571	
	K7440	行政学		2	3~4			○	◎				BBJB2a572	
	K7445	法と倫理		2	5~6			◎	○			○	BBJB2a573	
	K7450	刑事法		2	5~6			◎	○				BBJB2a574	

●経営学科 公共経営専攻 専門教育科目編成表

種別	授業概要 科目コード	科目名	単位数		配当 セメスター	学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力					ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③	④	⑤			
専門 共通科目	公共経営専攻科目 公共経営専門	K7455	公共経営論		2	5~6			○	◎				BBJB2a575	
		K7460	行政職特別演習(憲法)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a576	
		K7465	行政職特別演習(行政法)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a577	
		K7470	行政職特別演習(民法Ⅰ)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a578	
		K7475	行政職特別演習(民法Ⅱ)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a579	
		K7480	行政職特別演習(経済Ⅰ)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a580	
		K7485	行政職特別演習(経済Ⅱ)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a581	
		K7490	行政職特別演習(政治学・行政学)		2	3~4		不可	○	◎				BBJB2a582	
		K7495	公共政策特別演習Ⅰ		2	5~6		不可	◎			○		BBJB3a583	
		K7500	公共政策特別演習Ⅱ		2	5~6		不可	◎			○		BBJB3a584	
		K7505	教養数学		2	1~2	W		◎	○				BBJB1a585	
		K7510	教養英語		2	1~2	R6年度 開講せず		○			◎		BBJB1a586	
		K7515	ライセンスセミナー法学		2	3~4		不可	◎	○			○	BBJB2a587	
		K7520	ライセンスセミナー公務員Ⅰ		2	5~6		不可	◎				○	BBJB2a588	
		K7525	ライセンスセミナー公務員Ⅱ		2	5~6		不可	◎				○	BBJB2a589	
卒業に必要な総単位数			16	70											

※注意：他学部・他学科履修について

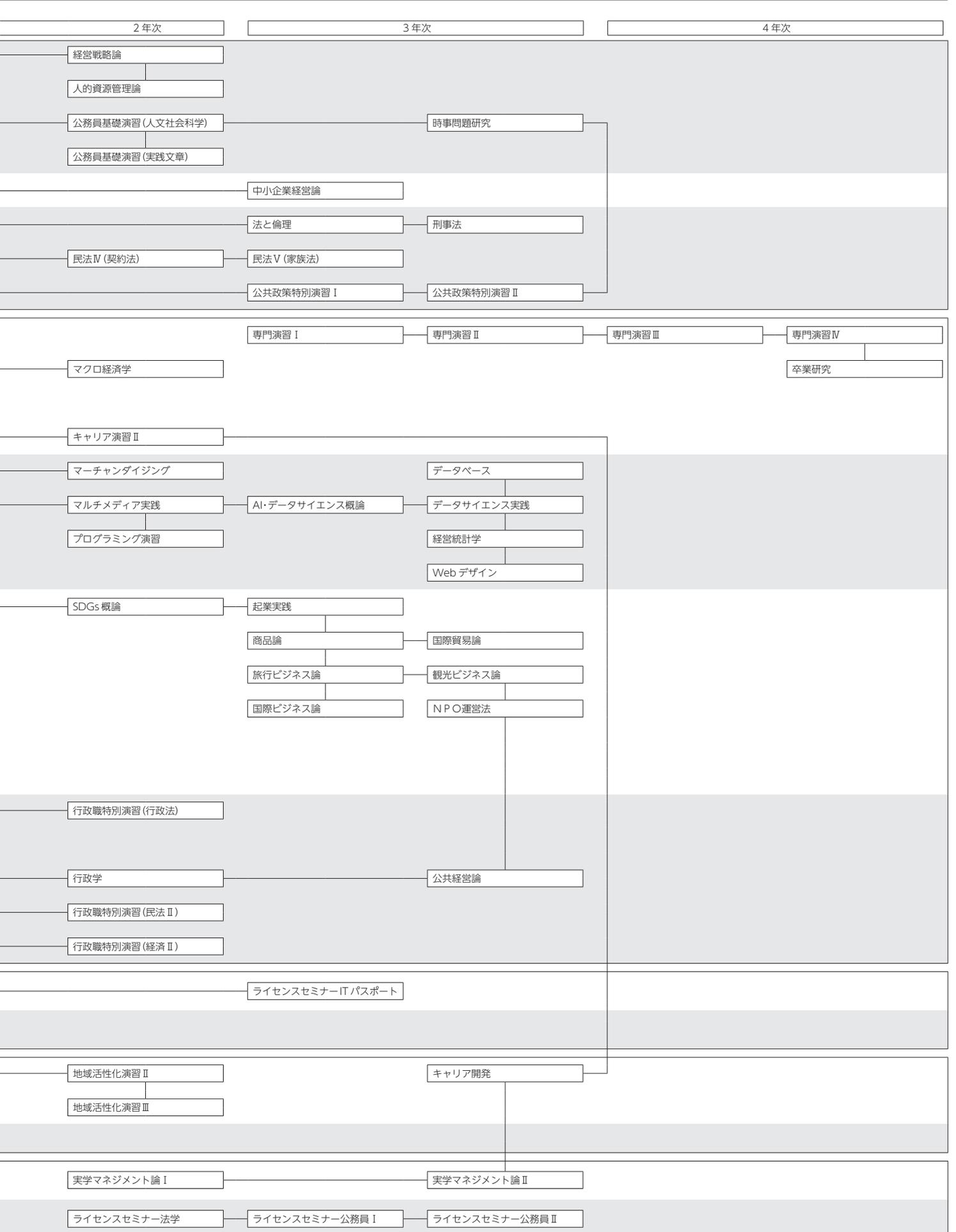
他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。

IBU.net上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

経営学部 経営学科 公共経営専攻 履修系統図

身につけるべき能力	種 別	1 年次	2 年次	
<p>①</p> <p>(学科共通) 幅広い教養と多様な経営領域に関する知識 企業や各種団体、国・地方公共団体などの組織において活躍する、また自ら起業家として事業を創出、継承するために備えるべき幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。</p> <p>(公共経営専攻科目) 公務員としての幅広い教養と多様な経営領域の知識 公務員として、または民間企業や各種団体等で活躍するため、幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。</p>	学科共通	経営学基礎 I 商業簿記 I 憲法 I (人権) 民法 I (総則)	会計学概論 公務員基礎演習 (数的処理・推理) 公務員基礎演習 (自然科学)	
	地域創生	アントレプレナー論	ビジネスモデル研究	
	公共経営専門	憲法 II (統治機構) 民法 II (物権)	民法 III (債権総論・不法行為法等)	
	教養英語	教養数学		
	学科共通	経済学概論	ミクロ経済学 財政学	
	マーケティング	マーケティングリサーチ	マーケティングマネジメント論	
<p>②</p> <p>(学科共通) 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力 より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得する中で、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、組織や地域などの課題に取り組み、解決する能力を備えている。</p> <p>(公共経営専攻科目) 専門的知識・技能の修得と課題解決力 より専門性の高い経営および法学領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、行政や地域コミュニティ、NPO 等の抱える課題を発見し、解決する能力を備えている。</p>	ビジネス情報	地域活性化総論 情報科学概論	キャリア演習 I 情報リテラシー基礎 情報リテラシー応用	
	地域創生		起業研究 不動産学研究 (民法 I) 不動産学研究 (民法 II) 不動産学研究 (宅建業法) 不動産学研究 (法令) 不動産学研究 (特講)	
	公共経営専門		行政法 行政職特別演習 (憲法) 行政職特別演習 (政治学・行政学) 行政職特別演習 (民法 I) 行政職特別演習 (経済 I)	
	学科共通	経営情報論	ライセンスセミナー PC データ	
	ビジネス情報	ライセンスセミナー PC 文書		
	学科共通		地域活性化演習 I	
	<p>③</p> <p>(学科共通) 情報を判断し分析・活用する力 情報通信技術 (ICT) を効果的に活用し、経営・経済・行政に関する情報やデータ等を適切に収集・分析・整理するとともに、その結果を的確に表現・伝達・管理保存し、課題解決に活用する能力を備えている。 (公共経営専攻科目) 公務員としての情報を判断し、分析・活用力 情報通信技術 (ICT) を効果的に活用するスキルと、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。</p>	学科共通		
		ビジネス情報		
	<p>④</p> <p>(学科共通) 協働のためのコミュニケーション能力 多様な立場・考え方を認めつつ自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働が円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。 (公共経営専攻科目) 協働のためのコミュニケーション能力 多様な立場・考え方を認めつつ自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働が円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。</p>	学科共通		
		公共経営専門		
<p>⑤</p> <p>(学科共通) 社会人としての自己研鑽力 社会人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。 (公共経営専攻科目) 公務員としての自己研鑽力 行政の担い手として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。</p>	学科共通			
	公共経営専門			

※カリキュラムポリシー（CP）はP142を参照してください。



●経営学科 企業経営専攻

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

経営学科企業経営専攻は、学生一人ひとりが個性を伸ばし、幅広い教養と高い専門的知識を系統的に修得して、将来、民間企業などで幅広く活躍できる人材、起業家精神を発揮して事業を創出、継承、発展させることができる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につけている資質・能力は、以下の5点を目標としています。

- ① 企業人としての幅広い教養と多様な経営領域に関する知識
ビジネスで活躍できる企業人などとして、幅広い一般教養と多様かつ、高い専門性の経営領域の知識を系統的に修得している。
- ② 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力
より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、企業や地域経済の抱える課題を発見解決したり、新たな事業を創出、継承、発展させたりする能力を備えている。
- ③ 企業人としての情報を判断し、分析・活用する力
情報通信技術（ICT）を効果的に活用する技術と、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。
- ④ 協働のためのコミュニケーション能力
多様な立場・考え方を認めたくえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。
- ⑤ 社会の変化に対応できる自己研鑽力
企業人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに係る知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

経営学科企業経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学の各領域について基礎分野から応用分野まで学年進行に合わせて専門科目を配置し、体系的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。

- 1) 経営学の基本的知識から応用的知識まで体系的・段階的に修得します。

経営領域の基本的な知識を経営共通コア科目として配置している「経営学基礎Ⅰ」「商業簿記Ⅰ」「会計学概論」「マーケティング」などの科目を軸として学び、「経営管理論」「経営組織論」「会社法」「財務管理論」などの科目を企業経営コア科目として有機的に配置し、学年進行に合わせて無理なく学ぶことができるように系統的に編成しています。3、4年次には専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とし、希望者は担任教員の指導の下、「卒業研究」論文に取り組みます。

- 2) 4つの経営領域を設けて、より専門性の高い学びを提供します。

ICTリテラシー・ICTスキルの修得と実際のデータを用いて課題を解決する知識を学ぶビジネス情報領域、地域経済の活性化や起業の方法を学ぶ地域創生領域、社会で役立つ高度な会計・金融知識を学ぶ会計ファイナンス領域、ホスピタリティ業界（ホテル・ブライダル、ツーリズム、フードビジネス、

医療事務など)の経営を学ぶホスピタリティ領域を重点的に設定し、学生一人ひとりの将来の職業適性と目標意識も視野に入れた自由、かつ柔軟な科目選択を可能とします。

3) 公的資格の取得を支援します。

公的資格試験合格を活用したキャリア開発意欲の向上を促進する科目として「ライセンスセミナー」「不動産研究」を設け、公的資格試験に挑戦し、合格することで専門知識に加え、職業適性を開発します。公的資格試験として、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、宅建士、販売士、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー、ITパスポートなどの合格を目標とした指導・支援を行います。

4) キャリア開発に直結する指導をします。

「キャリア演習Ⅰ～Ⅲ」において社会人としての資質向上支援を行い、「インターンシップⅠ・Ⅱ」で実際の就業体験を行い、「キャリア演習Ⅳ」で模擬就活体験を実施し、適性に合ったキャリア開発を支援するとともに、将来のキャリアに必要な専門知識・スキルを認識する機会として、キャリアサポート科目を提供します。

【教育方法】

- 1) 企業経営に関する科目全般の方向性として、従来の講義形式に加えて、学生がICTを効果的に活用し、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。
- 2) 学生自らが設定した目標達成のために、能動的に研究・調査・分析・発表・議論する体験型授業を多く設けることによって、積極的かつ継続的にアクティブ・ラーニングを効果的に行います。
- 3) 学生のキャリア開発のために、経営学部独自のキャリアサポート科目を設け、入学時から卒業年次までキャリア教育を継続的に教授します。また、国内でのインターンシップに加え、海外インターンシップを実施し、グローバル社会にも対応できる職業人を養成することに加え、地域連携型授業を通して地域社会で活躍できる人材の育成を推進します。
- 4) 適性に合ったキャリアを支えるために、公的資格(簿記、FP、宅建士、販売士、PC検定、ITパスポート、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等)の取得を支援する授業をカリキュラムに体系的に配置することにより、初級レベルから上級レベルまで学生が段階的に学修し、無理なく資格取得できる力を養成します。

【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 各科目において習熟度を測るために学期末試験を行うとともに、科目の特色に応じて中間試験や小テストを行い、課題を与えて評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。
- 3) 国内外でのインターンシップ科目については、インターンシップ実施企業と連携して、実践可能な到達目標を設定し、企業や教員による評価、さらに学生の自己評価等多面的できめ細やかな評価を行います。
- 4) 資格取得を目標とする科目については、小テスト、中間・学期末試験、平素の受講態度等に加えて、外部評価となる資格取得の成果も評価の対象とします。

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

経営学科企業経営専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 高等学校等の教育課程を幅広く修得しており、大学での学修に必要な基礎知識・学力・技能を有していること。 [求める要素：知識・技能]
- 2) 経営・経済や社会・生活に関する諸問題に関心を持ち、企業・団体等への高い就業意欲や起業・事業継承に向けての意欲があり、そのために資格取得や国内外で実施するインターンシップにも積極的かつ誠実に取り組む気持ちがあること。 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 3) 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を主体的に、かつ他者と協働して幅広く取り組んだ経験があり、そこでの自らの役割と成果を説明できること。 [求める要素：主体性・多様性・協働性]
- 4) 高等学校までのグループ活動等の学びを通じて、社会的課題に関心を持ち、さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考え、自己の意見を表現できること。 [求める要素：思考力・判断力・表現力]

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別	授業概要 科目コード	科目名	単位数		配当 セメスター	学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力					ナンバリング コード	備考			
			必修	選択				①	②	③	④	⑤					
専門教育科目	学 科 共 通	K7010	経営学基礎 I	2		1~2	S		◎	○				BBKA1a501			
		K7015	商業簿記 I	2		1~2	S		◎	○				BBKA1a502			
		K7020	憲法 I (人権)		2		1~2	S		◎	○			○	BBKA1a503		
		K7025	民法 I (総則)		2		1~2	S		◎	○				BBKA1a504		
		K7030	マーケティング		2		1~2	S		○	◎				BBKA1a505		
		K7035	会計学概論		2		1~2	W		◎	○				BBKA1a506		
		K7040	経営戦略論		2		3~4			◎		○			BBKA3a507		
		K7045	人的資源管理論		2		3~4			○	◎				BBKA2a508		
		K7050	地域活性化総論		2		1~2	S		○	◎				BBKA1a509		
		K7055	経営情報論		2		1~2	W			○	◎			BBKA1a510		
		K7060	経済学概論		2		1~2	W		◎	○				BBKA1a511		
		K7065	ミクロ経済学		2		3~4			○	◎				BBKA2a512		
		K7070	マクロ経済学		2		3~4			○	◎				BBKA2a513		
		K7075	財政学		2		3~4			○	◎				BBKA2a514		
		K7080	時事問題研究		2		5~6			◎	○				BBKA2a515		
		K7085	公務員基礎演習(数的処理・推理)		2		3~4		不可	◎	○				BBKA1a516		
		K7090	公務員基礎演習(自然科学)		2		3~4		不可	◎	○				BBKA1a517		
		K7095	公務員基礎演習(人文社会科学)		2		3~4		不可	◎	○				BBKA1a518		
		K7100	公務員基礎演習(実践文章)		2		3~4		不可	◎	○				BBKA1a519		
		K7105	キャリア演習 I		2		3~4		不可	○				◎	BBKA1a520		
		K7110	キャリア演習 II		2		3~4		不可	○				◎	BBKA1a521		
		K7115	キャリア開発		2		5~6		不可				◎	○	BBKA2a522		
		K7120	専門演習 I		2		5~6		不可	○	◎			○	BBKA1a523		
		K7125	専門演習 II		2		5~6		不可	○	◎			○	BBKA2a524		
		K7130	専門演習 III		2		7~8		不可	○	◎			○	BBKA3a525		
		K7135	専門演習 IV		2		7~8		不可	○	◎			○	BBKA3a526		
		K7140	卒業研究		4		7~8		不可	○	◎			○	BBKA3a527		
		ビジネス情報	K7145	情報科学概論		2		1~2	S	不可		◎	○		○	BBKA1a528	
			K7150	情報リテラシー基礎		2		1~2	W	不可		◎	○		○	BBKA1a529	
			K7155	情報リテラシー応用		2		3~4		不可		◎	○		○	BBKA1a530	
			K7160	プログラミング演習		2		3~4		不可		◎	○		○	BBKA2a531	
			K7165	マルチメディア実践		2		3~4		不可		◎	○		○	BBKA2a532	
			K7170	AI・データサイエンス概論		2		5~6		不可		◎	○		○	BBKA2a533	
K7175	データサイエンス実践			2		5~6		不可		◎	○		○	BBKA3a534			
K7180	データベース			2		5~6		不可		◎	○		○	BBKA2a535			
K7185	経営統計学			2		5~6		不可		◎	○			BBKA3a536			
K7180	Webデザイン			2		5~6		不可	○	◎				BBKA2a537			

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別	授業概要 科目コード	科目名	単位数		配当 セメスター	学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力					ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③	④	⑤			
教育課程 (授業科目一覧・単位数など) 経営学科 企業経営専攻	ビジネス情報	K7195	マーケティングリサーチ	2	1~2	W		○	◎				BBKA2a538	集中講義	
		K7200	マーケティングマネジメント論	2	3~4			○	◎				BBKA2a539		
		K7205	マーチャンダイジング	2	3~4			○	◎				BBKA2a540		
		K7210	ライセンスセミナーPC文書	2	1~2	W	不可	◎	○				BBKA2a541		
		K7215	ライセンスセミナーPCデータ	2	3~4		不可	◎	○	○			BBKA2a542		
		K7220	ライセンスセミナーITパスポート	2	5~6		不可		○	◎			BBKA2a543		
	学科共通科目 地域創生 専門教育科目	K7225	地域活性化演習Ⅰ	2	3~4			○	◎		○		BBKA1a544		
		K7230	地域活性化演習Ⅱ	2	3~4			○	◎		○		BBKA1a545		
		K7235	地域活性化演習Ⅲ	2	3~4			○	◎		○		BBKA2a546		
		K7240	実学マネジメント論Ⅰ	2	3~4			◎	○			○	BBKA2a547		
		K7245	実学マネジメント論Ⅱ	2	5~6			◎	○			○	BBKA2a548		
		K7250	中小企業経営論	2	5~6			◎	○			○	BBKA3a549		
		K7255	アントレプレナー論	2	1~2	S		◎	○			○	BBKA1a550		
		K7260	ビジネスモデル研究	2	1~2	W		◎	○			○	BBKA1a551		
		K7265	起業研究	2	3~4			○	◎			○	BBKA2a552		
		K7270	起業実践	2	5~6			○	◎			○	BBKA3a553		
		K7275	商品論	2	5~6			○	◎				BBKA3a554		
		K7280	国際ビジネス論	2	5~6			○	◎				BBKA3a555		
		K7285	国際貿易論	2	5~6			○	◎				BBKA2a556		
		K7290	旅行ビジネス論	2	5~6			○	◎				BBKA2a557		
		K7295	観光ビジネス論	2	5~6			○	◎				BBKA2a558		
		K7300	SDGs概論	2	3~4			○	◎			○	BBKA1a559		
		K7305	NPO運営法	2	5~6			○	◎				BBKA2a560		
		K7310	不動産学研究(民法Ⅰ)	2	3~4		不可	○	◎				BBKA2a561		
		K7315	不動産学研究(民法Ⅱ)	2	3~4		不可	○	◎				BBKA2a562		
		K7320	不動産学研究(宅建業法)	2	3~4		不可	○	◎				BBKA2a563		
		K7325	不動産学研究(法令)	2	3~4		不可	○	◎				BBKA2a564		
		K7330	不動産学研究(特講)	2	3~4		不可	○	◎				BBKA3a565		
		企業経営専攻科目 企業経営専門	K7610	経営学基礎Ⅱ	2	1~2	W		◎	○					BBKB1a566
			K7615	経営管理論	2	1~2	W		○	◎					BBKB1a567
K7620	経営組織論		2	3~4			○	◎				BBKB2a568			
K7625	財務管理論		2	5~6			○	◎				BBKB3a569			
K7630	経営心理学		2	5~6			○	◎				BBKB2a570			
K7635	企業倫理		2	5~6				◎		○	○	BBKB2a571			
K7640	企業法概論		2	3~4			○	◎				BBKB2a572			
K7645	会社法		2	3~4			○	◎				BBKB2a573			
K7650	金融取引法		2	5~6			○	◎				BBKB3a574			

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別	授業概要 科目コード	科目名	単位数		配当 セメスター	学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力					ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③	④	⑤			
企業経営専門	K7655	商法総則		2	3~4			○	◎				BBKB2a575	集中講義	
	K7660	商行為法		2	3~4			○	◎				BBKB2a576		
	K7665	社会保障法		2	5~6			◎	○				BBKB3a577		
	K7670	労働法		2	3~4			◎	○				BBKB2a578		
	K7675	知的財産法		2	5~6			○	◎				BBKB2a579		
	K7680	独占禁止法		2	5~6			○	◎				BBKB2a580		
	K7685	キャリア演習Ⅲ	2		3~4		不可				◎	○	BBKB2a581		
	K7690	キャリア演習Ⅳ	2		5~6		不可				◎		BBKB2a582		
	K7695	インターンシップⅠ	2		5~6		不可				○	◎	BBKB2a583		
	K7700	インターンシップⅡ	2		5~6		不可				○	◎	BBKB2a584		
会計・ファイナンス 企業経営専攻科目	K7705	商業簿記Ⅱ		2	1~2	W			◎	○			BBKB1a585		
	K7710	商業簿記Ⅲ		2	3~4				◎	○			BBKB2a586		
	K7715	工業簿記		2	3~4			◎	○				BBKB1a587		
	K7720	原価計算		2	3~4				◎	○			BBKB2a588		
	K7725	管理会計		2	3~4				◎	○			BBKB3a589		
	K7730	財務会計		2	3~4				◎	○			BBKB3a590		
	K7735	経営分析		2	5~6				○	◎			BBKB3a591		
	K7740	監査論		2	5~6				◎	○			BBKB3a592		
	K7745	税務会計		2	5~6				◎	○			BBKB3a593		
	K7750	コンピュータ会計		2	5~6				○	◎			BBKB2a594		
	K7755	ファイナンシャルプランニングⅠ		2	1~2	W		○	◎				BBKB1a595		
	K7760	ファイナンシャルプランニングⅡ		2	1~2	W		○	◎				BBKB1a596		
	K7765	ファイナンス論		2	5~6			○	◎				BBKB2a597		
	K7770	ライセンスセミナー簿記Ⅰ		2	1~2	S		◎				○	BBKB1a598		
	K7775	ライセンスセミナー簿記Ⅱ		2	1~2	W			◎			○	BBKB2a599		
	K7780	ライセンスセミナー簿記Ⅲ		2	3~4				◎			○	BBKB2a600		
	ホスピタリティ	K7785	ホスピタリティマネジメント		2	1~2	S		○	◎		○			BBKB1a601
		K7790	ビジネス実務概論		2	1~2	W		◎				○		BBKB1a602
K7795		流通論		2	1~2	W		○	◎				BBKB1a603		
K7800		リテールマーケティング論		2	3~4			○	◎		○		BBKB2a604		
K7805		美容・健康ビジネス論		2	3~4			○	◎				BBKB1a605		
K7810		カラーコーディネート論		2	1~2	W	不可	○	◎				BBKB1a606		
K7815		テーブルコーディネート論		2	5~6			○	◎				BBKB1a607		
K7820		ホテルマネジメント論		2	5~6			○	◎				BBKB1a608		
K7825		ブライダルマネジメント論		2	5~6			○	◎				BBKB1a609		
K7830		消費者心理学		2	5~6			○	◎		○		BBKB2a610		
K7835	ショップビジネス論		2	5~6			○	◎		○		BBKB2a611			

●経営学科 企業経営専攻 専門教育科目編成表

種別	授業概要 科目コード	科目名	単位数		配当 セメスター	学期	他学部・ 他学科履修	身に付けるべき能力					ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③	④	⑤		
専門教育科目 企業経営専攻科目 ホスピタリティ	K7840	フードビジネス論		2	5~6								BBKB2a612	
	K7845	医療事務入門		2	3~4			○	◎				BBKB1a613	
	K7850	医療事務応用		2	3~4			○	◎				BBKB2a614	
	K7855	ビジネス英語基礎		2	3~4						◎	○	BBKB1a615	
	K7860	ビジネス英語応用		2	3~4						◎	○	BBKB2a616	
	K7865	ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務Ⅰ		2	3~4			◎			○		BBKB2a617	
	K7870	ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務Ⅱ		2	5~6			◎			○		BBKB2a618	
卒業に必要な総単位数			18	68										

※注意：他学部・他学科履修について

他学部・他学科履修はシラバスを確認し、必ず担当教員の許可を得てから履修登録してください。

IBU.net 上で履修登録できる状態にある、あるいは科目編成表の「他学部・他学科履修」欄に『不可』がなくても他学部・他学科履修を許可しない場合があります。

経営学部 経営学科 企業経営専攻 履修系統図

身につけるべき能力	分野	1年次	2年次
<p>① (学科共通) 幅広い教養と多様な経営領域に関する知識 企業や各種団体、国・地方公共団体などの組織において活躍する、また自ら起業家として事業を創出、継承するために備えるべき幅広い一般教養と多様な経営領域の知識を系統的に修得している。</p> <p>(企業経営専攻科目) 企業人としての幅広い教養と多様な経営領域に関する知識 ビジネスで活躍できる企業人などとして、幅広い一般教養と多様かつ、高い専門性の経営領域の知識を系統的に修得している。</p>	学科共通	経営学基礎 I 商業簿記 I 憲法 I (人権) 民法 I (総則)	会計学概論 公務員基礎演習(数的処理・推理) 公務員基礎演習(自然科学)
	ビジネス情報		ライセンスセミナーPC文書 ライセンスセミナーPCデータ
	地域創生	アントレプレナー論	ビジネスモデル研究
	企業経営専門		経営学基礎 II 労働法
	会計・ファイナンス	ライセンスセミナー簿記 I	
	ホスピタリティ		ビジネス実務概論 ライセンスセミナー秘書・ビジネス実務 I
<p>② (学科共通) 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力 より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得する中で、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、組織や地域などの課題に取り組み、解決する能力を備えている。</p> <p>(企業経営専攻科目) 専門的知識・技能の修得と課題発見解決力 より専門性の高い経営領域の知識・技能を修得し、その知識・技能に裏付けられた論理的思考にもとづき、企業や地域経済の抱える課題を発見解決したり、新たな事業を創出、継承、発展させたりする能力を備えている。</p>	学科共通	マーケティング 地域活性化総論	経済学概論 ミクロ経済学 財政学
	ビジネス情報		マーケティングリサーチ 情報リテラシー基礎 マーケティングマネジメント論 情報リテラシー応用
	地域創生		起業研究 不動産学研究(民法 I) 不動産学研究(民法 II) 不動産学研究(宅建業法) 不動産学研究(法令) 不動産学研究(特講)
	企業経営専門		企業法概論 会社法 経営管理論
	会計・ファイナンス		商業簿記 II ライセンスセミナー簿記 II ファイナンシャルプランニング I ファイナンシャルプランニング II 商業簿記 III 財務会計 ライセンスセミナー簿記 III 工業簿記
	ホスピタリティ	ホスピタリティマネジメント カラーコーディネート論	流通論 リテールマーケティング論
<p>③ (学科共通) 情報を判断し分析・活用する力 情報通信技術 (ICT) を効果的に活用し、経営・経済・行政に関する情報やデータ等を適切に収集・分析・整理するとともに、その結果を的確に表現・伝達・管理保存し、課題解決に活用する能力を備えている。 (企業経営専攻科目) 企業人としての情報を判断し、分析・活用する力 情報通信技術 (ICT) を効果的に活用する技術と、データを適切に収集・分析・整理して課題を発見し、解決に活かす能力を備えている。</p>	学科共通		経営情報論
	ビジネス情報	情報科学概論	
<p>④ (学科共通) 協働のためのコミュニケーション能力 多様な立場・考え方を認めあううえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。 (企業経営専攻科目) 協働のためのコミュニケーション能力 多様な立場・考え方を認めあううえで自らの考えを他者に論理的かつ明確に伝え、周囲を説得できる説明能力と、他者との協働を円滑に行えるコミュニケーション能力を備えている。</p>	地域創生		地域活性化演習 I
	企業経営専門		
	ホスピタリティ		ビジネス英語基礎
<p>④ (学科共通) 社会人としての自己研鑽力 社会人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に取り組み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。 (企業経営専攻科目) 社会の変化に対応できる自己研鑽力 企業人として高い倫理観を有し、物事に関心を持って誠実にかかわる姿勢を備え、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に取り組み、社会の変化に柔軟に対応できるよう、生涯にわたり学び続ける意欲を備えている。</p>	学科共通		キャリア演習 I
	企業経営専門		

※カリキュラムポリシー（CP）はP150・151を参照してください。



●看護学部

〈卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

看護学部は、教育理念に基づき、①豊かな教養と高い倫理観を醸成すること、②自ら考え、課題を発見し、解決の方法を見出し、行動できる主体性と創造性を涵養すること、③看護の本質を熟考し続け、どんな状況であっても最善の看護を提供できる実践力を身につけることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下7点とします。

卒業時点において学生が身につけるべき能力

- ① 高い倫理観を備え、他者と関係を築く力
 - 1) 人間を多局面から統合的に理解することができる。
 - 2) 他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。
 - 3) 人間の尊厳と権利を擁護することができる。
- ② 課題を発見し、対応する能力
 - 1) 情報を目的に応じて活用することができる。
 - 2) 課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考え対応できる。
 - 3) 学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。
- ③ 健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力
 - 1) 特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。
 - 2) 科学的根拠に基づく看護実践ができる。
 - 3) 地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。
- ④ 看護者の責務を認識し、他職種と協働する力
 - 1) 社会における看護の役割と責務を理解できる。
 - 2) 他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。
- ⑤ 変化を生み出す力
 - 1) 社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。
 - 2) 新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。
 - 3) 自分の力を信じて挑戦し続けることができる。
- ⑥ 国際的活動の基本的能力
 - 1) 世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる。
 - 2) 異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる。
 - 3) 看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる。
- ⑦ 自己研鑽を継続する能力
 - 1) 生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける。
 - 2) 看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる。

※各科目との対応については授業科目編成表「身につけるべき能力」欄に表記

〈教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〉

【教育課程の編成、教育内容】

看護学部のカリキュラム編成においては、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）で示された卒業時に修得すべき能力を、学生が4年間でバランスよく、確実に修得できるように科目を配置しています。

また、教育の方法は、学生の主体性を引き出し、学生自らが進んで調べて考えるという学ぶ力を身につけることを重視するアクティブ・ラーニングを主体としています。

したがって教員には、アクティブ・ラーニングの理念を理解し、教授方法を修得すること、学習環境を整え、明確な課題と学習目標を設定して学生の学習を支援することが求められています。

- 1) ケアすることの価値について熟考し、自分自身の実践の核となる看護観を構築できるように支援する。
- 2) 教養科目を充実させ、安定した人間性と高い倫理観の醸成や、人間、社会、環境の理解など学際的な知識の理解を支援する。
- 3) 「知識を与えるだけの教育」から「自ら考える力を醸成する教育」への転換を図り、学生自らの気づきや考えを尊重し、学生が意見や考えを自由に表現し、行動に移せるように支援する。
- 4) 健康が人々の生活や文化に密接に関係していること、生活を支援することがどういうことかを深く理解して、生活に着目した看護が実践できるよう講義、演習、実習の繋がりを重視した教育を行う。
- 5) 多様な実習の場を提供し、体験学習を通して、地域におけるケアの重要性を認識できる教育を行う。
- 6) 他職種と連携・協働する重要性とその方法を理解するために、実際の活動を通して実践的に学べるよう支援する。
- 7) グローバルな視野で世界の健康課題を理解できるよう異文化体験、海外研修等の教育内容を提示する。
- 8) 学生が看護学を基盤とした自らのキャリアデザインを描けるように支援する。

【教育方法】

- 1) 常に看護とは何かを探究し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てます。専門科目において、大学基礎演習（看護基礎ゼミ）、看護と倫理、看護研究法、課題研究、統合実習などの看護について探究し、思考することを学ぶ科目を、学生の学習レベルに応じて段階的に配置します。
- 2) 人を生活者として理解するために、1年次から実習を配置します。2年次・3年次では、病気や健康障害による生活への影響と人々の反応に着目した看護の原理と方法を学ぶ実習科目を配置します。
- 3) 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するために、一般教養科目、専門科目における講義、実習を配置します。
- 4) 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てる教育を行います。講義・演習科目において、アクティブ・ラーニングを推進します。また、看護実践でのあらゆる状況、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。

【学修成果の評価方法】

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の4項目。

- 1) 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等
- 2) 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組み、看護師国家試験模試、看護師国家試験
- 3) 半年ごとの自己省察と目標修正・設定（学修ポートフォリオおよび上記1）2）をもとに、担任教員またはチューター、実習担当教員と面談を行う）
- 4) 就職先アンケート、卒業生アンケート

〈入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）〉

看護学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 看護学を学ぶための基礎的能力を有している人 [求める要素：知識・技能]
- 2) 人間の生命や尊厳を大切にし、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人 [求める要素：思考力・判断力]
- 3) 学問への真摯な態度を持ち、自ら学ぼうとする人 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 4) 人間の可能性や柔軟な心を信じ、人間に関心を寄せられる人 [求める要素：思考力・判断力、知識・技能]
- 5) 失敗を恐れず、失敗から謙虚に学び、成長しようとする人 [求める要素：関心・意欲・態度]
- 6) 看護を通して社会に貢献しようという志を持つ人 [求める要素：表現力、主体性・多様性・協働性]

●看護学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.232～237で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	授業の 方法	身につけるべき能力							ナンバリング コード	備考	
			必修	選択				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
健康科学科目	身体 のしくみ と働き	K8100	人体の構造と機能Ⅰ	②		1～2	S	講義	○	◎	○					NNNA1001a0	看護学科の専門教育科目は他学部・他学科の学生は履修することはできない。
		K8105	人体の構造と機能Ⅱ	2		1～2	S	講義	○	◎	○					NNNA1002a0	
		K8110	病態生理学	2		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNA1003a0	
		K8115	栄養と代謝	②		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNA1004a0	
		K8120	臨床心理学		2 (※1)	1～2	W	講義	○	◎	○					NNNA1005a0	
	疾病 からの 回復過程	K8125	疾病と治療Ⅰ	②		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNB2006a0	
		K8130	疾病と治療Ⅱ	2		1～2	W	講義	○	◎	○					NNNB2007a0	
		K8135	疾病と治療Ⅲ	1		3～4		講義	○	◎	○					NNNB2008a0	
		K8140	薬理学	②		3～4		講義	○	◎	○					NNNB2009a0	
		K8145	生活健康論	1		1～2	S	講義	◎	○	○					NNNC1010a0	
	健康 と生活	K8150	精神保健	②		3～4		講義	○	◎						NNNC2011a0	
		K8155	疫学		② (※1,3,4)	3～4		講義	○	◎			○			NNNC2012a0	
		K8160	保健行動論		2 (※1)	1～2	W	講義	○	◎	○					NNNC1013a0	
		社会 保障 と健康 政策	K8165	社会保障制度	2		1～2	W	講義			○	○	◎			
	K8170		国際保健学	2		3～4		講義		○		○	○	◎		NNND2015a0	
	K8175		保健統計学		2 (※1,3)	3～4		講義		○	○		◎			NNND2016a0	
	K8180		医療と経済		2 (※1)	5～6		講義		○	○		◎			NNND3017a0	
	K8185		保健行政論		2 (※1,3)	1～2	W	講義			○	○	◎			NNND1018a0	
	看護 の基盤	K8190	看護概論	②		1～2	S	講義	◎		○	○			○	NNNE1019a0	
		K8195	看護の歴史	2		3～4		講義	○		○	◎				NNNE1020a0	
K8200		生活支援論	2		1～2	S	講義	○	◎	○				○	NNNE1021a0		
K8205		ライフサイクルにおける発達課題と健康	1		1～2	S	講義	◎	○	○				○	NNNE1022a0		
K8210		看護と倫理	②		3～4		講義	◎			○		○	○	NNNE2023a0		
K8215		コミュニケーション論	1		1～2	W	講義	◎	○						NNNE2024a0		
K8220		初期実習Ⅰ(生活をみる)	1		1～2	S	実習	◎	○						NNNE1025a0		
K8225		初期実習Ⅱ(コミュニケーションの実践)	1		1～2	S	実習	◎	○						NNNE1026a0		
K8230		大学基礎演習(看護基礎ゼミ)	1		1～2	S	演習	◎	○					○	NNNE1027a0		
看護 科学 科目		K8235	療養生活支援論(成人・高齢者)	2		3～4		講義		◎	○	○				NNNF2028a0	
	K8240	フィジカルアセスメント	2		3～4		演習		◎	○	○				NNNF2029a0		
	K8245	生活支援技術演習	1		3～4		演習		○	◎	○			○	NNNF2030a0		
	K8250	看護治療技術演習	①		3～4		演習		◎	○	○				NNNF2031a0		
	K8255	療養生活支援技術演習Ⅰ	3		5～6		演習		◎	○	○				NNNF2032a0		
	K8260	療養生活支援技術演習Ⅱ	2		5～6		演習		◎	○	○				NNNF2033a0		
	K8265	療養生活支援基礎実習	2		3～4		実習		○	◎	○			○	NNNF2034a0		
	K8270	療養生活支援実習Ⅰ(急性・回復期)	2		5～6		実習		○	◎	○				NNNF3035a0		

●看護学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.232～237で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	授業の 方法	身につけるべき能力							ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
療養看護	K8275	療養生活支援実習Ⅱ(慢性期)	2		5～6		実習	○	◎	○					NNNF3036a0	
	K8280	療養生活支援実習Ⅲ(老化に伴う健康課題)	2		5～6		実習	○	◎	○					NNNF3037a0	
女性の健康と 成人支援看護	K8285	女性の発達課題と健康	1		3～4		講義	◎	○	○					NNNG2038a0	
	K8290	母性生活支援技術演習	2		5～6		演習	◎	○	○					NNNG2039a0	
	K8295	母性生活支援実習	2		5～6		実習	○	◎	○					NNNG3040a0	
	K8300	成育生活支援論	①		3～4		講義	◎	○	○					NNNG2041a0	
	K8305	成育療養生活支援技術演習	②		5～6		演習	◎	○	○					NNNG2042a0	
	K8310	成育療養生活支援実習	②		5～6		実習	○	◎	○					NNNG3043a0	
	K8315	在宅療養生活支援論	1		3～4		講義	◎	○	○					NNNH2044a0	
コミュニケーション における継続的な看護	K8320	在宅療養生活支援技術演習	2		3～4		演習	◎	○	○					NNNH2045a0	
	K8325	ケースマネジメントと多職種連携	2		5～6		講義	○	○	◎	○				NNNH3046a0	
	K8330	精神健康と生活支援	1		3～4		講義	○	◎	○					NNNH2047a0	
	K8335	精神療養生活支援技術演習	2		5～6		演習	○	◎	○					NNNH2048a0	
	K8340	家族の健康課題と生活支援	1		3～4		講義	◎	○	○					NNNH2049a0	
	K8345	産業保健論		2 (※3)	3～4		講義	◎	○	○					NNNH2050a0	
	K8350	学校保健論		② (※3,4)	3～4		講義	◎	○	○					NNNH2051a0	
	K8355	グローバルヘルスと国際看護	2		7～8		講義	○	○			○	◎		NNNH3052a0	
	K8400	災害看護支援論	2		3～4		講義	○	◎	○	○	○			NNNH2053a0	
	K8405	在宅療養生活支援実習	2		5～6		実習	○	◎	○					NNNH3054a0	
	K8410	精神療養生活支援実習	2		5～6		実習	○	◎	○					NNNH3055a0	
	K8415	災害看護支援技術演習		1 (※2)	7～8		演習	○	◎	○	○	○			NNNH2056a0	
	K8420	国際看護フィールドワーク		1 (※2)	7～8		演習	○	○			◎	◎		NNNH2057a0	
健康の増進と 疾病予防の看護	K8425	地域生活支援論Ⅰ	②		3～4		講義	◎	○	○	○				NNNI2058a0	
	K8430	地域生活支援論Ⅱ		2 (※3)	5～6		講義	○	◎	○	○				NNNI3059a0	
	K8435	地域生活支援技術論		2 (※3)	5～6		講義	◎	○	○	○				NNNI2060a0	
	K8440	地域生活支援技術演習Ⅰ		1 (※3)	5～6		演習	○	◎	○	○				NNNI2061a0	
	K8445	地域生活支援技術演習Ⅱ		2 (※3)	7～8		演習	○	◎	○	○				NNNI3062a0	
	K8450	健康教育論		2 (※3)	3～4		講義	○	◎	○	○				NNNI2063a0	
看護の探求と 統合	K8455	看護研究法	2		5～6		講義	◎			○				NNNJ1064a0	
	K8460	課題研究	2		7～8		演習	○	◎			○	○		NNNJ3065a0	
	K8465	キャリアマネジメント	1		3～4		講義				○	○	◎		NNNJ1066a0	
	K8470	看護政策		1 (※2)	7～8		講義	◎		○	○				NNNJ2067a0	
	K8475	看護システムマネジメント論	2		5～6		講義	○	○		◎	○			NNNJ2068a0	
	K8480	看護管理実習	2		5～6		実習	○	○	○	◎	○			NNNJ3069a0	
	K8485	統合実習	3		7～8		実習	○	○		◎	○	○		NNNJ3070a0	
保健師	K8490	地域生活支援実習		5	7～8		実習	○	○	◎	○	○	○	NNNK3071a0		

●看護学科 専門教育科目編成表

単位数の○印は教免に関する科目。○印のうちどれが必要であるかは取得する免許の種類によって違うため、P.232～237で調べて履修すること。

種別	授業概要コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	授業の 方法	身につけるべき能力							ナンバリング コード	備考
			必修	選択				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
看護科学科目 助産師コース	K8495	助産学概論		2	5～6		講義	◎	○		○	○	○	○	NNNL2072a0	
	K8500	周産期医学		2	5～6		講義	○	◎	○	○	○		○	NNNL2073a0	
	K8505	助産診断・技術学Ⅰ		3	5～6		講義	○	◎		○	○		○	NNNL2074a0	
	K8510	助産診断・技術学Ⅱ		2	7～8		講義	○	◎		○	○		○	NNNL2075a0	
	K8515	助産診断・技術学Ⅲ		3	7～8		講義	○	◎		○	○		○	NNNL2076a0	
	K8520	助産技術学演習Ⅰ		1	5～6		演習	○	○	◎	○			○	NNNL2077a0	
	K8525	助産技術学演習Ⅱ		1	7～8		演習	○	○	◎	○			○	NNNL2078a0	
	K8530	地域母子保健		1	7～8		講義	○	○	◎	○	○		○	NNNL3079a0	
	K8535	助産管理論		1	7～8		講義	◎	○	○	○	○		○	NNNL3080a0	
	K8540	助産実習		11	7～8		実習	○	○	◎	○	○		○	NNNL3081a0	
看護教諭コース	K8545	養護概説		②	3～4		講義	○	○	◎	○	○		○	NNNM2082a0	
	K8550	健康相談		②	5～6		講義	○	○	◎	○	○		○	NNNM2083a0	
	K8555	養護実習		5	7～8		実習	○	○	◎	○	○		○	NNNM3084a0	
卒業に必要な最低修得単位数			102	0												

- 健康科学科目（必修科目 22 単位、選択科目 6 単位）……（※ 1）の内、3 科目 6 単位を選択必修とする。
看護科学科目（必修科目 73 単位、選択科目 1 単位）……（※ 2）のいずれか 1 科目 1 単位を選択必修とする。
- 保健師国家試験受験資格取得には、卒業要件に加え、（※ 3）と「保健師コース」の全てを修得すること。
- 助産師国家試験受験資格取得には、卒業要件に加え、「助産師コース」の全てを修得すること。
- 養護教諭一種免許状取得には、卒業要件に加え、（※ 4）と「養護教諭コース」と教職に関する科目の全てを修得すること。

（注）・助産師コースの科目は、女子のみ履修を可能とする。

・養護教諭二種免許状取得には、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」を修得し、保健師免許を取得することで免許申請が可能となる。

●実習科目の履修要件

- 履修要覧（P.166～P.169）に定められている実習参加要件を満たしていること。
- 毎年行われている定期健康診断を受けていること、および看護学部において指定した感染症の抗体価検査を受け、必要な感染予防対策を行っていること。
- 実習において必要な一般社団法人日本看護学校協議会共済会の総合補償制度 Will に加入していること。

【注意】

実習によっては実習先に健康診断書や抗体などの検査結果を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。

実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾病名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。

※詳細は、オリエンテーションで説明があります。

■看護師国家試験受験資格取得 実習参加要件

下記科目を履修するために先修科目の単位を取得しておくこと

年次	科 目	先修科目 (26 科目 41 単位)	単位数		
2 年次	療養生活支援基礎実習 (2 単位)	健康科学科目	人体の構造と機能 I	2	
			人体の構造と機能 II	2	
			病態生理学	2	
			栄養と代謝	2	
			疾病と治療 I	2	
			疾病と治療 II	2	
			疾病と治療 III	1	
			薬理学	2	
			生活健康論	1	
			精神保健	2	
			社会保障制度	2	
			国際保健学	2	
			看護科学科目	看護概論	2
				看護の歴史	2
		生活支援論		2	
		ライフサイクルにおける発達課題と健康		1	
		看護と倫理		2	
		コミュニケーション論		1	
		初期実習 I (生活をみる)		1	
		初期実習 II (コミュニケーションの実践)		1	
		大学基礎演習 (看護基礎ゼミ)		1	
		生活支援技術演習		1	
		看護治療技術演習		1	
		在宅療養生活支援論		1	
		家族の健康課題と生活支援	1		
		地域生活支援論 I	2		
合計単位数			41		
年次	科 目	先修科目 (43 科目 72 単位)	単位数		
3 年次	療養生活支援実習 I (急性・回復期) (2 単位) 療養生活支援実習 II (慢性期) (2 単位) 療養生活支援実習 III (老化に伴う健康課題) (2 単位) 母性生活支援実習 (2 単位) 成育療養生活支援実習 (2 単位) 在宅療養生活支援実習 (2 単位) 精神療養生活支援実習 (2 単位) 看護管理実習 (2 単位)	健康科学科目	人体の構造と機能 I	2	
			人体の構造と機能 II	2	
			病態生理学	2	
			栄養と代謝	2	
			疾病と治療 I	2	
			疾病と治療 II	2	
			疾病と治療 III	1	
			薬理学	2	
			生活健康論	1	
			精神保健	2	
			社会保障制度	2	
			国際保健学	2	

3 年次	療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）（2単位）	看護概論	2
	療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）（2単位）	看護の歴史	2
	療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）（2単位）	生活支援論	2
	母性生活支援実習（2単位）	ライフサイクルにおける発達課題と健康	1
	成育療養生活支援実習（2単位）	看護と倫理	2
	在宅療養生活支援実習（2単位）	コミュニケーション論	1
	精神療養生活支援実習（2単位）	初期実習Ⅰ（生活をみる）	1
	看護管理実習（2単位）	初期実習Ⅱ（コミュニケーションの実践）	1
		大学基礎演習（看護基礎ゼミ）	1
		生活支援技術演習	1
		看護治療技術演習	1
		在宅療養生活支援論	1
		家族の健康課題と生活支援	1
		地域生活支援論Ⅰ	2
		療養生活支援論（成人・高齢者）	2
		フィジカルアセスメント	2
		療養生活支援基礎実習	2
		療養生活支援技術演習Ⅰ	3
		療養生活支援技術演習Ⅱ	2
		女性の発達課題と健康	1
		母性生活支援技術演習	2
		成育生活支援論	1
		成育療養生活支援技術演習	2
		在宅療養生活支援技術演習	2
		ケースマネジメントと多職種連携	2
		精神健康と生活支援	1
		精神療養生活支援技術演習	2
	災害看護支援論	2	
	看護研究法	2	
	キャリアマネジメント	1	
	看護システムマネジメント論	2	
合計単位数			72
年次	科 目	先修科目（8科目16単位）	単位数
4 年生	統合実習（3単位）	看護生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）	2
		看護生活支援実習Ⅱ（慢性期）	2
		看護生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）	2
		母性生活支援実習	2
		成育療養生活支援実習	2
		在宅療養生活支援実習	2
		精神療養生活支援実習	2
		看護管理実習	2
合計単位数			16

■保健師国家試験受験資格取得 学内選抜試験および実習参加要件

本学では、保健師コースを選択できる定員は10人以内とし、選抜時期は2年次冬学期の成績評価終了後に行います。出願方法はIBU.netで連絡します。選抜試験を受験するためには、4セメスターまでに配当された必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目）の単位を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、面接試験と4セメスターまでに配当されている健康科学および看護科学科目のうち実習を除く必修科目のGPAにより行います。

選抜試験・授業科目	受験・履修条件
選抜試験応募条件 定員 10名	<p>在学4セメスター終了までに次の要件を充たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の4科目6単位を修得していること。 共通教育科目の教養教育科目が「生物学」1科目2単位を含んで8単位以上であること。 共通教育科目の語学・情報科学科目が「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の5科目6単位を含んで10単位以上であること。 専門教育科目の4セメスターまでに配当された必修科目35科目55単位および「保健行政論」、「保健統計学」、「疫学」、「学校保健論」、「産業保健論」、「健康教育論」の6科目12単位を修得していること。
「地域生活支援実習」	<ul style="list-style-type: none"> 選抜試験に合格していること。 専門教育科目の6セメスターまでに配当された必修科目51科目88単位を修得していること。「地域生活支援論Ⅱ」「地域生活支援技術論」、「地域生活支援技術演習Ⅰ」、「地域生活支援技術演習Ⅱ」の4科目7単位を修得していること。

■助産師国家試験受験資格取得 学内選抜試験および実習参加要件

本学では、助産師コースを選択できる定員は5人以内とし、選抜時期は3年次夏学期の成績評価終了後に行います。出願方法はIBU.netで連絡します。選抜試験を受験するためには、5セメスターまでに配当された必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目）の単位を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、面接試験と看護技術試験5セメスターまでに配当されている健康科学および看護科学科目のうち実習を除く必修科目のGPAにより行います。

選抜試験・授業科目	受験・履修条件
選抜試験応募条件 定員 5名	<p>在学5セメスター終了までに次の要件を充たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の4科目6単位を修得していること。 共通教育科目の教養教育科目が「生物学」1科目2単位を含んで8単位以上であること。 共通教育科目の語学・情報科学科目が「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の5科目6単位を含んで10単位以上であること。 専門教育科目の5セメスターまでに配当された必修科目43科目72単位および「助産学概論」の1科目2単位を修得していること。
「助産実習」	<ul style="list-style-type: none"> 選抜試験に合格していること。 専門教育科目の6セメスターまでに配当された必修科目51科目88単位を修得していること。「周産期医学」、「助産診断・技術学Ⅰ」、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産技術学演習Ⅰ」、「助産技術学演習Ⅱ」の6科目12単位を修得していること。

■養護教諭一種免許状 学内選抜試験および実習参加要件

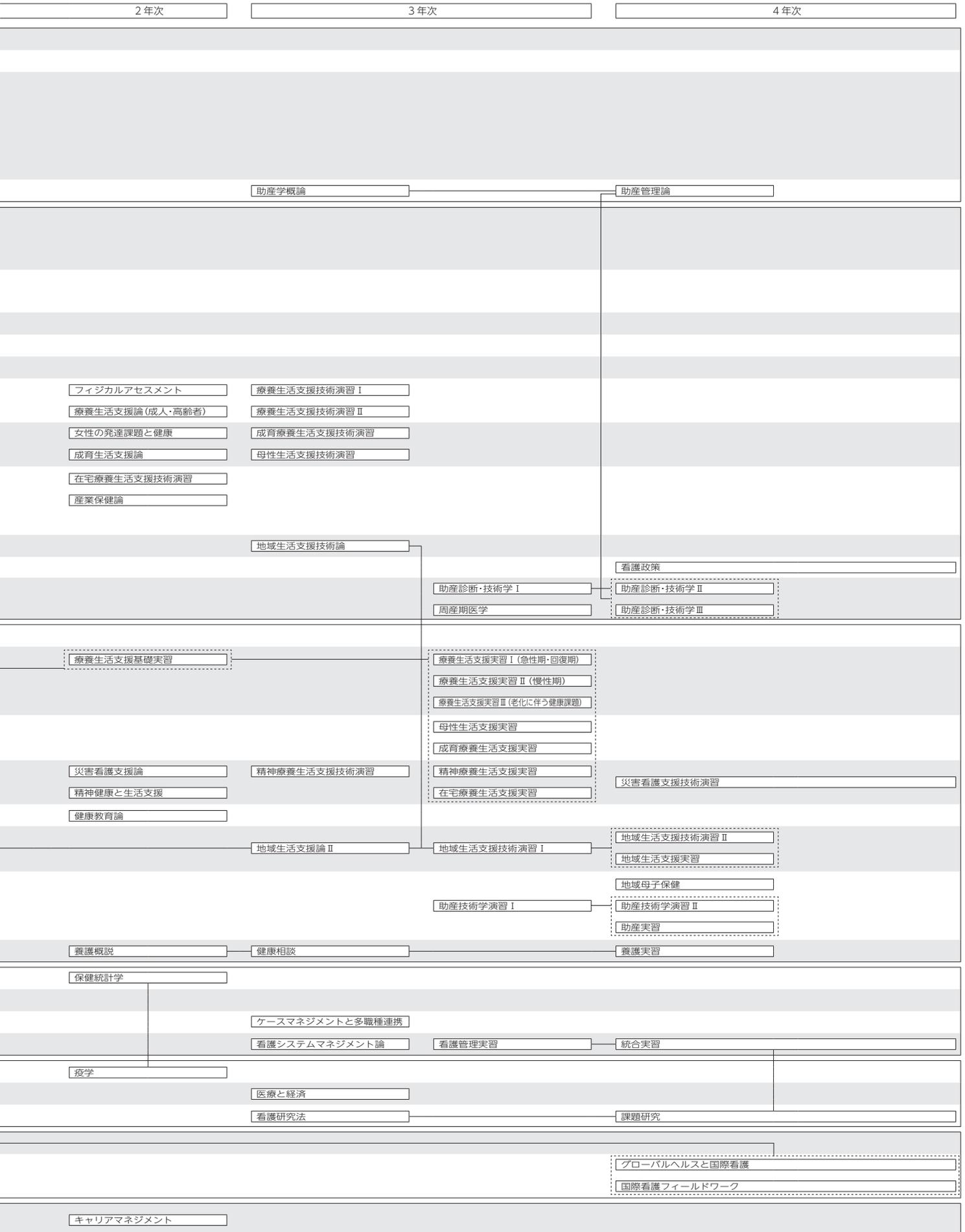
本学では、養護教諭コースを選択できる定員は20人程度とし、選抜時期は2年次冬学期の成績評価終了後に行います。出願方法はIBU.netで連絡します。選抜試験を受験するためには、4セメスターまでに配当された必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目、教職科目）の単位を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、小論文（出願時に提出）、面接試験、4セメスターまでの全履修科目の累積GPA（実習含む）により行います。

選抜試験・授業科目	受験・履修条件
選抜試験応募条件 定員 20名	在学4セメスター終了までに次の要件を充たしていること。 <ul style="list-style-type: none"> • 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の4科目6単位を修得していること。 • 共通教育科目が「生物学」、「日本国憲法」、「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の9科目12単位および「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」いずれか1科目2単位を含んで16単位以上であること。 • 専門教育科目で4セメスターまでに配当された必修科目35科目55単位および「疫学」、「学校保健論」、「養護概説」の3科目6単位を修得していること。 • 教職に関する科目「教職論」、「教育原論」、「教育心理学」、「特別支援教育」、「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）」、「生徒指導論（養）」、「教育相談の理論と方法（中・高・養）」、「道德教育の理論と方法（中・養）」の8科目16単位を修得していること。
「養護実習」	<ul style="list-style-type: none"> • 選抜試験に合格していること。 • 専門教育科目で6セメスターまでに配当された必修科目51科目88単位および「健康相談」の1科目2単位を修得していること。 • 教職に関する科目「教育制度論」、「教育課程総論（中・高・養）」、「特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中高養）」の3科目6単位を修得していること。

看護学部 看護学科 履修系統図

身につけるべき能力	種 別	1 年次	2 年次
① 高い倫理観を備え、他者と関係を築く力 1) 人間を多局面から総合的に理解することができる。 2) 他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。 3) 人間の尊厳と権利を擁護することができる。	健康と生活	生活健康論	保健行動論
	社会保障と健康政策		社会保障制度
	看護の基盤	大学基礎演習(看護基礎ゼミ) 看護概論 ライフサイクルにおける発達課題と健康 初期実習 I 初期実習 II	コミュニケーション論
	助産師コース		看護と倫理
② 課題を発見し、対応する能力 1) 情報を目的に応じて活用することができる。 2) 課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考えた対応できる。 3) 学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。	身体のしくみと働き	人体の構造と機能 I 人体の構造と機能 II	栄養と代謝 病態生理学 臨床心理学
	疾病からの回復過程		疾病と治療 I 疾病と治療 II
	健康と生活		
	社会保障と健康政策		
	看護の基盤	生活支援論	
	療養生活支援看護		看護治療技術演習
	女性の健康と生育支援看護		
	コミュニティにおける継続的な看護		家族の健康課題と生活支援 在宅療養生活支援論 学校保健論
	健康の増進と疾病予防の看護		地域生活支援論 I
	看護の探求と統合		
助産師コース			
③ 健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力 1) 特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。 2) 科学的根拠に基づく看護実践ができる。 3) 地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。	社会保障と健康政策		保健行政論
	療養生活支援看護		生活支援技術演習
	女性の健康と生育支援看護		
	コミュニティにおける継続的な看護		
	健康の増進と疾病予防の看護		
	保健師コース		
助産師コース			
看護教諭コース			
④ 看護者の真務を認識し、他職種と協働する力 1) 社会における看護の役割と債務を理解できる。 2) 他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。	社会保障と健康政策		
	看護の基盤		看護の歴史
	コミュニティにおける継続的な看護 看護の探求と統合		
⑤ 変化を生み出す力 1) 社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。 2) 新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。 3) 自分の力を信じて挑戦し続けることができる。	健康と生活		
	社会保障と健康政策		
	看護の探求と統合		
⑥ 国際的活動の基本的能力 1) 世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる。 2) 異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる。 3) 看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる。	社会保障と健康政策		国際保健
	コミュニティにおける継続的な看護		
⑦ 自己研鑽を継続する能力 1) 生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける。 2) 看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる。	看護の探求と統合		

※カリキュラムポリシー（CP）はP161を参照してください。



教職に関する科目（文学部・社会学部）
（教育の基礎的理解に関する科目等）・（「教科の指導法に関する科目」）

種別	授業概要 コード	科目名	単位数				配当 セメスター	開講 学期	ナンバリング コード	備考	
			中免		高免						
			必修	選択	必修	選択					
教職に関する科目	J9010	教職論	2		2		1~2	S/W	TTTT1001a2		
	J9020	教育原論	2		2		1~2	S	TTTT1002a2		
	J9030	教育心理学	2		2		1~2	S/W	TTTT1003a2		
		教育制度論	2		2		5~6		TTTT1004a2		
	J9050	特別支援教育	2		2		1~2	S/W	TTTT1005a2		
		教育課程総論(中・高・養)	2		2		5~6		TTTT1006a2		
		教科教育法Ⅰ(国語)	8 (注1)		2	4 (注2)	2	5~6		TTTT2007a2	
		教科教育法Ⅱ(国語)					2	5~6		TTTT2008a2	
		教科教育法Ⅲ(国語)					2	5~6		TTTT2009a2	
		教科教育法Ⅳ(国語)					2	5~6		TTTT2010a2	
		教科教育法Ⅰ(書道)						2	5~6	TTTT2011a2	
		教科教育法Ⅱ(書道)						2	5~6	TTTT2012a2	
		教科教育法Ⅰ(英語)					2	2	5~6	TTTT2013a2	
		教科教育法Ⅱ(英語)					2	2	5~6	TTTT2014a2	
		教科教育法Ⅲ(英語)					2		5~6	TTTT2015a2	
		教科教育法Ⅳ(英語)					2		5~6	TTTT2016a2	
		社会教科教育法Ⅰ					2		5~6	TTTT2017a2	
		社会教科教育法Ⅱ					2		5~6	TTTT2018a2	
		社会地理歴史教科教育法					2	2	5~6	TTTT2019a2	
		地理歴史教科教育法						2	5~6	TTTT2020a2	
		社会公民教科教育法					2	2	5~6	TTTT2021a2	
		公民教科教育法						2	5~6	TTTT2022a2	
		教科教育法Ⅰ(福祉)		2	5~6	TTTT2023a2					
		教科教育法Ⅱ(福祉)		2	5~6	TTTT2024a2					
		道德教育の理論と方法(中・養)	2			3~4	TTTT1025a2				
		特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2		2	5~6	TTTT1026a2				
		教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2		2	3~4	TTTT1027a2				
		生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2		2	3~4	TTTT1028a2				
		教育相談の理論と方法(中・高・養)	2		2	3~4	TTTT1029a2				
		教育実習指導	1		1	5~6	TTTT2030a2				
		教育実習Ⅰ	4		2 (注3)	4	5~6	TTTT3031a2			
		教育実習Ⅱ				2	5~6	TTTT3032a2			
		教職実践演習(中・高)	2		2	7~8	TTTT3033a2				
教員職員免許取得のための必要最低単位数			37		29						

- (注1) ・中学一種免許は同一教科のⅠ～Ⅳの4科目8単位必修。
 ・中学一種社会免許は、社会教科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会地理歴史教科教育法、社会公民教科教育法の4科目8単位必修。
- (注2) ・高校一種免許は同一教科のⅠ～Ⅱの2科目4単位必修。
 ・高校一種地理歴史免許は、社会地理歴史教科教育法、地理歴史教科教育法の2科目4単位必修。

●司書教諭の講習に関する科目

文学部・社会学部および教育学部の学生で学校図書館司書教諭の資格を取得する場合は、「司書教諭の講習に関する科目」を修得する必要があります。

司書教諭の講習に関する科目

種別	授業概要 コード	科目名	単位数		配当 セメスター	開講 学期	ナンバリング コード	備考
			必修	選択				
学校図書館司書教諭科目	J9600	学校経営と学校図書館	2		7~8		LLLL2001a2	
	J9610	学校図書館メディアの構成	2		7~8		LLLL2002a2	
	J9620	学習指導と学校図書館	2		7~8		LLLL2003a2	
	J9630	読書と豊かな人間性	2		7~8		LLLL2004a2	
	J9640	情報メディアの活用	2		7~8		LLLL2005a2	
学校図書館司書教諭講習の修了証書取得に必要な修得単位数			10					

学校図書館司書教諭講習の修了証書を取得しようとするものは、教職課程（対象となる免許は小一種・中一種・高一種）を履修した上に、さらに、学校図書館司書教諭講習規程による上表の科目10単位を履修しなければならない。

(p.249「司書教諭の講習に関する科目」参照)

上記の科目により修得した単位は、学校図書館司書教諭講習の修了証書の取得のみに有効で、卒業に必要な単位には算入できない。

●重ねて履修できない科目一覧表

※下記太枠内の科目は重ねて2科目以上履修できません。各自、所属学科の科目を履修すること。

大/短	授業概要コード	授 業 科 目	種別 学科
大	K2175	アドバンスコミュニケーションⅠ	国コ
大	K5570	アドバンスコミュニケーションⅠ	教学
短	X0055	アドバンスコミュニケーション	共教
大	K2180	アドバンスコミュニケーションⅡ	国コ
大	K5575	アドバンスコミュニケーションⅡ	教学
大	K3445	カウンセリング方法論	社会
大	K4395	カウンセリング方法論	人福
大	K3440	カウンセリング理論	社会
大	K4390	カウンセリング理論	人福
大	K2040 K2045	ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ	国コ
大	K5550	ベーシックコミュニケーションⅠ	教学
大	K2050 K2055	ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ	国コ
大	K5555	ベーシックコミュニケーションⅡ	教学
大	K2060	Oral CommunicationⅠ	国コ
大	K5560	ベーシックコミュニケーションⅢ	教学
大	K2065	Oral CommunicationⅡ	国コ
大	K5565	ベーシックコミュニケーションⅣ	教学
大	J0136	共通教育特殊講義 異文化理解Ⅰ	共教
大	K1635	異文化理解	日本
大	K2290	異文化理解	国コ
大	K3345	異文化コミュニケーション論	社会
大	K5640	Cross-cultural Communication	教学
短	X0066	共通教育特殊講義 異文化理解	共教
大	K2240	英語音声学	国コ
大	K5505	英語音声学	教学
大	K2020	英文法Ⅰ	国コ
大	K5510	英文法Ⅰ	教学
大	K2245	英語学概説	国コ
大	K5500	英語学概説	教学
大	K2010	英語圏文化概説	国コ
大	K5580	英語圏文化概説	教学
大	K2235	英語文学概説	国コ
大	K5535	英語文学概説	教学
大	K2025	英文法Ⅱ	国コ
大	K5515	英文法Ⅱ	教学
大	K3170	家族社会学	社会
大	K4235	家族社会学	人福
大	K5305	子どもと家族・社会	教学
大	K5010	教育原論	教育
大	K9020	教育原論	教職
短	X1010	教育原理(制度的事項等を含む)	保育
大	K5025	教育心理学	教育
大	K9030	教育心理学	教職
大	K5030	教育制度論	教育
大	K9040	教育制度論	教職

大/短	授業概要コード	授 業 科 目	種別 学科
大	K5020	教職論	教育
大	K9010	教職論	教職
大	K3375	国際ビジネス論	社会
大	K7280	国際ビジネス論	経営
大	K3310	地域社会学	社会
大	K4240	地域社会学	人福
大	K5015	特別支援教育	教育
大	K9050	特別支援教育	教職
短	X1020	特別支援教育	保育
大	K5470	保育内容の理論と方法(環境)	教学
大	K6155	保育内容の理論と方法(環境)	教幼
大	K5460	保育内容の理論と方法(健康)	教学
大	K6145	保育内容の理論と方法(健康)	教幼
大	K5475	保育内容の理論と方法(言葉)	教学
大	K6160	保育内容の理論と方法(言葉)	教幼
大	K5465	保育内容の理論と方法(人間関係)	教学
大	K6150	保育内容の理論と方法(人間関係)	教幼
大	K5480	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)	教学
大	K6165	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)	教幼
大	K5485	保育内容の理論と方法(表現活動・造形)	教学
大	K6170	保育内容の理論と方法(表現活動・造形)	教幼
大	K5490	保育内容総論	教学
大	K6175	保育内容総論	教幼
短	X1090	保育内容総論	保育
大	K5420	保育方法論	教学
大	K6105	保育方法論	教幼
大	K5440	幼児と環境	教学
大	K6125	幼児と環境	教幼
短	X108C	幼児と環境	保育
大	K5430	幼児と健康	教学
大	K6115	幼児と健康	教幼
短	X108A	幼児と健康	保育
大	K5435	幼児と人間関係	教学
大	K6120	幼児と人間関係	教幼
短	X108B	幼児と人間関係	保育
大	K5450	幼児と表現Ⅰ	教学
大	K6135	幼児と表現Ⅰ	教幼
大	K5455	幼児と表現Ⅱ	教学
大	K6140	幼児と表現Ⅱ	教幼
大	K5415	幼児教育課程総論	教学
大	K6100	幼児教育課程総論	教幼
短	X1025	幼児教育課程総論	保育
大	K5425	幼児理解(教育相談を含む)	教学
大	K6110	幼児理解(教育相談を含む)	教幼
大	K3435	臨床心理学	社会
大	K4375	臨床心理学	人福

大/短	授業概要コード	授 業 科 目	種別 学科
大	J0565	地域活性化概論	共教
大	K7050	地域活性化総論	経営
大	K2250	英語学	国コ
大	K5525 K5530	英語学特論Ⅰ・Ⅱ	教学
大	J0131	共通教育特殊講義 特別支援教育概論	共教
大	K5325	特別支援教育概論	教学
短	X0061	共通教育特殊講義 特別支援教育概論	共教
大	K5035	教育課程総論(小・中・高・養)	教育
大	K9060	教育課程総論(中・高・養)	教職
大	K5040	道德教育の理論と方法(小・中・養)	教育
大	K9250	道德教育の理論と方法(中・養)	教職
大	K5045	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)	教育
大	K9260	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	教職
大	K5050	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小中高養)	教育
大	K9270	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	教職
大	K5055	生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)	教育
大	K9280	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	教職
大	K5060	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	教育
大	K9300	教育相談の理論と方法(中・高・養)	教職
大	K5075	教職実践演習(教諭)	教育
大	K9340	教職実践演習(中・高)	教職
大	J0132	共通教育特殊講義 児童英語教育実践研究Ⅰ	共教
大	K5630	児童英語教育実践研究	教学
大短	J0315 X0245	児童福祉論	共教
大	K4090	児童・家庭福祉	人福
大	K6185	子ども家庭福祉	教幼
短	X1050	子ども家庭福祉	保育
大	J0195 J0200	心理学Ⅰ・Ⅱ	共教
大	K3385	心理学概論	社会
短	X0130 X0135	心理学Ⅰ・Ⅱ	共教
大	J0230	法学入門	共教
大	K3220	法学(国際法を含む)	社会
短	X0165	法学入門	共教

大/短	授業概要コード	授 業 科 目	種別 学科
大	J0205	哲学入門	共教
大	K3245	哲学概論	社会
短	X0140	哲学入門	共教
大	K7790	ビジネス実務概論	経企
短	X2040	ビジネス実務概論	ライフ
大	K7685	キャリア演習Ⅲ	経企
短	X2030	ビジネス文書	ライフ
大	K3240	マーケティング論	社会
大	K7030	マーケティング	経営
短	X2055	マーケティング論	ライフ
大	K3065	社会調査法	社会
大	K4080	社会福祉調査の基礎	人福
大短	J0325 X0255	障害者福祉	共教
大	K4095	障害者福祉	人福
大	K3370	国際経済論	社会
大	K4440	国際経済学	人福
大	K1760	情報文化論(メディアリテラシーを含む)	日本
大	K3290	メディア文化論	社会
大	J0521	キャリア・プロジェクト研究 地域活性化演習Ⅰ	共教
大	K7225	地域活性化演習Ⅰ	経営
大	J0522	キャリア・プロジェクト研究 地域活性化演習Ⅱ	共教
大	K7230	地域活性化演習Ⅱ	経営
大	J0523	キャリア・プロジェクト研究 地域活性化演習Ⅲ	共教
大	K7235	地域活性化演習Ⅲ	経営
大	K3465	産業組織心理学	社会
大	K7630	経営心理学	経企
大	K1060	旅行産業基礎	文学
大	K7290	旅行ビジネス論	経営
大	K2325	ホスピタリティ英語Ⅰ	国コ
大	K7855	ビジネス英語基礎	経企
大	K2330	ホスピタリティ英語Ⅱ	国コ
大	K7860	ビジネス英語応用	経企

※社会学部人間福祉学科・教育学部・看護学部・短期大学の専門教育科目は、他学部・他学科の学生が履修することはできない。

教職に関する科目の履修について

(教育学科)教育学科の学生で教免を希望する者は、教育学科で開設されている教科・教職科目を履修すること。

(教育学科以外)教免を希望する者は、「教職に関する科目(教育の基礎的理解に関する科目等)」で開設されている科目を履修すること。

各種免許 ・資格

本学で取得可能な免許・資格等について 178

— 取得可能な免許・資格等を一覧で示しています。

文学部

全学科	教職に関する科目	172～
全学科	学校図書館司書教諭に関する科目	174、249
日本学科	教員免許（国語）中・高	180～、186～
日本学科	教員免許（書道）高	180～、188～
国際コミュニケーション学科	教員免許（英語）中・高	180～、190～
日本学科	博物館学芸員	253
全学科	地域共創プログラム	262

社会学部

社会学科	教員免許（社会）中	180～、192～
社会学科	教員免許（地歴）高	180～、194～
社会学科	教員免許（公民）高	180～、196～
人間福祉学科	教員免許（公民）高	180～、198～
人間福祉学科	教員免許（福祉）高	180～、200～
人間福祉学科	社会福祉士国家試験受験資格	242
人間福祉学科	精神保健福祉士国家試験受験資格	246
全学科	社会福祉主事任用資格	250
全学科	日本語教員養成プログラム	251
社会学科	博物館学芸員	253
全学科	児童指導員任用資格	254
社会学科	社会調査士	255
社会学科	認定心理士	256
人間福祉学科	身体障害者福祉司任用資格	257
人間福祉学科	知的障害者福祉司任用資格	257
人間福祉学科	公認初級パラスポーツ指導員	258
人間福祉学科	児童福祉司任用資格	258
全学科	地域共創プログラム	262

教育学部

全コース	学校図書館司書教諭に関する科目	174、249
学校教育コースで取得できる教育職員免許状の課程		202
幼児教育保育コースで取得できる教育職員免許状の課程		225
幼児教育保育コース	保育士	238
全コース	社会福祉主事任用資格	250
全コース	児童指導員任用資格	254

経営学部

全専攻	社会福祉主事任用資格	250
全専攻	地域共創プログラム	262

看護学部

看護学科	教員免許 養護	221
看護学科	看護師国家試験受験資格	259
看護学科	保健師国家試験受験資格	260
看護学科	助産師国家試験受験資格	261
看護学科	教職に関する科目	173

本学で取得可能な免許・資格等について

●教員免許

- 本学では、所定の授業科目を履修することにより、下表の●印・○印の免許を取得することができます。(◇印の免許は、他学部履修による取得となります。)
- 履修にあたっては、免許ごとに要件等が定められていますので、注意してください。
- この表及び次ページの表はあわせて、複数免許・資格の同時取得を保証するものではありません。

注意事項

1. ○印の免許状の取得は、各学科、コースの●印の教員免許を取得することを前提として許可しています。
2. ○印の免許状は 4 年間の在学中にその免許取得要件を充たせるとは限りません。
3. (選抜) と記載がある場合は、定員があるため、選抜が行われます。

	学科・専攻 (コース)							
	日本	国コ	社会	人福	教学	教幼	経営	看護
中学校教諭一種免許状 (国語)	●				◇ (選抜)*1			
高等学校教諭一種免許状 (国語)	●							
高等学校教諭一種免許状 (書道)	●							
中学校教諭一種免許状 (英語)		●			●			
高等学校教諭一種免許状 (英語)		●			●			
中学校教諭一種免許状 (社会)			●		◇ (選抜)*1			
高等学校教諭一種免許状 (地理歴史)			●					
高等学校教諭一種免許状 (公民)			●	●				
高等学校教諭一種免許状 (福祉)				●				
中学校教諭一種免許状 (数学)					●			
高等学校教諭一種免許状 (数学)					●			
中学校教諭一種免許状 (理科)					●			
高等学校教諭一種免許状 (理科)					●			
小学校教諭一種免許状					●	○		
幼稚園教諭一種免許状					○	●		
特別支援学校教諭一種免許状 (知・肢・病)					○*2			
養護教諭一種免許状					●			● (選抜)
養護教諭二種免許状								△*3

- ※ 1 ◇印の教員免許状の取得は、小学校専修において、当該免許と同時に小学校教諭一種免許状を取得することを前提として許可します。(他学部履修)
 加えて、人数制限 (国語 10 名、社会 10 名) があります。
 詳しくは、学校教育コースの指導に従ってください。
 また、年間の履修登録単位数に上限があるため、4 年間での取得を保証するものではありません。

- ※ 2 特別支援学校教諭一種免許状を取得するためには、基礎免許状が必要であり、当該免許と同時に小学校教諭一種免許状を取得することを前提として許可します。
- ※ 3 保健師免許を取得したうえで、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」を修得している者は、申請により養護教諭二種免許状を取得できます。

●資格

- 本学では、所定の授業科目を履修することにより、下表の●印の資格を取得することができます。
- 履修にあたっては、資格ごとに要件等が定められていますので、注意してください。
- この表及び前ページの表はあわせて、複数免許・資格の同時取得を保証するものではありません。

注意事項

1. (※) 印の資格は、特定の免許・資格を取得することが要件となります。
2. (選抜)：定員があるため、選抜が行われます。

	学科・専攻（コース）							
	日本	国コ	社会	人福	教学	教幼	経営	看護
学校図書館司書教諭	● (※)	● (※)	● (※)	● (※)	● (※)	● (※)		
保育士資格						●		
社会福祉主事任用資格	●	●	●	●	●	●	●	
社会福祉士国家試験受験資格				●				
精神保健福祉士国家試験受験資格				● (選抜)				
児童指導員任用資格	● (※)	● (※)	●	●	●	●		
日本語教員養成プログラム修了証明書	●	●						
地域共創プログラム修了証明書*	●	●	●	●			●	
認定心理士			●					
社会調査士			●					
身体障害者福祉司任用資格				● (※)				
知的障害者福祉司任用資格				● (※)				
児童福祉司任用資格				● (※)				
公認初級パラスポーツ指導員				●				
第一種衛生管理者免許								●*1
博物館学芸員	●		●					
看護師国家試験受験資格								●
保健師国家試験受験資格								● (選抜)
助産師国家試験受験資格								● (選抜)

* 本学独自で発行する証明書です。

※ 1 保健師免許を取得した者は、労働基準監督署もしくは都道府県労働局で申請を行なうことで、第一種衛生管理者の国家資格を取得できます。

中学校・高等学校教諭一種免許状の課程 (文学部・社会学部)

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

「教職に関する科目」の必要単位の修得
(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

「教職に関する科目」は卒業に必要な単位に含まない
(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

「教科及び教科の指導法に関する科目」の
必要単位の修得

「各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む)」は卒業に必要な単位に
含まない。

「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」
に定められている科目※の修得

※「日本国憲法」
「スポーツ I・II」
「英語 I・II (国際コミュニケーション学科はベーシックコミュニケーション I)」
「情報処理演習 I または II」

「介護等の体験」への参加

高校の免許のみを取得する場合は、「介護等の体験」参加は不要

免許や実習に関するガイダンスへの出席

教育実習への参加

教育職員免許状申請

大学の卒業

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。

※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

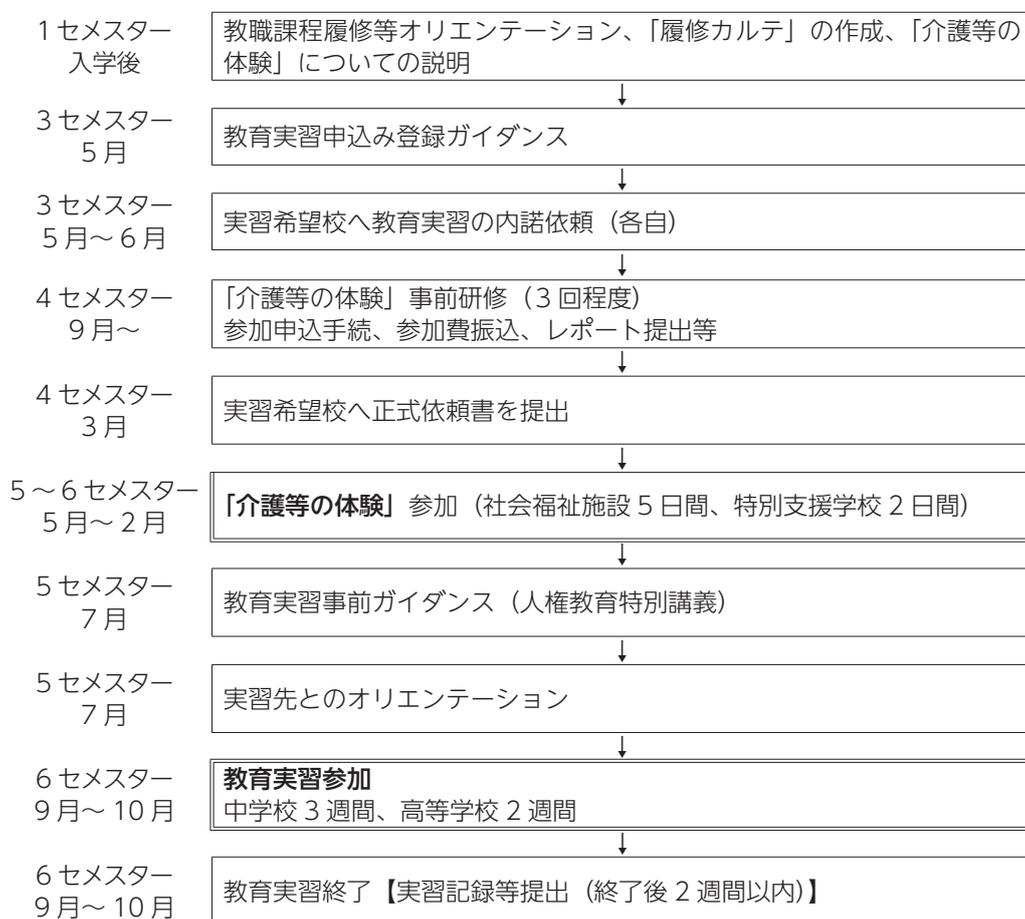
学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を充たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●文学部・社会学部 教育実習および「介護等の体験」の予定

- 1 学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。
- 2 中学校教育職員免許状取得希望者は、「介護等の体験」への参加が必要です。



※オリエンテーション、ガイダンス、事前研修等を欠席した場合は、「介護等の体験」・教育実習に参加できません。

●文学部・社会学部 「介護等の体験」の参加要件

中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間の「介護等の体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等の体験」事前研修において説明します。

- 参加時期は、上記の予定を参照してください。
- 「介護等の体験」には、次の参加要件を満たさないと参加できません。
 - 4 セメスターを修了していること。
 - 参加する前年度の夏学期までに、次の(A)(B)のとおり単位を修得していること。

① 基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
	和の精神 II	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 2 科目を含んで、46 単位以上		
② 教職に関する科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	教育心理学	

- ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
 - 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
 - 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合があれば事前に保健センターに相談してください。
 - 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
 - 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

●文学部・社会学部 「教科教育法」の履修要件

教員免許を取得するためには、取得しようとする教科の「教科教育法」の単位を修得する必要があります。各学科における「教科教育法」の履修要件は以下のとおりです。

文学部日文学科

- 「教科教育法 I（国語）」は、履修登録する前セメスターまでに以下①②の要件を満たしていなければ履修登録ができません。
 - ① 次のとおり単位を修得していること。

日文学科専門教育科目	国語教育論 A	2 単位
	国語教育論 B	2 単位

- ② 累積 GPA が 2.5 以上であること。

文学部国際コミュニケーション学科

- 「教科教育法Ⅰ（英語）」は、履修登録する前 Semester までに以下のいずれかの点数または等級を取得していなければ履修登録ができません。

CASEC	600 点以上
実用英語技能検定	2 級以上
TOEIC L & R	550 点以上（IP 含む）

※「教科教育法Ⅰ（英語）」は開講学期開始前までに教務部長宛に履修登録願書を提出する必要があります。

- 「教科教育法Ⅲ（英語）」は、履修登録する前 Semester までに以下①②の要件を充たしていなければ履修登録ができません。

① 次のとおり単位を修得していること。

国際コミュニケーション学科 専門教育科目	英語圏文化概説	} 14 単位以上
	異文化理解	
	英文法Ⅰ	
	英文法Ⅱ	
	ベーシックコミュニケーションⅢ	
	ベーシックコミュニケーションⅣ	
	Oral CommunicationⅠ	
	英語音声学	
	英語文学概説	
	英語学概説	

② 累積 GPA が 2.5 以上であること。

社会学部社会学科

「社会教科教育法Ⅰ」「社会地理歴史教科教育法」「社会公民教科教育法」は、履修登録する前 Semester までに「社会科教育研究Ⅰ」を修得し、累積 GPA が 2.5 以上でなければ履修登録ができません。

社会学部人間福祉学科

- 「社会公民教科教育法」「教科教育法Ⅰ（福祉）」は、履修登録する前 Semester までに以下①②の要件を充たしていなければ履修登録ができません。

① 次のとおり単位を修得していること。

教職に関する科目	教職論	} 3 科目 6 単位以上
	教育原論	
	教育心理学	
	特別支援教育	

② 累積 GPA が 2.5 以上であること。

●文学部・社会学部 「教育実習」の参加要件

「教職に関する科目」の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 実習参加時期は、p.181 を参照してください。
- 「教育実習」は、以下①～⑥全ての要件を充たしていなければ履修登録ができません。

- ① 5 セメスターを修了していること。
- ② 「教育実習」を履修登録する前年度までに、次のA～Cのとおり単位を修得していること。

A	基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
		和の精神 II	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 2 科目を含んで、62 単位以上			

B	教職に関する科目	教職論	} 3 科目 6 単位以上
		教育原論	
		教育心理学	
		特別支援教育	

- ③ 4 セメスターまでに開講している「教科教育法」（取得を希望する免許状教科）の単位全て。

- ③ 文学部日本学科で中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）の取得を希望する場合
「国語教育論 A」、「国語教育論 B」、「教科教育法 I（国語）」の 3 科目を修得していること。
- ④ 文学部国際コミュニケーション学科で中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する場合
「教科教育法 I（英語）」及び「教科教育法 III（英語）」を修得していること。
- ⑤ 社会学部社会学科で中学校教諭一種教諭免許状（社会）の取得を希望する場合
「社会科教育研究 I」及び「社会教科教育法 I」を修得し、累積 GPA が 2.5 以上であること。
- ⑥ 社会学部社会学科で高等学校教諭一種免許状（地理歴史）の取得を希望する場合
「社会科教育研究 I」及び「社会地理歴史教科教育法」を修得し、累積 GPA が 2.5 以上であること。
- ⑦ 社会学部社会学科で高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を希望する場合
「社会科教育研究 I」及び「社会公民教科教育法」を修得し、累積 GPA が 2.5 以上であること。
- ⑧ 社会学部人間福祉学科で高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を希望する場合
「社会公民教科教育法」を修得し、累積 GPA が 2.5 以上であること。
- ⑨ 社会学部人間福祉学科で高等学校教諭一種免許状（福祉）教諭免許状の取得を希望する場合
「教科教育法 I（福祉）」を修得し、累積 GPA が 2.5 以上であること。
- ⑩ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。
- ⑪ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。

●文学部・社会学部 「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（中・高）」の授業を受けるまでに、各自で1年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（中・高）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（中・高）」を履修できないこともあります。

●文学部・社会学部 「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で3項目について記入します。

(1) 教員志望理由と動機の記入 1年次終了時

はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100字程度）

(2) 教職関連科目の履修状況の記入 2セメ、4セメ、6セメ終了時

履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

(3) 「介護等の体験」や教育実習の状況の記入

「介護等の体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30分）で各自入力し、終了時に「」をクリックしてください。

（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「」をクリックしていない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。原則大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請し、申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、大学で申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で任意の都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7セメスター以降、証明書自動発行機で「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

中学校・高等学校教諭一種免許状【国語】 (日本学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で 開講されている 授業科目	単位				配当年次				備考
			中		高		1年	2年	3年	4年	
			必修	選択	必修	選択					
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	2			○				
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2	2					○		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法(中・養)	2	—				○			※中学免許のみ
	・総合的な学習の時間の指導法*1 ・総合的な探究の時間の指導法*2 ・特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2	2					○		
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2	2				○			
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2	2				○			
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2	2				○			
	教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習指導	1	1						○
教育実習Ⅰ			4			4				○	
教育実習Ⅱ			—		※2	2				○	
・教職実践演習		教職実践演習(中・高)	2	2					○		
最低修得単位数合計			29	25 (必23、選必2)							

*1 中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。

*2 高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
5. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

② 「教科及び教科の指導法に関する科目」 対応表

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備考
			中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語史			2		○			
		日本語学Ⅰ	2	2		○				
		日本語学Ⅱ	2	2		○				
		日本語文法Ⅰ(現代)	2	2			○			
		日本語文法Ⅱ(古典)	2	2			○			
		講読Ⅰ(日本語学)			2		○			
		国語教材研究論Ⅰ(近現代)			2				○	
		日本文学論Ⅰ(近現代)			2		○			
	国文学 (国文学史を含む。)	日本文学論Ⅱ(古典)	2	2			○			
		日本文学史Ⅰ(近現代)	2	2		○				
		日本文学史Ⅱ(古典)	2	2		○				
		古典Ⅰ(日本)	2	2		○				
		講読Ⅱ(近現代文学)			2		○			
		講読Ⅲ(古典文学)			2		○			
	漢文学	国語教材研究論Ⅱ(古典)			2				○	
		古典Ⅱ(中国)	2	2		○				
		漢文学	2	2			○			
	書道(書写を中心とする。)	書道A	2	—		○				※中学免許のみ必修
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む) ※卒業要件に含まない	教科教育法Ⅰ(国語)(※)	2	2					○
	教科教育法Ⅱ(国語)		2	2					○	
教科教育法Ⅲ(国語)	2		—					○		
教科教育法Ⅳ(国語)	2		—					○		
中学校教諭一種免許最低修得単位数			30 (必30)							
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必24、選10)							

(※) 履修要件があります。(P.182 参照)

(注) 「国語教育論A」「国語教育論B」:教育実習参加要件科目です。(P.184 参照)

③ 「教育職員免許法施行規則第66条の6関係科目」 対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位/履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか1科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

高等学校教諭一種免許状【書道】

(日本学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位			配当年次				備考
			必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2						○	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2						○	
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2				○			
	• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2				○			
教育実践に関する科目		教育実習指導	1							○
	• 教育実習	教育実習Ⅰ		※	4					○
		教育実習Ⅱ		2	2					○
	• 教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2							○
最低修得単位数合計			25 (必23、選必2)							

※ 高校免許は当該教科の教育実習指導及び、教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修

履修の際の注意事項

1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状(国語)を取得し、中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位/履修区分		配当年次				備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項に関する科目	書道（書写を含む。）	書道 A	2		○				
		書道 B	2		○				
		書道 C	2			○			
		書道 D	2			○			
	書道史	書道史 I	2				○		
		書道史 II		2			○		
	「書論、鑑賞」	書論・鑑賞 I	2				○		
		書論・鑑賞 II		2			○		
	「国文学、漢文学」	日本文学論 I（近現代）		2		○			
		日本文学論 II（古典）		2		○			
		日本文学史 I（近現代）	2		○				
		日本文学史 II（古典）	2		○				
		古典 I（日本）	2		○				
		古典 II（中国）	2		○				
		講読 II（近現代文学）		2		○			
		講読 III（古典文学）		2		○			
		漢文学		2		○			
		国語教材研究論 II（古典）		2				○	
	国語教材研究論 III（漢文）		2				○		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ※卒業要件に含まない	教科教育法 I（書道）	2				○		
教科教育法 II（書道）		2				○			
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必24、選10)						

③「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 関係科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツ I	1			○				
	スポーツ II	1			○				
外国語コミュニケーション	英語 I	1			○				
	英語 II	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習 I		2	2	○				I か II、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習 II			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

中学校・高等学校教諭一種免許状【英語】

(国際コミュニケーション学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で 開講されている 授業科目	単位				配当年次				備考
			中		高		1年	2年	3年	4年	
			必修	選択	必修	選択					
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法(中・養)	2	—				○			※中学免許のみ
	• 総合的な学習の時間の指導法*1 • 総合的な探究の時間の指導法*2 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2	2					○		
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2	2					○		
	• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2	2					○		
	教育実践に関する科目		教育実習指導	1	1						○
• 教育実習		教育実習Ⅰ	4		※2	4				○	
		教育実習Ⅱ	—		※2	2				○	
• 教職実践演習		教職実践演習(中・高)	2	2						○	
最低修得単位数合計			29	25 (必23、選必2)							

- *1 中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。
*2 高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
5. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

②「教科及び教科の指導法に関する科目」対応表

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備考
			中	高	中高	1年	2年	3年	4年	
			必修	必修	選択					
教科及び教科の指導法に関する科目	英語学	英語学概説	2	2			○			※中学免許はⅠ～Ⅳ必修 高校免許はⅠ～Ⅱ必修
		英語音声学			2	○				
		英文法Ⅰ			2	○				
		英文法Ⅱ			2	○				
		英語学			2		○			
		Reading (Language)			2			○		
	英語文学	英語文学概説	2	2		○				
		Reading (Literature)			2		○			
	英語コミュニケーション	ベーシックコミュニケーションⅠ	2	2		○				
		ベーシックコミュニケーションⅡ	2	2		○				
		ベーシックコミュニケーションⅢ			2	○				
		ベーシックコミュニケーションⅣ			2	○				
		アドバンスコミュニケーションⅠ			2			○		
		アドバンスコミュニケーションⅡ			2			○		
	異文化理解	英語圏文化概説	2	2		○				
		Reading (Culture)			2		○			
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む) ※卒業要件に含まない	教科教育法Ⅰ (英語) (※)	2	2				○		
		教科教育法Ⅱ (英語)	2	2				○		
		教科教育法Ⅲ (英語)	2	—				○		
		教科教育法Ⅳ (英語)	2	—				○		
中学校教諭一種免許最低修得単位数			30 (必18、選12)							
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必14、選20)							

(※) 履修要件があります。

③「教育職員免許法施行規則第66条の6関係科目」対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位/履修区分			配当年次				備考	
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年		
日本国憲法	日本国憲法	2			○				ⅠかⅡ、いずれか1科目を修得すること	
体育	スポーツⅠ	1			○					
	スポーツⅡ	1			○					
外国語コミュニケーション	ベーシックコミュニケーションⅠ	2			○					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○					
	情報処理演習Ⅱ			2	○					
修得単位数合計		8 (必6、選必2)								

中学校教諭一種免許状【社会】

(社会学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 必修	配当年次				備 考
				1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法(中・養)	2		○			
	• 総合的な学習の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2			○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2		○			
	• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2		○			
教育実践に関する科目		教育実習指導	1				○	該当教科の実習指導について必修 中学免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰの2科目が必修
	• 教育実習	教育実習Ⅰ	4				○	
		教育実習Ⅱ	—				○	
	• 教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2				○	
最低修得単位数合計			29					

履修の際の注意事項

1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)(公民)を取得し、中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

② 「教科及び教科の指導法に関する科目」 対応表

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位/履修区分		配当年次				備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項に関する科目	日本史・外国史	入門歴史学	2		○				
		日本史概説Ⅰ		2	○				
		日本史概説Ⅱ		2	○				
		日本史研究Ⅰ		2		○			
		日本史研究Ⅱ		2		○			
		日本思想史		2	○				
		西洋史	2			○			
		アジア史	2			○			
		中国史	2			○			
		歴史学特論（日本史）		2				○	
		歴史学特論（外国史）		2				○	
	史料講読		2				○		
	地理学（地誌を含む。）	人文地理学	2				○		
		自然地理学	2				○		
		地理学特論		2			○		
		地誌	2				○		
	「法学、政治学」	法学（国際法を含む）（※1）	2		○				
		国際政治論		2			○		
	「社会学、経済学」	社会学概論		2	○				
		社会学理論Ⅰ	2		○				
		社会学理論Ⅱ		2			○		
		ジェンダー論		2			○		
		産業社会学		2		○			
		家族社会学		2		○			
		現代社会論		2		○			
		社会調査法		2	○				
		マス・メディア論		2	○				
		社会意識論		2		○			
		社会病理学		2	○				
		国際社会学		2				○	
		経済学（※1）	2		○				
		国際経済論		2		○			
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論	2		○				
		宗教学	2			○			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ※卒業要件に含まない	社会教科教育法Ⅰ（※2）	2					○	
		社会教科教育法Ⅱ	2					○	
		社会地理歴史教科教育法（※2）	2					○	
		社会公民教科教育法（※2）	2					○	
	中学校教諭一種免許最低修得単位数			32 (必32)					

※1 「法学（国際法を含む）」「経済学」は社会学科専門教育科目を修得すること

※2 履修要件があります。

③ 「教育職員免許法施行規則第66条の6関係科目」 対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位/履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか1科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

高等学校教諭一種免許状【地理歴史】

(社会学科)

① 「教職に関する科目」 対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で 開講されている 授業科目	単位			配当年次				備 考
			必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論 (中・高・養)	2					○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法 (中高養)	2					○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術 (情報通信技術の活用含む中高養)	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論 (進路指導を含む) (中・高)	2				○			
	• 教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (中・高・養)	2				○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1						○	※ 該当教科の実習指導について必修 高校免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修
		教育実習Ⅰ		2	4					
		教育実習Ⅱ			2				○	
	• 教職実践演習	教職実践演習 (中・高)	2						○	
最低修得単位数合計			25 (必23、選必2)							

履修の際の注意事項

1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状 (社会) を取得し、中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 「教職実践演習 (中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

② 「教科及び教科の指導法に関する科目」 対応表

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分		配当年次				備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項に関する科目	日本史	日本史概説Ⅰ	2		○				日本学科※1 日本学科※1
		日本史概説Ⅱ	2		○				
		日本史研究Ⅰ		2		○			
		日本史研究Ⅱ		2		○			
		日本文化史Ⅰ		2		○			
		日本文化史Ⅱ		2		○			
		日本思想史	2		○				
		歴史学特論（日本史）		2			○		
		史料講読		2			○		
	外国史	西洋史	2			○			国際コミュニケーション学科(※1) 国際コミュニケーション学科(※1)
		英国史		2			○		
		米国史		2			○		
		アジア史	2			○			
		中国史	2			○			
		歴史学特論（外国史）		2			○		
	人文地理学及び自然地理学	人文地理学	2				○		
		自然地理学	2				○		
		地理学特論		2			○		
	地誌	地誌	2				○		
		地域史研究	2				○		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ※卒業要件に含まない	社会地理歴史教科教育法（※2）	2				○			
	地理歴史教科教育法（※2）	2				○			
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必24、選10)						

※1 「国際コミュニケーション学科」「日本学科」に開設の科目は、他学科履修として、修得すること。

※2 履修要件があります。

③ 「教育職員免許法施行規則第66条の6関係科目」 対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考	
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年		
日本国憲法	日本国憲法	2			○				IかII、いずれか1科目を修得すること	
体育	スポーツⅠ	1			○					
	スポーツⅡ	1			○					
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○					
	英語Ⅱ	1			○					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○					
	情報処理演習Ⅱ			2	○					
修得単位数合計		8 (必6、選必2)								

高等学校教諭一種免許状【公民】

(社会学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位			配当年次				備考
			必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2			○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2			○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2					○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2			○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2						○	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2						○	
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2				○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2				○			
	• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2				○			
教育実践に関する科目		教育実習指導	1							○
	• 教育実習	教育実習Ⅰ		※	4					○
		教育実習Ⅱ		2	2					○
	• 教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2							○
最低修得単位数合計			25 (必23、選必2)							

※ 該当教科の実習指導について必修
高校免許は当該教科の教育実習指導及び教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱのいずれか1科目を選択必修

履修の際の注意事項

1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状(社会)を取得し、中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
4. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

② 「教科及び教科の指導法に関する科目」 対応表

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備考
			必修	選択	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項に関する科目	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学（国際法を含む）	2			○				
		国際政治論		2				○		
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論		2	○					
		現代社会論		2		○				
		社会学理論Ⅰ	2		○					
		社会学理論Ⅱ		2				○		
		ジェンダー論		2				○		
		産業社会学		2		○				
		家族社会学		2		○				
		社会調査法		2	○					
		マス・メディア論		2	○					
		社会意識論		2		○				
		社会病理学		2	○					
		国際社会学		2					○	
		経済学	2		○					
	国際経済論		2		○					
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	入門心理学		2	○					
		社会心理学	2			○				
		臨床心理学		2		○				
		コミュニティ心理学		2				○		
		哲学概論	2		○					
		宗教学	2			○				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ※卒業要件に含まない	社会公民教科教育法（※）	2					○		
公民教科教育法（※）		2					○			
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必16、選18)							

(※) 履修要件があります。

③ 「教育職員免許法施行規則第66条の6関係科目」 対応表

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか1科目を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

高等学校教諭一種免許状【公民】

(人間福祉学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 必修	配当年次				備考
				1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2			○		
	• 特別活動の指導法							
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2		○			
• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2		○				
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1				○	※ 該当教科の実習指導について必修
		教育実習Ⅱ	2				○	
	• 教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2				○	
最低修得単位数合計			25					

履修の際の注意事項

1. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
2. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

② 「教科及び教科の指導法に関する科目」 対応表

科目区分	各科目に含めることが 必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 / 履修区分		配当年次				備 考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年		
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	「法学（国際法を含む）、 政治学（国際政治を含む。）」	法学（国際法を含む）	2		○				社会学科で開設（共通教育科目不可）※1 共通教育科目開設	
		政治学	2		○					
		権利擁護を支える法制度		2				○		
		刑事司法と福祉		2				○		
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会と人間		2	○					
		社会学と社会システム	2		○					
		家族社会学		2	○					
		地域社会学		2		○				
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		2		○				
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		2		○				
		社会保障Ⅱ		2				○		
		貧困に対する支援		2		○				
		経済学入門	2			○				
		国際経済学		2				○		
	「哲学、倫理学、宗教学、 心理学」	心理学と心理的支援	2		○				「臨床心理学」「福祉心理学」「カウンセリング理論」の中から1科目を必ず修得すること	
		臨床心理学	2	2	○					
		福祉心理学		2		○				
		カウンセリング理論		2		○				
		カウンセリング方法論		2			○			
		「いのち」の権利論 (生命倫理と遺伝)		2			○			
ターミナルケア論			2			○				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ※卒業要件に含まない	社会公民教科教育法（※2）	2					○			
	公民教科教育法	2					○			
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必16、選18)							

※1 「社会学科」に開設の科目は、他学科履修として修得すること。（共通教育科目での修得は不可）

※2 履修要件があります。

③ 「教育職員免許法施行規則第66条の6関係科目」 対応表

免許法施行規則に 定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工 知能に関する科目又は情報 機器の操作	情報処理演習Ⅰ	2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか1科目 を修得すること	
	情報処理演習Ⅱ		2	○					
修得単位数合計		8 (必6、選2)							

高等学校教諭一種免許状【福祉】

(人間福祉学科)

①「教職に関する科目」対応表

(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位		配当年次				備考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2		○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2		○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2				○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2		○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(中・高・養)	2				○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 総合的な探究の時間の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(中高養)	2				○		
	• 特別活動の指導法								
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む中高養)	2			○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	2			○			
	• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(中・高・養)	2			○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1					○	※ 該当科目の実習指導について必修
		教育実習Ⅱ	2					○	
	• 教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2					○	
最低修得単位数合計			25						

履修の際の注意事項

1. 教科教育法については、「教科教育法Ⅰ(福祉)」「教科教育法Ⅱ(福祉)」が必修であるが、教育実習は「公民」で行われることが多いため、「社会公民教科教育法」「公民教科教育法」の単位を併せて修得すること。
2. 「教職実践演習(中・高)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
3. 教育実習参加要件に注意して履修すること。

② 「教科及び教科の指導法に関する科目」 対応表

科目区分	各科目に含めることが 必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
			必修	選択	選択	1年	2年	3年	4年	
教科及び教科の指導法に関する科目	社会福祉学 (職業指導を含む。)	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2			○				
		福祉法学		2		○				
		社会保障Ⅰ		2				○		
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2			○				
	高齢者福祉、児童福祉・障 害者福祉	高齢者福祉	2				○			
		高齢者支援と福祉		2			○			
		児童・家庭福祉	2				○			
		児童・家庭支援と福祉		2			○			
		障害者福祉	2				○			
	社会福祉援助技術	障害者支援と福祉		2			○			
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2			○				
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2				○			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2				○			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2				○			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		2					○	
	介護理論・介護技術	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		2					○	
		介護福祉	2				○			
	社会福祉総合実習（社会福 祉援助実習及び社会福祉施 設等における介護実習を含 む。）	介護演習	2				○			
		ソーシャルワーク実習指導 A	2				○			
		ソーシャルワーク実習指導 B	2				○			
	人体構造に関する理解・日 常生活行動に関する理解	社会福祉調査の基礎		2					○	
		人体・生活の研究	2					○		
	加齢に関する理解・障害に 関する理解	加齢・障害の研究	2					○		
		各教科の指導法（情報通信技術 の活用を含む） ※卒業要件に含まない。	教科教育法Ⅰ（福祉）（※）	2					○	
			教科教育法Ⅱ（福祉）	2					○	
	高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必34)						

※ 履修要件があります。

③ 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 関係科目」 対応表

免許法施行規則に 定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツⅠ	1			○				
	スポーツⅡ	1			○				
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○				
	英語Ⅱ	1			○				
数理、データ活用及び人工 知能に関する科目又は情報 機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○				ⅠかⅡ、いずれか1科目 を修得すること
	情報処理演習Ⅱ			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

教育学部教育学科 学校教育コースで取得できる 教育職員免許状の課程

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

要 件	小学校 教諭	特別支援 学校教諭 ^{※2}	幼稚園 教諭 ^{※3}	中高教諭 (数学)(英語)(理科)	養護 教諭
「教職に関する科目」の必要単位の修得	○		○	○	○
「養護に関する科目」の必要単位の修得					○
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得	○			○	
「教科に関する科目」(領域及び保育内容の指導法に関する科目)の必要単位の修得			○		
「特別支援教育に関する科目」の必要単位の修得		○			
「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定められている科目 ^{※1} の修得	○		○	○	○
「介護等の体験」への参加	○			○	
インターンシップⅠ・Ⅱの参加	○			○	○
インターンシップⅢの参加		○			
免許や実習に関するガイダンスへの出席	○	○	○	○	○
養護実習または教育実習への参加	○	○	○	○	○
教育職員免許状申請	○	○	○	○	○
大学の卒業	○	○	○	○	○

※ 1 どの教員免許を取得する場合も「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」の 6 科目を修得すること。

※ 2 小学校教諭一種免許状を取得することが必須要件となります。

※ 3 小学校教諭一種免許状の取得を前提として許可しています。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべて IBU.net で行いますので、十分に注意してください。

※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

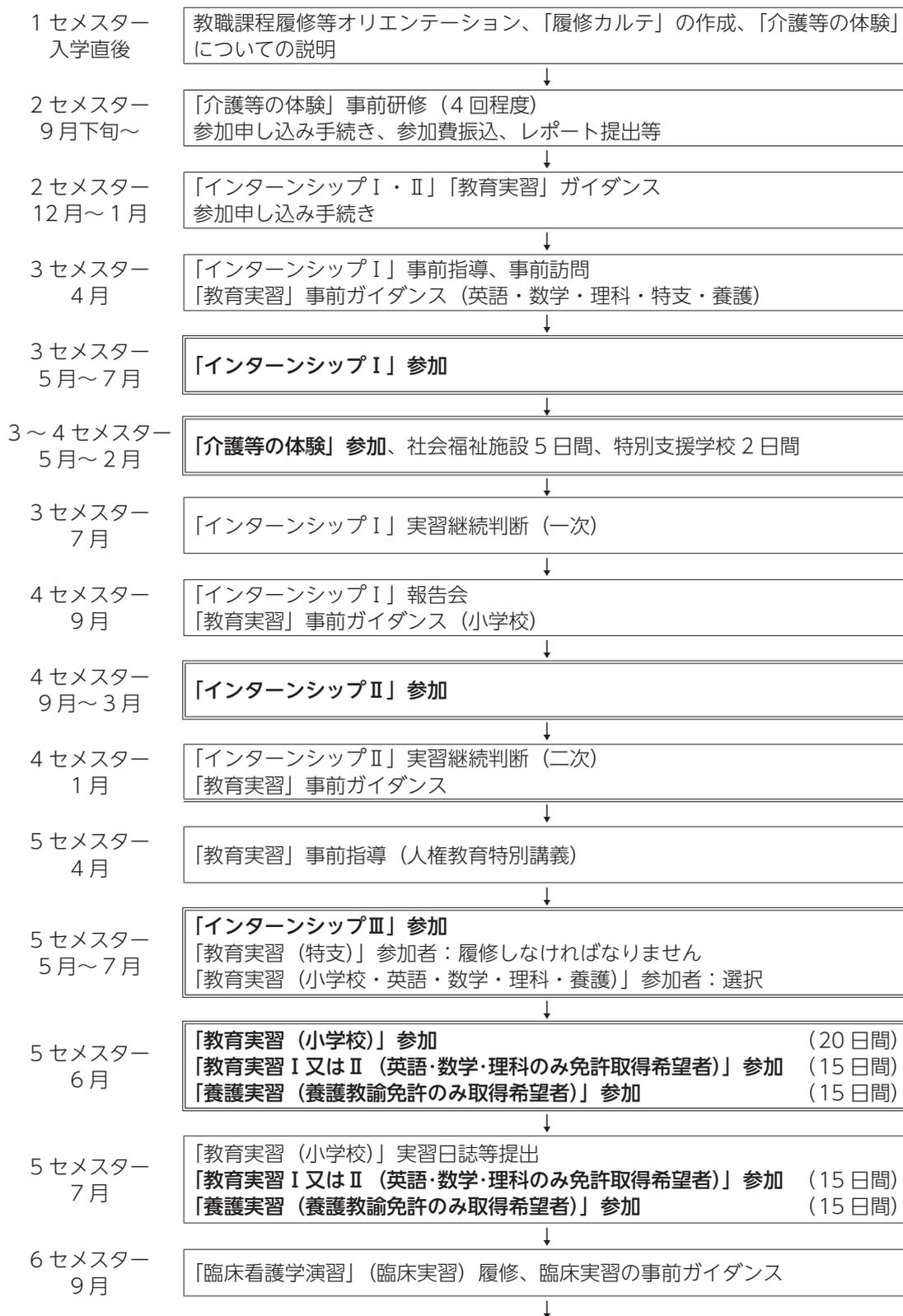
●学外実習に参加するための心得

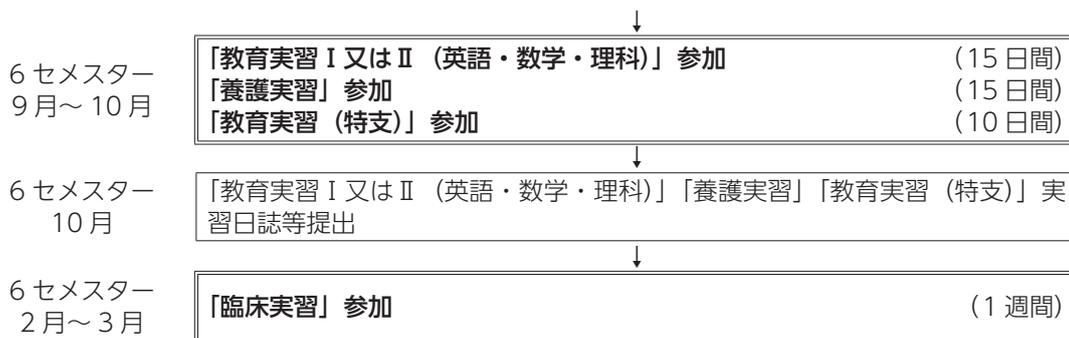
学外実習は要件を充たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

教育学科〔学校教育コース対象〕

インターンシップ・教育実習・養護実習・臨床実習・「介護等の体験」の予定

- 1 学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。
- 2 小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、「介護等の体験」への参加が必要です。





※オリエンテーション、ガイダンス、事前研修等を欠席した場合は、「介護等の体験」・養護実習・教育実習に参加できません。

●教育学部 「介護等の体験」の参加要件

小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間の「介護等の体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等の体験」事前研修において説明します。

・「介護等の体験」には、次の参加要件を満たさなければ参加できません。

- ① 2 セメスターを修了していること。
- ② 参加する前年度の夏学期までに、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
卒業に必要となる修得単位数が上記 1 科目を含んで、15 単位以上		

- ③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

- ・体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- ・体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- ・体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- ・体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- ・体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

*この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学部 教育実習参加の要件〔学校教育コース対象〕

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）および「特別支援教育に関する科目」の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 教育実習には、参加する前 Semester までに下記の参加要件を充たさないと参加できません。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

*この要件は、科目等履修生にも適用されます。

教育実習〈小学校教諭一種免許状〉

- ① 4 Semester を修了していること。
- ② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	} 1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2 単位
インターンシップⅡ	1 単位	

卒業に必要となる修得単位数が上記 7 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「介護等の体験」を修了していること。
- ④ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習（特支）〈特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）〉

- ① 4 Semester を修了していること。
- ② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	特別支援教育概論	2 単位
	知的障害者の心理・生理・病理	2 単位
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2 単位
	知的障害教育論	2 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 8 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習 〈幼稚園教諭一種免許状〉

- ① 4 セメスターを修了していること。
- ② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
	和の精神 II	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	幼児教育課程総論	} 4 科目 8 単位以上
	保育内容の理論と方法 (健康)	
	保育内容の理論と方法 (人間関係)	
	保育内容の理論と方法 (環境)	
	保育内容の理論と方法 (言葉)	

卒業に必要となる修得単位数が上記 8 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習 I (英語) または教育実習 II (英語) 〈中学校・高等学校教諭一種免許状 (英語)〉

- ① 4 セメスターを修了していること。
- ② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
	和の精神 II	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	中等英語科教育法 I	2 単位
	中等英語科教育法 II	2 単位
	英語学概説	2 単位
	ベーシックコミュニケーション I	2 単位
	ベーシックコミュニケーション II	2 単位
	インターンシップ I	2 単位
	インターンシップ II	1 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 11 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「教育実習 I (英語)」を履修する場合は、「介護等の体験」を修了していること。
- ④ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習Ⅰ（数学）または教育実習Ⅱ（数学）〈中学校・高等学校教諭一種免許状（数学）〉

- ① 4 セメスターを修了していること。
- ② 次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	数学的リテラシー	2 単位
	子どもの発達と算数・数学	2 単位
	中等数学科教育法Ⅰ	2 単位
	中等数学科教育法Ⅱ	2 単位
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 10 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「教育実習Ⅰ（数学）」を履修する場合は、「介護等の体験」を修了していること。
- ④ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習Ⅰ（理科）または教育実習Ⅱ（理科）〈中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）〉

- ① 4 セメスターを修了していること。
- ② 次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教育原論	} 2 科目 4 単位以上
	特別支援教育	
	教育心理学	
	教職論	
	物理学Ⅰ	} 1 科目 2 単位以上
	化学Ⅰ	
	生物学Ⅰ	
	地学Ⅰ	
	物理学実験	} 1 科目 1 単位以上
	化学実験	
	生物学実験	
	地学実験	
	中等理科教育法Ⅰ	2 単位
	中等理科教育法Ⅱ	2 単位
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 10 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「教育実習Ⅰ（理科）」の履修を希望する場合は、「介護等の体験」を修了していること。

- ④ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

養護実習 〈養護教諭一種免許状〉

- ① 4 セメスターを修了していること。
- ② 次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
	和の精神 II	1 単位
教育学科 専門教育科目	教育原論	} 2 科目 4 単位以上
	特別支援教育	
	教育心理学	
	教職論	
	インターンシップ I	2 単位
	インターンシップ II	1 単位
	養護概説	2 単位
	学校看護学 I (基礎)	2 単位
	学校看護学 II (疾病 I)	2 単位
	学校看護学 III (疾病 II)	2 単位
学校救急処置	2 単位	

卒業に必要となる修得単位数が上記 11 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「養護実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

●臨床実習参加の要件

「養護に関する科目」の中には、学外実習である「臨床実習」を含む「臨床看護学演習」があります。

- 臨床実習には、下記の参加要件を充たさないと参加できません。
 - ① 5 セメスターを修了していること。
 - ② 参加するセメスターの前セメスターまでに、次の科目を修得していること。

専門教育科目	養護概説	2 単位
	解剖生理学	2 単位
	学校看護学 I (基礎)	2 単位
	学校看護学 II (疾病 I)	2 単位
	学校看護学 III (疾病 II)	2 単位
	学校救急処置	2 単位
合 計		12 単位

- ③ 「臨床看護学演習」担当教員の許可を得ていること。

- 科目「臨床看護学演習」を履修すること。

「臨床看護学演習」は、「臨床実習」の事前事後の指導を含みます。出席不良や、授業態度が教育者としてふさわしくないと見なされた場合は実習に参加できません。

- 授業以外に行われる実習参加ガイダンス等には、特別な事由がない限り、すべて出席しなければなりま

せん。

- 教育者を指すものとしてふさわしい礼儀や身なりなどの社会常識を身につけたうえで、自分の健康や時間厳守などの自己管理ができていること。なお、社会常識が著しく逸脱していると見なされたものは参加できません。
 - 実習先は大学が決定します。
 - 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
 - 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾病名等の健康情報を原則記載します。
 - 別途定められた感染症の検査を行う必要があります。大学の指示に従うこと。
 - 実習先には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。
- *この要件は、科目等履修生にも適用されます。

● 教職に関する科目
 (「教育の基礎的理解に関する科目等」)

【教育学科】 小学校教諭一種免許

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 必修	配当年次				備考
				1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(小・中・高・養)	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法(小・中・高)	2		○			
	• 総合的な学習の時間の指導法 • 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)	2			○		
	• 教育の方法及び技術 • 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小中高養)	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法 • 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)	2		○			
	• 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		
		教育実習	4			○		※ 1
	• 教職実践演習	教職実践演習(教諭)	2				○	※ 2
修得単位数合計			29					

※ 1 「教育実習」は前述の参加要件(⇒ p.205)を充たさなければ参加できない。

※ 2 「教職実践演習(教諭)」を履修するためには1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。

●教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】 小学校教諭一種免許

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 必修	配当年次				備考		
				1年	2年	3年	4年			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	2	○						
		社会	2	○						
		算数	2	○						
		理科	2		○					
		生活	2		○					
		音楽	2		○					
		図画工作	2		○					
		家庭	2			○				
		体育	2		○					
		外国語	2	○						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語（書写を含む。）	1	○					
			社会	1		○				
	算数		1		○					
	理科		1		○					
	生活		1			○				
	音楽		1		○					
	図画工作		1			○				
	家庭		1			○				
	体育		1		○					
	外国語		1	○						
	修得単位数合計			30						

(注) 配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認して下さい。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				I か II、いずれか 1 科目を修得すること
体育	スポーツ I	1			○				
	スポーツ II	1			○				
外国語コミュニケーション	英語 I	1			○				
	英語 II	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習 I		2	2	○				
	情報処理演習 II			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

●特別支援教育に関する科目

【教育学科】特別支援学校教諭一種免許（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）

免許法施行規則に定める科目区分	必要な最低 修得単位数	本学で開講されている 授業科目	単位 必修	配当年次				備考
				1年	2年	3年	4年	
特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2		○			
特別支援教育 領域に関する 科目	心身に障害のある幼児、児童 又は生徒の心理、生理及び病理 に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理	2		○			
		肢体不自由者の心理・生理・病理	2		○			
		病弱者の心理・生理・病理	2		○			
	心身に障害のある幼児、児童 又は生徒の教育課程及び指導 法に関する科目	知的障害教育論	2		○			
		肢体不自由教育論	2			○		
		病弱教育論	2			○		
		障害者指導法	2			○		
	障害者教育探究	2				○		
免許状に定め られることと なる特別支援 教育領域以外 の領域に関す る科目	心身に障害のある幼児、児童 又は生徒の心理、生理及 び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童 又は生徒の教育課程及び 指導法に関する科目	視覚障害教育総論	2			○		
		聴覚障害教育総論	2			○		
		重複・発達障害教育総論	2			○		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒につい ての教育実習	3	教育実習指導（特支）	1			○		
		教育実習（特支）	2			○		
計	26	修得単位数合計	27					

※特別支援学校教諭一種免許状を取得するには必ず小学校教諭一種免許状を同時に取得すること。

※「教育実習（特支）」は前述の参加要件（⇒ p.205）を充たさなければ参加できない。

● 教職に関する科目
(教育の基礎的理解に関する科目等)

【教育学科】 中学校・高等学校教諭一種免許<英語>

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位				配当年次				備考
			中		高		1年	2年	3年	4年	
			必修	必修	選択必修	選択					
教育の基礎的理解に関する科目	● 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	● 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	2			○				
	● 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2	2					○		
	● 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	● 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	● 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論(小・中・高・養)	2	2						○	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	● 道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法(小・中・養)	2	—				○			※中学免許のみ
	● 総合的な学習の時間の指導法* ¹ ● 総合的な探究の時間の指導法* ² ● 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)	2	2					○		
	● 教育の方法及び技術 ● 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養)	2	2				○			
	● 生徒指導の理論及び方法 ● 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)	2	2				○			
	● 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	2	2				○			
教育実践に関する科目	● 教育実習	教育実習指導(英語)	1	1					○		※中高同時に取得する際は教育実習Ⅰで充足
		教育実習Ⅰ(英語)	4		※2	4			○		
		教育実習Ⅱ(英語)	—		2	2			○		
	● 教職実践演習	教職実践演習(教諭)	2	2						○	
修得単位数合計			29	25 (必23、選必2)							

- * 1 中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。
* 2 高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 複数教科の免許状を取得する者は、当該教科全ての教科教育法の単位を修得すること。
5. 「教職実践演習(教諭)」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
6. 「教育実習」を履修するためには、教育実習参加の要件(p.206)を充たさなければならない。
7. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、教育実習に参加する前年度までに「介護等の体験」を修了していること。

●教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】 中学校・高等学校教諭一種免許〈英語〉

科目区分	各科目に含めることが 必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位/履修区分			配当年次				備 考
			中	高	中/高	1年	2年	3年	4年	
			必修	必修	選択					
教科及び教科の指導法に関する科目	英語学	英語学概説	2	2		○				
		英語音声学			2	○				
		英文法Ⅰ			2	○				
		英文法Ⅱ			2	○				
		第二言語習得論			2			○		
		英語学特論Ⅰ（認知言語学）			2			○		
		英語学特論Ⅱ（英語教授法）			2		○			
	英語文学	英語文学概説	2	2			○			
		英語文学Ⅰ（英文学）			2		○			
		英語文学Ⅱ（米文学）			2		○			
	英語コミュニケーション	ベーシックコミュニケーションⅠ	2	2		○				
		ベーシックコミュニケーションⅡ	2	2		○				
		ベーシックコミュニケーションⅢ			2		○			
		ベーシックコミュニケーションⅣ			2		○			
		アドバンスコミュニケーションⅠ			2			○		
		アドバンスコミュニケーションⅡ			2			○		
	異文化理解	英語圏文化概説	2	2		○				
		世界英語の文化圏Ⅰ			2		○			
		世界英語の文化圏Ⅱ			2		○			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中等英語科教育法Ⅰ	2	2		○				
中等英語科教育法Ⅱ		2	2			○				
中等英語科教育法Ⅲ		2	—			○				
中等英語科教育法Ⅳ		2	—				○			
中学校教諭一種免許最低修得単位数			30 (必18、選12)							
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			34 (必14、選20)							

※中学免許はⅠ～Ⅳ必修
高校免許はⅠ～Ⅱ必修

(注) 配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認して下さい。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				I か II、いずれか 1 科目 を修得すること
体育	スポーツ I	1			○				
	スポーツ II	1			○				
外国語コミュニケーション	英語 I	1			○				
	英語 II	1			○				
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	情報処理演習 I		2	2	○				
	情報処理演習 II			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

教職に関する科目 〔「教育の基礎的理解に関する科目」等〕

【教育学科】 中学校・高等学校教諭一種免許〈数学〉

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で 開講されている 授業科目	単位				配当年次				備 考
科目	各科目に含めることが必要な事項		中 必修	高		1年	2年	3年	4年		
				必修	選択 必修					選択	
① 教育の基礎 的理解に関 する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	2			○				
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	2					○		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論 (小・中・高・養)	2	2						○	
② 道徳、総合 的な学習の 時間等の指 導法及び生 徒指導、教 育相談等に 関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法 (小・中・養)	2	—				○			※中学免許のみ
	・総合的な学習の時間の指導法*1 ・総合的な探究の時間の指導法*2 ・特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法 (小中高養)	2	2						○	
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術 (情報通信技術の活用含む幼小中高養)	2	2					○		
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論 (進路指導を含む) (小・中・高)	2	2					○		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (小・中・高・養)	2	2					○		
③ 教育実践に 関する科目	・教育実習	教育実習指導（数学）	1	1						○	※中高同時に取得 する際は教育実 習Ⅰで充足
		教育実習Ⅰ（数学）	4		※	4				○	
		教育実習Ⅱ（数学）	—		2	2				○	
	・教職実践演習	教職実践演習（教諭）	2	2						○	
計		修得単位数合計	29	25 (必23、選必2)							

* 1 中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。

* 2 高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 複数教科の免許状を取得する者は、当該教科全ての教科教育法の単位を修得すること。
5. 「教職実践演習（教諭）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
6. 「教育実習」を履修するためには、教育実習参加の要件（p.207）を充たさなければならない。
7. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、教育実習に参加する前年度までに「介護等の体験」を修了していること。

●教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】中学校・高等学校教諭一種免許＜数学＞

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備考
			中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
④教科及び教科の指導法に関する科目	代数学	線形代数学			2	○				※中学免許はⅠ～Ⅳ必修、高校免許はⅠ～Ⅱ必修
		代数学Ⅰ	2	2			○			
		代数学Ⅱ			2			○		
	幾何学	幾何学Ⅰ	2	2			○			
		幾何学Ⅱ			2			○		
		位相数学			2				○	
	解析学	解析学Ⅰ	2	2			○			
		解析学Ⅱ			2			○		
		微分積分学			2	○				
	【確率論、統計学】	確率・統計学Ⅰ	2	2			○			
		確率・統計学Ⅱ			2			○		
	コンピュータ	コンピュータ概論	2	2			○			
		コンピュータ演習			2				○	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む)	中等数学科教育法Ⅰ	2	2			○			
		中等数学科教育法Ⅱ	2	2			○			
		中等数学科教育法Ⅲ	2	-				○		
中等数学科教育法Ⅳ		2	-				○			
中学校教諭一種免許最低修得単位数			28 (必18、選10)							
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			28 (必14、選14)							

科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
⑤ 大学が独自に設定する科目	数学的リテラシー			2	○				
	数学史と現代数学			2			○		
	子どもの発達と算数・数学			2		○			

【重要】免許取得のための要件

A：中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得するには、以下の(1)～(3)全ての要件を充たす必要がある。

- (1) ①②③の単位を全て修得する。(中免の29単位)
- (2) ④の科目から32単位修得する。(中免の必修18単位、高免の選択14単位)
- (3) ⑤の科目から「数学的リテラシー」と「子どもの発達と算数・数学」の2科目4単位を修得する。
(「数学的リテラシー」「子どもの発達と算数・数学」は教育実習参加要件科目)

B：中学校教諭一種免許状のみを取得するには、以下の(1)～(3)全ての要件を充たす必要がある。

- (1) ①②③の単位を全て修得する。(29単位)
- (2) ④の科目から28単位修得する。(必修18単位、選択10単位)
- (3) ⑤の科目から「数学的リテラシー」と「子どもの発達と算数・数学」の2科目4単位を修得する。
(「数学的リテラシー」「子どもの発達と算数・数学」は教育実習参加要件科目)

C：高等学校教諭一種免許状のみを取得するには、以下の(1)～(3)全ての要件を充たす必要がある。

- (1) ①②③の単位を全て修得する。(25単位)
- (2) ④の科目から28単位修得する。(必修14単位、選択14単位)
- (3) 以下 a) 又は b) の要件を満たし単位を修得する。
 - a) ⑤の3科目6単位全てを修得する。
 - b) ⑤の科目から「数学的リテラシー」と「子どもの発達と算数・数学」(教育実習参加要件科目)及び(2)で修得していない④の選択科目の中から1科目2単位を修得する。

●教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている科目

p.220を参照してください。

教職に関する科目 〔「教育の基礎的理解に関する科目」等〕

【教育学科】 中学校・高等学校教諭一種免許<理科>

免許法施行規則に定める科目区分等		本学で開講されている授業科目	単位				配当年次				備考
科目	各科目に含めることが必要な事項		中 必修	高 必修	高 選択 必修	高 選択	1年	2年	3年	4年	
① 教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	2			○				
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	2	2			○				
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	2					○		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	2			○				
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2			○				
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（小・中・高・養）	2	2					○		
② 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法（小・中・養）	2	—				○			※中学免許のみ
	・総合的な学習の時間の指導法*1 ・総合的な探究の時間の指導法*2 ・特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（小中高養）	2	2					○		
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	2	2					○		
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	2	2					○		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	2	2					○		
③ 教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習指導（理科）	1	1					○		※中高同時に取得する際は教育実習Ⅰで充足
		教育実習Ⅰ（理科）	4		※	4			○		
		教育実習Ⅱ（理科）	—		2	2			○		
	・教職実践演習	教職実践演習（教諭）	2	2						○	
計		修得単位数合計	29	25 (必23、選必2)							

* 1 中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な学習の時間の指導法」となる。

* 2 高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「総合的な探究の時間の指導法」となる。

〔教職に関する科目〕履修の際の注意事項

1. 中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
2. 中学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」と「教育実習Ⅰ」の2科目を必修とする。
3. 高等学校教諭一種免許状のみを取得する者は、当該教科の「教育実習指導」を必修、「教育実習Ⅰ」か「教育実習Ⅱ」のいずれか1科目を選択必修とする。
4. 複数教科の免許状を取得する者は、当該教科全ての教科教育法の単位を修得すること。
5. 「教職実践演習（教諭）」を履修するためには、1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。
6. 「教育実習」を履修するためには、教育実習参加の要件（p.207）を充たさなければならない。
7. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、教育実習に参加する前年度までに「介護等の体験」を修了していること。

● 教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】 中学校・高等学校教諭一種免許〈理科〉

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備考
			中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
④教科及び教科の指導法に関する科目	物理学	物理学Ⅰ	2	2		○				※ 中学免許はⅠ～Ⅳ必修、高校免許はⅠ～Ⅱ必修
		物理学Ⅱ			2			○		
	化学	化学Ⅰ	2	2		○				
		化学Ⅱ			2			○		
	生物学	生物学Ⅰ	2	2			○			
		生物学Ⅱ			2			○		
	地学	地学Ⅰ	2	2			○			
		地学Ⅱ			2			○		
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験* ¹ 「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」* ²	物理学実験	1	1			○			
		化学実験	1	1			○			
		生物学実験	1	1			○			
		地学実験	1	1			○			
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	理科教材開発の理論と実践(物理・化学)			2				○	
		理科教材開発の理論と実践(生物・地学)			2				○	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)	中等理科教育法Ⅰ	2	2			○			
		中等理科教育法Ⅱ	2	2			○			
中等理科教育法Ⅲ		2	—				○			
中等理科教育法Ⅳ		2	—				○			
中学校教諭一種免許最低修得単位数			28 (必20、選8)							
高等学校教諭一種免許最低修得単位数			24 (必16、選8)							

※ 1 中学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験となる。

※ 2 高等学校教諭一種免許状の「各科目に含めることが必要な事項」は「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」となる。

科目区分	本学で開講されている授業科目	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		中 必修	高 必修	中高 選択	1年	2年	3年	4年	
⑤ 大学が独自に設定する科目	科学的探究の方法			2					
	生命と地球の科学			2					
	地域と生活の科学			2					
	理科クロスカリキュラム研究			2					

【重要】免許取得のための要件

A：中学校・高等学校教諭一種免許状を同時に取得するには、以下の(1)～(3)全ての要件を充たす必要がある。

- (1) ①②③の単位を全て修得する。(29単位)
- (2) ④の科目から28単位修得する。(中免の必修20単位、選択8単位)
- (3) (2)で修得していない④の選択科目と⑤の科目の中から8単位修得する。

B：中学校教諭一種免許状のみを取得するには、以下の(1)～(3)全ての要件を充たす必要がある。

- (1) ①②③の単位を全て修得する。(29単位)
- (2) ④の科目から28単位修得する。(必修20単位、選択8単位)
- (3) (2)で修得していない④の選択科目と⑤の科目の中から2単位修得する。

C：高等学校教諭一種免許状のみを取得するには、以下の(1)～(3)全ての要件を充たす必要がある。

- (1) ①②③の単位を全て修得する。(25単位)
- (2) ④の科目から24単位修得する。(必修16単位、選択8単位)
- (3) (2)で修得していない④の選択科目と⑤の科目の中から10単位修得する。

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択 必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				I か II、いずれか 1 科目 を修得すること
体育	スポーツ I	1			○				
	スポーツ II	1			○				
外国語コミュニケーション	英語 I	1			○				
	英語 II	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習 I		2	2	○				
	情報処理演習 II			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

教職に関する科目 (教育の基礎的理解に関する科目等)

【教育学科】 養護教諭一種免許

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 必修	配当年次				備考
				1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論 (小・中・高・養)	2			○		
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育の理論と方法 (小・中・養)	2		○			
		特別活動・総合的な学習時間の理論と方法 (小中高養)	2			○		
	• 教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法・技術 (情報通信技術の活用含む 幼小中高養)	2		○			
	• 生徒指導の理論及び方法	生徒指導論 (養)	2		○			
	• 教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (小・中・高・養)	2		○			
教育実践に関する科目	• 養護実習	養護実習指導	1			○		※ 1
		養護実習	4					
	• 教職実践演習	教職実践演習 (養護教諭)	2				○	※ 2
修得単位数合計			29					

※ 1 「養護実習」は前述の参加要件 (⇒ p.208) を満たさなければ参加できない。

※ 2 「教職実践演習 (養護教諭)」を履修するためには1セメスター時から「履修カルテ」を作成しなければならない。

●養護に関する科目

【教育学科】養護教諭一種免許

科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位/履修区分			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	衛生学	2			○				1科目2単位 選択必修
		公衆衛生学（予防医学を含む）	2				○			
	学校保健	学校保健	2			○				
	養護概説	養護概説	2			○				
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	健康相談	2				○			
	栄養学（食品学を含む。）	栄養学（食品学を含む）	2			○				
	解剖学・生理学	解剖生理学	2			○				
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	微生物学		2				○		
		薬理概論		2				○		
	精神保健	精神保健	2				○			
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	学校看護学Ⅰ（基礎）	2			○				
		学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）	2			○				
		学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）	2				○			
		学校看護学Ⅳ（応用）	2				○			
臨床看護学演習		2				○		※		
学校救急処置		2				○				
修得単位数合計			30 (必28、選必2)							

※ 臨床看護学演習では学外実習である「臨床実習」に参加する。前述の参加要件（⇒ p.208～209）を充たさないと参加できない。

● 教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）
 ● 教科に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）

【教育学科】幼稚園校教諭一種免許

幼児教育保育コースの科目表（p.229～230）を参照してください。

● 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考	
		必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年		
日本国憲法	日本国憲法	2			○				I か II、いずれか 1 科目を修得すること	
体育	スポーツ I	1			○					
	スポーツ II	1			○					
外国語コミュニケーション	英語 I	1			○					
	英語 II	1			○					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習 I		2	2	○					
	情報処理演習 II			2	○					
修得単位数合計		8 (必6、選必2)								

● 教育学部 「履修カルテ」 について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（教諭）」「教職実践演習（養護教諭）」の授業を受けるまでに、各自で 1 年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（教諭）」「教職実践演習（養護教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（教諭）」「教職実践演習（養護教諭）」を履修できないこともあります。

※養護教諭と小学校教諭・中学校・高等学校の免許状を取得する場合は、「教職実践演習（教諭）」と「教職実践演習（養護教諭）」の 2 科目を履修し、「履修カルテ」も 2 つ作成する必要があります。

● 教育学部 「履修カルテ」 記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で 3 項目について記入します。

(1) 教員志望理由と動機の記入 1 セメ終了時

はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100 字程度）

(2) 教職関連科目の履修状況の記入 2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時

履修した「教科に及び教科の指導法に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関

する科目等) について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

(3) 「介護等の体験」や教育実習の状況の記入

「介護等の体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30分）で各自入力し、終了時に「」をクリックしてください。

（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「」をクリックしていない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8セメスター時に説明します。

教育職員免許状に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で任意の都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7セメスター以降、証明書自動発行機で「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

教育学部教育学科 幼児教育保育コースで取得できる 教育職員免許状の課程

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

要 件	幼稚園教諭	小学校教諭 ^{*2}
「教職に関する科目」の必要単位の修得	○	○
「教科に関する科目」（「領域及び保育内容の指導法に関する科目」）の必要単位の修得	○	
「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位の修得		○
「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定められている科目 ^{*1} の修得	○	○
「介護等の体験」への参加		○ ^{*3}
免許や実習に関するガイダンスへの出席	○	○
教育実習への参加	○	○
教育職員免許状申請	○	○
大学の卒業	○	○

※1 「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習ⅠまたはⅡ」の6科目。

※2 幼稚園教諭一種免許状の取得を前提として許可しています。

※3 保育士資格をめざす場合、保育実習に参加すれば「介護等の体験」が免除される場合があります。詳しくは保育実習ガイダンスで説明します。

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべてIBU.netで行いますので、十分に注意してください。

※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を充たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている幼稚園の現場で多大な迷惑をかけながら、実習させていただくのです。教育実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●教育学科 幼児教育保育コース 教育実習および保育実習の予定

- 1 学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。
- 2 保育実習Ⅰ（施設）の実習先から「介護等の体験」証明書が発行されれば、保育実習Ⅰ（施設）の終了をもって、「介護等の体験」にかえることができます。



●教育学部 「介護等の体験」の参加要件

※保育士資格をめざす場合、保育実習に参加すれば「介護等の体験」が免除される場合があります。詳しくは保育実習ガイダンスで説明します。

小学校または中学校教育職員免許状を取得するためには、教育実習とは別に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間の「介護等の体験」を行うことが義務付けられています。

その目的は、介護などの経験を通じて学んだことを教育の現場に活かしていくことにあります。詳細については、「介護等の体験」事前研修において説明します。

- 「介護等の体験」には、次の参加要件を満たさないと参加できません。

① 2 セメスターを修了していること。

② 参加する年度の前年度の夏学期終了時に、次の科目を修得していること。

基礎教育科目	和の精神 I	1 単位
--------	--------	------

卒業に必要となる修得単位数が上記 1 科目を含んで、15 単位以上

③ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

- 体験先は大学から公的機関に依頼し決定します。他大学の学生と一緒に実習をする場合もあります。
- 体験参加申込金および体験先への謝礼金が必要です。
- 体験先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。体験先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 体験先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
- 体験先（社会福祉施設）には腸内細菌検査結果を提出する必要があります。

*この要件は、科目等履修生にも適用されます。

●教育学部 教育実習参加の要件〔幼児教育保育コース対象〕

「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）の中には、学外での教育実習が含まれます。

- 教育実習には、参加する前 Semester までに下記の参加要件を充たさないと参加できません。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

*この要件は、科目等履修生にも適用されます。

教育実習〈幼稚園教諭一種免許状〉

- ① 4 Semester を修了していること。
- ② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	幼児教育課程総論	} 4 科目 8 単位以上
	保育内容の理論と方法（健康）	
	保育内容の理論と方法（人間関係）	
	保育内容の理論と方法（環境）	
	保育内容の理論と方法（言葉）	

卒業に必要となる修得単位数が上記 8 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

教育実習〈小学校教諭免許状〉

- ① 4 Semester を修了していること。
- ② 次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教職論	} 2 科目 4 単位以上
	教育原論	
	特別支援教育	
	教育心理学	
	生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	} 1 科目 2 単位以上
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）	
	インターンシップⅠ	2 単位
	インターンシップⅡ	1 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 7 科目を含んで、50 単位以上

- ③ 「介護等の体験」を修了していること。
- ④ 「教育実習指導」担当教員の許可を得ていること。
- ⑤ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

● 教職に関する科目
 (「教育の基礎的理解に関する科目等」)

【教育学科】幼稚園一種免許

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 必修	配当年次				備考
				1年	2年	3年	4年	
教育の基礎的理解に関する科目	• 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○				
	• 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	○				
	• 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2			○		
	• 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○				
	• 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○				
	• 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	幼児教育課程総論	2		○			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	• 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	保育方法論	2			○		
		教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養)	2			○		
	• 幼児理解の理論及び方法 • 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	幼児理解(教育相談を含む)	2		○			
教育実践に関する科目	• 教育実習	教育実習指導	1			○		
		教育実習	4			○		
	• 教職実践演習	教職実践演習(教諭)	2				○	
修得単位数合計			25					

※1 「教育実習」は前述の参加要件(⇒p.228)を充たさなければ参加できない。

小学校教諭一種免許状の取得も希望する場合、教育実習は小学校または幼稚園のどちらかに参加し単位を修得すれば、両方の免許を取得できる。2回参加する必要はない。

※2 「教職実践演習(教諭)」を履修するためには1年次から「履修カルテ」を作成しなければならない。

● 教科に関する科目
(領域及び保育内容の指導法に関する科目)

【教育学科】 幼稚園一種免許

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている 授業科目	単位 必修	配当年次				備考
				1年	2年	3年	4年	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	2	○				
		人間関係	2		○			
		環境	2	○				
		言葉	2	○				
		表現	幼児と表現Ⅰ	2		○		
	幼児と表現Ⅱ		2		○			
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容の理論と方法（健康）	2		○			
		保育内容の理論と方法（人間関係）	2		○			
		保育内容の理論と方法（環境）	2	○				
		保育内容の理論と方法（言葉）	2		○			
保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）		2			○			
	保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	2			○			
	保育内容総論	2	○					
修得単位数合計			26					

(注) 配当年次は所属コースにより異なる場合があります。各コースの専門教育科目編成表にて確認してください。

● 教職に関する科目（「教育の基礎的理解に関する科目等」）
教科及び教科の指導法に関する科目

【教育学科】 小学校一種免許

学校教育コースの科目表（p.210～211）を参照してください。

● 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に 定める科目区分	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考	
		必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年		
日本国憲法	日本国憲法	2			○				I か II、いずれか 1 科目 を修得すること	
体育	スポーツⅠ	1			○					
	スポーツⅡ	1			○					
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1			○					
	英語Ⅱ	1			○					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習Ⅰ		2	2	○					
	情報処理演習Ⅱ			2	○					
修得単位数合計		8 (必6、選必2)								

●教育学部 「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（教諭）」の授業を受けるまでに、各自で1年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（教諭）」を履修できないこともあります。

●教育学部 「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で3項目について記入します。

(1) 教員志望理由と動機の記入 1 セメ終了時

はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100字程度）

(2) 教職関連科目の履修状況の記入 2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時

履修した「教科に関する科目」（領域及び保育内容の指導法に関する科目）と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

(3) 「介護等の体験」や教育実習の状況の記入

「介護等の体験」や教育実習を通じて学んだこと等を記入（100字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30分）で各自入力し、終了時に「」をクリックしてください。

（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「」をクリックしていない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で任意の都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書自動発行機で「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

養護教諭一種免許状の課程

(看護学部 看護学科)

●教育職員免許状を取得するために必要な要件

「教職に関する科目」の必要単位の修得
(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

※「教職に関する科目」は卒業に必要な単位に含まない
(「教育の基礎的理解に関する科目等」)

「養護に関する科目」の必要単位の修得

「教育職員免許法施行規則第66条の6」
に定められている科目※の修得

※「日本国憲法」
「スポーツⅠ・Ⅱ」
「上級英語Ⅰ・Ⅱ」
「情報処理演習ⅠまたはⅡ」

学内選抜試験

免許や実習に関するガイダンスへの出席

養護実習への参加

教育職員免許状申請

※養護教諭一種免許状申請に必要な卒業までの
取得単位数は161単位である。

大学の卒業

●教職課程履修者に対する連絡

教職課程履修者への連絡はすべてIBU.netで行いますので、十分に注意してください。

※履修及び修得すべき科目・単位は各自で必ず確認すること。

●学外実習について

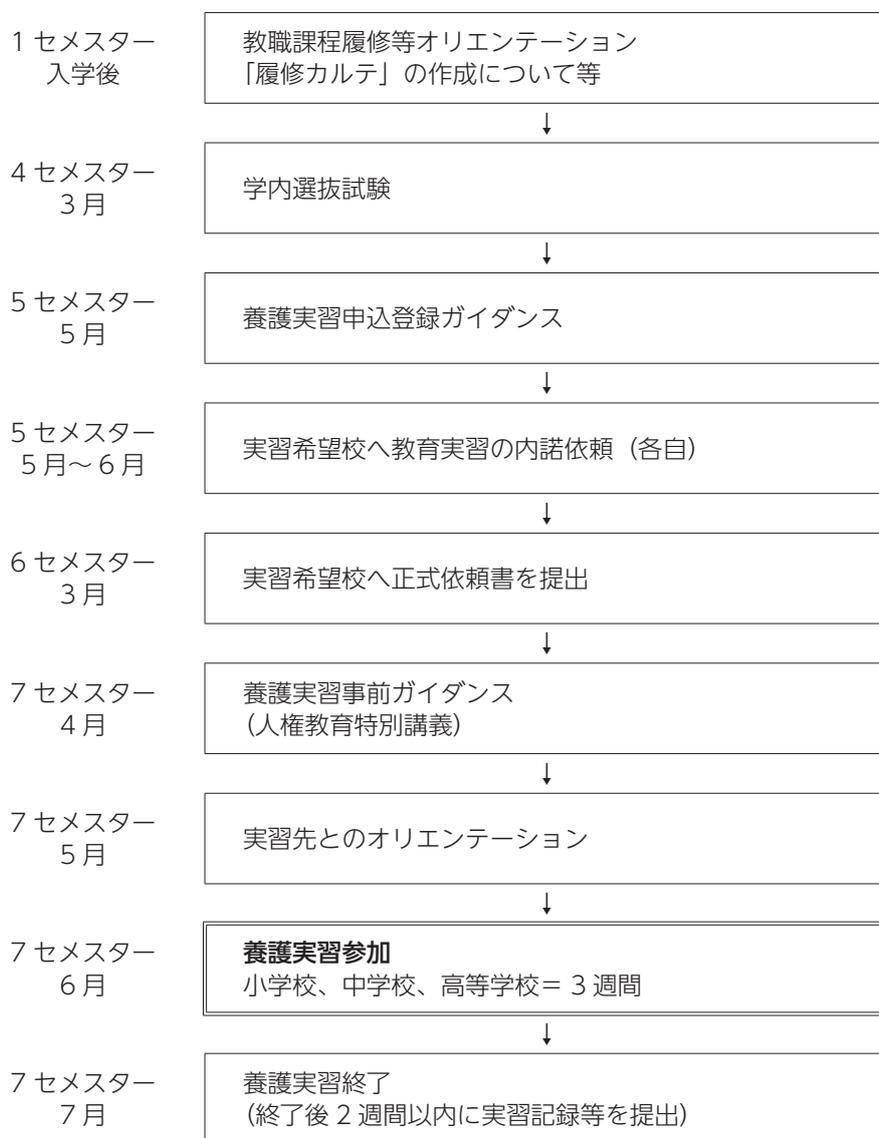
学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。

●学外実習に参加するための心得

学外実習は要件を充たしているからといって、それだけの理由で安易に行うべきものではありません。量・質ともに過密なスケジュールをこなしている学校の現場で多大な負担をかけながら、実習させていただくのです。養護実習を行うにあたっては、将来実際に教職につくことを強く希望しているということが、一番の要件になるということを強く自覚してください。

●看護学部 養護実習の予定

学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。



※オリエンテーション、ガイダンスを欠席した場合は、養護実習に参加できません。

●養護教諭コース 学内選抜試験

本学では、養護教諭コースを選択できる定員は20人程度とし、選抜時期は2年次冬学期の成績判定終了後に行います。出願方法はIBU.netで連絡します。選抜試験を受験するためには、4セメスターまでに配当された基礎教育科目及び専門教育科目の必修科目及び下記の指定された選択科目（教養教育科目、語学・情報科学科目、健康科学科目、看護科学科目、教職科目）の単位数を修得する必要があります。なお、選抜試験の評価は、小論文（出願時に提出）、面接試験、4セメスターまでの全履修科目の累積GPA（実習含む）により行います。

基礎教育科目		和の精神Ⅰ	1単位
		和の精神Ⅱ	1単位
		仏教概説	2単位
		現代社会と人権	2単位
共通教育科目	教養教育科目	生物学	2単位
		日本国憲法	2単位
		スポーツⅠ	1単位
		スポーツⅡ	1単位
	語学・情報科学科目	統計学	2単位
		上級英語Ⅰ	1単位
		上級英語Ⅱ	1単位
		上級英語Ⅲ（医療英語）	1単位
		上級英語Ⅳ（英語論文読解）	1単位
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ	1科目 2単位以上
その他の共通教育科目 1科目以上		2単位以上	
専門教育科目	4セメスターまでに配当された必修科目 35科目		55単位
	健康科学科目	疫学	2単位
	看護科学科目	学校保健論	2単位
		養護概説	2単位
教職に関する科目	教職論		2単位
	教育原論		2単位
	教育心理学		2単位
	特別支援教育		2単位
	教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）		2単位
	生徒指導論（養）		2単位
	教育相談の理論と方法（中・高・養）		2単位
道徳教育の理論と方法（中・養）		2単位	

●看護学部 養護実習参加の要件

「教職に関する科目」(「教育の基礎的理解に関する科目等」)の中には、学外での養護実習が含まれます。

・養護実習には、次の参加要件を満たさないと参加できません。

- ① 選抜試験に合格していること。
- ② 6 セメスターを修了していること。
- ③ 参加する年度の前年度までに、次の科目を修得していること。

専門教育科目	6 セメスターまでに配当された必修科目 51 科目		88 単位
	看護科学科目	健康相談	2 単位
教職に関する科目	教育制度論		2 単位
	教育課程総論 (中・高・養)		2 単位
	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法 (中高養)		2 単位

④ 全てのオリエンテーション、ガイダンスに出席すること。

- ・依頼方法等についてはガイダンスで説明します。
- ・実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- ・実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。

●教職に関する科目 (教育の基礎的理解に関する科目等)

【看護学科】養護教諭一種免許

科目	各科目に含めることが必要な事項	本学で開講されている授業科目	単位 必修	配当年次					備考
				1年	2年	3年	4年		
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	○					
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	2	○					
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2			○			
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○					
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	○					
	・教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論 (中・高・養)	2			○			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育の理論と方法 (中・養)	2		○				
		特別活動・総合的な学習時間の理論と方法 (中高養)	2			○			
	・教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法・技術 (情報通信技術の活用含む中高養)	2		○				
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導論 (養)	2		○				
	・教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (中・高・養)	2		○				
教育実践に関する科目	・養護実習	養護実習	5					○	事前・事後指導を含む
	・教職実践演習	教職実践演習 (養護教諭)	2					○	
修得単位数合計			29						

●養護に関する科目

【看護学科】養護教諭一種免許

科目区分	免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講されている授業科目	単位/履修区分		配当年次				備考
			必修		1年	2年	3年	4年	
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学 (予防医学を含む。)	地域生活支援論 I	2		○				
		疫学	2			○			
	学校保健	学校保健論	2			○			
	養護概説	養護概説	2			○			
	健康相談活動の理論及び方法	健康相談	2				○		
	栄養学 (食品学を含む。)	栄養と代謝	2	○					
	解剖学及び生理学	人体の構造と機能 I	2	○					
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	薬理学	2			○			
		疾病と治療 I	2	○					
	精神保健	精神保健	2			○			
	看護学 (臨床実習及び救急処置を含む。)	看護概論	2	○					
		成育生活支援論	1			○			
		看護治療技術演習	1			○			
		成育療養生活支援技術演習	2				○		
		看護と倫理	2			○			
	成育療養生活支援実習	2				○			
修得単位数合計			30						

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本国憲法	日本国憲法	2			○				
体育	スポーツ I	1			○				
	スポーツ II	1			○				
外国語コミュニケーション	上級英語 I	1			○				
	上級英語 II	1			○				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習 I		2	2	○				I か II、いずれか 1 科目を修得すること
	情報処理演習 II			2	○				
修得単位数合計		8 (必6、選必2)							

●看護学部 「履修カルテ」について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、8 セメスター時に開講される「教職実践演習（養護教諭）」の授業を受けるまでに、各自で1年次から「履修カルテ」を作成することが義務付けられています。

「履修カルテ」とは、教職課程を履修する学生が、授業や学外活動等において、何を学んだのかを振り返り記録するとともに、今後どのような学習が必要かを考える為の手がかりにしてもらうためのものです。

それをもとに「教職実践演習（養護教諭）」では、教員として必要な資質能力がどの程度形成されたかを確認します。

「履修カルテ」が作成されていない場合や、「履修カルテ」に記入漏れがある場合、8 セメスター時に「教職実践演習（養護教諭）」を履修できないこともあります。

●看護学部 「履修カルテ」記入の仕方

入学後オリエンテーションにて説明を受け、IBU.net で3項目について記入します。

(1) 教員志望理由と動機の記入 1 セメ終了時

はじめに教員を志望する理由と動機について記入（100字程度）

(2) 教職関連科目の履修状況の記入 2 セメ、4 セメ、6 セメ終了時

履修した「養護に関する科目」と「教職に関する科目」（「教育の基礎的理解に関する科目等」）について振り返り、「履修カルテ」の項目ごとに自己評価を記入

(3) 養護実習の状況の記入

養護実習を通じて学んだこと等を記入（100字程度）

※ IBU.net での「履修カルテ」の記入は、指定された文字数内・時間内（30分）で各自入力し、終了時に「」をクリックしてください。

（文字数を越えた場合、時間を過ぎた場合や「」をクリックしていない場合は更新できません）

●教育職員免許状申請、証明書について

1. 教育職員免許状申請

教職に就くには、都道府県の教育委員会へ申請を行い、「教育職員免許状」を取得する必要があります。大学で取りまとめて大阪府教育委員会に申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

教育職員免許状取得に必要な単位を修得し、申請を行った学生には、学位授与式で「教育職員免許状」を配付します。

※教育職員免許状の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

※大学の指定した期日までに申請しなかった場合は、個人で任意の都道府県の教育委員会に申請しなければ免許状を取得することができません。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書自動発行機で「免許状取得見込証明書」を発行してください。

3. 教育職員免許状の紛失等について

「教育職員免許状」を紛失した場合は、大阪府教育委員会へ問い合わせてください。大学で教育職員免許状の再発行はできません。

保育士資格 (教育学部 教育学科 幼児教育保育コース)

●保育士資格を取得するために必要な要件

保育士資格の教養科目、必修科目、選択科目の修得

「保育実習」への参加

保育士登録

大学の卒業

●保育士資格 教養科目

系列	法令上の教科目			本学開講科目	授業形態	※2) 履修単位数	
	教科目	授業形態	※1) 設置単位数			必修	選択
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	仏教概説	講義	2	
				現代社会と人権	講義	2	
				情報処理演習Ⅰ	演習	2	2
				情報処理演習Ⅱ	演習		2
	外国語	演習	2以上	英語Ⅰ	演習	1	
				英語Ⅱ	演習	1	
	体育	講義	1	体育講義	講義	2	
実技		1	スポーツⅠ	実技	1		
合計			10単位以上			11単位	

※1 「設置単位数」は法令上開設しなければならない単位数。

※2 「履修単位数」は実際に修得しなければならない単位数。履修の際はこの欄に従うこと。

●保育士資格 必修科目

系列	法令上の教科目			本学開講科目	授業形態	(※2)
	教科目	授業形態	(※1) 設置単位数			履修単位数 計
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2
	教育原理	講義	2	教育原論	講義	2
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解（教育相談を含む）	演習	2
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程総論	講義	2
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2
	保育内容演習	演習	5	保育内容の理論と方法（健康）	演習	2
				保育内容の理論と方法（人間関係）	演習	2
				保育内容の理論と方法（環境）	演習	2
				保育内容の理論と方法（言葉）	演習	2
				保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	演習	2
				保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	演習	2
	保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと遊び	演習	2
				音楽実践演習（器楽）	演習	1
				小児体育	演習	1
				子どもと造形表現	演習	1
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1	
保育実習	保育実習	4	保育実習Ⅰ（施設）（※3）	実習	2	
			保育実習Ⅰ（保育所）（※3）	実習	2	
	保育実習指導Ⅰ	2	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	
			保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1	
演習総合	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2
合計			51 単位	61 単位		

※1 「設置単位数」は法令上開設しなければならない単位数。

※2 「履修単位数」は実際に修得しなければならない単位数。履修の際はこの欄に従うこと。

※3 「保育実習」の履修条件については、⇒ p.241～242 を参照すること。

●保育士資格 選択必修科目

法令上の教科目				本学開講科目	授業形態	（※2）履修単位数	
系列	教科目	授業形態	（※1）設置単位数			必修	選択
保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	子ども学概論	講義	2	
				幼保小中接続研究	講義		2
				多様な子ども理解入門	講義		2
				フィールドワーク演習（子育て支援）	演習		1
				フィールドワーク演習（子ども支援）	演習		1
				保育方法論	講義		2
				音楽への扉	演習		2
				音楽実践演習（声楽）	演習		1
				音楽実践演習（弾き歌い）	演習		1
				保育インターンシップ	演習		2
保育実習	保育実習Ⅱ 又は 保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）（※3）	実習	2	2
				保育実習Ⅲ（施設）（※3）	実習		2
	保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）（※3）	演習	1	1
				保育実習指導Ⅲ（施設）（※3）	演習		1
合 計			18 単位以上			9 単位以上	

※1 「設置単位数」は法令上開設しなければならない単位数。

※2 「履修単位数」は実際に修得しなければならない単位数。履修の際はこの欄に従うこと。

※3 「保育実習Ⅱ（保育所）」・「保育実習指導Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」・「保育実習指導Ⅲ（施設）」3単位は必ず修得すること。

また、「保育実習」の履修条件については、⇒ p.241～242 を参照すること。

●保育実習

前記必修科目と選択科目の中には、学外での保育実習が含まれます。

- 学外実習について質問がある場合は、教職教育推進センターに来てください。
- 実習参加時期は、p.226 を参照してください。
- 保育実習には、次の参加要件を充たさなければ参加できません。

【保育実習Ⅰ（保育所）】

- ① 3 セメスターを修了していること。
- ② 参加する前セメスターまでに、次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	教育原論	} 7 科目 14 単位以上
	保育原理	
	社会福祉	
	子ども家庭福祉	
	社会的養護Ⅰ	
	保育者論	
	保育内容総論	
	乳児保育Ⅰ	
	子どもの保健	} 2 単位
	音楽への扉	

卒業に必要となる修得単位数が上記 10 科目を含んで 65 単位以上

- ③ 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」担当教員の許可を得ていること。

【保育実習Ⅰ（施設）】

- ① 3 セメスターを修了していること。
- ② 参加する前セメスターまでに、次の科目の単位を修得していること。

基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1 単位
	和の精神Ⅱ	1 単位
教育学科 専門教育科目	保育原理	2 単位
	子ども家庭福祉	2 単位
	社会的養護Ⅰ	2 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 5 科目を含んで 65 単位以上

- ③ 「保育実習指導Ⅰ（施設）」担当教員の許可を得ていること。

【保育実習Ⅱ（保育所）】または【保育実習Ⅲ（施設）】

- ① 5 セメスターを修了していること。
- ② 参加する前セメスターまでに、次の科目の単位を修得していること。

教育学科専門 教育科目	音楽実践演習（声楽）	1 単位
	音楽実践演習（弾き歌い）	1 単位

卒業に必要となる修得単位数が上記 2 科目を含んで、100 単位以上

- ③「保育実習Ⅰ（保育所）」および「保育実習Ⅰ（施設）」を終えていること。
 - ④「保育実習指導Ⅱ（保育所）」または「保育実習指導Ⅲ（施設）」担当教員の許可を得ていること。
 - ・「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ（施設）」で実習を行う社会福祉施設は、大学が実習先を決定します。
 - ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ（保育所）」で実習を行う保育所は、大学が実習先を決定します。
 - ・実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
 - ・実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
 - ・実習先から求められた場合は麻疹の抗体を証明する必要があります。大学の指示に従って必要書類を提出してください。
 - ・実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。
- いずれも、「保育実習指導」で詳しく説明します。

●保育士登録、証明書について

1. 保育士登録

「保育士」になるには、日本保育協会登録事務処理センターへ「保育士登録」の申請を行い、「保育士登録簿」への登録を受ける必要があります。

大学で取りまとめて申請します。申請方法は、8 セメスター時に説明します。

登録の申請を行なうと、卒業後に登録事務処理センターより「保育士登録済通知書」「保育士証」が郵送されます。

※保育士の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7 セメスター以降、証明書自動発行機で「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

「保育士証」を紛失等で再発行する場合は、日本保育協会登録事務処理センターへ問い合わせてください。大学では発行できません。

社会福祉士国家試験受験資格

(社会学部 人間福祉学科)

●社会福祉士国家試験受験資格とは

社会福祉士とは、「社会福祉及び介護福祉士法」にもとづく国家資格です。社会福祉に関する専門的知識や技術を持って、身体に障害のある者や、環境上の理由で日常生活に支障のある者の福祉に関する相談に応じて助言・指導を行ったり、介護福祉士や医師など福祉サービスや保健医療サービス提供者の間にたって連

絡・調整等の援助を行ったりすることが業務です。

この資格は、まず受験資格を取得し、国家試験に合格することで、取得できます。

人間福祉学科の学生は、下記「指定科目」の単位を修得し、卒業が見込まれる場合に、社会福祉士国家試験の受験資格を取得できます。その場合、国家試験は在学中 8 セメスター時に受験することができます。

●社会福祉士国家試験受験資格 指定科目対応表

	社会福祉士国家試験受験資格指定科目	国家試験科目	本学開講の受験資格取得科目		
			科目名	取得単位	
1	医学概論	○	医学概論	2	
2	心理学と心理的支援	○	心理学と心理的支援	2	
3	社会学と社会システム	○	社会学と社会システム	2	
4	社会福祉の原理と政策	○	社会福祉の原理と政策 I	2	
			社会福祉の原理と政策 II	2	
5	社会福祉調査の基礎	○	社会福祉調査の基礎	2	
6	ソーシャルワークの基盤と専門職	○	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2	
7	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)	○	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2	
8	ソーシャルワークの理論と方法	○	ソーシャルワークの理論と方法 I	2	
			ソーシャルワークの理論と方法 II	2	
9	ソーシャルワークの理論と方法 (専門)	○	ソーシャルワークの理論と方法 III	2	
			ソーシャルワークの理論と方法 IV	2	
10	地域福祉と包括的支援体制	○	地域福祉と包括的支援体制 I	2	
			地域福祉と包括的支援体制 II	2	
11	福祉サービスの組織と経営	○	福祉サービスの組織と経営	2	
12	社会保障	○	社会保障 I	2	
			社会保障 II	2	
13	高齢者福祉	○	高齢者福祉	2	
14	障害者福祉	○	障害者福祉	2	
15	児童・家庭福祉	○	児童・家庭福祉	2	
16	貧困に対する支援	○	貧困に対する支援	2	
17	保健医療と福祉	○	保健医療と福祉	2	
18	権利擁護を支える法制度	○	権利擁護を支える法制度	2	
19	刑事司法と福祉	○	刑事司法と福祉	2	
20	ソーシャルワーク演習		ソーシャルワーク演習 I	2	
21	ソーシャルワーク演習 (専門)		ソーシャルワーク演習 II	2	
			ソーシャルワーク演習 III	2	
			ソーシャルワーク演習 IV	2	
			ソーシャルワーク演習 V	2	
22	ソーシャルワーク実習指導		ソーシャルワーク実習指導 A	※ 1	2
			ソーシャルワーク実習指導 B	※ 1	2
			ソーシャルワーク実習指導 C	※ 1	2
23	ソーシャルワーク実習		ソーシャルワーク実習 A	※ 1	2
			ソーシャルワーク実習 B	※ 1	4

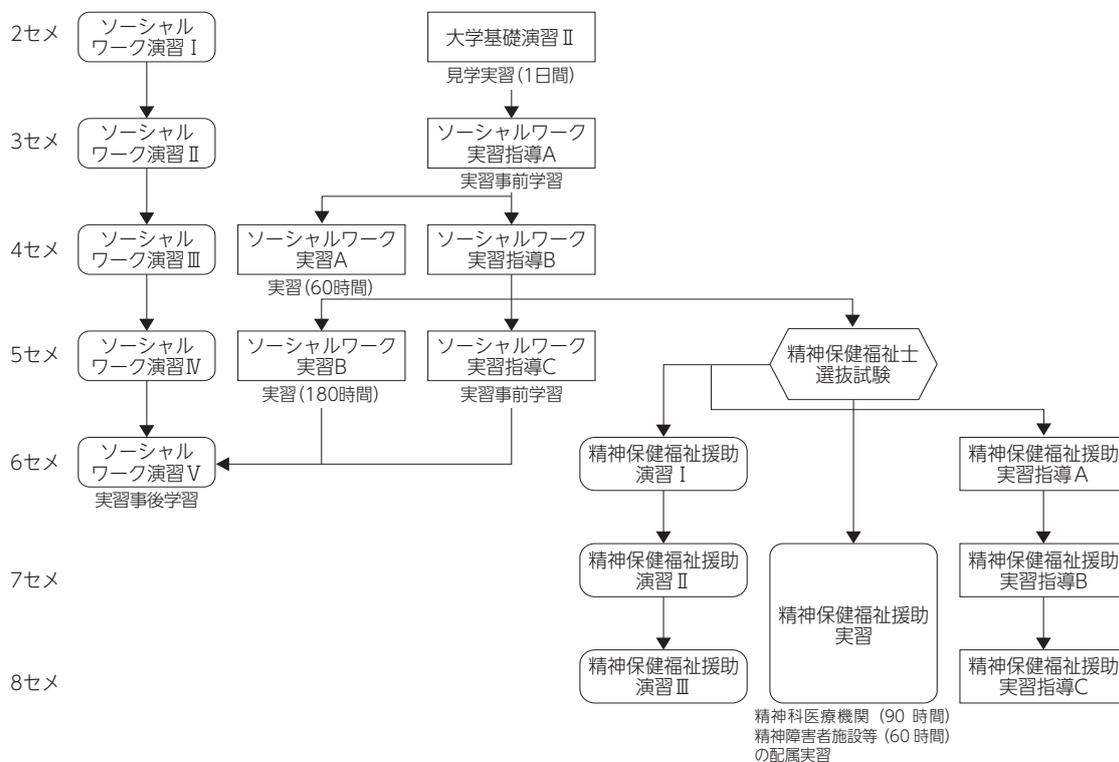
※ 1 表中※ 1 以外の指定科目は、必ず在学中に修得すること。「ソーシャルワーク実習指導 A・B・C」「ソーシャルワーク実習 A・B」については、卒業後に科目等履修制度で修得可能ですが、その場合在学中に国家試験を受験することはできません。

※ 2 「ソーシャルワーク実習指導 A・B・C」、「ソーシャルワーク実習 A・B」の履修条件については、⇒ p.110 参照すること。

※ 3 精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する場合は、「権利擁護を支える法制度」を必ず修得すること。

●社会福祉士国家試験 指定科目 学外実習・演習の流れ

指定科目の中には、演習科目や学外実習が含まれ、下図の順番で履修します。社会福祉士国家試験受験資格と、精神保健福祉士国家試験受験資格の両方を取得することも可能です。



- 学外実習には履修の条件があります。科目表を参照してください。
- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を必ず受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等あれば事前に保健センターに相談してください。
- 実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。
- 学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施します。

履修の実際については、大学基礎演習Ⅰ・Ⅱおよびソーシャルワーク実習指導A・B・Cで説明します。

●社会福祉士国家試験 指定科目 学外実習・演習の予定

【大学基礎演習Ⅱ】(見学実習)

【Ⅱ】 履修登録	2 セメスター 9月上旬
【Ⅱ】 見学実習 学外実習の手引きの配布 実習指導・実習全体像 オリエンテーション	2 セメスター 9月中旬
【Ⅱ】 見学実習 参加費振込み 誓約書作成	2 セメスター 10月下旬
【Ⅱ】 見学施設発表 実習ノート等 書類配布	2 セメスター 12月上旬
【Ⅱ】 見学実習 1日	2 セメスター 12月上旬
【Ⅱ】 実習ノート提出	2 セメスター 12月上旬
【Ⅱ】 事後指導	2 セメスター 12月中旬～1月
① 【A】【B】 履修希望調査 実習 A 施設希望調査 実習指導・実習オリエンテーション 事前学習課題	2 セメスター 1月

【ソーシャルワーク実習指導 A】(事前学習)

② 【A】【B】【C】【実習 A】【実習 B】 【演習 V】全体像 オリエンテーション	3 セメスター 4月中旬
③ 【A】履修登録	3 セメスター 4月上旬
④ 【A】【実習 A】事前指導	3 セメスター 4～7月
⑤ 【実習 A】実習施設の再希望調査 参加申込書提出 参加申込費納入	3 セメスター 5～6月
⑥ 【実習 A】仮配属施設発表 夏休み課題(事前学習) (配属施設確定は 9/1)	3 セメ 7月中～下旬

【ソーシャルワーク実習指導 B】

【ソーシャルワーク実習 A】	
⑦ 【B】【実習 A】実習謝礼金振込	4 セメスター 9月中旬
⑧ 【B】【実習 A】履修登録	4 セメスター 9月中旬
⑨ 【B】【実習 A】 実習計画書 個人票・誓約書作成	4 セメスター 9月下旬 ～10月上旬
⑩ 【B】【実習 A】 健康診断証明書・実習ノート・ 実習評価表等書類配付 腸内細菌検査	4 セメスター 10月上旬～中旬
⑪ 【B】【実習 A】 実習オリエンテーション オリエンテーション報告書提出 直前指導・リスクマネジメント	4 セメスター 10月中旬～下旬 大学祭後 1 回 指導時間を確保

⑫ 【実習 A】 (9日・約 70 時間) 実習中は、必要に 応じて巡回指導	4 セメスター 11月中旬～下旬 2 週間
⑬ 【B】【実習 A】実習ノート提出 実習評価表 出席表返送	4 セメスター 11月下～ 12月中旬
⑭ 【B】事後指導	4 セメスター 12～1月
⑮ 【実習 B】履修希望調査 実習施設希望調査	4 セメスター 12月
⑯ 【実習 B】参加申込書の提出	4 セメスター 12月下旬～1月下旬

【ソーシャルワーク実習指導 C】(事前学習・実践学習)

【ソーシャルワーク実習 B】

⑰ 【C】【実習 B】 仮配属施設発表 春休み課題(事前学習) (配属施設確定は 4/1)	4 セメスター 3月上旬 ⇒ (5 セメ指導 C 第 1 回 授業)
⑱ 【実習 B】 参加申込費・実習謝礼金振込	⇒ 5 セメスター 4月上旬
⑲ 【C】【実習 B】履修登録	⇒ 5 セメスター 4月上旬
⑳ 【C】【実習 B】 実習計画書 個人票・誓約書作成	⇒ 5 セメスター 4月上旬～
㉑ 【C】【実習 B】 健康診断証明書・実習ノート・実 習評価表等書類配付 腸内細菌検査	⇒ 5 セメスター 4月中旬～下旬
㉒ 【C】【実習 B】 実習オリエンテーション オリエンテーション報告書提出 直前指導・リスクマネジメント	⇒ 5 セメスター 5月上旬～下旬
㉓ 【実習 B】実習 (23日・180 時間)	5 セメスター 6～7月 (一部 8 月から 9 月) 第 1 週帰校指導 第 2 週巡回指導 第 3 週帰校指導 第 4～5 週巡回指導 場合によっては、 反省会での指導
㉔ 【C】【実習 B】実習ノート提出 実習評価表 出席表返送	⇒ 5 セメスター 7月中旬～下旬

【ソーシャルワーク演習 V】(事後学習)

㉕ 【演習 V】履修登録	⇒ 6 セメスター 9月中旬
㉖ 【演習 V】事後指導 実習報告書 実習報告会	⇒ 6 セメスター 9～1月

※学外実習については、学則による開講日だけでなく休業日にも実施する。

※期間等の詳細については、実習の手引き等で連絡する。

※夏学期開講前に実施される「学生定期健康診断」を必ず受診すること。

●社会福祉士国家試験受験資格 証明書等

1. 社会福祉士国家試験受験用の証明書発行

受験には、試験を主催する社会福祉振興・試験センターが指定する以下の証明書（2種類）が必要です。いずれも大学で取りまとめて作成・送付します。

申込方法は、出願方法とともに、7セメスター時に説明します。

- 国家試験出願時
卒業見込証明書・社会福祉士指定科目履修見込証明書
- 学位授与式終了時
卒業証明書・社会福祉士指定科目履修証明書

また、社会福祉士国家試験に合格した場合は、社会福祉振興・試験センターから合格通知とともに社会福祉士証書の申請方法が送付されますので、それに従って個人で手続きをしてください。（大学への申請ではありません。）

※社会福祉士国家試験の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性もあります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7セメスター以降、証明書自動発行機で「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

- 社会福祉士国家試験を受験する場合、受験用の証明書を発行できます。
- 就職活動等に使用する証明書は、卒業後は発行できません。

精神保健福祉士国家試験受験資格 (社会学部 人間福祉学科)

●精神保健福祉士国家試験受験資格とは

精神保健福祉士とは、「精神保健福祉士法」によって制定された国家資格であり、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、または精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助（相談援助）を行うことを業とするものです。

この資格は、まず受験資格を取得し、国家試験に合格することで、取得できます。

人間福祉学科の学生は、後述の「指定科目」の単位を修得し、卒業が見込まれる場合に、精神保健福祉士国家試験の受験資格を取得できます。その場合、国家試験は在学中8セメスター時に受験することができます。

●精神保健福祉士国家試験受験資格 学内選抜試験

本学では、精神保健福祉士国家試験受験資格 指定科目を履修し資格取得できる定員は、1 学年につき最大 20 名とします。

学内選抜試験は 4 セメスター時に行います。出願方法は IBU.net で連絡します。

●精神保健福祉士国家試験受験資格 指定科目対応表

	精神保健福祉士国家試験 受験資格指定科目	国家試験 科目	本学開講の受験資格取得科目	
			科目名	取得 単位
1	医学概論	○	医学概論	2
2	心理学と心理的支援	○	心理学と心理的支援	2
3	社会学と社会システム	○	社会学と社会システム	2
4	社会福祉の原理と政策	○	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2
5	地域福祉と包括的支援体制	○	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2
6	社会保障	○	社会保障Ⅰ	2
			社会保障Ⅱ	2
7	障害者福祉	○	障害者福祉	2
8	権利擁護を支える法制度	○	権利擁護を支える法制度	2
9	刑事司法と福祉	○	刑事司法と福祉	2
10	社会福祉調査の基礎	○	社会福祉調査の基礎	2
11	精神医学と精神医療	○	精神医学と精神医療Ⅰ	2
			精神医学と精神医療Ⅱ	2
12	現代の精神保健の課題と支援	○	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
			現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
13	ソーシャルワークの基盤と専門職	○	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2
14	精神保健福祉の原理	○	精神保健福祉の原理Ⅰ	2
			精神保健福祉の原理Ⅱ	2
15	ソーシャルワークの理論と方法	○	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2
16	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	○	精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2
			精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2
17	精神障害リハビリテーション論	○	精神障害リハビリテーション論	2
18	精神保健福祉制度論	○	精神保健福祉制度論	2
19	ソーシャルワーク演習		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	2
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	2
20	ソーシャルワーク演習（専門）		精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
			精神保健福祉援助演習Ⅱ	2
			精神保健福祉援助演習Ⅲ	2
21	ソーシャルワーク実習指導		精神保健福祉援助実習指導 A	2
			精神保健福祉援助実習指導 B	2
			精神保健福祉援助実習指導 C	2
22	ソーシャルワーク実習		精神保健福祉援助実習	3
			ソーシャルワーク実習 B	4

●精神保健福祉士国家試験受験資格 指定科目 学外実習

- 実習参加申込金および実習先への謝礼金が必要です。
- 実習先には健康診断書を提出します。「学生定期健康診断」を受診してください。実習先に事前に提出する健康診断書には、現在治療中の疾患名等の健康情報を原則記載します。不都合等があれば事前に保健センターに相談して下さい。
- 実習先には腸内細菌検査結果の提出が必要です。

履修の実際については、精神保健福祉援助実習指導 A・B・C で説明します。

●精神保健福祉士国家試験受験資格 証明書等

1. 精神保健福祉士国家試験受験用の証明書発行

受験には、試験を主催する社会福祉振興・試験センターが指定する以下の証明書（2種類）が必要です。いずれも大学で取りまとめて作成・送付します。

申込方法は、出願方法とともに、7セメスター時に説明します。

- 国家試験出願時
卒業見込証明書・精神保健福祉士指定科目履修見込証明書
- 学位授与式終了時
卒業証明書・精神保健福祉士指定科目履修証明書

また、精神保健福祉士国家試験に合格した場合は、社会福祉振興・試験センターから合格通知とともに精神保健福祉士証書の申請方法が送付されますので、それに従って個人で手続きをしてください。（大学への申請ではありません。）

※精神保健福祉士国家試験の制度が変更になった場合は、手続きの方法が変わる可能性があります。

2. 就職活動等に使用する証明書発行

7セメスター以降、証明書自動発行機で「資格取得見込証明書」を発行してください。

3. 卒業後の証明書発行

- 精神保健福祉士国家試験を受験する場合、受験用の証明書を発行できます。
- 就職活動等に使用する証明書は、卒業後は発行できません。

学校図書館司書教諭

(文学部・社会学部・教育学部)

●学校図書館司書教諭とは

学校図書館司書教諭とは、小学校、中学校及び高等学校に設置された学校図書館の専門的職務を司る教諭のことです。(学校図書館法第5条)。これは免許制ではなく、司書教諭の資格を得た者が小学校、中学校、または高等学校の教員となり、学校図書館の専門的職務にあたる場合、その学校の設置者（都道府県あるいは市町村の教育委員会）が発令を行います。

したがって、学校図書館司書教諭の講習の修了証書取得を希望する学生は、教育職員免許状取得（小一種・中一種・高一種）に必要な授業科目を履修した上で、さらに学校図書館司書教諭講習規程に定める司書教諭の講習に関する科目を必要単位数分、履修しなければなりません。なお、これらの科目も卒業に必要な単位には含まれませんので注意してください。

●司書教諭の講習に関する科目一覧

【文学部・社会学部・教育学部の教職課程者（小1種・中1種・高1種）】

種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
司書教諭の講習に関する科目	学校経営と学校図書館	2						○	
	学校図書館メディアの構成	2						○	
	学習指導と学校図書館	2						○	
	読書と豊かな人間性	2						○	
	情報メディアの活用	2						○	
資格取得に必要な修得単位数		合計 10 単位							

※「司書教諭の講習に関する科目」は卒業に必要な単位に含まない。

●学校図書館司書教諭講習修了書取得までの流れ（例：2028年3月卒業生の場合）

2028年5月初旬	大学より「2028年度学校図書館司書教諭申込書」を自宅へ送付。 記載事項を確認し、署名・捺印後に期限内に大学へ送付。
2028年夏	「2028年度学校図書館司書教諭講習」を実施。 → 書類参加のため実際に参加する必要はありません。
2029年3月下旬	「学校図書館司書教諭講習修了書」が自宅に送付されます。

※学校図書館司書教諭講習修了書は在学中（8セメスター時）に申込をしますが、取得は卒業してから1年後となります。

社会福祉主事任用資格

(文学部・社会学部・教育学部・経営学部)

●社会福祉主事任用資格とは

社会福祉主事とは、都道府県、市町村に設置される福祉事務所に置かれる職であり、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務を行うことを職務とします。

社会福祉主事に任用される資格のことを、社会福祉主事任用資格と呼び、地方自治体に採用となり、福祉事務所に配属されてはじめて意味をなす「任用資格」です。

この資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足の科目を科目等履修によって補うことはできません。

また必要科目に加え、共通教育科目の法学、経済学、社会学、心理学の分野も履修することが望ましいとされています。

●資格要件科目一覧

【人間福祉学科】

種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
人間福祉学科 専門教育科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2			○				
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2			○				
	児童・家庭福祉	2				○			
	障害者福祉	2				○			
	高齢者福祉	2				○			
資格取得に必要な修得単位数		合計 10 単位							

【人間福祉学科以外の学科等】

種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
共通教育科目	社会福祉概論	2			○	○	○		
	社会福祉行政	2			○	○	○		
	老人福祉論	2			○	○	○		
	児童福祉論 (※)	2				○	○	○	
資格取得に必要な修得単位数		合計 8 単位							

(※) 教育学科 幼児教育保育コースの学生は専門教育科目「子ども家庭福祉」2単位を「児童福祉論」と読みかえることができる。

日本語教員養成プログラム

(文学部 全学科)

●日本語教員養成プログラムとは

日本語教員養成プログラムは、日本語教員になるために必要な標準的教育内容が学べるように設定されています。各区分必要単位を修得して、合計 32 単位を取得すれば、日本語教員に必要な知識能力を修得したものとみなして、審議の上「四天王寺大学 日本語教員養成プログラム修了証明書」を発行します。将来、日本語教員を目指す学生は、所定の科目一覧で学修計画を立ててください。

●資格要件科目一覧

【文学部 全学科】

種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考		
		必修	選択必修	選択(修)	1年	2年	3年	4年			
日本文学科 国際コミュニケーション学科 学科共通科目	日本語教育学概論Ⅰ	2			○				※1		
	日本語教育学概論Ⅱ	2			○						
	日本語教育実習指導及び実習 A ※	2						○			
	日本語教育実習指導及び実習 B ※	2						○			
	地域における多文化共生Ⅰ	2	2				○				
	地域における多文化共生Ⅱ		2				○				
日本文学科 専門教育科目	日本語学Ⅰ	2			○						
	日本語学Ⅱ	2			○						
	日本語教育論Ⅰ	2				○					
	日本語教育論Ⅱ	2				○					
	日本語教授法Ⅰ	2					○				
	日本語教授法Ⅱ	2					○				
	日本語文法Ⅰ(現代)	2				○					
	言語学概論	2				○					
	講読Ⅰ(日本語学)			2		○					
	日本文化論Ⅰ			2	○						
	異文化理解	2	2				○				
異文化理解	2			○							
異文化共生論	2				○						
国際コミュニケーション論	2				○						
必修科目の単位数合計		28 単位									
3領域	5区分	種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
				必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
本学で定める外国語履修要件	共通教育科目	英語Ⅰ	1			○				※3	
		英語Ⅱ	1			○					
		ドイツ語Ⅰ	2	1	○					※2	
		ドイツ語Ⅱ		1	○						
		フランス語Ⅰ		1	○						
		フランス語Ⅱ		1	○						
		中国語Ⅰ		1	○						
		中国語Ⅱ		1	○						
		コリア語Ⅰ		1		○					
		コリア語Ⅱ		1		○					
		英語Ⅲ	2	1		○				※2	
		英語Ⅳ		1		○					
		ドイツ語Ⅲ		1		○					
		ドイツ語Ⅳ		1		○					
		フランス語Ⅲ		1		○					
		フランス語Ⅳ		1		○					
		中国語Ⅲ		1		○					
		中国語Ⅳ		1		○					
		上級英語Ⅰ		1		○					
		上級英語Ⅱ		1		○					
プログラム修了に必要な外国語の単位				小計 6 単位							
プログラム修了に必要な最低修得単位数				合計 32 単位							

※1 「日本語教育実習指導及び実習」A・Bは、グレード制とする。

※2 「英語・ドイツ語・フランス語・中国語のいずれか同一言語でⅢ・Ⅳ」もしくは「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を修得すること。

※3 国際コミュニケーション学科については共通教育科目「英語Ⅰ・Ⅱ」の2科目2単位に代わり、専門教育科目「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」の2科目4単位を必修とする。

博物館学芸員 (文学部 日本学科・社会学部 社会学科)

●学芸員とは

文学部日本学科および社会学部社会学科では、博物館法に定める博物館学芸員資格の資格要件科目を履修し、その単位を取得することで学芸員の資格を得ることができます。

学芸員資格を持つ者は、博物館などに採用されて専門職員として資料の収集・保管・展示および調査研究などを行う学芸員としての職務に従事することができます。

なお、下記の資格要件科目中の「博物館実習」に参加するためには、同表の資格要件科目に加え、博物館実習に参加するまでに、日本学科の歴史・文化・観光学領域および社会学科のメディア・カルチャー領域の科目の中から8科目、合計16単位以上を履修していることが望ましいとしています。

また、「博物館実習」の履修については、時間割に定める授業日以外、さらには授業期間外に、学外での実習を行うことがあります。原則として、それらに欠席することは認められませんので、実施日程などに注意してください。

さらに、「博物館実習」の履修に関しては、以下の条件があります。

履修科目	履修条件
「博物館実習 A」	「博物館概論」・「博物館資料論」・「博物館展示論」の3科目を履修し、その単位を修得していること。
「博物館実習 B」	「博物館実習 A」を履修し、その単位を修得していること。
「博物館実習 C」	「博物館実習 A」および「博物館実習 B」を履修し、その単位を修得していること。

「博物館実習 B」の定員は30名とするため、当該科目に関しては履修登録者数を制限する場合があります。制限人数を超えた場合は、「博物館資料論」「博物館展示論」「博物館教育論」の成績とGPAの点数の上位30位に履修許可を出すものとする。

なお、「博物館実習」で実施される施設見学に伴う交通費、入館料などの実費は受講者負担とし、さらに館園実習先で必要とされる実習費に関してもこれを受講者が負担するものとします。

●資格要件科目一覧

【日本学科、社会学科】

種 別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備 考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
日本学科 社会学科 専門教育科目	生涯学習概論	2			○				定員 30名とする
	博物館概論	2			○				
	博物館経営論	2					○		
	博物館資料論	2				○			
	博物館資料保存論	2					○		
	博物館展示論	2				○			
	博物館教育論	2				○			
	博物館情報・メディア論	2					○		
	博物館実習 A	1					○		
	博物館実習 B	1						○	
	博物館実習 C	1						○	
資格取得に必要な修得単位数		合計 19 単位							

児童指導員任用資格

(文学部・社会学部・教育学部)

●児童指導員任用資格とは

児童養護施設や障害児施設などの児童福祉施設に配置されている「児童指導員」として採用する際に、基準として厚生労働省が定めた資格です。

この任用資格をもって、児童福祉施設に採用され児童指導に携わる職に配属されることで、「児童指導員」となることができます。

児童指導員の仕事は、児童福祉施設において、0歳～18歳までの児童の成長を援助するとともに、基本的な生活習慣や学習の指導、生活上のアドバイスなどを行います。児童福祉施設では直接子どもたちを援助する仕事に携わる職種の場合、この児童指導員任用資格か保育士資格のいずれかが必須となっているところがほとんどです。

この資格は、本学社会学部社会学科・人間福祉学科および教育学部教育学部を卒業すれば、取得できます。また、文学部日本学科・国際コミュニケーション学科は、教育職員免許状を取得して卒業することで、取得できます。

社会調査士 (社会学部 社会学科)

●社会調査士とは

「社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」です。(一社)社会調査協会が設定を行います。

調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、またその問題点を指摘することができます。

●資格要件科目一覧

【文学部・社会学部 社会学科】

種別	本学設置 授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
社会学科 専門教育科目	社会調査法	2			○				原則として2年次配当の 4科目修得者のみ履修可 社会統計学、質的調査法の いずれか1科目を修得する こと
	標本調査法	2				○			
	基礎統計学	2				○			
	資料・データ分析	2				○			
	社会調査実習A	1					○		
	社会調査実習B	1					○		
	社会統計学		2	2			○		
	質的調査法				2			○	
資格取得に必要な最低修得単位数		合計 12 単位							

認定心理士 (社会学部 社会学科)

●認定心理士とは

認定心理士とは、「大学で心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と(公社)日本心理学会が認定した人のことで、心理学を専攻した事が証明できます。正式名称は「日本心理学会認定心理士」です。

認定心理士という資格は認定資格であって免許ではないので、取得することによって特定の職業に就くことができるものではありません。しかし、心理学の基礎的知識と技術があると証明できることにより、認定心理士資格を活かした仕事に就ける可能性はあります。

本学においては、社会学部社会学科に在籍し、指定された科目を履修・単位取得した後、(公社)日本心理学会に申請を行い、学会の審査結果によりこの資格を取得することができます。なお、別途審査料・認定料が必要となります。※詳細は、社会学科によるオリエンテーション時および取得希望者ガイダンスで説明します。

●資格要件科目一覧

【社会学科】

領域	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
a	入門心理学	2			○				「心理学実験法」修得者のみ履修可 「心理測定法概論」「心理学基礎実験Ⅰ」修得者のみ履修可 d～h 領域のうち最低3領域から各4単位以上計16単位以上必要 「カウンセリング理論」修得者のみ履修可 「心理学基礎実験Ⅱ」修得者のみ履修可
	心理学概論	2			○				
b	心理学実験法	2			○				
	心理測定法概論	2				○			
c	心理学基礎実験Ⅰ	2				○			
	心理学基礎実験Ⅱ	2				○			
d	認知心理学			2		○			
	学習心理学			2			○		
f	教育心理学(※)			2	○				
	発達心理学			2		○			
	幼児児童心理学			2			○		
	人格心理学			2		○			
g	臨床心理学			2		○			
	カウンセリング理論			2		○			
	カウンセリング方法論			2			○		
	心理検査法演習			2			○		
	職場メンタルヘルス			2			○		
	犯罪心理学			2		○			
h	社会心理学			2		○			
	産業組織心理学			2			○		
	コミュニティ心理学			2			○		
i	対人関係の心理学			2			○		
	犯罪捜査の心理学			2			○		
	演習Ⅰ(心理系)			2			○		
	演習Ⅱ(心理系)			2			○		
	演習Ⅲ(心理系)			2				○	
	演習Ⅳ(心理系)			2				○	
	卒業研究(心理系)			4				○	
資格修得に必要な最低修得単位数		合計 36 単位							

※教育心理学は教職に関する科目、その他科目は全て社会学科専門教育科目

身体障害者福祉司任用資格

(社会学部 人間福祉学科)

●身体障害者福祉司任用資格とは

身体障害者福祉司とは、都道府県の身体障害者更生施設や相談所および市町村の福祉事務所に置かれ、身体障害者の相談援助や更生援助事務などの仕事をする専門職員のことです。具体的な仕事としては、身体障害者の福祉に関して福祉事務所員等に技術指導を行い、身体障害者の相談・調査・更生援護の要否や種類の判断、本人への指導等の業務です。

身体障害者福祉司になるためには、身体障害者福祉司任用資格が必要となります。この資格は、社会福祉士資格を取得することで得ることができます。または、社会福祉主事任用資格を取得し、社会福祉主事として身体障害者の更生援護その他その福祉に関する事業に2年以上従事した後にも資格が得られます。

この任用資格をもって、公務員試験に合格し、身体障害者更生施設や相談所・福祉事務所などに配属されることで「身体障害者福祉司」となることができます。

知的障害者福祉司任用資格

(社会学部 人間福祉学科)

●知的障害者福祉司任用資格とは

知的障害者福祉司とは、知的障害者更生相談所、福祉事務所などに置かれ、知的障害者の相談援助や知的障害者の福祉に関する事務などの仕事をする専門職員のことです。具体的な仕事としては、知的障害者に関する相談・指導のうち専門的な知識や技術を必要とするものを行ったり、福祉事務所員等に技術指導を行います。

知的障害者福祉司になるためには、知的障害者福祉司任用資格が必要となります。この資格は、社会福祉士資格を取得することで得ることができます。または、社会福祉主事任用資格を取得し、社会福祉主事として知的障害者の福祉に関する事業に2年以上従事した後にも資格が得られます。

この任用資格をもって、公務員試験に合格し、知的障害者更生相談所や福祉事務所などに配属されることで「知的障害者福祉司」となることができます。

公認初級パラスポーツ指導員

(社会学部 人間福祉学科)

●公認初級パラスポーツ指導員とは

公認初級パラスポーツ指導員とは、障がいのある人が積極的にスポーツを楽しんだり、体を鍛えたり、より充実した生活を送れるようにサポートするために、障がいに応じた適切な指導を行う専門家です。

公認初級パラスポーツ指導員の役割は、3つあげられます。

1. 初めてスポーツに参加する障がい者にスポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する。
2. 障がいの基本内容を理解し、健康や安全管理を重視した指導をする。
3. 地域の障がい者スポーツの振興を支える。

本学においては、人間福祉学科に在籍し、指定された科目を履修した後、(公財)日本パラスポーツ協会に申請(申請費含む)を行うことによりこの資格を取得することができます(卒業後は申請できません)。なお、資格の有効期限は毎年4月1日から翌年の3月31日までの1年間となり、資格の更新を希望する場合、年間登録料が必要となります。

●資格要件科目一覧

【人間福祉学科】

種別	本学設置授業科目名	単位/履修区分			配当年次				備考
		必修	選択必修	選択	1年	2年	3年	4年	
人間福祉学科 専門教育科目	障害者スポーツ研究	2			○				
	障害者支援と福祉	2				○			
	スポーツマネジメント	2				○			
資格取得に必要な最低修得単位数		合計6単位							

児童福祉司任用資格

(社会学部 人間福祉学科)

●児童福祉司任用資格とは

児童福祉司とは、都道府県等に設置されている児童相談所に置かれる職員のことです。具体的な仕事としては、児童の保護や福祉に関する事項についての相談に応じ、必要な調査などを行い、専門的技術に基づいて児童・保護者等の援助・指導を行います。

児童福祉司になるためには、児童福祉司任用資格が必要となります。この資格は、社会福祉士資格を取得することで得ることができます。または、社会福祉主事任用資格を取得し、社会福祉主事として2年以上児童福祉事業に従事した後にも資格が得られます。

この任用資格をもって、公務員試験に合格し、児童相談所に配属されることで「児童福祉司」となることができます。

看護師国家試験受験資格 (看護学部 看護学科)

●看護師免許について

看護師の免許は、保健師助産師看護師法第 18 条に基づいて行われる看護師国家試験に合格したものに対して、申請により厚生労働大臣より交付されます。

●看護師国家試験受験資格

看護師国家試験受験資格は、学科で定める卒業要件に必要な科目を修得することで取得できます。

●看護師国家試験受験資格取得に必要な科目一覧

基礎教育科目	6 単位 (卒業に必要な最低修得単位数と同じ)
共通教育科目	18 単位 (卒業に必要な最低修得単位数と同じ)
専門教育科目	102 単位 (卒業に必要な最低修得単位数と同じ)
合計	126 単位 (卒業に必要な最低修得単位数と同じ)

保健師国家試験受験資格

(看護学部 看護学科)

●保健師免許について

保健師の免許は、保健師助産師看護師法第 18 条に基づいて行われる看護師国家試験に合格し、さらに保健師国家試験に合格したものに対して、申請により厚生労働大臣より交付されます。

●保健師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格は、学科で定める卒業要件に必要な科目を修得し、さらに「保健師コース」の科目を全て修得することで取得できます。

- 保健師国家試験受験資格を希望する学生は、2 年次夏学期開始前のオリエンテーションに参加してください。学内選抜試験、履修方法等の詳細を案内します。

●保健師国家試験受験資格 取得要件科目一覧

卒業要件に加えて、下表の 11 科目 24 単位を含んで 144 単位以上を修得する必要があります。

区 分	授業科目	配当年次	単位数	
			必修	選択
看護学部 専門教育科目	疫学	3～4	2	
	保健統計学	3～4	2	
	保健行政論	1～2	2	
	産業保健論	3～4	2	
	学校保健論	3～4	2	
	地域生活支援論Ⅱ	5～6	2	
	地域生活支援技術論	5～6	2	
	地域生活支援技術演習Ⅰ	5～6	1	
	地域生活支援技術演習Ⅱ	7～8	2	
	健康教育論	3～4	2	
	地域生活支援実習	7～8	5	

※保健師免許を取得したうえで、「日本国憲法」「スポーツⅠ・Ⅱ」「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」を修得している者は、申請により養護教諭二種免許状を取得できる。

※保健師免許を取得した者は、労働基準監督署もしくは都道府県労働局で申請を行なうことで、第一種衛生管理者の国家資格を取得できる。

助産師国家試験受験資格

(看護学部 看護学科)

●助産師免許について

助産師の免許は、保健師助産師看護師法第 18 条に基づいて行われる看護師国家試験に合格し、さらに助産師国家試験に合格したものに対して、申請により厚生労働大臣より交付されます。助産師免許は、保健師助産師看護師法第 3 条により、女子のみ取得できます。

●助産師国家試験受験資格

助産師国家試験受験資格は、学科で定める卒業要件に必要な科目を修得し、さらに「助産師コース」の科目を全て修得することで取得できます。

- 助産師国家試験受験資格を希望する学生は、3 年次夏学期開始前のオリエンテーションに参加してください。学内選抜試験、履修方法等の詳細を案内します。

●助産師国家試験受験資格 取得要件科目一覧

卒業要件に加えて、下表の 10 科目 27 単位を含んで 153 単位以上を修得する必要があります。

区 分	授業科目	配当 年次	単位数	
			必修	選択
看護学部 専門教育科目	助産学概論	5～6	2	
	周産期医学	5～6	2	
	助産診断・技術学Ⅰ	5～6	3	
	助産診断・技術学Ⅱ	7～8	2	
	助産診断・技術学Ⅲ	7～8	3	
	助産技術学演習Ⅰ	5～6	1	
	助産技術学演習Ⅱ	7～8	1	
	地域母子保健	7～8	1	
	助産管理論	7～8	1	
	助産実習	7～8	11	

地域共創プログラム

(文学部・社会学部・経営学部)

●地域共創プログラムとは

近年「地域共創」が求められています。「共創」とは、多様性をもとに共に新たな価値を創造することで、いわば「和」の実践です。

地域共創プログラムは、社会・文化・産業・観光など地域の活性化につながる多様な科目を、学部学科の専門の枠を超えて一つにまとめ、地域の多面的な課題解決のために新たな学びの形を提供するものです。所定の要件を満たして合計 24 単位以上を取得すれば、地域共創に関する一定の知識と経験を修めたものとして、審議の上、本学独自の「地域共創プログラム修了証明書」あるいは「地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書」を発行します。さらに在学中に「旅行業務取扱管理者」の（国内）か（総合）のいずれかの資格を取得した場合は、上記のプログラム修了証明書に加えて「観光学エキスパート」の称号を授与します。

地域の活性化に関心のある学生は、学修の手引きとして、進路を考える手立てとして、科目一覧にもとづいて学修計画を立て、このプログラムの取り組みを将来の就業に役立ててください。

●資格要件科目一覧

	種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考
			必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年	
地域共創科目群	共通教育科目	◎地域活性化概論	2			○				経営学科の学生は経営学科専門教育科目「地域活性化総論」を履修すること ※経営学科の学生は経営学科専門教育科目「地域活性化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修すること
		地域活性化演習Ⅰ 〈キャリア・プロジェクト研究〉		2	2	○				
		地域活性化演習Ⅱ 〈キャリア・プロジェクト研究〉			2	○				
		地域歴史文化演習 〈キャリア・プロジェクト研究〉			2	○				
		地域活性化演習Ⅲ 〈キャリア・プロジェクト研究〉			2		○			
	経営学科 専門教育科目	マーケティング			2	○				
		マーケティングリサーチ			2	○				
		マーケティングマネジメント論			2	○				
		地域活性化総論			2	○				
		SDGs 概論			2		○			
		起業研究			2		○			
		中小企業経営論			2			○		
	日本学科 専門教育科目	地域文化発信演習			2			○		
		日本学インターンシップ演習			2		○			
		郷土と食の実践			2		○			
		郷土と食発信演習			2			○		
	国際コミュニケーション学科 専門教育科目	国際ビジネス論			2		○			
		グローバルビジネス研究 〈国際キャリア演習〉			2			○		
	社会学科 専門教育科目	まちづくり論			2		○			
		環境問題論			2		○			
		国際経済論			2		○			
		フィールドワーク入門			2	○				
		フィールドワーク演習			2		○			
	人間福祉学科 専門教育科目	ボランティア論			2	○				
		児童・家庭支援と福祉			2		○			
		ターミナルケア論			2			○		
		「いのち」の権利論（生命倫理と遺産）			2			○		
		高齢者支援と福祉			2		○			
社会と人間				2	○					
観光フィールド科目群	日本学科・国際コミュニケーション学科 学科共通科目	地域観光演習Ⅰ			2			○	※地域共創プログラム（観光フィールド）修了には必修	
		地域観光演習Ⅱ			2			○		
	日本学科 専門教育科目	観光学概論	2 （※2）			○				
		観光研究基礎			2		○			
		観光社会学			2		○			
		観光文化地理			2		○			
		旅行産業論			2		○			
		ツーリズム論			2		○			
		講読Ⅶ（日本の観光）			2		○			
		国内旅行実務Ⅰ			2			○		

	種別	本学設置授業科目名	単位 / 履修区分			配当年次				備考	
			必修	選択 必修	選択	1年	2年	3年	4年		
地域共創科目群	日本学科 専門教育科目	国内旅行実務Ⅱ			2			○			
		近畿の古刹と文化財 〈日本学特殊講義〉			2			○			
		日本の世界遺産 〈日本学特殊講義〉			2			○			
		観光産業ケーススタディ			2				○		
	経営学科 専門教育科目	観光ビジネス論			2			○			
		旅行ビジネス論			2				○		
	観光フィールド科目群	国際コミュニケーション学科 専門教育科目	ホスピタリティ概論			2	○				
			ホスピタリティツーリズム論			2		○			
			英米文化論			2			○		
			米国史			2			○		
			現代中国事情 〈国際キャリア演習〉			2			○		
			国際コミュニケーション論			2			○		
	社会学科 専門教育科目	コンテンツ産業論			2			○			
		人文地理学			2			○			
		地域史研究			2			○			
		日本史概説Ⅰ			2	○					
		日本史概説Ⅱ			2	○					
	地域共創プログラム修了に必要な最低修得単位数			合計 24 単位							
	地域共創プログラム（観光フィールド）修了に必要な最低修得単位数			合計 24 単位			（観光フィールド科目 18 単位を含むこと）				

- ※ 1 「地域活性化概論」（必修 2 単位）「地域歴史文化演習・地域活性化演習Ⅰ～Ⅲ」（選択必修 2 単位）および選択科目 20 単位、合計 24 単位以上の修得により、卒業時に「四天王寺大学 地域共創プログラム修了証明書」を発行する。
- ※ 2 上記の要件「選択科目 20 単位」のうち、「観光フィールド科目群」から 18 単位（必ず「観光学概論」を含むこと）を修得した場合、「四天王寺大学 地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書」を発行する。
- ※ 3 「四天王寺大学 地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書」取得条件を満たし、かつ在学中に旅行業務取扱管理者資格（国内あるいは総合）を取得した者には、修了証明書とともに「**観光学エキスパート**」の称号を授与する。
- ※ 4 各学部学科専門科目の時間割は所属学生を第一に編成され、他学部他学科の学生の履修を保証するものではないため、所属学部学科の科目を中心に柔軟な履修計画を立てること。
- ※ 5 「地域共創科目群」には「他学部・他学科履修不可」科目を含む場合がある。『履修要覧』の各学部学科専門科目編成表を確認すること。
- ※ 6 上記の修了証明書・称号を取得するには、指定の申請期間において教務課で手続きすること。

諸規程

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程	266
四天王寺大学学位規程	279
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 GPA 制度に関する規程	280
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部留学に関する規程	281
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外語学研修に関する規程	283
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外実地研修に関する規程	284
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部国内インターンシップによる単位認定に関する規程	285
知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程	286
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程	288
四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部間での相互単位互換についての規程	290
四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成課程履修細則	291
四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成課程履修細則別表	292
社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則	293
社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則別表	294
精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則	295
精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則別表	297
四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部他の大学・短期大学との単位互換に関する規程	297
四天王寺大学日本語教員養成プログラムに関する細則	298
四天王寺大学地域共創プログラムに関する細則	299

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得及び試験に関する規程

第1条 四天王寺大学学則（以下「学則」という。）第19条・第20条、四天王寺大学短期大学部学則（以下「短期大学部学則」という。）第19条・第20条に定める授業科目（以下「科目」という。）の履修及び試験についてこの規程において定める。

2 本規程でいう修得単位数とは、卒業要件にかかる単位数をいう。

（履修科目の登録について）

第2条 学生は単位を修得しようとする科目について、各学期始めの定められた期間内に履修登録（以下「登録」という。）を行わなければならない。ただし、単位認定について別に定めるとした科目についてはこの限りではない。

2 履修登録単位数の上限については、「大学設置基準第27条の2」及び「短期大学設置基準第13条の2」に基づき学生の適切な学修量を確保するため、各年次に履修科目として登録できる単位数の上限について定める。

(1) 大学

- ① 学生の履修登録単位数の上限の対象となる授業科目は卒業の要件として履修する授業科目とする。
- ② 学生の授業科目の履修登録単位数は、1学期に24単位を上限とする。
- ③ 履修登録単位数の上限を超えて履修できる科目は、以下の科目とする。
 - ・文学部、社会学部及び看護学部の「教職に関する科目」
 - ・司書教諭の講習に関する科目
 - ・集中講義科目
 - ・卒業研究
 - ・教育学部の教育実習・教育実習指導科目、保育実習・保育実習指導科目、「臨床看護学演習」、インターンシップ科目
 - ・社会学部人間福祉学科の「ソーシャルワーク実習指導A」「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク実習指導C」「ソーシャルワーク実習A」「ソーシャルワーク実習B」「MSW インターンシップ」
- ④ 累積GPAが3.5以上ある場合、次学期に履修登録単位数の上限を超えて28単位まで履修登録することができる。
- ⑤ 社会学部人間福祉学科及び教育学部の学生のうち、教員免許状・国家試験受験資格の取得を希望する者は、「免許・資格科目履修申請願」を提出することにより、単位数の上限（24単位）を超えて履修することができる。
- ⑥ 下記認定科目については、履修登録単位数の上限を超えて単位が認定される。
 - ・「外国の高等教育機関における授業科目」の認定科目
 - ・「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」の認定科目
 - ・「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した科目
 - ・「本学入学前の既修得単位」の認定科目
 - ・「他の大学又は短期大学等の授業科目」の認定科目
 - ・「国内実地研修Ⅰ・Ⅱ」
 - ・留学・海外研修・海外実地研修に関する科目

- ⑦ 履修登録単位数の上限は、編入・転入学生及び転学部転学科等の学生、9 セメスター生以上には適用しない。
- ⑧ 複数学期にわたり開講する科目は学期数で除して換算する。

(2) 短期大学部

- ① 学生の履修登録単位数の上限の対象となる授業科目は卒業の要件として履修する授業科目とする。
- ② 学生の授業科目の履修登録単位数は、1 学期に 30 単位を上限とする。
- ③ 履修登録単位数の上限を超えて履修することができる科目は、以下の科目とする。
 - ・集中講義科目
 - ・卒業年次生の再履修科目
 - ・保育科の教育実習・教育実習指導科目、保育実習・保育実習指導科目
- ④ 累積 GPA が 3.5 以上ある場合、次学期は履修登録単位数の上限を超えて 32 単位まで履修登録することができる。
- ⑤ 下記認定科目については、履修登録単位数の上限を超えて単位が認定される。
 - ・「外国の高等教育機関における授業科目」の認定科目
 - ・「知識・技能研究Ⅰ・Ⅱ」の認定科目
 - ・「大学コンソーシアム大阪」単位互換事業により単位を修得した科目
 - ・「本学入学前の既修得単位」の認定科目
 - ・「他の短期大学又は大学等の授業科目」の認定科目
 - ・「国内実地研修Ⅰ・Ⅱ」
 - ・海外研修・海外実地研修に関する科目
- ⑥ 履修登録単位数の上限は、5 セメスター生以上には適用しない。

3 適用年度が異なる教育課程において、セメスターが下級の学生を対象とした科目の履修を認める必要があると判断される場合、教務委員会の議を経て、履修を認めることがある。

4 前項により履修を許可された者が当該科目を修得した場合、学則第 13 条第 1 項に基づき、卒業に要する単位として算入されない。

第 3 条 登録を行う場合には、担任教員に将来の学修上の希望を述べて、その指導を受けることができる。

第 4 条 学生がその科目を登録しているにもかかわらず、しかるべき理由なくして欠席を重ねる場合には、その科目の登録を放棄したものと認めることがある。

第 5 条 学生は、登録していない科目であっても、その科目担当者の許可を得て、これを臨時に聴講することができる。ただし、この場合、単位等は認定されない。

(他学部他学科履修について)

第 6 条 大学の学生は、当該所属学部・学科・専攻以外、又は短期大学部において開講されている専門教育科目のうち、本学が認めたものについては、当該科目担当者の許可を得たうえで登録し、これを履修することができる。単位を修得した場合、当該所属の専門教育科目を修得したものとみなし、30 単位を上限として算入する。なお、本学が認める専門教育科目については、別に定める。

2 短期大学部の学生は、大学において開講されている専門教育科目のうち、本学が認めたものについては、当該科目担当者の許可を得たうえで登録し、これを履修することができる。単位を修得した場合、当該所属の専門教育科目を修得したものとみなし、12 単位を上限として算入する。なお、本学が認める専門教育科目については、別に定める。

3 第 1 項又は第 2 項により単位を修得した場合、編入学、転入学等の場合を除き、本規程第 34 条

第 2 項、第 3 項及び四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部留学に関する規程第 9 条の個別認定と合わせて、大学では 30 単位及び短期大学部では 15 単位を超えないものとする。

(試験について)

第 7 条 学生は、定められた期間内において登録した科目について、試験を受けることができる。

第 8 条 前条に定める試験の種別は、平常試験及び定期試験とする。

第 9 条 平常試験については、各科目担当者が随時これを行うことができる。

第 10 条 定期試験は、各学期末の定められた試験期間内の試験時間割によって、これを行うものとする。ただし、各科目担当者がその必要を認めないとき、定期試験を行わない場合もある。

- 2 前項に定める定期試験を行う科目及びその時間割は、試験期間開始日より 2 週間前にこれを掲示する。

(成績評価について)

第 11 条 各科目の成績は、試験成績又は平常の学修状況、学修報告、レポートや製作等、あるいはこの双方によって評価するものとする。

第 12 条 各科目の成績の評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格として、その科目の単位を認定するものとする。

- 2 前項で定める成績の評価について、合格の評価は秀・優・良・可（100 点満点のうち 90 点以上を秀、80 点以上 90 点未満を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可）の 4 段階をもってこれを表示する。60 点未満又は登録したものの評価のないものは不合格とする。
- 3 学則及び短期大学部学則第 21 条乃至第 23 条に定める単位を認定する場合、学則及び短期大学部学則第 20 条、前項の規定にかかわらず、各科目の成績の評価は「認」と表記する。
- 4 本条第 1 項乃至第 3 項の評価については、これを学生に通知する。
- 5 成績の評価基準については、次の基準に基づくものとする。

評価	基準
秀	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている（90 点以上）
優	目標を十分に達成している（80 点以上 90 点未満）
良	目標を達成している（70 点以上 80 点未満）
可	目標を最低限度達成している（60 点以上 70 点未満）
不合格	目標を達成していないので再履修が必要である（60 点未満）

第 13 条 次の各号のひとつに該当する者は、試験を受験しても単位は認定されない。

- (1) 各科目について、定められた期日内に登録を行っていない者
- (2) 各科目について、その出席時数が当該科目の全授業時数の 3 分の 2 に満たない者
- (3) 授業料その他の本学への納付金を未納の者
- (4) 当該学期を休学した者
- (5) 当該学期途中で退学した者

- 2 前項 2 号の規定にかかわらず、出席時数に代替する措置を講じた場合はこの限りではない。

(追試験)

第 14 条 病気又は不時の災害その他真にやむを得ない事由によって定められた期日に試験を受けることができない者、若しくはできなかった者は追試験を願い出ることができる。

- 2 追試験を願い出る者は当該科目の試験終了後 1 週間以内に、その事由を証明する書類を添付した追試験申込書を教務部長に提出しなければならない。なお、許可する事由の詳細については、別に

定める。

第15条 追試験は、追試験申込書が受理された後、科目担当者の定める期日、方法によってこれを行う。ただし、追試験実施の期日は追試験申込書の受理後5週間以内とする。追試験を筆記試験で行う場合は、別に定める時間割によってこれを行う。

第16条 前条に定める追試験を特に認められる事由により、定められた期日に受験することができない者については、学部教授会の議を経て、次の学期をこえない期間内で追試験を行うことがある。

2 前項に定める追試験を受けようとする者は、その理由を証明する書類を添付した追試験申込書を教務部長に提出しなければならない。

第17条 追試験による科目の成績評価は、第12条第1項及び第2項の定めるところによる。

2 追試験による不合格科目については、再試験は行わない。

(再試験)

第18条 文学部、社会学部、教育学部及び経営学部の学生で7セメスター以降に在学する学生は、当該学期に登録し、不合格となった科目については、各科目担当者の承認を得て、当該学期の再試験期間内に再試験を受けることができる。

2 前項に定める再試験を受けることができる科目は、1学期につき3科目までとする。

3 看護学部看護学科に在学する学生は、当該学期に登録し、不合格となった科目については、各科目担当者の承認を得て、当該学期の再試験期間内に再試験を受けることができる。

4 前項に定める再試験を受けることができる科目については、別に定め、受験科目数の上限は設けない。

5 本条第1項及び第3項に定める再試験を受けようとする者は、教務部長に再試験申込書を提出しなければならない。

6 再試験手数料は1科目1,000円とする。

第19条 短期大学の学生は、当該学期に登録し、不合格となった科目については、各科目担当者の承認を得て、その学期の再試験期間内に再試験を受けることができる。

2 前項に定める再試験を受けることができる科目は、1学期につき5科目までとする。

3 第1項に定める再試験を受けようとする者は、教務部長に再試験申込書を提出しなければならない。

4 再試験手数料は1科目1,000円とする。

第20条 短期大学の学生は、当該学期以前に履修した科目のうち、その科目に登録した学期において行われた試験を受験し不合格となり、やむを得ない事由により再履修ができなかった科目については、その科目が当該学期に開講されている場合、当該学期の履修登録期間内にその科目の再試験願を教務部長に提出することができる。

2 再試験願が受理された者は、当該学期の再試験期間内に、その科目の試験を受けることができる。

3 再試験による科目の成績評価は、第12条第1項及び第2項の定めるところによるが、その上限は60点とする。

第21条 再試験は試験成績発表後、3週間以内に各科目担当者の定める期日、方法によってこれを行う。ただし、再試験を筆記試験で行う場合は、別に定める時間割によってこれを行う。

第22条 再試験による科目の成績評価は、第12条第1項及び第2項の定めるところによるが、その上限は60点とする。

第23条 再試験を受けるもなお卒業に要する単位に満たない者は、学部教授会及び教育研究評議会の議を経て次年度相当学期の期間在学し、卒業に要する単位を取得した学期末に卒業することができる。

(不正行為について)

第24条 試験期間内又は試験期間外に行われた試験において不正行為のあった者は、その不正行為が発覚した当該科目の成績を零点とする。

- 2 前項で定める試験において、同一学期内に不正行為を2度以上為した者は、当該学期の試験の成績をすべて零点とする。

(教育学部の教育職員免許状)

第25条 建学の精神である利他の心を主体的に実践できる高潔な人格と、豊かな専門知識及び実践力、指導力をもつ優れた教員を養成することを目的とし、「学校教育コース」及び「幼児教育保育コース」を設け、以下の教育職員免許状が取得できる教職課程を定める。

- (1) 学校教育コース
 - 小学校教諭 1種
 - 幼稚園教諭 1種
 - 中学校教諭 1種 (英語)
 - 高等学校教諭 1種 (英語)
 - 中学校教諭 1種 (数学)
 - 高等学校教諭 1種 (数学)
 - 中学校教諭 1種 (理科)
 - 高等学校教諭 1種 (理科)
 - 養護教諭 1種
 - 特別支援学校教諭 1種 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者)
 - (2) 幼児教育保育コース
 - 幼稚園教諭 1種
 - 小学校教諭 1種
- 2 前項で定めた教育職員免許状のうち、取得できる免許状は以下の通りとする。
- (1) 学校教育コース

教育職員免許状の取得を希望する者は、小学校教諭 1種免許状が取得できる。これに加えて、幼稚園教諭 1種、中学校教諭 1種・高等学校教諭 1種 (英語) (数学) (理科)、養護教諭 1種、特別支援学校教諭 1種 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者) の免許状のうちいずれか 1つを取得できる。ただし、複数の免許状については、4年間の在学中に取得できるとは限らない。

特別支援学校教諭 1種 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者) の取得を希望する者は、これに加えて小学校教諭 1種、中学校教諭 1種 (英語) (数学) (理科)、高等学校教諭 1種 (英語) (数学) (理科) の中からいずれか 1つの免許状を取得しなければならない。
 - (2) 幼児教育保育コース

教育職員免許状の取得を希望する者は、幼稚園教諭 1種免許状を必ず取得すること。その上で、小学校教諭 1種免許状を取得できる。ただし、小学校教諭 1種免許状については4年間の在学中に取得できるとは限らない。
- 3 取得を希望する免許状の組合せによっては、願い書を教育学部長に提出しなければならない。願い書に基づき審査委員会を開催して検討し、許可された場合、希望する教育職員免許状が取得できる。ただし、4年間の在学中に取得できるとは限らない。
- 4 審査委員会の委員長を教育学部長とし、他の委員を次のように構成する。
- (1) 教職教育推進センター長

- (2) 教育学科長
- (3) コース主任
- (4) 当該学生のクラス担任
- (5) その他委員長が必要と認めた者

(文学部及び社会学部の「教育実習」等への参加要件について)

第26条 文学部及び社会学部で中学校教諭免許状の取得を希望する者は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）」による「介護等の体験」（以下「介護等の体験」という。）を修了しなければならない。「介護等の体験」に参加する前年度の夏学期終了時に次の要件を充たせば在学5セメスター以降、これに参加することができる。

- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2科目2単位を含んで46単位以上であること。
 - (2) 教職に関する科目「教職論」「教育原論」「教育心理学」のうち、2科目4単位以上を修得していること。
 - (3) 本学の定める「介護等の体験」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- 2 中学校教諭免許状又は高等学校教諭免許状の取得を希望する者の「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」については、参加する前年度までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学6セメスター以降、参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2科目2単位を含んで62単位以上であること。
 - (2) 教職に関する科目「教職論」「教育原論」「教育心理学」「特別支援教育」のうち、3科目6単位以上を修得していること。
 - (3) 「国語」教諭免許状の取得を希望する者は、文学部日本学科専門教育科目「国語教育論A」及び「国語教育論B」、「教科教育法Ⅰ（国語）」を修得していること。
 - (4) 「英語」教諭免許状の取得を希望する者は、「教科教育法Ⅰ（英語）」及び「教科教育法Ⅲ（英語）」を修得していること。
 - (5) 「社会」教諭免許状の取得を希望する者は、「社会科教育研究Ⅰ」及び「社会教科教育法Ⅰ」を修得し、累積GPAが2.5以上であること。
 - (6) 「地理歴史」教諭免許状の取得を希望する者は、「社会科教育研究Ⅰ」及び「社会地理歴史教科教育法」を修得し、累積GPAが2.5以上であること。
 - (7) 社会学部社会学科で「公民」教諭免許状の取得を希望する者は、「社会科教育研究Ⅰ」及び「社会公民教科教育法」を修得し、累積GPAが2.5以上であること。
 - (8) 社会学部人間福祉学科で「公民」教諭免許状の取得を希望する者は、「社会公民教科教育法」を修得し、累積GPAが2.5以上であること。
 - (9) 社会学部人間福祉学科で「福祉」教諭免許状の取得を希望する者は、「教科教育法Ⅰ（福祉）」を修得し、累積GPAが2.5以上であること。
 - (10) 本学の定める「教育実習」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- 3 「教科教育法」のうち次に規定する科目の履修を希望する者は、履修する前セメスターまでに次の要件を充たさなければならない。
- (1) 教職に関する科目「教科教育法Ⅰ（国語）」の履修を希望する者は、文学部日本学科専門教育科目「国語教育論A」及び「国語教育論B」を修得し累積GPAが2.5以上であること。

- (2) 教職に関する科目「教科教育法Ⅰ（英語）」の履修を希望する者は、CASEC600点以上の点数、実用英語技能検定2級以上の等級又はTOEIC550点以上の点数のいずれかを取得していること。
- (3) 教職に関する科目「教科教育法Ⅲ（英語）」の履修を希望する者は、履修する前 Semester までに文学部国際コミュニケーション学科専門教育科目「英語圏文化概説」「異文化理解」「英文法Ⅰ」「英文法Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅢ」「ベーシックコミュニケーションⅣ」「Oral CommunicationⅠ」「英語音声学」「英語文学概説」「英語学概説」のうち、14単位以上を修得していること。また、累積GPAが2.5以上であること。
- (4) 社会学部社会学科で教職に関する科目「社会教科教育法Ⅰ」「社会地理歴史教科教育法」「社会公民教科教育法」の履修を希望する者は、社会学部社会学科専門教育科目「社会科教育研究Ⅰ」を修得していること。また、累積GPAが2.5以上であること。
- (5) 社会学部人間福祉学科で教職に関する科目「社会公民教科教育法」「教科教育法Ⅰ（福祉）」の履修を希望する者は、教職に関する科目「教職論」「教育原論」「教育心理学」「特別支援教育」のうち3科目6単位以上を修得していること。また、累積GPAが2.5以上であること。
- 4 病気その他真にやむを得ない事由によって本条第1項、第2項又は第3項の要件を充たしていないが、実習を希望する者は、その事由を証明する書類等を添付した願い書を教務部長に提出しなければならない。その上で、次の通り定める。
 - (1) 「介護等の体験」については、願い書に基づき教職教育推進センター長と当該学生所属の学科長が協議し、許可された場合、次年度以降に参加できるものとする。
 - (2) 教育実習の参加については、願い書に基づき教職教育推進センター長と当該学生所属の学科長、その科目担当者が協議し、許可された場合、次年度以降に参加できるものとする。
- 5 編入学、転入学、転学部転学科の場合には本条第1項乃至第3項を適用しない。ただし、本条第1項第1号及び第2項第1号は「基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2科目2単位を修得していること。」、第2項第3号乃至第10号を適用する。
- 6 科目等履修生については、本条第2項及び第3項に準じて、学部教授会の議を経て許可する。

(教育学部の「教育実習」等への参加要件について)

- 第27条 教育学部教育学科で小学校教諭免許状又は中学校教諭免許状の取得を希望する者は、「介護等の体験」を修了しなければならない。「介護等の体験」に参加する前年度までに次の要件を充たせば、在学3 Semester 以降、これに参加することができる。
- (1) 「介護等の体験」に参加する前年度の夏学期終了時に、卒業に必要となる修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」の1単位を含んで15単位以上であること。
 - (2) 本学の定める「介護等の体験」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- 2 教育学部教育学科で小学校教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前 Semester までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学5 Semester 以降、教育実習に参加することができる。
- (1) 卒業に必要となる修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2単位を含んで50単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「教職論」「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」のうち、2科目4単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）」「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）」のうち、1科目2単位以上を修得していること。

- (4) 専門教育科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の単位を修得していること。
 - (5) 本学の定める教育実習参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
 - (6) 「介護等の体験」を修了していること。
- 3 学校教育コースで特別支援（知・肢・病）教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前 Semester までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学 5 Semester 以降、教育実習に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の 2 単位及び専門教育科目 50 単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2 科目 4 単位以上を修得していること。
 - (3) 「特別支援教育概論」「知的障害者の心理・生理・病理」「肢体不自由者の心理・生理・病理」「知的障害教育論」の単位を修得していること。
 - (4) 本学の定める教育実習参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- 4 幼児教育保育コース又は学校教育コースで幼稚園教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前 Semester までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学 5 Semester 以降、教育実習に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の 2 単位を含んで 50 単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2 科目 4 単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「幼児教育課程総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「保育内容の理論と方法（人間関係）」「保育内容の理論と方法（環境）」「保育内容の理論と方法（言葉）」のうち、4 科目 8 単位以上を修得していること。
 - (4) 本学の定める教育実習参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- 5 学校教育コースで英語教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前 Semester までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学 5 Semester 以降、教育実習に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の 2 単位を含んで 50 単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2 科目 4 単位以上を修得していること。
 - (3) 「中等英語科教育法Ⅰ」「中等英語科教育法Ⅱ」「英語学概説」「ベーシックコミュニケーションⅠ」「ベーシックコミュニケーションⅡ」の単位を修得していること。
 - (4) 専門教育科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の単位を修得していること。
 - (5) 本学の定める「教育実習」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
 - (6) 「教育実習Ⅰ（英語）」の履修を希望する場合は、「介護等の体験」を修了していること。
- 6 学校教育コースで数学教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前 Semester までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学 5 Semester 以降、「教育実習」に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の 2 単位及び専門教育科目 50 単位以上であること。

- (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2科目4単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「数学的リテラシー」「子どもの発達と算数・数学」「中等数学科教育法Ⅰ」「中等数学科教育法Ⅱ」の単位を修得していること。
 - (4) 専門教育科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の単位を修得していること。
 - (5) 本学の定める教育実習参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
 - (6) 「教育実習Ⅰ（数学）」の履修を希望する場合は、「介護等の体験」を修了していること。
- 7 学校教育コースで理科教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前 Semester までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学5 Semester以降、教育実習に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」の2単位及び専門教育科目50単位以上を含むこと。
 - (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2科目4単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「物理学Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物学Ⅰ」「地学Ⅰ」のうち、1科目2単位以上を修得していること。
 - (4) 専門教育科目「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」のうち、1科目1単位以上を修得していること。
 - (5) 専門教育科目「中等理科教育法Ⅰ」「中等理科教育法Ⅱ」の単位を修得していること。
 - (6) 専門教育科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の単位を修得していること。
 - (7) 本学の定める教育実習参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
 - (8) 「教育実習Ⅰ（理科）」の履修を希望する場合は、「介護等の体験」を修了していること。
- 8 学校教育コースで養護教諭免許状の取得を希望する者は、参加する前年度までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得た上で、在学5 Semester以降、「養護実習」に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2単位を含んで50単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2科目4単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の単位を修得していること。
 - (4) 専門教育科目「養護概説」「学校看護学Ⅰ（基礎）」「学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）」「学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）」「学校救急処置」の単位を修得していること。
 - (5) 本学の定める「教育実習」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- 9 病気その他真にやむを得ない事由によって第1項乃至第8項の要件を充たしていないが、実習を希望する者は、その事由を証明する書類等を添付した願い書を教育学部長に提出しなければならない。その上で、次の通り定める。
- (1) 「介護等の体験」については、願い書に基づき第25条に規定する審査委員会を開催して検討し、許可された場合、次年度以降に参加できるものとする。
 - (2) 教育実習については、願い書に基づき第25条に規定する審査委員会を開催してその科目担当者とともに検討し、許可された場合、次年度以降に参加できるものとする。
- 10 編入学、転入学、転学部転学科の場合には第1項乃至第8項を適用しない。

(教育学部における保育士資格の取得について)

- 第27条の2 教育学部教育学科幼児教育保育コースで保育士養成課程科目の履修を希望する者は、参加する前セメスターまでに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学4セメスター以降、「保育実習指導Ⅰ（保育所）」を履修し「保育実習Ⅰ（保育所）」に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2科目2単位を含んで55単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「教育原論」「保育原理」「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「保育者論」「保育内容総論」「乳児保育Ⅰ」「子どもの保健」のうち7科目14単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「音楽への扉」の単位を修得していること。
- 2 教育学部教育学科幼児教育保育コースで保育士養成課程科目の履修を希望する者は、参加する前セメスターまでに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学4セメスター以降、「保育実習指導Ⅰ（施設）」を履修し「保育実習Ⅰ（施設）」に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2科目2単位を含んで55単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「保育原理」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」の単位を修得していること。
- 3 教育学部教育学科幼児教育保育コースで保育士養成課程科目の履修を希望する者は、参加する前セメスターまでに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学6セメスター以降、「保育実習Ⅱ（保育所）」又は「保育実習Ⅲ（施設）」に参加することができる。
- (1) 卒業に必要な修得単位数が、専門教育科目「音楽実践演習（声楽）」「音楽実践演習（弾き歌い）」の2科目2単位を含んで85単位以上であること。
 - (2) 「保育実習Ⅰ（保育所）」及び「保育実習Ⅰ（施設）」を修了していること。
- 4 病気その他真にやむを得ない事由によって第1項乃至第3項の要件を充たしていないが、保育実習を希望する者は、その事由を証明する書類等を添付した願い書を教育学部長に提出しなければならない。その上で、願い書に基づき第25条に規定する審査委員会を開催してその科目担当者とともに検討し、許可された場合、次年度以降に参加できるものとする。

(看護学部の「看護実習」の参加条件について)

- 第28条 看護学部看護学科で看護師国家試験受験資格の取得を希望する者は、参加するまでに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学3セメスター以降「療養生活支援基礎実習」に参加することができる。
- (1) 専門教育科目の健康科学科目と看護科学科目のうち指定された26科目41単位を修得していること。
- 2 看護学部看護学科で看護師国家試験受験資格の取得を希望する者は、参加する前年度までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学5セメスター以降「療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）」、「療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）」、「療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）」、「母性生活支援実習」、「成育療養生活支援実習」、「在宅療養生活支援実習」、「精神療養生活支援実習」、「看護管理実習」に参加することができる。
- (1) 専門教育科目の健康科学科目と看護科学科目のうち指定された43科目72単位を修得していること。
- 3 看護学部看護学科で看護師国家試験受験資格の取得を希望する者は、参加する前年度までに次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学7セメスター以降「統合実習」に参加す

ることができる。

- (1) 「療養生活支援実習Ⅰ（急性・回復期）」、「療養生活支援実習Ⅱ（慢性期）」、「療養生活支援実習Ⅲ（老化に伴う健康課題）」、「母性生活支援実習」、「成育療養生活支援実習」、「在宅療養生活支援実習」、「精神療養生活支援実習」、「看護管理実習」の8科目16単位を修得していること。

（看護学部における保健師国家試験受験資格の取得について）

第29条 看護学部看護学科で保健師国家試験受験資格の取得を希望する者は、4セメスター終了までに次の要件を充たし、選抜試験に合格しなければならない。選抜試験合格者は年度毎に最大10名とする。なお、選抜試験の受験機会は1人1回のみとする。

- (1) 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の4科目6単位を修得していること。
 - (2) 共通教育科目の教養教育科目が「生物学」1科目2単位を含んで8単位以上であること。
 - (3) 共通教育科目の語学・情報科学科目が「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の5科目6単位を含んで10単位以上であること。
 - (4) 専門教育科目の4セメスターまでに配当された必修科目35科目55単位及び「保健行政論」、「保健統計学」、「疫学」、「学校保健論」、「産業保健論」、「健康教育論」の6科目12単位を修得していること。
- 2 看護学部看護学科で保健師国家試験受験資格の取得を希望する者は、次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学7～8セメスターにおいて「地域生活支援実習」に参加することができる。
- (1) 前項の選抜試験に合格していること。
 - (2) 専門教育科目の6セメスターまでに配当された必修科目51科目88単位及び「地域生活支援技術論」、「地域生活支援論Ⅱ」、「地域生活支援技術演習Ⅰ」、「地域生活支援技術演習Ⅱ」の4科目7単位を修得していること。

（看護学部における助産師国家試験受験資格の取得について）

第30条 看護学部看護学科で助産師国家試験受験資格の取得を希望する者は、5セメスター終了までに次の要件を充たし、選抜試験に合格しなければならない。選抜試験合格者は年度毎に最大5名とする。

- (1) 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の4科目6単位を修得していること。
 - (2) 共通教育科目の教養教育科目が「生物学」1科目2単位を含んで8単位以上であること。
 - (3) 共通教育科目の語学・情報科学科目が「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の5科目6単位を含んで10単位以上であること。
 - (4) 専門教育科目の5セメスターまでに配当された必修科目43科目72単位及び「助産学概論」の1科目2単位を修得していること。
- 2 看護学部看護学科で助産師国家試験受験資格の取得を希望する者は、次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学7セメスター以降「助産実習」に参加することができる。
- (1) 前項の選抜試験に合格していること。
 - (2) 専門教育科目の6セメスターまでに配当された必修科目51科目88単位及び「周産期医学」、「助産診断・技術学Ⅰ」、「助産技術学演習Ⅰ」、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産技術学演習Ⅱ」の6科目12単位を修得していること。

(看護学部における「養護教諭一種」免許状の取得について)

第31条 看護学部看護学科で養護教諭一種免許状の取得を希望する者は、4 セメスター終了までに次の要件を充たし、選抜試験に合格しなければならない。選抜試験合格者数は年度毎に 20 人程度とする。

- (1) 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」、「和の精神Ⅱ」、「仏教概説」、「現代社会と人権」の 4 科目 6 単位を修得していること。
 - (2) 共通教育科目が「生物学」、「日本国憲法」、「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「統計学」、「上級英語Ⅰ」、「上級英語Ⅱ」、「上級英語Ⅲ（医療英語）」、「上級英語Ⅳ（英語論文読解）」の 9 科目 12 単位及び「情報処理演習Ⅰ」又は「情報処理演習Ⅱ」いずれか 1 科目 2 単位を含んで 16 単位以上であること。
 - (3) 専門教育科目で 4 セメスターまでに配当された必修科目 35 科目 55 単位及び「疫学」、「学校保健論」、「養護概説」の 3 科目 6 単位を修得していること。
 - (4) 教職に関する科目「教職論」、「教育原論」、「教育心理学」、「特別支援教育」、「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む中高養）」、「生徒指導論（養）」、「教育相談の理論と方法（中・高・養）」の 7 科目 14 単位を修得していること。
- 2 看護学部看護学科で養護教諭一種免許状の取得を希望する者は、次の要件を充たし、その科目担当者の許可を得たうえで、在学 7 セメスター以降「養護実習」に参加することができる。
- (1) 前項の選抜試験に合格していること。
 - (2) 専門教育科目で 6 セメスターまでに配当された必修科目 51 科目 88 単位及び「健康相談」の 1 科目 2 単位を修得していること。
 - (3) 教職に関する科目「教育制度論」、「教育課程総論（中・高・養）」、「特別活動・総合的な学習時間の理論と方法（中・高・養）」の 3 科目 6 単位を修得していること。
 - (4) 本学の定める「養護実習」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。

(短期大学の「教育実習」等への参加要件について)

第32条 短期大学部保育科で幼稚園教諭免許状取得を希望する者は、次の要件を充たせば、在学 2 セメスター以降、「教育実習Ⅰ（幼稚園）」に参加することができる。

- (1) 基礎教育科目「和の精神Ⅰ」1 科目 1 単位を修得していること。
 - (2) 専門教育科目「教育実習指導Ⅰ（幼稚園）」を履修し、担当教員の許可を得ていること。
 - (3) 専門教育科目「音楽Ⅰ（器楽）」を履修し、担当教員の許可を得ていること。
- 2 短期大学部保育科で幼稚園教諭免許状又は保育士資格の取得を希望する者は、次の要件を充たせば、在学 3 セメスター以降、実習に参加することができる。
- (1) 在学 2 セメスターを終了し、卒業に必要な修得単位数が基礎教育科目「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の 2 科目 2 単位を含んで 35 単位以上であること。
 - (2) 専門教育科目「保育原理」「保育の心理学Ⅰ」「保育者論」のうち、2 科目 4 単位以上を修得していること。
 - (3) 専門教育科目「音楽Ⅰ（器楽）」及び「音楽Ⅱ（器楽）」の 2 科目を履修し、担当教員の許可を得ていること。
 - (4) 各実習に該当する「実習指導」を履修したうえで、その科目担当者の許可及び保育科の承認を得ていること。
- 3 病気その他真にやむを得ない事由によって前項の要件を充たしていないが、実習を希望する者は、その事由を証明する書類等を添付した願い書を教職教育推進センター長に提出しなければならない。その上で願い書に基づき教職教育推進センター長と当該学生所属の学科長、その科目担当で協議

し、許可された場合、「教育実習Ⅰ」については3セメスター以降に、「教育実習Ⅱ」については4セメスター以降に、「保育実習Ⅰ（保育所）」及び「保育実習Ⅰ（施設）」については3セメスター以降に、「保育実習Ⅱ（保育所）」又は「保育実習Ⅲ（施設）」については4セメスター以降に参加できるものとする。

(卒業研究及び課題研究の履修要件について)

第33条 「卒業研究」又は「課題研究」については、次の要件を充たしたうえでこれを履修することができる。

- (1) 「卒業研究」の履修を希望する者は、在学7セメスターを終了し、「和の精神Ⅰ」及び「和の精神Ⅱ」の2科目を含んで、卒業に必要となる修得単位数が90単位以上であること。
- (2) 「課題研究」の履修を希望する者は、在学6セメスターを終了し、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」「和の精神Ⅱ」及び専門教育科目「看護研究法」の3科目を修得したうえで「統合実習」の実習参加要件を充たしていること。

(単位の認定)

第34条 教育上有益と認めるときは、学則第21条乃至第23条、又は短期大学部学則第21条乃至第23条の定めるところにより単位を認定することができる。

- 2 単位認定については、個別認定方式又は一括認定方式をもって行う。
- 3 一括認定方式で認定される単位数は、編入学、転入学、転学部転学科等の場合を除き、大学においては30単位、短期大学部においては15単位を超えないものとする。ただし、ダブルディグリー取得による留学の一括認定は、ダブルディグリー取得に関する規程による。
- 4 入学前に修得した単位の認定については、別に定める。

(認定科目の先決優先)

第35条 前条第2項で個別認定された科目は先決優先とし、上限を超えた場合にその科目を既認定科目と入れ替えることはできない。

附 則

- 1 この改正は、平成5年4月1日より一部改正し施行する。
- 2 省略
- 3 本規程は、平成10年4月1日より一部改正し施行する。なお、平成9年度以前入学生については、なお従前の規程を適用するとともに、平成4年以前入学生についての経過措置もなお従前のものを適用する。
- 4 本規程は、平成13年4月1日より一部改正し施行する。
- 5 本規程は、平成16年4月1日より一部改正し施行する。
ただし、平成15年度以前入学生については、なお従前の規程を適用する。
- 6 本規程は、平成17年4月1日より一部改正し施行する。
- 7 この規程は、平成20年4月1日から一部改正し施行する。ただし、平成19年度以前入学生については、第1条および第12条第1項、第3項および第4項を除いて、なお従前の規程を適用する。
- 8 この規程は、平成22年4月1日から一部改正し施行する。ただし、平成21年度以前入学生については、第6条第2項の規定にかかわらず、なお従前の規定を適用する。
- 9 この規程は、平成23年4月1日から一部改正し施行する。
- 10 この規程は、平成24年4月1日から一部改正し施行する。ただし、平成23年度以前入学については、次のとおり定める。
 - (1) 第6条第1項および第2項の規定にかかわらず、単位の認定については、なお従前のとおりとする。また、第6条第3項については、適用しない。

- (2) 第 26 条乃至第 29 条の規定にかかわらずなお従前の規定を適用する。
- 11 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 24 年度以前入学生についてはなお従前の規程を適用する。
- 12 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 25 年度以前入学生についてはなお従前の規程を適用する。
- 13 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 27 年度以前入学生については、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず、なお従前の規定を適用する。
- 14 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 27 年度以前入学生については、第 29 条の規定にかかわらず、なお従前の規程を適用する。
- 15 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 30 年度以前入学生については、第 2 条第 3 項、第 2 条第 4 項および第 25 条乃至第 33 条の規定にかかわらず、なお従前の規程を適用する。
- 16 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 17 この規程は、令和 2 年 8 月 1 日から一部改正し施行する。
- 18 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、令和 2 年度以前の入学生および令和 3 年度と令和 4 年度の編入生・転入生については、第 25 条 1 項 3 号、第 25 条 2 項 3 号、第 27 条 5 項および第 27 条 9 項の規定にかかわらず、なお、従前の規程を適用する。
- 19 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、令和元年度以降の入学生により令和 3 年 7 月 1 日から適用する。
- 20 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、令和 3 年度以前入学生および令和 4 年度、令和 5 年度の編入および転学部・転学科の入学生については、別に定める。
- 21 この規程は、令和 4 年 6 月 9 日に改正し、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 22 この規程は、令和 5 年 2 月 9 日に改正し、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 23 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、令和 5 年度以前の入学生及び令和 6 年度、令和 7 年度の編入学、転入学及び転学部転学科の入学生については、第 25 条乃至第 28 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

四天王寺大学学位規程

(目的)

第 1 条 この規程は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 13 条の規程に基づき、四天王寺大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第 2 条 本学において授与する学位は学士とし、学位を授与するに当たって付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

文学部	「文学」
社会学部	「社会学」
教育学部	「教育学」
経営学部	「経営学」
看護学部	「看護学」

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学学則第24条及び第25条の規定に基づき、本学を卒業した者に授与する。

(学位の授与)

第4条 学長は前条に基づき、学位を授与できると認められた者に対して、学位を授与し、学位記を交付するものとする。

(学位の名称)

第5条 学士の学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、「四天王寺大学」と付記するものとする。

(学位授与の取り消し)

第6条 学位を授与された者に、不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚す行為があったとき、学部教授会、教育研究評議会の議を経て、学長はその学位の授与を取り消し、学位記を返付させ、その旨を公表する。

附 則

- 1 本規程は平成18年1月1日より施行する。
- 2 この規程は、平成20年4月1日から一部改正し施行する。
- 3 この規程は、平成31年4月1日から一部改正し施行する。
- 4 この規程は、令和2年4月1日から一部改正し施行する。
- 5 この規程は、令和6年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和5年度以前の入学生及び令和6年度、令和7年度の3年次編入学生並びに転学部・転学科の入学生については、なお従前の例による。

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 GPA 制度に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、四天王寺大学（以下「大学」という。）および四天王寺大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）における Grade Point Average（履修登録科目の成績平均値。以下「GPA」という。）を算出する制度を定めることにより、学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とする。

(G P)

第2条 Grade Point（以下「GP」という。）は、大学および短期大学部においては単位の修得および試験に関する規程第12条に定める成績評価に基づき、次の通りとする。

評価	秀	優	良	可	不合格
GP	4	3	2	1	0

(GPAの種類と計算方法)

第3条 GPAとは、履修登録した授業科目のGPに当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修登録した総単位数で除して算出する平均値をいう。

- 2 GPAの算定対象となる授業科目は、次の各号に掲げるものを除外した授業科目とする。なお、不合格（GP = 0）の判定を得た場合、当該GPおよびその学修に費やした単位数はGPA算定対象に含むものとする。

- (1) 認定科目（素点や 5 段階の評価を行わず、単位修得を認定した授業科目）
- (2) 評価が未確定または保留の授業科目
- 3 再試験、追試験または再受験が発生した場合、当該科目については再試験、追試験または再受験で得た成績評価を GPA 算定対象とする。
- 4 GPA は 2 項および 3 項に規定する GPA 算定対象科目について、当該学期における学修の状況および成果を示す指標としての「学期 GPA」、当該年度における学修の状況および成果を示す指標としての「年度 GPA」および在学中の全期間における指標としての「累積 GPA」に区分する。各区分の定める方法により計算し、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までの値とする。

GPA の計算式

学期 GPA = (当該学期の履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の合計 / 当該学期の履修登録総単位数

年度 GPA = (当該年度の履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の合計 / 当該年度の履修登録総単位数

累積 GPA = (在学全期間の履修登録科目の GP × 当該科目の単位数) の合計 / 在学全期間の履修登録総単位数

(不合格科目の再履修の取扱い)

第 4 条 再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た成績評価と単位数を GPA 算定に算入するものとする。なお、当該科目について過去に得た成績評価および単位数は GPA 算定から除外しない。

(退学勧告)

第 5 条 大学は 4 学期連続して学期 GPA が 1.00 未満、短期大学部は 2 学期連続して学期 GPA が 1.00 未満の者には、学修・学生生活に対する助言指導を行い、学業続行の見込みがないと判断される場合、退学勧告を行う。手続きの運用に関しては別に定める。

- 2 前項の規定にかかわらず、特別な事情がある者には、退学勧告を行わない場合がある。

(所管部署)

第 6 条 この規程に関する事務は、教務部が所管する。

附 則

- 1 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日より施行し、平成 20 年度以降の入学生から適用する。
- 2 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
ただし、平成 30 年度以前の入学生については、第 5 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この規程は、令和元年 7 月 1 日から一部改正し施行する。

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部留学に関する規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部（以下「本学」という。）の学則に基づき、留学に関して必要な事項を定める。

(留学の定義)

第 2 条 この規程の「留学」とは、本学と大学間協定を結んでいる海外の高等教育機関にて、本学での半期

における授業期間に相当する期間以上にわたり学修することをいう。なお、ダブルディグリー取得制度に関する規程については、別に定める。

(留学の手続・願出)

第3条 第2条にいう留学を希望する学生（以下「出願者」という。）は、グローバル教育センターに以下の書類を提出し、学長あてに留学を願い出るものとする。

- (1) 留学願（留学計画書を含む）
- (2) 留学先高等教育機関の受諾書
- (3) その他本学が求める資料

2 出願者は、前項の書類を提出するにあたり、指導教員の指導を受けるものとする。なお、原則として、出願者の担任教員が指導教員となる。

(選考委員会)

第4条 グローバル教育センター長は、前条の願い出に基づき海外留学等選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、グローバル教育センター長、教務部長、学生支援センター長、学生支援課長、その他グローバル教育センター長が必要と認める教職員により構成される。
- 3 委員会は、書類審査または必要に応じて面接等を実施し、留学が出願者にとって有益であるか否かを審査する。

(留学許可)

第5条 留学は、前条の願い出に基づき委員会が書類審査または必要に応じて面接等を実施し、審査した後、在籍する学部教授会の議を経て学長が決定する。

(留学期間)

第6条 留学期間は、在学中通算して、1年間を超えないものとする。ただし、特別な理由がある場合は、学長の許可を得て期間を延長することができる。

- 2 留学期間の始期は本学の各学期の始期、終期は各学期の終期と一致するものとする。
- 3 「留学願」に記載された留学期間を超えて留学の継続を希望する場合は、当初の留学期間終了予定日の1カ月前までに、「留学期間延長願」をグローバル教育センターに提出し、委員会で審査した後、在籍する学部教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

(帰国届等の提出)

第7条 留学期間中に留学先高等教育機関で修得した単位を、本学において修得したものとして単位の認定を希望する学生は、所定の期日までにグローバル教育センターへ次の書類を提出し、単位の認定を願い出なければならない。

- (1) 帰国届
- (2) 単位認定願
- (3) 留学先高等教育機関が発行の成績証明書
- (4) その他使用テキスト等の参考資料

(単位の互換)

第8条 留学先高等教育機関において修得した単位については、在籍する学部教授会が適当であると認めた授業科目を、次条に定める上限単位数を超えない範囲で本学の卒業又は修了に必要な単位として認定することができる。必要に応じて当該学生に対し口頭試問等を課す。

(単位認定の上限)

第9条 単位の認定は、本学大学学則第21条第2項および本学短期大学部学則第21条第2項に基づき、

個別認定は、本学大学は 60 単位を、本学短期大学部は 30 単位を超えないものとする。

附 則

- 1 この規程は令和 2 年 4 月 1 日より施行する。なお、「国外留学規程」は令和 2 年 3 月 31 日をもって廃止する。ただし、令和 2 年 3 月 31 日以前に海外へ渡航等している学生については、従前の規程を適用する。

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外語学研修に関する規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部（以下「本学」という。）が認める海外語学研修に関して必要な事項を定める。

(海外語学研修の定義)

第 2 条 この規程の「海外語学研修」とは、本学が指定する海外の教育機関で、本学が定めた期間および内容の語学学修をすることをいう。

(海外語学研修における履修科目)

第 3 条 海外語学研修を行う場合は、共通教育科目「海外語学研修」または「中国語学研修」、もしくは本学が指定する科目を履修しなければならない。

(申請手続)

第 4 条 海外語学研修を行う学生（以下「出願者」という。）は、所定の期日までに「海外語学研修願」を、担任教員の確認を経て、グローバル教育センターに提出しなければならない。

(指導教員)

第 5 条 履修した授業科目の担当教員を指導教員とする。

- 2 出願者は、前条の書類を提出するにあたり、指導教員の指導を受けるものとする。

(許 可)

第 6 条 第 4 条の願い出に基づき、指導教員が書類審査または必要に応じて面接等を実施し、留学に関する規程第 4 条第 1 項に定める海外留学等選考委員会（以下「委員会」という。）が審査し、在籍する学部の教授会が決定する。

(帰国届等の提出)

第 7 条 海外語学研修を終えて帰国した学生は、所定の期日までに次の書類をグローバル教育センターに提出しなければならない。

- (1) 「帰国届」
- (2) 研修先の大学あるいは教育機関が発行する成績証明書
- (3) その他本学が求める資料

(単位認定)

第 8 条 指導教員が評価し、在籍する学部の教授会の議を経て単位が認定される。

- 2 ただし、認定される共通教育科目の単位数の上限は、本学大学は 8 単位、本学短期大学部は 6 単位とする。

附 則

- 1 この規程は令和2年4月1日より施行する。なお、「海外の教育機関において行った語学研修による単位認定に関する細則」は令和2年3月31日をもって廃止する。ただし、令和2年3月31日以前に海外へ渡航等している学生については、従前の規程を適用する。

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部海外実地研修に関する規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部（以下「本学」という。）が認める海外実地研修に関して必要な事項を定める。

(海外実地研修の定義)

第2条 この規程の「海外実地研修」とは、本学が認めた3週間以上のインターンシップ、ボランティア等を海外で行うことをいう。

(海外実地研修における履修科目)

第3条 海外インターンシップ等を行う場合は、共通教育科目「海外実地研修」を履修しなければならない。

(申請手続)

第4条 海外インターンシップ等を行う学生（以下「出願者」という。）は、所定の期日までに、担任教員の確認を経て、グローバル教育センターに次の書類を提出しなければならない。

- (1) 「海外実地研修願」
- (2) 「海外実地研修計画書」

(指導教員)

第5条 指導教員は、履修した授業科目の担当教員とする。

- 2 出願者は、前条の書類を提出するにあたり、指導教員の指導を受けるものとする。

(許 可)

第6条 第4条の願い出に基づき、指導教員が書類審査または必要に応じて面接等を実施し、留学に関する規程第5条第1項に定める海外留学等選考委員会（以下「委員会」という。）が審査し、当該学部教授会が決定する。

(帰国届等の提出)

第7条 海外実地研修を終えて帰国した学生は、所定の期日までに次の書類をグローバル教育センターに提出しなければならない。

- (1) 「帰国届」
- (2) 「海外実地研修実施報告書」
- (3) その他本学が求める資料

(認定単位)

第8条 指導教員が評価し、当該学部教授会の議を経て単位が認定される。

附 則

- 1 この規程は令和2年4月1日より施行する。なお、「共通教育科目「海外実地研修」の単位認定に関する細則」は令和2年3月31日をもって廃止する。ただし、令和2年3月31日以前に海外へ渡航等している学生については、従前の規程を適用する。

(定義)

第1条 この規程（以下「本規程」という。）は、四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部（以下「本学」という。）が認める国内の企業、施設、官公庁、あるいはこれに準ずるとみなされる機関において行われた就業体験（以下「インターンシップ」という。）による単位認定に関して必要な事項を定める。

(基準および要件)

第2条 前条にいう単位の認定は、次の基準を充たしていなければならない。

- (1) 当該インターンシップ先における期間が5日間40時間相当の就業体験を行っていること。当該期間のインターンシップをもって、本学での学修によって修得される1単位に相当されるものとみなし、第3条に定める「国内実地研修Ⅰ」の単位を認定する。更に、5日間40時間相当の就業体験を行った場合、本学での学修によって修得される1単位に相当されるものとみなし、第3条に定める「国内実地研修Ⅱ」の単位を認定する。
- (2) インターンシップ先からの参加承認を受けており、第3条に定める授業科目を履修し事前研修を受けていること。
- (3) インターンシップにより認定される単位数の上限は2単位とする。

(授業科目)

第3条 本規程におけるインターンシップの成果により単位が認定される授業科目は、本学の共通教育科目「国内実地研修Ⅰ」1単位、「国内実地研修Ⅱ」1単位とする。

(申請手続き)

第4条 インターンシップにより単位認定を受けようとする学生は、インターンシップ先を確保した上で、開始3週間前までに「国内実地研修単位認定願」をキャリアセンターに提出し、許可を得なければならない。

- 2 本学が求めた場合、当該学生はインターンシップの概要を明らかにする資料を速やかにキャリアセンターに提出しなければならない。
- 3 いかなる理由であっても、申し出なくインターンシップの参加取り止め、インターンシップ先の変更、当初の参加予定日数を下回った場合等においては、単位認定は行われぬものとする。

(指導教員)

第5条 インターンシップにおける指導教員は、授業科目の担当教員とする。

(認定手続き)

第6条 インターンシップにより単位認定を受けようとする学生は、インターンシップ終了後直ちに次の書類をキャリアセンターに提出しなければならない。

- (1) インターンシップ先が発行する評価表
- (2) その他本学が求める資料

(単位認定)

第7条 シラバスおよび評価表に基づき担当教員が評価し、単位の認定は当該学部教授会の議を経て、学部長が決定する。

附 則

- 1 この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、平成 24 年度に入学生より適用する。
- 2 この細則は、平成 28 年 4 月 1 日から一部改訂し施行する。ただし、第 4 条第 3 項の経営学部経営学科企業経営専攻専門教育科目「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」については、平成 28 年度入学生より適用する。
- 3 この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 4 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

知識および技能審査の成果の単位認定に関する規程

(趣 旨)

第 1 条 大学学則第 22 条・第 23 条および短期大学部学則第 22 条・第 23 条に基づき、学生が知識および技能に関する審査（以下「知識・技能審査」という。）の成果に係る学修で、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めた場合、これを本学における授業科目の履修とみなし、本規程の定めるところにより単位を認定する。

(単位認定を行う知識・技能審査の種目および等級等)

第 2 条 単位認定を行う知識・技能審査の種目および等級等は、大学と短期大学部でそれぞれ次の通り丸印を付したものとする。

	種 目	実 施 団 体 等	等 級	大学	短期 大学部
(1)	実用英語技能検定	日本英語検定協会	2 級以上	○	○
(2)	TOEFL [®]	ETS (Educational Testing Service)	iBT 52 点以上	○	○
(3)	TOEIC [®] L & R	国際ビジネスコミュニケーション協会	500 点以上	○	○
(4)	実用フランス語技能検定	フランス語教育振興協会	3 級以上	○	
(5)	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会	3 級以上	○	
(6)	中国語検定	日本中国語検定協会	3 級以上	○	
(7)	漢語水平考試	HSK 日本実施委員会	3 級以上	○	
(8)	日本漢字能力検定	日本漢字能力検定協会	2 級以上	○	○
(9)	毛筆書写技能検定	日本書写技能検定協会	2 級以上	○	
(10)	硬筆書写技能検定	日本書写技能検定協会	2 級以上	○	
(11)	秘書技能検定	実務技能検定協会	2 級以上	○	○
(12)	簿記能力検定	全国経理教育協会	3 級以上	○	○
(13)	色彩検定 [®]	色彩検定協会	2 級以上		○
(14)	ビジネス実務マナー技能検定	実務技能検定協会	2 級以上	○	○
(15)	ビジネス実務法務検定試験 [®]	東京商工会議所	3 級以上	○	
(16)	日商 PC 検定 (文書作成)	日本商工会議所	3 級以上	○	○
(17)	日商 PC 検定 (データ活用)	日本商工会議所	3 級以上	○	○
(18)	日商簿記検定	日本商工会議所	3 級以上	○	○
(19)	リテールマーケティング (販売士) 検定試験	日本商工会議所	3 級以上	○	
(20)	ビジネス能力検定ジョブパス	職業教育・キャリア教育財団	2 級以上	○	
(21)	カラーコーディネーター検定試験 [®]	東京商工会議所	アドバンス クラス以上		○
(22)	宅地建物取引士資格	不動産適正取引推進機構		○	
(23)	ファイナンシャル・プランニング技能検定	金融財政事情研究会/ 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会	3 級以上	○	

(24)	福祉住環境コーディネーター検定試験 [®]	東京商工会議所	2級以上	○	
(25)	医療秘書技能検定	医療秘書教育全国協議会	3級以上		○
(26)	法学検定	法学検定試験委員会	ベーシック (基礎)コース以上	○	
(27)	Microsoft Office Specialist Word	㈱オデッセイコミュニケーションズ		○	○
(28)	Microsoft Office Specialist Excel	㈱オデッセイコミュニケーションズ		○	○
(29)	Microsoft Office Specialist PowerPoint	㈱オデッセイコミュニケーションズ		○	○
(30)	日本語検定	日本語検定委員会	2級以上	○	
(31)	その他本学が教育上有益と認めるもの				

2 このうち、丸印がない種目の検定等に合格した場合、本学が教育上有益と認めるときは認定する。

(単位認定を行う授業科目および単位数)

第3条 知識・技能審査の成果による単位認定は、共通教育科目「知識・技能研究Ⅰ」・「知識・技能研究Ⅱ」においてこれを行う。

第4条 認定単位数の上限は、「知識・技能研究Ⅰ」・「知識・技能研究Ⅱ」において認定される単位すべてを合わせて4単位までとする。

2 このうち、「知識・技能研究Ⅱ」で2単位が認定されるのは、すでに「知識・技能研究Ⅰ」において上記の表のうちの1種目により2単位が認定されている場合にかぎる。

3 「知識・技能研究Ⅱ」で認定を受ける種目が「知識・技能研究Ⅰ」で認定されたものと同種目あるいは同一語学である場合、その等級は「知識・技能研究Ⅰ」で認定された等級よりも上級でなければならない。

(単位認定の申請手続等)

第5条 知識・技能審査の成果により単位認定を希望する学生は、教務部長に次の書類を提出して単位認定を願い出るものとする。

(1) 単位認定願

(2) 合格証書もしくは成果を証明する書類の写し

2 前項に定める単位認定を希望する学生は、申請期間中に教務部長に願い出なければならない。申請期間は学期ごとに定める。ただし、大学においては8セメスター、短期大学部においては4セメスター以降に在学し、その学期末に卒業が予定されている学生は、当該学期開始日以降3か月以内に手続きを完了していなければならない。この場合は、申請期間外にも手続きすることができる。

3 本学に入学する以前における知識・技能審査の成果により、単位認定を希望する学生は、入学後、申請期間中に教務部長に願い出なければならない。申請期間は学期ごとに定め、その都度掲示する。

附 則

1 本規程は、平成8年4月1日より施行する。

2 本規程は、平成10年4月1日より一部改正して施行する。

ただし、平成9年度以前の入学生については、本規程の第3条についてはなお従前の規程を適用し、第4条についてはこれを適用しない。

3 本規程は、平成11年9月20日より一部改正して施行する。

ただし、平成11年度中に限り、本規程の第3条・第4条1項についてはなお従前の規程の第3条第2項・第4条第1項を適用する。

4 本規程は、平成12年4月1日より一部改正して施行する。

5 本規程は、平成14年4月1日より一部改正して施行する。

6 本規程は、平成15年4月1日より一部改正して施行する。

- 7 本規程は、平成 16 年 4 月 1 日より一部改正して施行する。
ただし、平成 15 年度以前の入学生については、第 3 条の規定に限り、なお従前の規程を適用する。
- 8 本規程は、平成 17 年 4 月 1 日より一部改正して施行する。
- 9 「技能審査の成果の単位認定に関する規程」は、平成 19 年 3 月 31 日をもって廃止し、「知識及び技能に関する審査の成果の単位認定に関する規程」を平成 19 年 4 月 1 日より施行する。
- 10 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から一部変更して施行する。ただし、平成 19 年度以前入学生については、従前の例による。
- 11 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から一部改正して施行する。
- 12 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 13 この規程は、平成 24 年 9 月 1 日から一部改正し施行する。
- 14 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 15 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 16 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 17 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 18 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 19 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 20 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部資格チャレンジ奨励金規程

(目的)

第 1 条 この規程は、四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部（以下「本学」という。）の学生が、進路・就職を意識した資格取得等に意欲的に取り組み、継続した学習をすすめることを奨励し、支援することを目的とする。

(対象者)

第 2 条 奨励金の対象となる者は、本学に在学する学生とする。ただし、第 4 条第 1 項および第 2 項にある者はこの限りでない。

(資格等の種類および支給金額)

第 3 条 資格チャレンジ奨励金（以下「奨励金」という。）を支給する資格等の種類および金額は、別表 1 のとおりとし、難易度に応じた 5 つのランクにより支給される。

- (1) SS ランク 100,000 円
- (2) S ランク 50,000 円
- (3) A ランク 30,000 円
- (4) B ランク 10,000 円
- (5) C ランク 5,000 円

2 以下に掲げる資格等については、奨励金の対象としない。

- (1) 授業科目を履修し、単位を修得することにより得られる資格や教員免許
- (2) 学部学科の特性上、養成施設として認可を受けている学科等において取得できる資格および受験資格、国家資格
- (3) 公務員試験（国家・地方）および教員採用試験等の就職試験の合格

- 3 別表 1 に記載のない資格等で本学が教育上有益と認める場合は、必要に応じてその都度これを定める。

(申請条件)

第 4 条 申請は、在学中に本学が指定する別表 1 にある資格・検定試験等において合格した学生に限る。ただし、次の各号のいずれかについては卒業後の資格等合格による申請を認める。

- (1) SS ランクの資格については、卒業後 3 年まで認める。
- (2) S ランクの資格のうち「FP 技能検定 1 級 (CFP も同様)」については、卒業後 2 年まで認める。
- 2 資格等に合格した年度の申請期間 (12 月 1 日から 2 月 28 日) に申請しなければならない。ただし、資格・検定試験等が 1 月から 3 月に実施され、当該結果が申請期間までに判明しない場合は、特別申請期間 (次年度の 4 月 1 日から 4 月 30 日) に申請できるものとする。
- 3 同一とみなされる資格等の試験を複数合格した場合は、上位ランクの資格等のみを申請可能とする。
- 4 簿記検定の試験 (日商簿記検定、簿記能力検定) については、いずれか一つを申請可能とする。
- 5 英語能力の試験 (実用英語技能検定、TOEIC[®] L & R、TOEFL[®]) については、いずれか一つを申請可能とし、かつ、英語を母国語とする学生は申請できない。
- 6 すでに奨励金を受領した検定と同一もしくは同一とみなされるものを再度申請する場合は、上位ランクへの申請のみ可能とする。

(申請手続き)

第 5 条 奨励金の支給を受けようとする者は、年一回の定められた期間に所定の申請書類と合格等を証明する写しを添えて学長に提出しなければならない。

(支給方法)

第 6 条 奨励金の支給は第 5 条に定める書類を確認後、資格チャレンジ奨励金支給の目録を授与し、申請者の指定した口座に振り込む。

(返還請求)

第 7 条 奨励金を支給された者が提出した書類等に虚偽の記載があった場合は、学長は奨励金の支給決定の取消しおよび返還を求めることができる。

(所 管)

第 8 条 この規程に関する事務は、就職課が所管する。

附 則

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 24 年 10 月 1 日から一部改正し施行する。
- 3 この規程は、平成 26 年 12 月 1 日から一部改正し施行する。
- 4 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 5 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 6 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 7 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 8 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 9 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
- 10 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。

別表 1

ランク	種 別
SS ランク (最難関資格) 支給金額：100,000 円	司法書士、公認会計士、税理士、不動産鑑定士
S ランク (難関資格) 支給金額：50,000 円	社会保険労務士、中小企業診断士、税理士 (科目合格)、行政書士、宅地建物取引士、通関士、FP 技能検定 1 級 (CFP も同様)、応用情報技術者、実用英語技能検定 1 級、TOEIC® L & R (800 点以上)、TOEFL iBT® (100 点以上)、中国語検定 1 級、統計検定データサイエンスエキスパート
A ランク (準難関資格) 支給金額：30,000 円	総合旅行業務取扱管理者、日商簿記検定 1 級、簿記能力検定上級、リテールマーケティング (販売士) 検定 1 級、日商 PC 検定 1 級、日本漢字能力検定 1 級、日本語検定 1 級・準 1 級、秘書技能検定 1 級、基本情報技術者、実用英語技能検定準 1 級、TOEIC® L & R (799 ~ 700 点)、TOEFL iBT® (99 ~ 77 点)、中国語検定準 1 級、漢語水平考試 6 級、データサイエンスエキスパート検定リテラシーレベル、統計検定 2 級、統計検定データサイエンス発展
B ランク (目標とする資格) 支給金額：10,000 円	IT パスポート試験、FP 技能検定 2 級 (AFP も同様)、国内旅行業務取扱管理者、日商簿記検定 2 級、リテールマーケティング (販売士) 検定 2 級、日商 PC 検定 2 級、簿記能力検定 1 級、秘書技能検定準 1 級、福祉住環境コーディネーター検定試験®2 級以上、色彩検定®2 級以上、日本漢字能力検定準 1 級、日本語検定 2 級・準 2 級、ビジネス実務法務検定試験®2 級、法学検定スタンダード (中級) コース以上、医療秘書技能検定 2 級以上、実用英語技能検定 2 級、TOEIC® L & R (699 ~ 520 点)、TOEFL iBT® (76 ~ 52 点)、消費生活アドバイザー、中国語検定 2 級、漢語水平考試 5 級、統計検定 3 級、統計検定データサイエンス基礎
C ランク (基礎的な資格) 支給金額：5,000 円	FP 技能検定 3 級、日商簿記検定 3 級、リテールマーケティング (販売士) 検定 3 級、ビジネス実務法務検定試験®3 級、秘書技能検定 2 級、貿易実務検定®C 級、環境社会検定試験® (ECO 検定®)、福祉住環境コーディネーター検定試験®3 級、日本漢字能力検定 2 級、日本語検定 3 級、世界遺産検定 2 級、法学検定ベーシック (基礎) コース、医療秘書技能検定 3 級、中国語検定 3 級、漢語水平考試 4 級

四天王寺大学および四天王寺大学短期大学部間での相互単位互換についての規程

- 第 1 条 四天王寺大学 (以下「大学」という。) と四天王寺大学短期大学部 (以下「短期大学部」という。) の間での相互単位互換については、この規程の定めるところによりこれを行う。
- 第 2 条 大学に在学する学生が短期大学部において開講される本学が認める授業科目の履修を希望する場合は、短期大学部においてその授業を履修すべき学生の学修に支障のない場合に限り、審査のうえその履修を許可するものとする。
- 第 3 条 短期大学部に在学する学生が大学において開講される本学が認める授業科目の履修を希望する場合は、大学においてその授業を履修すべき学生の学修に支障のない場合に限り、当該科目担当教員の許可を得たうえでその履修を許可するものとする。
- 第 4 条 大学に在学する学生が短期大学部において開講される本学が認める授業科目の履修を行い、また、短期大学部に在学する学生が大学において開講される本学が認める授業科目の履修を行った場合、その科目の履修についての登録料および科目等履修料などの費用は、一切徴収しないものとする。
- 2 ただし、その科目の履修に際して必要な教材費など、授業料以外に別途徴収される費用がある場合は、これを支払わなければならない。
- 第 5 条 大学に在学する学生が短期大学部での履修を許可された場合、また、短期大学部の学生が大学での履修を許可された場合は、所定の履修登録についての手続き等を行わなければならない。
- 第 6 条 相互単位互換の規程により学生が行う授業科目の履修による単位の修得および試験については、「単位の修得および試験に関する規程」を適用する。

附 則

- 1 この規程は平成 10 年 4 月 1 日より施行し、平成 10 年度入学生より適用する。
- 2 本規程は、平成 16 年 4 月 1 日より一部改正し施行する。
ただし、平成 15 年度以前の入学生については、なお従前の規程を適用する。
- 3 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 19 年度以前の入学生については、本規程に改正する前の第 8 条および第 9 条の旧規定による。
- 4 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。

四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成課程履修細則

- 第 1 条 四天王寺大学（以下「本学」という。）学則第 5 条に規定する本学教育学部教育学科において、幼児教育保育コースを厚生労働大臣の指定する保育士養成施設とする。
- 第 2 条 前条の保育士養成施設においては、定員 60 名（1 学級定員 30 名）、修業年限 4 年とする。
- 第 3 条 保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行令および同法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の規定により厚生労働大臣の定める修業教科目（以下「保育士養成課程」という。）を履修し、その単位を修得し卒業しなければならない。
- 第 4 条 保育士養成課程に定める科目と単位およびその時間数は、別表の通りとする。
- 第 5 条 本学在籍中又は入学前に本学以外の指定保育士養成施設において修得した保育士養成課程の単位については、本学学則第 21 条、第 22 条および第 23 条の規定にかかわらず、本学が定める保育士養成課程について 30 単位を超えない範囲で修得したものとみなすことができる。
また、指定保育士養成施設以外の学校等で修得した単位については、保育士養成課程における教養科目に相当する科目について、30 単位を超えない範囲で修得したものとみなすことができる。
- 第 6 条 本学学則に定める諸納付金の外、実習・演習その他教育に必要な費用については、別に定めるところにより徴収する。

附 則

- 1 この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行し、平成 26 年度入学生より適用する。
- 2 この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 28 年度以前の入学生については、第 2 条の細則にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、平成 30 年度以前の入学生については、第 1 条、第 4 条の細則にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 この細則は、令和 2 年 9 月 1 日から一部改正し施行する。

四天王寺大学教育学部教育学科保育士養成課程履修細則別表

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目（本学開講科目）	授業形態	時間数	履修単位数		
							必修	選択	計
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	仏教概説	講義	30	2		2
				現代社会と人権	講義	30	2		2
				情報処理演習Ⅰ	演習	30	2	2	2
				情報処理演習Ⅱ	演習	30			
	外国語	演習	2以上	英語Ⅰ	演習	30	1		1
				英語Ⅱ	演習	30	1		1
	体育	講義	1	体育講義	講義	30	2		2
実技		1	スポーツⅠ	実技	30	1		1	

告示別表第1による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目（本学開講科目）	授業形態	時間数	履修単位数		
							必修	選択	計
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	30	2		2
	教育原理	講義	2	教育原論	講義	30	2		2
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	30	2		2
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	30	2		2
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	30	2		2
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	30	2		2
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	30	2		2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	30	2		2
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	30	2		2
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解（教育相談を含む）	演習	30	2		2
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	30	2		2
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	30	2		2
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程総論	講義	30	2		2
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	30	2		2
	保育内容演習	演習	5	保育内容の理論と方法（健康）	演習	30	2		2
				保育内容の理論と方法（人間関係）	演習	30	2		2
				保育内容の理論と方法（環境）	演習	30	2		2
				保育内容の理論と方法（言葉）	演習	30	2		2
				保育内容の理論と方法（表現活動・音楽）	演習	30	2		2
				保育内容の理論と方法（表現活動・造形）	演習	30	2		2
	保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと遊び	演習	30	2		2
				音楽実践演習（器楽）	演習	30	1		1
				小児体育	演習	30	1		1
				子どもと造形表現	演習	30	1		1
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	30	2		2
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	30	1		1
子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	30	1		1	
障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	30	2		2	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	30	1		1	
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	30	1		1	

告示別表第 1 による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目 (本学開講科目)	授業形態	時間数	履修単位数		
							必修	選択	計
保育実習	保育実習	実習	4	保育実習Ⅰ (施設)	実習	80	2		2
				保育実習Ⅰ (保育所)	実習	80	2		2
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ (施設)	演習	30	1		1
				保育実習指導Ⅰ (保育所)	演習	30	1		1
演習 総合	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	30	2		2

告示別表第 2 による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等						
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目 (本学開講科目)	授業形態	時間数	履修単位数			
							必修	選択	計	
質・目的に関する科目 保育の本質に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単位以上	子ども学概論	講義	30	2		2	
				幼保小中接続研究	講義	30		2	2	
				多様な子ども理解入門	講義	30		2	2	
				フィールドワーク演習 (子育て支援)	演習	30		1	1	
				フィールドワーク演習 (子ども支援)	演習	30		1	1	
				保育方法論	講義	30		2	2	
				音楽への扉	演習	30		2	2	
				音楽実践演習 (声楽)	演習	30		1	1	
				音楽実践演習 (弾き歌い)	演習	30		1	1	
				保育インターンシップ	演習	30		2	2	
保育実習	保育実習Ⅱ 又は 保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ (保育所)	実習	80	2		2	
				保育実習Ⅲ (施設)	実習	80				
	保育実習指導Ⅱ 又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1		保育実習指導Ⅱ (保育所)	演習	30	1		1
					保育実習指導Ⅲ (施設)	演習	30			

社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則

- 第 1 条 四天王寺大学学則第 17 条第 3 項に基づき、社会学部人間福祉学科に、社会福祉士試験受験資格取得に係る授業科目の履修細則を定める。
- 第 2 条 社会福祉士試験受験資格を取得できる者は、人文社会学部人間福祉学科に入学を許可された者に限る。
- 第 3 条 社会福祉士資格を取得するには、別表に定める授業科目を修得の上卒業し、財団法人社会福祉振興・試験センターが実施する社会福祉士国家試験に合格した上で、指定登録機関に登録しなければならない。
- 第 4 条 前条に定める科目と単位及びその時間数等は、別表の通りとする。
- 第 5 条 第 3 条に定める科目については、単位の修得および試験に関する規程の第 5 条の規定はこれを適用しない。

第6条 学則に定める諸納付金のほか、実験・実習その他教育に必要な費用については、別に定めるところにより徴収する。

附 則

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この細則は、令和3年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、なお従前の細則を適用する。
- 3 この細則は、令和4年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和3年度以前の入学生ならびに令和4年度、令和5年度の編入および転学部・転学科の入学生については、なお従前の細則を適用する。
- 4 この細則は、令和6年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和5年度以前の入学生及び令和6年度、令和7年度の3年次編入並びに転学部・転学科の入学生については、なお従前の例による。

社会福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則別表

規則に定める事項		本学授業科目				
科 目	時間数	左に対応して開設されている 本学授業科目	配当 セメスター	時間数	履修単位	
					必修	選択
医学概論	30	医学概論	1～2	30	2	
心理学理論と心理的支援	30	心理学と心理的支援	1～2	30	2	
社会学と社会システム	30	社会学と社会システム	1～2	30	2	
社会福祉の原理と政策	60	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1～2	30	2	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1～2	30	2	
社会福祉調査の基礎	30	社会福祉調査の基礎	5～6	30	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1～2	30	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	30	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1～2	30	2	
ソーシャルワークの理論と方法	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	3～4	30	2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	3～4	30	2	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	5～6	30	2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	5～6	30	2	
地域福祉と包括的支援体制	60	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	3～4	30	2	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3～4	30	2	
福祉サービスの組織と経営	30	福祉サービスの組織と経営	5～6	30	2	
社会保障	60	社会保障Ⅰ	5～6	30	2	
		社会保障Ⅱ	5～6	30	2	
高齢者福祉	30	高齢者福祉	3～4	30	2	
障害者福祉	30	障害者福祉	3～4	30	2	
児童・家庭福祉	30	児童・家庭福祉	3～4	30	2	
貧困に対する支援	30	貧困に対する支援	3～4	30	2	
保健医療と福祉	30	保健医療と福祉	3～4	30	2	
権利擁護を支える法制度	30	権利擁護を支える法制度	5～6	30	2	
刑事司法と福祉	30	刑事司法と福祉	5～6	30	2	

規則に定める事項		本学授業科目				
科 目	時間数	左に対応して開設されている 本学授業科目	配当 セメスター	時間数	履修単位	
					必修	選択
ソーシャルワーク演習	30	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	30	2	
ソーシャルワーク演習(専門)	120	ソーシャルワーク演習Ⅱ	3	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	4	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	5	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	6	30	2	
ソーシャルワーク実習指導	90	ソーシャルワーク実習指導A	3	30	2	
		ソーシャルワーク実習指導B	4	30	2	
		ソーシャルワーク実習指導C	5	30	2	
ソーシャルワーク実習	240	ソーシャルワーク実習A	4	60	2	
		ソーシャルワーク実習B	5	180	4	
合 計	1200	合 計		1200	70	

精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則

- 第1条 四天王寺大学学則第17条第3項に基づき、社会学部人間福祉学科に、精神保健福祉士試験受験資格取得に係る授業科目の履修細則を定める。
- 第2条 精神保健福祉士試験受験資格を取得できる者は、社会学部人間福祉学科に入学を許可された者で、所定の選抜試験に合格した者とし、定員は20名とする。
- 第3条 精神保健福祉士資格を取得するには、別表に定める授業科目を修得の上卒業し、財団法人社会福祉振興・試験センターが実施する精神保健福祉士国家試験に合格した上で、指定登録機関に登録しなければならない。
- 第4条 前条に定める科目と単位及びその時間数等は、別表の通りとする。
- 第5条 第3条に定める科目については、単位の修得及び試験に関する規程の第5条の規定はこれを適用しない。
- 第6条 精神保健福祉援助実習は、精神科病院等の医療機関（以下「病院等」という。）と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等（以下「施設等」という。）の機能の異なる2以上の実習施設等で実施する。
- 2 精神保健福祉援助実習のうち、病院等における実習を必修とし、別表に定める授業科目「精神保健福祉援助実習」の総時間数のうち90時間以上を行う。
 - 3 社会福祉士の「ソーシャルワーク実習B」の単位を修得している場合は、前項の「精神保健福祉援助実習」の総時間数のうち、施設等における実習を60時間を上限として免除する。
- 第7条 学則に定める諸納付金のほか、実験・実習その他教育に必要な費用については、別に定めるところにより徴収する。

附 則

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この細則は、令和3年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、なお従前の細則を適用する。

- 3 この細則は、令和4年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和3年度以前の入学生および令和4年度、令和5年度の編入および転学部・転学科の入学生については、なお従前の細則を適用する。
- 4 この細則は、令和6年4月1日から一部改正し施行する。ただし、令和5年度以前の入学生及び令和6年度、令和7年度の3年次編入並びに転学部・転学科の入学生については、なお従前の例による。

精神保健福祉士試験受験資格取得にかかる履修細則別表

規則に定める事項 科 目	時間数	本学授業科目				
		左に対応して開設されている 本学授業科目	配当 セメスター	時間数	履修単位	
					必修	選択
医学概論	30	医学概論	1～2	30	2	
心理学理論と心理的支援	30	心理学と心理的支援	1～2	30	2	
社会学と社会システム	30	社会学と社会システム	1～2	30	2	
社会福祉の原理と政策	60	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1～2	30	2	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1～2	30	2	
地域福祉と包括的支援体制	60	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	3～4	30	2	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3～4	30	2	
社会保障	60	社会保障Ⅰ	5～6	30	2	
		社会保障Ⅱ	5～6	30	2	
障害者福祉	30	障害者福祉	3～4	30	2	
権利擁護を支える法制度	30	権利擁護を支える法制度	5～6	30	2	
刑事司法と福祉	30	刑事司法と福祉	5～6	30	2	
社会福祉調査の基礎	30	社会福祉調査の基礎	5～6	30	2	
精神医学と精神医療	60	精神医学と精神医療Ⅰ	5～6	30	2	
		精神医学と精神医療Ⅱ	5～6	30	2	
現代の精神保健の課題と支援	60	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	3～4	30	2	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	3～4	30	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1～2	30	2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1～2	30	2	
精神保健福祉の原理	60	精神保健福祉の原理Ⅰ	3～4	30	2	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	3～4	30	2	
ソーシャルワークの理論と方法	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	3～4	30	2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	3～4	30	2	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	60	精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	5～6	30	2	
		精神保健福祉ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	5～6	30	2	
精神障害リハビリテーション論	30	精神障害リハビリテーション論	5～6	30	2	
精神保健福祉制度論	30	精神保健福祉制度論	5～6	30	2	

規則に定める事項	時間数	本学授業科目				
		左に対応して開設されている 本学授業科目	配当 セメスター	時間数	履修単位	
					必修	選択
ソーシャルワーク演習	30	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	3	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	4	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	5	30	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	6	30	2	
ソーシャルワーク演習(専門)	90	精神保健福祉援助演習Ⅰ	6	30	2	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	7	30	2	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	8	30	2	
ソーシャルワーク実習指導	90	精神保健福祉援助実習指導A	6	30	2	
		精神保健福祉援助実習指導B	8	30	2	
		精神保健福祉援助実習指導C	5	30	2	
ソーシャルワーク実習	210	精神保健福祉援助実習	7～8	150	3	
合計	1200	合計		1290	79	

補足説明

「ソーシャルワーク実習」に必要な時間数 210 時間について、社会福祉士養成課程の「ソーシャルワーク実習」を履修している学生については、実習のうち 60 時間を上限として、精神科病院等の医療機関以外の実習の免除が可能である。

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部他の大学・短期大学との単位互換に関する規程

(目的)

第 1 条 この規程は、四天王寺大学（以下「大学」という。）学則第 21 条および四天王寺大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）学則第 21 条に基づき、大学および短期大学部（以下「本学」という。）と単位互換に関する包括協定書を締結している他の大学または短期大学（以下「単位互換協定大学」という。）の授業科目を履修する場合の、本学内における取り扱いに関して必要な事項を定めることを目的とする。

(単位の互換協定)

第 2 条 単位互換にあたっては、本学と単位互換協定大学に限る。

(履修の許可)

第 3 条 単位互換協定大学における授業科目の履修を希望する本学の学生は、学長が修学を許可するものとする。

- 前項に規定する履修の許可は単位認定を前提とし、教育上の有益性を考慮の上、単位互換協定大学の定める条件の範囲内で行うものとする。
- 単位互換協定大学の学生が、本学の授業科目の履修を希望する場合、学長が修学を許可するものとする。

(単位の認定)

第 4 条 単位互換協定大学において修得した単位については、単位互換協定大学の長からの成績評価および修得単位の報告に基づき、共通教育科目の選択科目として単位認定を行う。

- 前項により認定する単位数の上限は、大学は 60 単位、短期大学部は 30 単位とする。

(履修の許可および認定単位の取り消し)

第5条 次の各号の一に該当する場合、単位互換協定大学と協議の上、授業科目の履修の許可および認定した単位を取り消す場合がある。

- (1) 履修授業の同一時間帯等に、本学と単位互換協定大学の授業科目が重複して履修していた場合
- (2) 認定単位数の上限超過等の理由により、本学が当該授業科目を認定しない場合。
- (3) その他、履修の許可および単位認定の要件を満たしていなかった場合。

(単位互換履修生証)

第6条 単位互換協定大学の学生が、本学の授業科目の履修を許可された場合、単位互換履修生証を交付する。

- 2 単位互換協定大学の学生は、単位互換履修生証を常に所持しなければならない。

(成績の証明)

第7条 成績および単位修得の証明等は、原則として本学が行う。

(単位互換協定大学での取り扱い)

第8条 単位互換協定大学での取り扱いに関して必要な事項は、当該単位互換協定大学の定めるところによる。

(学則の準用)

第9条 単位互換協定大学の学生が、大学の授業科目の履修を許可された場合、四天王寺大学学則第2章、第4章ないし、第6章および第8章を除き、学則を準用し、短期大学部の授業科目の履修を許可された場合、四天王寺大学短期大学部学則第2章、第4章ないし、第5章および第7章を除き、学則を準用する。

(規程の準用)

第10条 この規程に定めるもののほか、単位互換協定大学の学生については、諸規程を準用する。

(所管部署)

第11条 この規程に関する事務は、教務部が所管する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日より施行する。

四天王寺大学日本語教員養成プログラムに関する細則**(趣 旨)**

第1条 この細則は、四天王寺大学（以下「本学」という。）学則第14条に定める授業科目等のうち、外国人に対する日本語教育を行うための教員を養成する「四天王寺大学日本語教員養成プログラム（以下「日本語教員養成プログラム」という。）」に必要な授業科目及び履修方法等について定めるものである。

(プログラム編成等)

第2条 日本語教員養成プログラムの授業科目については、共通教育科目、文学部専門教育科目のうち日本語教員養成に必要な授業科目を体系的に編成するものとする。

- 2 前項の授業科目及び履修方法等については、本学履修要覧において定めるものとする。

(修了要件)

第3条 本学文学部の学生が、前条に規定する授業科目のうち、必修科目 24 単位及び区分ごとに定める選択必修科目を含め合計 28 単位以上修得した場合には、日本語教員養成プログラムの修了を認定する。

2 前項に定める日本語教員養成プログラムの修了の認定は、本学文学部の学生に限る。

(修了証明書)

第4条 日本語教員養成プログラムの修了を認定された者については、日本語教員養成プログラム修了証明書を発行することができる。

(その他)

第5条 その他、修了証明書の発行等については、別に定める。

2 この細則に関する事務は、教務課が所管する。

附 則

1 この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

ただし、平成 30 年度以前の入学生については、なお従前の取り扱いとする。

2 この細則は、令和 6 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、令和 5 年度以前の入学生及び令和 6 年度、令和 7 年度の 3 年次編入並びに転学部・転学科の入学生については、なお従前の例による。

四天王寺大学地域共創プログラムに関する細則**(趣 旨)**

第1条 この細則は、四天王寺大学学則第 14 条に定める授業科目等のうち、地域社会の発展と観光振興に貢献できる人材を育成する「地域共創プログラム」に必要な授業科目及び履修方法等について定めるものである。

(プログラム編成等)

第2条 地域共創プログラムは、文学部、社会学部及び経営学部の学生を対象とし、共通教育科目と、文学部、社会学部及び経営学部の専門教育科目のうち地域社会の発展と観光に関する知識の修得に必要な授業科目を配置する。

2 前項の授業科目及び履修方法等については、本学履修要覧において定めるものとする。

(修了要件)

第3条 本学の学生が、前条に規定する授業科目のうち、必修科目 2 単位及び選択必修科目 2 単位以上を修得するとともに地域共創科目群から 20 単位以上、合計 24 単位以上を修得した場合には、地域共創プログラムの修了を認定する。

(修了証明書)

第4条 地域共創プログラムの修了を認定された者については、別紙様式 1 により地域共創プログラム修了証明書を発行することができる。

ただし、前条の修了要件を充たすとともに、観光フィールド科目群から修得した単位が観光学概論を含み 18 単位以上であった場合には、別紙様式 2 により地域共創プログラム（観光フィールド）修了証明書を発行することができる。

(称号授与)

第5条 前条ただし書の条件を充たした者が、在学中に総合旅行業務取扱管理者又は国内旅行業務取扱管理

者の資格を取得した場合には、別紙様式 3 により観光学エキスパートの認定書を発行する。

(その他)

第 6 条 その他、修了証明書の発行等については、別に定める。

2 この細則に関する事務は、教務部が所管する。

附 則

1 この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

2 この細則は、令和 5 年 3 月 1 日から一部改正し施行する。

3 この細則は、令和 6 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。ただし、令和 5 年度以前の入学生及び令和 6 年度、令和 7 年度の 3 年次編入並びに転学部・転学科の入学生については、なお従前の例による。

令和6年度 履修要覧

発行 四天王寺大学

編集 教務部

住所 〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

Tel 072-956-3181 (代)

SHITENNOJI UNIVERSITY

The image features a light blue background with a horizontal band across the top containing the text 'SHITENNOJI UNIVERSITY' in a white, italicized, sans-serif font. Below this band, the background is filled with a complex, abstract pattern of overlapping circles and semi-circles in various shades of blue and teal, creating a layered, geometric effect.